椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

意匠図

図面番号	/	図面名	/	備考
A-01	/	特記仕様書(1)	/	-
A-02	/	特記仕様書(2)	/	-
A-03	/	特記仕様書(3)	/	-
A-04	/	特記仕様書(4)	/	-
A-05	/	特記仕様書(5)	/	-
A-06	/	特記仕様書(6)	/	-
A-07	/	特記仕様書(7)	/	-
A-08	/	敷地求積図	/	-
A-09	/	仕上表・建物求積図	/	-
A-10	/	配置図	/	-
A-11	/	ピット階平面図・1階平面図	/	-
A-12	/	屋根伏図・天井伏図	/	-
A-13	/	立面図	/	-
A-14	/	断面図(1)	/	-
A-15	/	断面図(2)	/	-
A-16	/	平面詳細図(1)	/	-
A-17	/	平面詳細図(2)	/	-
A-18	/	トイレ詳細図	/	-
A-19	/	短計図(1)	/	-
A-20	/	短計図(2)	/	-
	/		/	-

図面番号	/	図面名	/	備考
A-21	/	短計図(3)	/	-
A-22	/	展開図(1)	/	-
A-23	/	展開図(2)	/	-
A-24	/	展開図(3)	/	-
A-25	/	展開図(4)	/	-
A-26	/	建具表(1)	/	-
A-27	/	建具表(2)	/	-
A-28	/	標準詳細図	/	-
A-29	/	家具図(1)	/	-
A-30	/	家具図(2)	/	-
A-31	/	建具詳細図(1)	/	-
A-32	/	建具詳細図(2)	/	-
A-33	/	建具詳細図(3)	/	-
A-34	/	建具詳細図(4)	/	-
A-35	/	建具詳細図(5)	/	-
A-36	/	建具詳細図(6)	/	-
A-37	/	屋根詳細図(1)	/	-
A-38	/	屋根詳細図(2)	/	-
A-39	/	屋根詳細図(3)	/	-
A-40	/	屋根詳細図(4)	/	-
	/		/	-

図面番号	/	図面名	/	備考
A-41	/	デッキ詳細図(1)	/	-
A-42	/	デッキ詳細図(2)	/	-
A-43	/	スライディングドア詳細図	/	-
A-44	/	ブラインド詳細図	/	-
A-45	/	雑詳細図(1)	/	-
A-46	/	雑詳細図(2)	/	-
A-47	/	ゴミ庫詳細図	/	-
A-48	/	ゴミ庫基礎図	/	-
A-49	/	サイン配置図	/	-
A-50	/	サイン一覧	/	-
A-51	/	外構図(1)	/	-
A-52	/	外構図(2)	/	-
A-53	/	外構図(3)	/	-
A-54	/	外構図(4)	/	-
A-55	/	外構図(排水計画図)	/	-
A-56	/	深井戸ポンプ参考図	/	-
A-57	/	防火水槽詳細図	/	-
A-58	/	造成計画平面図	/	-
A-59	/	法チェック図	/	-
	/		/	-
	/		/	-

構造図

図面番号	/	図面名	/	備考
S-01	/	構造特記仕様書(1)	/	-
S-02	/	構造特記仕様書(2)	/	-
S-03	/	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	/	-
S-04	/	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	/	-
S-05	/	鉄骨構造標準図(1)	/	-
S-06	/	鉄骨構造標準図(2)	/	-
S-07	/	鉄骨構造標準図(3)	/	-
S-08	/	ISベース(SEシリーズ)柱脚工法設計・施工標準図	/	-
S-09	/	ISベース(CEシリーズ)柱脚工法設計・施工標準図	/	-
S-10	/	ウインドミルソイルセメントコラム特記仕様書	/	-
S-11	/	ボーリング柱状図	/	-
S-12	/	基礎伏図	/	-
S-13	/	R階床梁伏図	/	-
S-14	/	軸組図(1)	/	-
S-15	/	軸組図(2)	/	-
S-16	/	軸組図(3)・鉄骨断面リスト	/	-
S-17	/	基礎リスト・柱脚リスト	/	-
S-18	/	地中梁リスト・雑配筋詳細図	/	-
S-19	/	鉄骨仮構詳細図	/	-
S-20	/	MAXウエブレン標準仕様書	/	-
S-21	/	スリーブ図	/	-

2017.07

株式会社　俊設計

工事仕様書

Ⅰ 工事概要

1.敷地概要

工事場所　：福岡県行橋市長尾　496-1,497-5,506-1,509-1,518の一部
敷地面積　：2,515.42㎡
地域地区　：用途地域の指定なし　防火地域指定なし
基準建蔽率　：70%
基準容積率　：200%
道路斜線制限　：1.5
隣地斜線制限　：2.5

2.建築概要

建築面積　：486.48㎡
建蔽率　：19.33%
延床面積　：476.52㎡
容積率　：18.94%
構造　：鉄骨造平屋建て

Ⅱ 建築工事仕様

1. 共通仕様
(1)図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）(平成28年版［平成28年6月改定］)」(以下、「標準仕様書」という)による
(2)本工事に電気設備、機械設備工事を含む場合の工事特記仕様書は別図による
(3)受注者は完了検査（中間検査を含む）の検査には、特定行政庁（建築主事）が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用意すること

2. 特記仕様
(1)項目は、番号に○印の付いたものを適用する
(2)特記事項は○印の付いたものを適用する
　○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する
　○印と⊗印の付いた場合は、共に適用する
(3)特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図、又は当該表を示す
(4)Ⓖ印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(以下、「ｸﾞﾘｰﾝ購入法」という）の特定調達品目を示す
　判断の基準は「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成28年2月2日変更閣議決定）」（環境省のホームページからダウンロード可能）による
(5)関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督職員と協議すること
(6)形状寸法の単位は特記なきかぎりミリメートルとする

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	①適用基準等	※　建築工事標準詳細図(平成28年版) ・　構内舗装・排水設計基準(平成27年版) ・　敷地調査共通仕様書(平成23年版)
	②発生材の処理	(1.3.11) ・発生者に引渡しを要するもの(・金属類・PCB含有物・　　) 引渡し場所　※構内　・(　　)

特定建設資材の分別解体等及び再資源化等
・本工事は、特定建設資材を用いた建築物等に係る解体工事又はその施工に、特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日法第104号。以下「建設ﾘｻｲｸﾙ法」という。)施行令又は都道府県が条例で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設ﾘｻｲｸﾙ法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適切な措置を講ずる
工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督職員と協議するものとする

工程ごとの作業内容

	工程	作業内容
工程ごとの作業内容	1 造成等	造成等の工事 ・有　・無
	② 基礎・基礎ぐい	基礎・基礎ぐいの工事 ・有　・無
	③ 上部構造部分・外装	上部構造部分・外装の工事 ・有　・無
	④ 屋根	屋根の工事 ・有　・無
	⑤ 建築設備・内装等	建築設備・内装等の工事 ・有　・無
	⑥ その他 (　　)	その他の工事 ・有　・無

・本工事は、建設リサイクル法等の対象工事外であるが分別解体等及び特定建設資材の再資源化等について適切な措置を行う

1 一般共通事項（続き）

③品質計画

施工計画書で工法を定める場合の風圧力の計算　(1.1.2)
基準風速(V0)　(　34　)m/s
地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ
・上記風圧力の1.3倍の風圧力に対する安全性を確保する
・上記風圧力の1.15倍の風圧力に対する安全性を確保する
適用工種　・ALCパネル(外壁、屋根)・押出成形ｾﾒﾝﾄ板(外壁)・外壁石張(乾式)
・長尺金属板葺　・折板葺　・アルミ笠木　・ガラスブロック
・シート防水(機械式)・屋上緑化システム
・(　　)

④設計GL
※図示による

⑤設備工事との取り合い　(1.1.7)
施工範囲　図面に特記なき場合は、別表－1による
施工図等　設備機器の設置、取合い等が検討のできる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける

⑥材料の品質等　(1.4.2)
同等以上の材料・機材等の使用
本工事に使用する材料・機材等は設計図書に定める品質及び性能と同等以上のものを使用する。ただし、製造業者が記載されている場合に同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける
材料・機材等の品質及び性能
本工事に於いて別表－2に示す材料を使用する場合の材料・機材等の製造業者等は次の(1)から(6)すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける
(1)品質及び性能に関する試験データを整備していること
(2)生産施設及び品質の管理を適切に行っていること
(3)安定的な供給が可能であること
(4)法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること
(5)製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
(6)販売、保守等の営業体制を整えていること

⑦環境への配慮　(1.4.1)
本工事の建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の1)から4)を満たすものとする
1)合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する
2)接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する
3)接着剤は可塑剤（フタル酸ジｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する
4)1)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする
また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次の通りとする
規制対象外
①建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料
②建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
第三種品
①建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
②建築基準法施行令第２０条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
アスベスト含有建材
本工事に使用する材料については、アスベストを含有しないものとする

⑧化学物質の濃度測定　(1.5.9)
施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、監督職員に報告すること測定はパッシブ型採取機器により行う

測定対象室及び測定箇所数は仕上表による
注)測定バッジはホルムアルデヒド用と、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン用の2種類を用いる

⑨特別な材料の工法
標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による

⑭完成写真
撮影方法、提出方法は下記によるほか、監督職員との協議による

撮影機材	※フィルムカメラ	・デジタルカメラ
原版サイズ等	・100×125以上 ・(　　)以上	・2000万画素以上 ・(　)万画素以上
	写真原版は撮影業者の保管とする。	
アルバム提出 ※1部	※カラーキャビネ版サイズでプリントしたものを ・(20)カット貼付 ・工事概要書、平面図を添付とする	
追加提出物	・上記の外観(5)のカット、内観(15)カット　各(2)部 ・全紙パネル(２)カット　各(２)部	
電子データ	・(　)形式を ＣＤ－Ｒで(　)部	・JPEG)形式を ＣＤ－Ｒで(　2部
撮影者	※監理者の承諾する建築完成写真の撮影実績がある専門業者	

⑬完成図
(施工図及び施工計画書を除く)
※提出する
※完成図の種類（ＣＡＤで作成）は下記による

a	・設計図全般
b	・配置図及び案内図　・平面図　・立面図　・断面図 ・仕上表　・構造図

※提出様式ごとの、部数、完成図の種類等は下記による

提出様式	部数	作成要領	サイズ・形式	完成図の種類
紙媒体 ｹﾐｶﾙ紙ﾄﾞﾗﾌﾀｰ用紙(原図)	1	—	A１版	b
上質紙(複写図)	2 3	二つ折り製本	A１版 A３版	a a
電子媒体 ＣＤ－Ｒ	2	—	DWG形式及びPDF形式及びDXF形式	a

⑭施工図
※提出する
工事完成後は監理者の指示する施工図を提出する。なお、本工事に係る施工図等の著作者の権利は、当該建物における使用に限り発注者に移譲するものとする
※提出様式ごとの、部数、施工図の種類等は下記による

提出様式	部数	作成要領	サイズ・形式	施工図の種類
紙媒体 ｹﾐｶﾙ紙ﾄﾞﾗﾌﾀｰ用紙(原図)	1	—	A１版	構造図軸体図、ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ図(施工計画書共) その他監理者が指示するもの
上質紙(複写図)	2	—	A３版 ２つ折り製本	
電子媒体 ＣＤ－Ｒ	2		DWG形式及びPDF形式及びDXF形式	

⑮着手時
※設計図:二つ折り製本A1版1部、A3版5部を監理者に提出すること
・現況外観写真をプロカメラマンによる外観写真を3カット提出すること

2 仮設工事

①監督職員事務所　(2.3.1)
・設ける　・設けない
面積規模(　20　)㎡程度
監督職員スペースと工事監理業務の職員スペースは間仕切り壁等で仕切る
・定例会議のできる会議室を設けること
監督職員事務所の仕上げ

部位等	
	合板張り又はビニル床シート張り仕　上　げ
内壁、天井	合板又はせっこうﾎﾞｰﾄﾞ張り、合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り
屋根	塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り

②工事用水　構内既存の施設　・利用できる(※有償　・無償)　※利用できない
③工事用電力　構内既存の施設　・利用できる(※有償　・無償)　※利用できない

3 土工事

①埋戻し及び盛土　(3.2.3)(表3.2.1)
種別　・A種　※B種　・C種　・D種
C種の場合(発生場所　　)
(運絡先　　)
(運　搬　・発生原因者側　・本工事　　km　)

②建設発生土の処理　(3.2.5)
※構外指示の場所
受け入れ場所　(　　)
受け入れ場所での処置(・敷きならし　※たい積　)
搬出距離　(　　)km
上記に示す受入れ場所・距離は参考であり、実施にあたっては監督職員と協議のうえ決定する
・構内指示の場所(・敷きならし　・たい積　)

4～7 地業工事／鉄筋工事／コンクリート工事／鉄骨工事

特記仕様書（構造関係による）

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント工事

1.補強コンクリートブロック造　(8.2.2、5)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
※ 空洞ブロック 16	・120 ※150	※400 ・	※200 ・	※無　・有		
				※無　・有		

各部の配筋　※図示　・
化粧目地の有無　・無　・有

2.コンクリートブロック帳壁及び塀　(8.3.2、3)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
・ 空洞ブロック 08	・120 ※150	※400 ・	※200 ・	※無　・有		
・ 空洞ブロック 16	・120 ※150	※400 ・	※200 ・	※無　・有		
・ 型枠状ブロック 20				※無　・有		
				※無　・有		

各部の配筋　※図示　・
化粧目地の有無　・無　・有
工法
コンクリートブロック積帳壁の積高さは、壁厚の25倍かつ3500以内とし、その他の部分は同厚の鉄筋コンクリート造垂壁とする

③ALCパネル　(8.4.2～5)

パネルの区分	単位荷重(N/㎡)	厚さ(mm)	幅(mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別
・外壁パネル		・100 ・50		・30分 ・1時間 ・2時間	・平 ・意匠	・A種　・B種
・間仕切壁パネル		・100 ・		・30分 ・1時間 ・2時間	・平 ・意匠	・C種　・D種　・E種
・屋根パネル		・100 ・		・30分 ・1時間 ・2時間	平	F種
・床パネル		・100 ・		・30分 ・1時間 ・2時間		

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合　・
外壁、間仕切壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の目地幅(mm)　※ 20　・
外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填　・適用する　・適用しない

④押出成形セメント板　(8.5.2～5)

パネルの種類	表面形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	耐火性能
・外壁パネル	・F　・F－R	・50	・450	・A種	・30分
	・D　・D－R	・60	・600	・B種	・1時間
	・T　・T－R	・100	・		・2時間
・間仕切壁パネル	・F　・F－R	・50	・450	・B種	・30分
	・　・	・60	・600	・C種	・1時間
		・100	・		・2時間

8（続き）

パネル相互の目地幅(mm)　※長辺 8以上　短辺 15以上　・
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm)　※15　・
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出する。

		開口の大きさ		切断後のパネルの残り部分の幅	
パネルに開口を設ける場合	短辺	・	・図示	・	・図示
	長辺	・	・図示	・	・図示
パネルを切り欠く場合	短辺	・	・図示	・	・図示
	長辺	・	・図示	・	・図示

9 防水工事

1.アスファルト防水　(9.2.2～5)(表 9.2.3～9)
屋根保護防水
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材Ⓖ	絶縁用シート	立上り部の保護
・A－1		(材質)※JIS A 9521による押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材3種bA(スキン層付き)又はJIS A 9511によるA種押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板3種b(スキンあり) ・ (厚さ)※25mm　・50mm　・	※ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.15mm以上 ・	※ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ セメントれんが
・A－2				
・A－3				
・B－1				
・B－2				
・B－3				
・AI－1			※ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/㎡程度 ・	
・AI－2				
・AI－3				
・BI－1				
・BI－2				
・BI－3				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3から標準仕様書表9.2.8による　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3から標準仕様書表9.2.8による　・

平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ　※水下　80mm以上　・
床タイル張り　※水下　60mm以上　・

・乾式保護材
窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの
(品質・性能・試験方法)
建築材料等品質性能表による

屋根露出防水
高日射反射率防水の適用Ⓖ　・有　※無
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材Ⓖ	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	備考
・D－1		(材質)※JIS A 9521による硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの又はJIS A 9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの ・ (厚さ)※25mm　・	・ ※製造所の指定による	・ ※製造所の指定による	
・D－2					
・D－3					
・D－4					
・DI－1					
・DI－2					

屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置　※図示　・

防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E－1		・E－2	

保護層　・設ける(※図示　・　　)　・設けない

立上りコンクリート打放し仕上げ
※標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種　・
押え金物の材質及び形状
※アルミニウム製　L－30×15×2.0mm程度　・
防水層の下地のモルタル塗り　・適用する(施工範囲　※図示　・　　)
・適用しない
屋根排水溝　※図示　・
施工標識　※監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取り付ける

2.改質アスファルトシート防水
高日射反射率防水の適用Ⓖ　・有　※無
防水層の種別　(9.3.2、3)(表 9.3.1～3)

種別	施工箇所	断熱材Ⓖ	防湿層	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	備考
・AS－T1		(材質)※JIS A 9521による硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの又はJISA9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの ・ (厚さ)※25mm　・	・設ける (改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ製造所の仕様による) ・設けない	・ ※製造所の指定による	・ ※製造所の指定による	
・AS－T2						
・AS－T3				※製造所の指定による	※製造所の指定による	
・AS－T4						
・AS－J1						
・AS1－T1				・	・	
・AS1－J1				※製造所の指定による	※製造所の指定による	

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
特記仕様書(1)

□ 縮尺
A3 : －
A1 : －

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-01

9 防水工事（続き）

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書9.3.1から表9.3.3による ・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書9.3.1から表9.3.3による ・
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書9.3.1から表9.3.3による ・
押え金物
※改質アスファルト製造所の仕様による ・
施工標識 ※監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取り付ける

3. 合成高分子系ルーフィングシート防水

高日射反射率防水の適用 G ・有 ※無 (9.4.2～4)（表 9.4.1～3）

種 別	施工箇所	絶縁用ﾌﾟﾗｲﾏｰの材質	断熱材 G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	備 考
・S－F１				・※製造所の指定による	・※製造所の指定による	
・S－F２						
・S－M１				・※製造所の指定による	・※製造所の指定による	
・S－M２						
・S－M３						
・Ｓ１－Ｆ１			(材質)※標準仕様書9.4.2(c)(3)(ⅱ)による ・(厚さ)※ 25mm ・	・※製造所の指定による	・※製造所の指定による	
・Ｓ１－Ｆ２						
・Ｓ１－Ｍ１			(材質)※標準仕様書9.4.2(c)(3)(ⅰ)による ・	・※製造所の指定による	・※製造所の指定による	
・Ｓ１－Ｍ２		※発泡ポリエチレンシート ・	(厚さ)※ 25mm ・			

屋内防水

種 別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り 塗り厚さ	保護層 平場のモルタル塗り ・床塗り工法	保護層 平場のモルタル塗り ・下地モルタル塗り	立上り部の保護モルタル塗り厚さ
・S－C１	・	・	※標準仕様書15.2.5(b)(2)及び(3)に準ずる ・	※標準仕様書15.2.5(c)(1)に準ずる ・	※7mm以下 ・

屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ・
ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.4.1、表9.4.2及び表9.4.3による ・
固定金具の材質及び寸法形状
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を積層加工した鋼板 ・
PCコンクリート部材下地及びALCパネル下地で種別S-C1の場合の目地処理
・行う（・図示 ・ ） ・行わない
PCコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-F1、S1-f1、S-C1の場合）
・行う（・図示 ・ ） ・行わない
ALCパネル下地の入隅部の増張り（種別S-C1の場合）
・行う（・図示 ・ ） ・行わない
施工標識 ※監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取り付ける

4. 塗膜防水

高日射反射率防水の適用 G ・有 ※無 (9.5.3)（表 9.5.1、2）

防水層の種別

種別	施工個所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	保護層	備 考
・X－1		・※製造所の指定による	・※製造所の指定による		
・X－2		・※製造所の指定による	・※製造所の指定による		
・Y－1	※地下外壁防水 ・				
・Y－2	※屋内防水 ・			・ 適用する ※ 適用しない	

施工標識 ※監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取り付ける (9.6.1、3)（表9.6.1、2）

5. ケイ酸質系塗布防水

防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※ Ｃ－ＵＩ		・ Ｃ－ＵＰ	

6. 脱気装置

(9.2.3)（9.3.3）(9.5.3)

種別	種類	設置数量
D-1 D-2 D-3 D-4 D1-1 D1-2 AS-T3 AS-T4 AS-J1 AS1-I1 AS1-J1	※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の仕様による ・	※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の仕様による ・（ ）個/㎡
X-1	※防水層の主材料の製造所の仕様による ・	・防水層の主材料の製造所の仕様による ・（ ）個/㎡

⑦シーリング

(9.7.2、3)（表 9.7.1）
下表以外は、標準仕様書表 9.7.1による
ただし、外装壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは１７章による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）

シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a)(1)～(3)による ・

⑧汚水槽

ポリマーセメント系塗装積防水（防食性）

10 石工事

①施工

(10.1.3、5)
石材の割付け ※標仕10.1.3(a)(1)、(2)による ・図示
粗面仕上げの場合ののみ込み部分の仕上げ ・図示 ・
屋内の床を本磨きとする場合のワックスがけ ・行う（適用場所 ・すべて ・ ）
・行わない

②石材等

天然石 (10.2.1、3)（表 10.2.1、2）

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面仕上げ	備考
外壁	・等品 ・2等品	さび石	※正方形に近い矩形 ・	・図示	30	・粗磨き ・本磨き ・JB	
	・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形 ・	・図示			

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状	仕上げ面	寸法 (mm)	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面	・図示		
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面	・図示		

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・300型 ・400型		
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・300型 ・400型		

取付け用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材
※石材施工業者の指定する製品 ・

3. 外壁湿式工法

(10.2.2、3)（10.3.2、3）
受金物 材質 ※SS400 ・
形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 長さ=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ=150mm
・
アンカーの材質及び径 ※SS400 M12 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法（ ）
ドレインパイプの材質 ・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35φ
・
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※流し筋工法 ・あと施工アンカー工法 ・あと施工アンカー、横筋横流し工法
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書11.1.1による ・図示
シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a)(3)による
・図示

4. 内壁空積工法

(10.2.2)（10.4.2、3）
受金物 材質 ※SS400 ・
形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 長さ=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ=150mm
・
アンカーの材質及び径 ※SS400 M12 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法 （ ）
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※あと施工アンカー、横筋横流し工法 ・あと施工アンカー工法
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※6mごと ・図示
シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a)(3)による
・図示

⑤乾式工法

(10.2.2)（10.5.2、3）(表10.2.4)
取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
アンカーの材質及び形状 ※ステンレス（SUS304） M10 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法 （ ）
だぼ用の穴の位置 ※標準仕様書10.5.2(b)(1)による ・図示
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
目地 目地幅(mm) ※8以上 ・
シーリング材 ・適用する（※標準仕様書9章7節による ・図示） ・適用しない

6. 床及び階段の石張り

(10.6.2、3)
床石張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない
階段張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない
目地 一般目地 目地幅(mm) ・図示 ・
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6m程度ごと及び他の部材と取り合う箇所
・図示
シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a)(3)による
・図示

7. アーチ、上げ裏等の石張り

(10.2.2)（10.7.1、2）
取付け金物 ※標準仕様書10.2.2(c)による ・
引金物、だぼ、かすがい及び受金物 ※標準仕様書10.2.2(a)による ・
ファスナー ※標準仕様書10.2.2(b)のスライド方式による ・
吊金物及び化粧吊りボルト
・設ける 吊金物 ※ステンレス(SUS304)径6mm長さ80mm（加工物）
・
吊りボルト ※ステンレス(SUS304)M10化粧ナット付き
・
・設けない
あと施工アンカーの材質及び寸法 （ ）
取り付け工法 ・内積空積工法 ・乾式工法
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・
伸縮調整目地 位置 ※他の部位との取合い部 ・図示
シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a)(3)による
・図示

8. 笠木、甲板等の石張り

(10.2.2)（10.7.1、3）
取付け金物 ※標準仕様書10.2.2(c)による ・
引金物、だぼ、かすがい及び受金物 ※標準仕様書10.2.2(a)による ・
ファスナー ※標準仕様書10.2.2(b)のスライド方式による ・
あと施工アンカーの材質及び寸法（ ）
取付け工法 ・外壁湿式工法 ・乾式工法
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
乾式工法の場合の取付け代 ※標準仕様書10.5.3(b)による ・
石裏の補強用モルタル ・適用する ・適用しない

11 タイル工事

①伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置 ※標準仕様書表11.1.1による ・図示

②セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り

タイルの形状、寸法等 (11.2.2、3、7)

施工箇所	形状/寸法 (mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 地ゆう	磁ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材料の適用 G	耐凍害性 有	無	耐汚性	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ※行わない
見本焼き ・行う ※行わない
モルタル塗りのコンクリート素地面の処理 ・MCR工法 ・目荒し工法（高圧水洗処理） ・
壁タイル張りの工法
外装タイル ※密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り

既製調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
（品質・性能・試験方法）
建築材料等品質性能表による
・外床タイル（LIXIL「IPF-820/PMR」同等程度以上）

③接着剤による陶磁器質タイル張り

タイルの形状、寸法等 (11.3.2～4、7)

施工箇所	形状/寸法 (mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 地ゆう	磁ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材料の適用 G	耐凍害性 有	無	耐汚性	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ※行わない
見本焼き ・行う ※行わない
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・
外装壁タイル接着剤張りにおける目地のシーリング材
打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・
ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・
伸縮調整目地 ※変成シリコーン系シーリング材 ・
その他の目地 ※変成シリコーン系シーリング材 ・
モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ・MCR工法 ・目荒し工法（高圧水洗処理）
・インテリアモザイクタイル（LIXIL「IM-25PI/SKA」同等程度以上）
・外壁タイル（LIXIL「HAL-25B/CRG」同等程度以上） (11.4.2、3)（表11.4.1）

4. 陶磁器質タイル型枠先付け

タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状/寸法 (mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 地ゆう	磁ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材料の適用 G	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ※行わない
見本焼き ・行う ※行わない
タイル型枠先付けの種類

種 類	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板の種別
・タイルシート法	・小口タイル	※ 標準仕様書6.8.3(b)(2)
・目地桟法	・二丁掛けタイル	・金属製タイル先付け用パネル
・桟木法	大形タイル	・

⑤階段滑り止め

※磁器製（ ）
・（ ）

⑥床タイル

・磁器質タイル（600×600） (LIXIL「IPF-600」同等程度以上)

12 木工事

①表面仕上げ

(12.1.4)（表12.1.1）

表面仕上げの種別	適用箇所
・A種	図示
※B種	
・C種	

2. 製材 G

(12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1)
・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※2級・		※A種・B種・	・
			※2級・		※A種・B種・	・
			※2級・		※A種・B種・	・

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
見え掛り面			※上小節 ・		※A種・B種・	・
見え掛り面以外			※小節以上 ・		※A種・B種・	・

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※1等・		※10%以下 ・A種・B種・	・
			※1等・			・
			※1等・			・

「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	造作材の材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐材等の適用
			（ ） 造作材の場合（※A種 ・B種）	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種・B種 ・	・

・代用樹種を使用できない箇所（ ）

③造作用集成材 G

(12.2.1)
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・
・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面の等級	間伐材等の適用
			※１等 ・２等	・
			※１等 ・２等	・
			※１等 ・２等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の等級	間伐材等の適用
					※１等 ・２等	・
					※１等 ・２等	・
					※１等 ・２等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	間伐材等の適用
					・
					・
					・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※15%以下 ・	・
				※15%以下 ・	・
				※15%以下 ・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
						※15%以下 ・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
						※15%以下 ・	・

④造作用単板積層材 G

(12.2.1)
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・
「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
図示	12	・有り（加工 ・天然木加工・塗装加工） ・無し（等級： ）	・適用する ・適用しない	・

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ (mm)	表面の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
		・有り（加工・天然木加工・塗装加工） ・無し（ ）	・適用する ・適用しない	※14%以下	・

⑤床張り用合板等

(12.2.1)
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・
・普通合板 G

施工箇所	厚さ (mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	※5.5 ・	・ﾗﾜﾝ ・しな ・ -	※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上	・適用する ・適用しない	・

・構造用合板 G

施工箇所	厚さ (mm)	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	有効断面係数比	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
図示	※12 ・	※2級以上 ・1級	ラワン	※１類 ・特類	※C-D以上 ・		・適用する ・適用しない	・適用する（ ） ・適用しない	・

・パーティクルボード G

施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
	※15 ・		※13タイプ ・	※P又はM ・	

・構造用パネル

施工箇所	厚さ (mm)	等級
		・１級 ・２級 ・３級 ・４級

⑥接着剤

(12.2.2、3)
接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。
ホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・

⑦防腐・防蟻

(12.3.1、2)
・防腐、防蟻処理が不要な樹種による製材
適用部位：（ ）
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・Ｋ２ ・Ｋ３ ・Ｋ４
	・Ｋ２ ・Ｋ３ ・Ｋ４
	・Ｋ２ ・Ｋ３ ・Ｋ４

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法
	※標準仕様書12.3.1(3)(ⅱ)①～④による ・
	※標準仕様書12.3.1(3)(ⅱ)①～④による ・
	※標準仕様書12.3.1(3)(ⅱ)①～④による ・

・ボード原料接着材への薬剤混入による防腐、防蟻処理
適用部位（ ）

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
特記仕様書(2)

□ 縮尺
A3 : －
A1 : －

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-02

13 屋根及びとい工事

1. 長尺金属板葺

(13.2.2、3)

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322の屋根用ｺｲﾙ(CGLCCR-20-AZ150)・			・心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ・	

下葺材料　※アスファルトルーフィング 940
・改質アスファルトルーフィング下葺材
（・一般ﾀｲﾌﾟ ・複層材ﾀｲﾌﾟ ・粘着層付ﾀｲﾌﾟ）
雪止め　・設置する（図示）

2. 折板葺

(13.2.2)(13.3.2、3)(表 13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
		山高	山ﾋﾟｯﾁ					
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形			（ ）種	※鋼板製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製		・有り ・無し	・30分 ・無し
	・							

屋根葺き方は図示による

材料　※JIS G 3322の屋根用コイル（CGLCCR-20-AZ150）
・（ ）
断熱材　・有り（種別：　厚さ(mm)：　防火性能：　時間）
・無し

④ とい

(13.5.2、3)(表 13.5.5)

といの材種

種別	材種	径	施工箇所	備考
たてどい	・硬質ポリ塩化ビニル管	75	図示	
	・配管用鋼管			
	・ステンレス鋼管	125	図示	SUS304、厚2
	・硬質ポリ塩化ビニル管(カラー)			
軒どい	・			

ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
鋼管製といの防露巻き　・適用する（工法：※標準仕様書13.5.5による　・　）
・適用しない
とい受金物　※ステンレス製　・鋼製（亜鉛めっき）　(13.5.2)(表 13.5.3)

ルーフドレン

種別	施工箇所
・ろく屋根用（・縦型 ・横型）	
・バルコニー用	
・バルコニー中経用	
・網かご付き￥硬質塩ビ製既製品120Φ	

14 金属工事

① ステンレスの表面仕上げ

(14.2.1)

種類	施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）
※ ＨＬ 程度	
・ 鏡面仕上げ 程度	
・ №2B 程度	

② アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.2)(表 14.2.1)

種別	皮膜又は複合皮膜の種類	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）	備考
・A-1種	※AA15 ・		
・A-2種	※AA15 ・		
・B-1種	※B ・		
・B-2種	※B ・	外部	
・C-1種	※AA6 ・		
・C-2種	※AA6 ・		
・D種			
・			

陽極酸化皮膜の着色方法　※二次電解着色　・三次電解着色

③ 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.3)(表 14.2.2)

表面処理方法	種 別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

④ 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類　(14.4.2～4)(表14.4.1)
屋外（※ 25 形 ・ 19 形）　屋内（※ 19 形 ・ 25 形）　大会議室は25形とする
・屋外の軒天井、ピロティ天井等
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔　・900程度　・（ ）
周辺部の端からの間隔　・図示　・
野縁の間隔　・300程度　・（ ）
・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法　※図示　・
・天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合
補強方法　※標準仕様書14.4.4(h)(1)～(2)による　・図示
・天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法　※図示　・
・屋内外への耐震補強
・行う　※行わない
補強箇所　・図示　・
補強方法　・図示　・
・耐風圧性を考慮した補強
・行う（1．一般共通事項 3. 品質計画による）　※行わない
補強箇所　・図示　・
補強方法　・図示　・

⑤ 軽量鉄骨壁下地

(14.5.3)(表 14.5.1)
スタッド、ランナーの種類
※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類　・図示
スタッドの高さが5.0mを超える場合　※図示　・

6. 金属成形板張り

(14.6.2、3)(表 14.2.1)

種別	製法	形状	板幅(mm)	寸法(mm)	厚さ(mm)	表面処理 種別	表面処理 皮膜等の種類
※ｱﾙﾐﾆｳﾑ	※押出し ・ロール ・プレス ・	・ﾌﾗｯﾄ ・目地有 ・目地無 ・凹凸	※100 ・		※1.0 ・	・A-1種 ・A-2種 ※B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種 ・D種	※AA15 ・ ※B ・A1・A2・C ※AA6 ・
・							

取付け用下地　※標準仕様書14.4による　・図示
伸縮調整継手　・設ける（施工箇所　・図示　・　）　・設けない

⑦ アルミニウム製笠木

(14.7.2、3)(表 14.2.1)(表 14.7.1)

施工箇所	種 類	製品幅	呼称肉厚	表面処理	皮膜・複合皮膜
	・押出し250形	※260～240	※1.6以上	※A-1種	※AA15又はB
	・押出し300形	※300	※1.8以上	又は	・A1
	・押出し350形	※350	※2.0以上	B-1種	・A2
	・（ ）	・（ ）	※2.0以上		
屋根	・板材折曲げ形	・（ ）	※2.0以上	・（ ）	

棟上避雷導体システム　・無　・有（実厚2.0以上）
笠木の固定金具の工法等
取付け用下地　※標準仕様書14.4による　・図示

⑧ 手すり及びタラップ

(14.8.2、3)
手すり　・ステンレス製　SUS304（表面処理　※HL程度　・No.2B程度　・　）
・鋼製　（表面処理　※溶融亜鉛めっき仕様　・　）
タラップ　※ステンレス製　SUS304　仕上げは＃400程度
・鋼製　（表面処理　※溶融亜鉛めっき仕様　・　）
滑り止め　※ローレット加工　・（ ）

15 左官工事

① モルタル塗り

(15.2.2、5)
既製目地材　・設ける　施工箇所（ ）　形状（※図示　・ ）
・設けない
床の目地　・設ける（工法※押し目地　・ ）
・設けない
外装壁タイル張り下地の下地モルタルの接着力試験　・適用する
・適用しない
・防水剤
（品質・性能・試験方法）
建築材料等品質性能表による

2. セルフレベリング材塗り

(15.4.2)(表15.4.1)
・せっこう系　・セメント系

③ 仕上塗材仕上げ

(15.5.2)
建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
仕上塗材の種類

種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ	・	・砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Ｓｉ	・	・ゆず肌状（・吹付け　・ローラー塗り）
	・外装薄塗材Ｅ	・	・さざ波状
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	―	・平たん状
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・	・凹凸状（・吹付け　・こて塗り）
	・外装薄塗材Ｓ	・	・着色骨材砂壁状（・吹付け　・こて塗り）
	・内装薄塗材Ｃ	・	・砂壁状じゅらく
	・内装薄塗材Ｌ	・	・京壁状じゅらく
	・内装薄塗材Ｓｉ	・	吸放湿性　・適用する　・適用しない
	・内装薄塗材Ｅ	・	
	・内装薄塗材Ｗ	・	
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材Ｃ	・	・吹放し　・凸部処理　・平たん状
	・外装厚塗材Ｓｉ	・	・凹凸状　・ひき起こし　・かき落とし
	・外装厚塗材Ｅ	・	吸放湿性　・適用する　・適用しない
	・内装厚塗材Ｃ	・	上塗材　・適用する　・適用しない
	・内装厚塗材Ｌ	・	
	・内装厚塗材Ｇ	・	
	・内装厚塗材Ｓｉ	・	
	・内装厚塗材Ｅ	・	
・複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・	・ゆず肌状　・凸部処理　・凹凸状
	・可とう形複層塗材ＣＥ	・	
	・複層塗材Ｓｉ	・	耐候性　※耐侯形３種　・
	・複層塗材Ｅ	―	上塗材
	・複層塗材ＲＥ	―	溶　媒　※水系　・溶剤系　・弱溶剤系
	・防水形複層塗材ＣＥ	―	樹　脂　※アクリル系　・
	・防水形複層塗材Ｅ	―	外　観　※つやあり・つやなし・ﾒﾀﾘｯｸ
	・防水形複層塗材ＲＥ	―	
	・防水形複層塗材ＲＳ	―	
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	・	
	・こて塗用軽量塗材	・	

4. ＡＬＣパネルの場合の下地処理

(15.5.4)
内壁目地部の形状　※Ｖ形目地付き　・

5. マスチック塗料塗り

(15.6.2)
種別　・Ａ種　・Ｂ種（仕上材塗り：EP-G　※B種　・A種）

⑥ ロックウール吹付け

(15.8.2、3)
ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・
接着剤のホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・
吹付け厚さ(mm)　・図示　・25　・
色彩　・着色　※原色

16 建具工事

1. 防火戸

(16.1.3)
※建具表による　・

2. 防犯建物部品

(16.1.6)
・適用する（※建具表による　・　）
※適用しない

③ アルミニウム製建具

(16.2.2、4、5)（表14.2.1）
性能等級
外部に面する建具　・Ａ種（建具符号：・建具表による　・　）
※Ｂ種（建具符号：・建具表による　・　）
・Ｃ種（建具符号：・建具表による　・　）
防音ドアセット,防音サッシ　・遮音性の等級（・建具表による　・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
断熱ドアセット,断熱サッシ　・断熱性の等級（・建具表による　・　）
G （建具符号：・建具表による　・　）
耐震ドアセット　・面内変形追随性の等級（・建具表による　・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
枠の見込み寸法　・建具表による　・
表面処理の種別
外部に面する建具　・A-1種　・A-2種　※B-1種　・B-2種　・
皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による　・　）
屋内の建具　※C-1種　・C-2種　・
皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による　・　）
結露水の処理方法　※図示　・
水切り板、ぜん板　※建具表による　・図示

④ 網戸等

(16.2.3)

	材種	線径	網目
・防虫網 種類	・合成樹脂製 ※ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

5. 樹脂製建具

(16.2.2、5)(16.3.2～5)
性能等級
外部に面する建具　・Ａ種（建具符号：・建具表による　・　）
・Ｂ種（建具符号：・建具表による　・　）
・Ｃ種（建具符号：・建具表による　・　）
防音ドアセット,防音サッシ　・遮音性の等級（・Ｔ－１　・Ｔ－２）
（建具符号：・建具表による　・　）
断熱ドアセット,断熱サッシ　・断熱性の等級（・Ｈ－４・Ｈ－５・Ｈ－６・　）
G （建具符号：・建具表による　・　）
耐震ドアセット　・面内変形追随性の等級（　）
（建具符号：・建具表による　・　）
枠の見込み寸法　・建具表による　・
表面色　※標準色　・特注色
水切り板、ぜん板　※図示　・
ガラス　※複層ガラス　・

⑥ 鋼製建具

(16.2.2)(16.4.2～4)（表16.4.2）
性能等級
簡易気密型ドアセット　・適用する（建具符号：・建具表による　・　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性　・S-4（建具符号：・建具表による　・　）
・S-5（建具符号：・建具表による　・　）
・S-6（建具符号：・建具表による　・　）
防音ドアセット,防音サッシ　・　・遮音性の等級（・建具表による　・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
断熱ドアセット,断熱サッシ　・断熱性の等級（・建具表による　・　）
G （建具符号：・建具表による　・　）
耐震ドアセット　・面内変形追随性の等級（・建具表による　・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
鋼板

材料	めっき付着量	厚さ
※JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板）	※Z12又はF12 ・	※標準仕様書表16.4.2による ・
・JIS G 3317（溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板）	※Y08 ・	

⑦ 鋼製軽量建具

(16.2.2)(16.5.2～4)
性能等級
簡易気密型ドアセット　・適用する（建具符号：・建具表による　・　）
・適用しない
防音ドアセット,防音サッシ　・遮音性の等級（・建具表による　・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
断熱ドアセット,断熱サッシ　・断熱性の等級（・建具表による　・　）
G （建具符号：・建具表による　・　）
耐震ドアセット　・面内変形追随性の等級（・建具表による　・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
鋼板　※亜鉛めっき鋼板　・ビニル被膜鋼板　・カラー鋼板　・ステンレス鋼板
鋼板の厚さ　・標準仕様書表16.5.1による　・
召合せ、縦小口包み板の材質　※ステンレス鋼板　・鋼板

⑧ ステンレス製建具

(16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)
性能等級
簡易気密型ドアセット　・適用する（建具符号：・建具表による　・　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性　・S-4（建具符号：・建具表による　・　）
・S-5（建具符号：・建具表による　・　）
・S-6（建具符号：・建具表による　・　）
・
防音ドアセット,防音サッシ　・遮音性の等級（・建具表による　・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
断熱ドアセット,断熱サッシ　・断熱性の等級（・建具表による　・　）
G （建具符号：・建具表による　・　）
耐震ドアセット　・面内変形追随性の等級（・建具表による　・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
鋼板（屋外）　※SUS304　・SUS430J1L、SUS443J1　・
鋼板（屋内）　※SUS430　・SUS430J1L、SUS443J1、SUS304　・
表面仕上げ　※ＨＬ　・鏡面仕上げ　・
ステンレス鋼板の曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ

⑨ 木製建具

(16.7.2～4)
建具材の加工、組立時の含水率　※Ｂ種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

・フラッシュ戸
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
※普通合板 G	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※ｳﾚﾝ程度　・　） 不透明塗料塗り （※しな程度　・　） 板面の品質（　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・天然木 化粧合板 G	樹種名（　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・特殊加工 化粧合板 G	化粧加工の方法 （・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ﾌﾟﾘﾝﾄ ・塗装） 表面性能（　）タイプ 接着の程度（・1類　・2類）	

表面板の厚さ　※表16.7.6による　・

・かまち戸
かまち樹種（　）　鏡板樹種（　）
見込み寸法　※36mm　・建具表による　・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型）
上張り（押入等の裏側以外）　・鳥の子　※新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ　・塗り縁　※生地縁（素地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※19.5mm　・建具表による　・
・戸ぶすま
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
・紙張り障子
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・

枠、くつずりの材料　・建具表による　・

⑩ 建具用金物

(16.8.2～4)（表16.8.1）
・マスターキー　※製作する（※新規　・既存にあわせる）
※シリンダー箱錠
※レバーハンドル　材質　※アルミニウム合金　・ステンレス　・黄銅
座金　※丸座　・長座
・握り玉　材質　※ステンレス
・本締まり錠
（性能）
建築材料等品質性能表による
・空錠
※レバーハンドル　材質　※アルミニウム合金　・ステンレス　・黄銅
座金　※丸座　・長座
・握り玉　材質　※ステンレス
・グレモン錠
レバーハンドルの材質　※亜鉛合金　・ステンレス
製造所　※図示
・ピボットヒンジ
カバー部の材質　※ステンレス　・亜鉛合金
・フロアヒンジ
・Grade1　※Grade2
カバー部の材質　※ステンレス
・ヒンジクローザー（丁番型）
材質　・鋼（焼付け塗装）
・ヒンジクローザー（ピボット型）
材質　・鋼（焼付け塗装）
・ドアクローザー
・Grade1　※Grade2
材質　※アルミニウム合金
・押棒、押板
材質　・ステンレス　・黄銅　・合成樹脂
・アームストッパー
材質　・鋼（クロームめっき）　※ステンレス
・クレセント
材質　※建具製造所の仕様による
・排煙オペレーター（※埋込　・露出）

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
特記仕様書(3)

□ 縮尺
A3 : －
A1 : －

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-03

16 建具工事（続き）

⑪ 自動ドア開閉装置 (16, 9.2、3)

自動ドア	性能	防錆	センサーの種類	凍結防止
・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSLD-1 ・DSLD-2	※標準仕様書表16, 9, 1による ・	・適用する ・適用しない	・マットスイッチ ※光線（反射）スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能トイレスイッチ	・行う （適用箇所は建具表による） ※行わない
・SWD-1 ・SWD-2	※標準仕様書表16, 9, 2による ・			
・図示	・			

駆動力　※電気式または電動油圧式　・（　　）
電源　※単相100V（過電流保護装置付）　・（　　）
補助センサ　※安全光線スイッチ１組　・（　　）
各開閉装置毎に補助センサを設ける

12. 自閉式上吊り引戸装置 (16. 10. 3)

性能　※ 標準仕様書表 16. 10. 1 による　・

13. 重量シャッター (16. 11. 2、3)

シャッターの種類	耐風圧強度	備考
・管理用シャッター	耐風圧強度（　　）N/㎡	※障害物感知装置（自動閉鎖型）
・外壁用防火シャッター	耐風圧強度（　　）N/㎡	
・屋内用防火シャッター		※危害防止機構
・防煙シャッター		

開閉機能による種類　※ 上部電動式（手動併用）・ 上部手動式
リモコンの有無　※無　・有（リモコン個数　　個）
電動式の場合の電源　※三相200V　0. 75kw以下（過電流保護装置付）
管理用シャッターのシャッターケース　・設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類　・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板）
めっきの付着量　※Z12又はF12　・

14. 軽量シャッター (16, 12, 2～4)

開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）
シャッターケース　※設ける　・設けない
耐風圧強度（　　）N/㎡
スラットの材質
※JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板）
めっき付着量（※Z06又はF06　・　　）
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板）
めっき付着量（※AZ90　・　　）
スラットの形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形
ガイドレール・座板の材質　※ステンレス（SUS304）　・溶融亜鉛めっき鋼板
電動式の場合の危害防止機構　※有（障害物感知装置自動閉鎖型）
電動式の場合の電源　※単相100V（過電流保護装置付）　・（　　）

15. オーバーヘッドドア (16. 13. 2、3)

セクション材料による区分	耐風圧 区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	・溶融亜鉛めっき鋼板 ※ステンレス鋼板

⑯ ガラス (9. 7)（16. 14, 2～4）（表16. 14. 1）

・合わせガラス

品種	構成種類	性能	形状
・フロート合わせガラス	・フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類	・平面 ・曲面
・網入磨き合わせガラス	・網入磨き、フロート板合わせガラス ・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス	・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類	・平面

・強化ガラス

材料板ガラスによる種類	種類	性能	形状
※フロートガラス	※フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	※Ⅰ類 ・Ⅲ類	・平面 ・
・型板ガラス	・型板強化ガラス		

・熱線吸収板ガラス

品種	性能	色調
・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収網入磨き板ガラス	・１種　・２種	・ブルー　・グレー　・ブロンズ

・複層ガラス

品種	断熱性	日射熱遮へい性
・断熱複層ガラス	・１種	U1
	・２種	U2
	・３種	U-3-1　・U-3-2
・日射熱遮へい複層ガラス	・４種	E4
	・５種	E5

・熱線反射ガラス

品種	日射熱遮へい性	耐久性
・熱線反射ガラス 色調（・ブルー　・グレー）	・１種	A種
	・２種	・A種　・B種
・高性能熱線反射ガラス 色調（・ブロンズ　・シルバー）	・３種	B種

反射被膜面　・内面　・外面
映像調整　・行わない　・行う

・倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色調
・フロート倍強度ガラス	－
・熱線吸収倍強度ガラス	・ブルー　・グレー　・ブロンズ

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ（mm）
アルミニウム製	※シーリング材（SR-1） ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形	※標準仕様書表16. 14. 1による ・図示
銅製及び銅製軽量	※シーリング材（SR-1） ・	※標準仕様書表16. 14. 1による ・図示　・
ステンレス製	※シーリング材（SR-1） ・	※標準仕様書表16. 14. 1による ・図示　・

16（続き）

17. ガラス用フィルム　下記に示す製造所の商品程度とする（　　）

⑱ 衝突防止表示　形状、寸法、材質　※図示

⑲ 鍵箱　形式　・20本入（ 1 ）個　・60本入（　）個　・120本入（　）個　・　本入（　）個
銅製市販品とし、監督職員の承諾による

17 カーテンウォール工事

1. 取付方法、性能等 (17. 1, 3)（17. 2, 2）(17. 3. 2)

取付方法　・層間方式　・柱・梁方式　・方立方式　・スパンドレル方式　・
性能

耐震性能		耐風圧性	水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能
水平方向（kH）	垂直方向（kV）						
・1. 0 ・	・0. 5 ・						・30分 1時間

耐温度差性　・80℃　・70℃　・60℃

主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離（h）	耐風圧性能	状態
4m以下	・たわみ量が±（1/150）×h かつ絶対量20mm以下であること ・	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。
4mを超える	・	

層間変位追従性

建築物の構造種別	層間変位量（h=支点間距離）	変位後の状態
鉄骨造	・±（1/200）×h以上 ・	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。 シーリングは補修程度の損傷であること。
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	・±（1/300）×h以上	

シーリング材
下表以外は標準仕様書表 9. 7. 1 による

被着体の組合せ		シーリング材の種別	
		記　号	主成分による区分
金属	ガラス		
	石、タイル		
ガラス	ガラス		
カーテンウォール板間目地			

構造用ガスケット
・適用する　（施工箇所　・図示　・　　）
材質　・クロロプレン系　・EPDM系　・シリコーン系
形状　・H型　・Y型　・O型
寸法（mm）　ガラス板厚（　　）、支持枠の厚さ（　　）、ウェブの寸法（　　）
※適用しない
断熱材G
種類（　　）
厚さ（mm）（　　）
施工箇所　・図示　・
耐火材料

施工部位	種別	規格帯
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		
・		

カーテンウォールの材料

材料	規格等	表面処理	映像調整
※アルミニウム製	※標準仕様書16. 2. 3による ・	・A-1種　・A-2種 ※B-1種　・B-2種 皮膜等の種類 （※標準仕様書表14. 2. 1による ・　　）	・行う ・行わない
・			

製品及び取付位置の寸法許容差　※標準仕様書表17. 2. 1～3による
ガラス溝の寸法、形状　※製造所の仕様による　・

2. メタルカーテンウォール

3. ＰＣカーテンウォール (17. 3. 2～5)（表17. 3. 1、2）

カーテンウォールの材料
コンクリート　※標準仕様書17. 3. 2(a)（ｉ）～（ｖ）による　・
鉄筋　※SD295A（・D13　・D10）
補強鉄線の径（mm）　※3. 2　・4. 0　・5. 0　・6. 0
配筋　※図示
先付けの材料　・サッシ枠　・ゴンドラ用ガイドレール
表面仕上材　・磁器質タイル
・石材（・花こう岩　・大理石　・　）
・
ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差（mm）
・h=l～+2、W1及びW2=±1
製品及び取付位置の寸法許容差　※標準仕様書表17. 3. 1～2による　・

18 塗装工事

①材料 (18. 1. 3)

内部に使用する塗料は、原則水性系のものとする
屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
・防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・次の箇所を除き防火材料とする。（箇所：　　）

②素地ごしらえ (18. 2. 2～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面		※C種　・A種　・B種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面、ＡＬＣパネル面及び押出成形セメント板面		※B種　・A種
せっこうボード面及びその他ボード面	目地：継目処理工法	※A種　・B種
	目地：継目処理工法以外	※B種　・A種

18 塗装工事（続き）

③鋼止め塗料塗り (18. 3. 2、3)

下地面等		工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	見え掛り部分	※A種　・B種	
	見え隠れ部分	※B種　・A種	
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※A種　・B種	・A種　・B種
	鋼製建具以外	※B種　・A種	・C種

④塗装 (18. 4, 1～18, 14, 2)

塗装		種別	塗料の種類	高日射反射率塗料の適用G
・合成樹脂調合ペイント塗り（SOP）	木部屋外	※A種　・B種	※1種　・2種	
	木部屋内	※B種　・A種	※1種　・2種	
	鉄鋼面	※B種　・A種	※1種　・2種	・
	亜鉛めっき鋼面	―	※1種　・2種	・
・クリヤラッカー塗り（CL）		※B種　・A種	―	
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD）		※B種　・A種	―	
・耐候性塗料塗り（DP）	鉄鋼面	―	上塗り等級（　）級	・
	亜鉛めっき鋼面	―	上塗り等級（　）級	・
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種　・B種 ・C種	―	
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G）	ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、その他ﾎﾞｰﾄﾞ面等	※B種　・A種	―	
	屋内の鉄鋼面	※B種　・A種	―	
・合成樹脂エマルションペイント塗り（EP）		※B種　・A種	―	
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り（EP-T）		※B種　・A種	―	
・ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）		※B種　・A種	―	
・ラッカーエナメル塗り（LE）		※B種　・A種	―	
・オイルステイン塗り（OS）		―	―	
・木材保護塗料塗り（WP）		※B種　・A種	―	

高日射反射率塗料Gを適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする。
・高日射反射率塗料塗り

工程	塗料その他				塗付け量
	規格番号	規格名称	種類	等級	（kg/㎡）
塗料塗り	JIS K 5675	屋根用高日射反射率塗料	2種	・1級・2級・3級	塗料製造所の仕様による

⑤フッ素樹脂塗装

打放しコンクリート面保護工法
（下塗材）　水性　浸透性吸水防止材
（上塗材）　・水性フッ素樹脂クリアー
・水性フッ素樹脂カラークリアー

⑥焼付塗装

素　材	焼付種別	仕上げ	コート	ベーク	部位
・アルミニウム	・フッ素樹脂	・ソリッド			
	・ウレタン樹脂	・メタリック			
	・アクリル樹脂				
・ステンレス	・フッ素樹脂	・ソリッド			
	・ウレタン樹脂	・メタリック			
	・アクリル樹脂				
・亜鉛メッキ鋼板	・フッ素樹脂	・ソリッド			
	・ウレタン樹脂	・メタリック			
	・アクリル樹脂				

19 内装工事

①接着剤 (19, 2, 2)

接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外　・
接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・図示　・

②ビニル床シートG (19, 2, 2、3)

種類	JIS 記号	施工箇所	色柄	特殊機能	厚さ（mm）	備考
※ 発泡層のないもの	※FS（複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ）		・無地 ・ﾏｰﾌﾞﾙ柄	・帯電防止 ・耐動荷重性	※ 2. 0 ・	
発泡層のあるもの	・		・無地 ・柄物	・防滑性 ・耐薬品性		

工法　※ 熱溶接工法　・ 突付け（施工箇所：　　）
特殊機能
帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1. 2以上～3. 2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10⁷～1×10¹⁰Ω程度
・木調ビニル床シート（田島ルーフィング「バーマリューム ストリート」同等程度以上）

③ビニル床タイルG (19, 2, 2)

JIS記号	施工箇所	色柄	寸法	特殊機能	厚さ（mm）	備考
・ＦＴ（複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）		※ 無地 ・ 柄物	※300×300 ・450×450	・帯電防止 ・防滑性	※ 2. 0 ・ 2. 5 ・ 3. 0	
※ ＫＴ（ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・ ＴＴ		※ 無地 ・ 柄物	※300×300 ・450×450	・帯電防止 ・防滑性	・ 2. 0 ・ 3. 0	
※ ＦＯＡ（置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・ ＦＯＢ		・ 無地 ・ 柄物	※500×500	※帯電防止 ・防滑性	※ 4. 0 以上	

特殊機能
帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1. 2以上～3. 2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10⁷～1×10¹⁰Ω程度
置敷形ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ（FOA・FOB）の接着剤は粘着はく離形とし、製造所の指定する製品とする
・帯電防止ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ（ﾊﾟﾀｰﾝ体ﾀｲﾌﾟ）
下記に示す製造所の商品程度とする
（　　）
・耐熱性ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ
下記に示す製造所の商品程度とする
（　　）
・石膏ビニル床タイル（田島ルーフィング「モルタライク」同等程度以上）
・石膏ビニル床タイル（田島ルーフィング「テラーノ」同等程度以上）
・木調ビニル床タイル（田島ルーフィング「ウッドクラフト/ヴィンテージ」同等程度以上）

④ビニル幅木
材質　※軟質　・硬質
高さ（mm）　※60　・75　・100
厚さ（mm）　※1. 5以上　・

5. ゴム床タイル (19, 2, 2)

色柄（　　）
厚さ（mm）・3. 0　・4. 5　・6. 0　・9. 0
寸法（mm）（　　）

19 内装工事（続き）

⑥カーペット敷きG (19. 3. 3, 4)

・タイルカーペット

パイル形状	種別	施工箇所	寸法	総厚さ（mm）	備　考
※ ループパイル	※ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500 ・	※ 6. 5 ・	帯電防止及び防汚加工品
・ カットパイル	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500 ・	※ 6. 5 ・	
・ カット・ループ併用	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500 ・	※ 6. 5 ・	

色柄　※無地　・柄物
タイルカーペットの敷き方　平　場　※市松敷き　・模様流し　・
階段部分　※模様流し　・市松敷き　・
見切り、押え金物　・適用する（材質、形状等　※図示　・　　）
※適用しない

7. 合成樹脂塗床 (19. 4. 2、3)（表 19. 4. 4～8）

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
※厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床		※薄膜流し展べ 工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			
・ｱｸﾘﾙ樹脂塗床（JIS K 5970）			工程 塗布量（kg/㎡） ・ 表面仕上げ ・平滑　・防滑 溶剤 ・水性色　・溶剤系　・無溶剤系 仕上げ色 ・標準色　・

塗料のホルムルデヒド放散量　※規制対象外　・

⑧フローリング張り (19, 5, 2～6)（表 19. 5, 1～5）

単層フローリングG

種類	工法	樹種	厚さ（mm）	大きさ	仕上塗装	間伐材等の適用
・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ１等	・釘留め工法（根太張り）	※ なら ・	15	板幅75 板長さ500以上	・ 塗装品 ・ 無塗装品	・
	・釘留め工法（直張り）	※ なら ・	・12以上	板幅75 板長さ500以上		・
	・接着工法	※ なら ・	・12以上	板幅75 板長さ500以上		
・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ１等	・接着工法	※ なら ・	15	303×303	・ 塗装品 ・ 無塗装品	・
・ ﾓｻﾞｲｸﾊﾟｰｹｯﾄ１等	接着工法	・	・	・	・ 塗装品 ・ 無塗装品	・

複合フローリングG

種類	工法	樹種	厚さ/大きさ（mm）	種別	防湿処理	塗装仕上げ	間伐材等の適用
・天然木化粧複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	・釘留め工法（根太張り） ・釘留め工法（直張り）	※なら ・		・A種 ・B種 ※C種	・適用する ・適用しない	・塗装品 ・無塗装品	・
	・接着工法	※なら ・	板厚 ・8以上 板幅 ・75以上 板長さ 900以上				・

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量　※ 規制対象外
接着工法の場合の表面緩衝材　※合成樹脂発泡シート　・
現場塗装仕上げ　・行う（施工箇所　　）　・行わない
※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ﾜｯｸｽ塗り
・生地のままﾜｯｸｽ塗り

⑨畳敷き (19. 6. 2)（表 19. 6. 1）

種別　・A種　・B種　※C種　・D種（畳床：・KT-Ⅰ・KT-Ⅱ・KT-Ⅲ・KT-K・KT-N）
下地の種類　・標準仕様書　表12. 6. 1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロンG）
・
畳表及び畳床にはホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

⑩せっこうボード その他のボード張り (19. 7. 2、3)（表 19. 7. 1）

種　類	JIS記号	厚さ（mm）、規格等
・硬質木毛セメント板G	HW	・15　・20　※ 25　・
・普通木毛セメント板G	NW	・15　・20　※ 25　・
・けい酸カルシウム板	0. 8FK 1. 0FK	・突付け　・目透し タイプ 2（無石綿）　※ 6　・ 8
・ロックウール化粧吸音板	DR	※ 突付け　・ ・ フラットタイプ （ ・ 9（不燃）　※ 12（不燃）　・　）
		・ 凹凸タイプ （ ・12（不燃）・15（不燃）・19（不燃）　・ ） ※ 300×600　・ 455×910
・ グラスウール吸音ボード32K	GW-B	※ 25（厚手ガラスクロス包）　・ ※ 留め付け材　樹脂製プラグ@300程度
・せっこうボード	GB-R	※ 突付け（ﾍﾞﾍﾞﾙｶｯﾄ）　・　継目処理 ※ 12. 5（不燃）・15（不燃） ※ 910×2730　・ 910×1820
・ 不燃積層せっこうボード	GB-NC	※ 突付け ※ 9. 5（不燃）　・化粧無（下地張り用） ・化粧有（トラバーチン模様） ※ 450×910　・ 910×910
・シージングせっこうボード	GB-S	・ 12. 5（不燃）
・強化せっこうボード	GB-F	・ 12. 5（不燃）　・ 15（不燃）
・化粧せっこうボード（木目）	GB-D（W）	※ 目透し ・ 12. 5（不燃）幅 440mm 程度　※9. 5 模様（※ 柾目　・ 板目）　専用下地材有り
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903 による　（※ 1. 2　・　　）

19 内装工事（続き）

せっこうボード等の下地は図示による。
遮音シール材　※アクリル系またはウレタン系シーリング材
・ジョイコンパウンド(JIS A6914)
合板類、ＭＤＦ及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
合板類の張付け　※B種　・A種

11. 壁紙張り　ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・　(19.8.2、3)

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維	プラスチック	無機質	その他	防火性能	商品名（程度）
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	

モルタル・プラスター面の素地ごしらえ　※B種　・A種
コンクリート・ＡＬＣ面の素地ごしらえ　※B種　・A種
せっこうボード面の素地ごしらえ　※B種　・A種

⑫ 断熱材 G　(19.9.2、3)
ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材、保温材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
※断熱材打込み工法

種類		厚さ(mm)	備考
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材			
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキンなし）			
・硬質ウレタンフォーム断熱材			
・フェノールフォーム断熱材			
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材（スキンなし）		▪	
※ 押出法ポリスチレンフォーム保温材（スキンなし）	※保温板（2種b）	※25 ・	
	▪保温板（3種b）	▪25 ・	接地部分
	・	・	
・ A種硬質ウレタンフォーム保温材		・	
・ フェノールフォーム保温材（3種2号を除く）		・	

施工箇所
・床版（・屋根スラブ下　・接地床(7-01-2)　・図示）
・壁　・外壁内側部分(7-01-2)　但し、下記を除く
倉庫、便所、設備室、湯沸室、車庫、書庫（　）
・（　）
・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　※A種1　・B種1
厚さ（mm）　※25　・30　・
施工箇所　・図示
※窓廻り等の断熱材補修部分、ルーフドレン廻りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所

⑬ 床下地材　図示　※乾式遮音二重床用床下地材（樹脂製支柱式）
BL認定及び建築物の遮音性能基準と設計指針（第２版）（日本建築学会）で規定する「床衝撃音レベルに関する適用等級」２級程度を有するものとし、製造所の仕様による

施工箇所	床仕上材天端高さ	遮音性能（スラブ厚150mm） 軽量床衝撃音	重量床衝撃音
・畳下地	・150　・180		
・フローリング類下地	・（　）	※LL-50　・（　）	※LH-55　・（　）

⑭ 化粧塩ビシート　下記に示す製造所の商品程度とする
（　ダイノックシート・ベルビアン　）

15. システム天井

種別		Tバーの材質	備考
・ラインタイプ	・シングル	・アルミニウム製	
	・ダブル	・鋼製	
・ロ型タイプ			

下記に示す製造所の商品程度とする
（　）

16. 浴室天井材

材質	幅	備考
※　硬質塩ビ製	※ 300	断熱材を裏打ちしたもの
・　アルミニウム製（準不燃品）	・ 100	付属品の材料は主製造所の仕様による
・　（　）	・（　）	

20 ユニット及びその他工事

①フリーアクセスフロア　(20.2.2)

施工箇所	寸法(mm)	高さ(mm)	所定荷重(N)	表面仕上材	備考
事務室	※450角以上 600角以下 ・	※100 ・120 ⊙60	※3000 ・5000	・帯電防止床ﾀｲﾙ ※ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	
	※450角以上 600角以下 ▪	※100 ▪120	※3000 ▪5000	・帯電防止床ﾀｲﾙ ※ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ▪	
	※450角以上 600角以下 ・	※100 ・120	※3000 ・5000	・帯電防止床ﾀｲﾙ ※ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	

適用地震時水平力　１階及び地階　※ 0.6G以上
中間階（　～　階）　※ 0.6G以上　・1.0G以上
最上階（　階）　※ 1.0G以上
帯電防止床タイル　・置敷タイプ　・パネル一体タイプ
（パネル一体タイプ以外の仕上げ材は別途内装工事とする）

寸法精度
※標準仕様書20.2.2(b)(5)(ⅰ)～(ⅲ)による　・
厚さ　±0.5mm
平坦度　パネル周辺部　1.0mm以下
図心と各頂点を結ぶ線上部　2.0mm以下
表面仕上材の品質、性能は、標準仕様書19章による。
床パネルの材質　※ｱﾙﾐ合金ﾀﾞｲｶｽﾄ製、ｽﾁｰﾙ製又は複合材等
スロープ及びボーダー　※製造所の仕様による　・図示
配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　※50%以上　・20～30%　・
配線取り出し開口　・パネル1枚につき、40mm×80mm　程度の開口1箇所以上
・図示
空調用吹き出し（吸い込み）パネル　・なし　・あり（形式、施工箇所：図示）

2. 可動間仕切　(性能・試験方法)
ローリングロード性能　・適用する　適用室（　）
※適用しない
ローリングロード試験
3,000N：積載荷重1000N時において、最大変形量1.5mm以下
（使用上有害な変形、欠け、割れがたつきなどの欠点がないこと）
5,000N：積載荷重1000N以上において、最大変形量1.0mm以下
（使用上有害な変形、欠け、割れがたつきなどの欠点がないこと）

・２重床用複合アウトレット用開口
適用室（　）
開口の数　フロア面積8㎡につき１ヶ所かつ予備開口を14㎡につき１ヶ所
開口の大きさ
（コンセント（電源）：2P15A接地極付×２
情報用モデュラージャック（電話）：8極8芯×１）
の入ったアウトレットが納まる大きさ
取付方法　フリーアクセスフロア製造所の仕様とする

(20.2.3)

構造形式	構成基材の種類 スタッド	パネル	総厚さ(mm)	表面仕上材 材質	厚さ(mm)	パネル表面仕上げ	遮音性(db/500HZ)	防火性能
・スタッド式（内蔵） ・スタッド式（露出） ・パネル式 ・スタッドパネル式				・鋼板 ・	※0.5以上 ・	※ メラミン樹脂焼付又はｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・壁紙張り	・36未満 ・36以上	・不燃

パネル内に取付ける建具　・あり（※図示　・　）　・なし
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による
パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外
ガラス留め材　※ガスケット　・シーリング

3. 移動間仕切　(20.2.4)

構造形式	操作方法	圧縮装置の操作方法	総厚さ(mm)	表面仕上材 材質	パネル表面仕上げ	遮音性(db/500HZ)
⊙ 平行方向 移動式 ・ 二方向 移動式	⊙手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式 ・	※60程度 ・100程度	・鋼板 ・	※焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能　標準仕様書19章による
遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする
ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の５倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
・図示
移動間仕切の壁面当たり枠　※適用する（製造所の仕様による）　・

4. トイレブース　(20.2.5)

表面材の種類	色柄	脚部 形状	ドアエッジ、形状 形状	ドアエッジ、形状 材質
※ メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板	※ 無地 ・ 柄物	※幅木タイプ ・	※ 標準 ・ R	※ アルミニウム製 ⊙ ステンレス製 ・ 表面材と同材

吊り方式　※中心吊、戸当たり付　⊙（ 図示 ）
パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外

5. 視覚障がい者用床タイル　(11.2.2)(19.2.2)

施工箇所		種類	寸法(mm)	厚さ(mm)
屋内		⊙塩化ビニル製	※300×300・	・7.0 ・
		・磁器質タイル ・せっ器質タイル	※300×300・	・17 ・
		・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	※300×300・	・30 ・
屋外		・磁器質タイル ・せっ器質タイル	※300×300・	・17 ・
		・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	※300×300・	・60 ・

ブロックパターンは JIS T 9251 による

6. 階段滑り止め
・樹脂系点字鋲（タイルカーペット用）
寸法　・300角　※500角
色　※黄色　・
樹脂系点字鋲の留付は、両面からの挟込みホック式または接着式
樹脂系点字鋲突起の形状・寸法及びその配列はJIS T9251に準拠する

(20.2.6)

材種	幅(mm)	取付け工法	端部フラットエンド ※あり	端部フラットエンド ※ビニル製
※ステンレス製(SUS304) 樹脂製ゴムタイヤ入り	※約35 ・	※接着工法 ・埋込み工法	・なし	・ステンレス製 ー

7. 床目地棒　(20.2.6)
床仕上げの異なる箇所には目地棒を入れる
※ステンレス製 冂 型(幅40程度 ⊙1.5)（t-31-1）
・ステンレス製 6×12　・黄銅製 6×12（t-31-2）

8. 手すり
・集成材手すり

形式	径	材種	仕上
・１段	・35φ　※45φ ・	※タモ ・	※CL ・
※２段	※35φ ・		

・既製手すり（樹脂製）

形式	径	ブラケット	備考
・Ｏ型（１段）	※40φ ・	アルミ合金製 （心材共）	指づめ防止材共
※Ｏ型（２段）	※34φ ・		

点字標示板　（　）箇所
JIS T 0921に基づく点字の表示原則及び点字表示方法による
※ポリカボネード製　大きさ　120×150程度　厚み　0.1程度
・塩ビ製　大きさ　100×125程度　厚み　0.1程度

20 ユニット及びその他工事（続き）

9. 黒板及びホワイトボード G　(20.2.8)

種類		寸法(mm)	色彩	形式		
・ 黒板	※ 焼付け ▪		※ 緑 ・ 黒	▪ 平面 ・ 曲面	・ ｽｸﾘｰﾝ付引分 ・	
・ ホワイトボード	ほうろう		白	※ 平面 ・ 曲面	・ ｽｸﾘｰﾝ付引分 ・	

⑩ 鏡　(20.2.9)
取付箇所　（　）
寸法（mm）　⊙ 図示　・
厚さ（mm）　※ 5　・

11. 煙突ライニング　(20.2.11)
・ 煙突用成形ライニング材
適用安全使用温度　・ 400℃ ・ 650℃ ・
・ キャスタブル耐火材
煙突用成形ライニング材の製造所の指定する製品とする

⑫ ブラインド　(20.2.12)

形式	操作方法	種類	スラットの材種	スラット幅(mm)	ボックス・レールの材種	寸法・取付箇所
⊙横型	⊙手動	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※ アルミニウム合金製G ・	※ 25 ▪	※鋼製 ・	・図示 ▪
	・電動	ー	ー			
・縦型	・手動	※２本操作ｺｰﾄﾞ式 ・１本操作ｺｰﾄﾞ式	・ アルミスラット ・ クロススラット	・ 80 ・ 100	ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	・図示 ▪
	・電動	ー	・			

アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は G とする。

⑬ ロールスクリーン　(20.2.13)

材種	操作方式	遮光性	寸法(mm)	取付箇所	備考
※ポリエステル ・	・電動式 ・スプリング式 ※チェーン式	・１級 ・２級 ・３級	・図示 ・	・図示 ・	

巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料は製造所の仕様による。

⑭ カーテン　(20.2.14)

形式		開閉操作	ひだの種類	商品名（程度）	取付箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引き ・片分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・プレーンひだ、片ひだ		・図示 ・	
・シングル ・ダブル	・片引き ・片分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・プレーンひだ、片ひだ		・図示 ・	

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は G とする。
暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり　※300mm以上　・

⑮ カーテンレール　(20.2.14)
材種　※ アルミニウム製及びアルミニウム合金の押出し成型材　・ ステンレス製
形式　・シングル　・ダブル
・片引き　・引分け
強さによる区分　※10-90　・
仕上げ　※アルマイト　・
形状　※角形　・

⑯ ブラインドボックス及びカーテンボックス　溝型×深さ（mm）　・90×150　・120×80　・120×150　・150×80　・図示
材質　・集成材（仕上げ：　）
※アルミニウム製　押出し型材（市販品）
表面処理・C-1
・C-2
・
皮膜等の種類　※標準仕様書表14.2.1による　・
・鋼製（仕上げ：　）

⑰ コーナービード（壁ﾎﾞｰﾄﾞ出隅保護金物）　材質　※アルミニウム押出形材　・（　）
※シルバー　・焼付　・（　）
施工箇所　※図示

⑱ 天井見切縁　材質　※アルミニウム押出形材　⊙塩化ビニル製
施工箇所　※仕上表による　・（　）

⑲ ピクチャーレール　材質　※アルミニウム押出形材
※フック　耐荷重30kg程度　2個／m

⑳ 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※アルミニウム製 ・	※450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・気密形	・屋内外用 ・屋内用	※額縁タイプ ・目地タイプ	※額縁タイプ ・目地タイプ

（品質・性能・試験方法）
建築材料等品質性能表による

㉑ 床点検口

材種	寸法	形式		備考
(底板) ※鋼製 ▪	▪450×450	※一般型	・屋内外用	・鍵付き
(枠) ※アルミニウム製 ▪ (目地) ※ステンレス製 ▪	※600×600	⊙密閉型	※屋内用	※鍵なし

（品質・性能・試験方法）
建築材料等品質性能表による

㉒ 造作家具　合板類、ＭＤＦ、パーティクルボード、接着剤及び塗料のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外品　・第三種品

20 ユニット及びその他工事（続き）

㉓ 消火器ボックス　※市販品（埋込みタイプ）　・（　）

材質	仕上	寸法	扉	表示
※鋼製 ▪	※焼付塗装 ▪	※W300×H900程度 ▪	※有り ▪	※絵・文字表示 ▪

24. くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ※ステンレス鋼（SUS304）製 （ノンスリップ型）	※ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金 ・	

㉕ ステンレス流し台　※優良住宅部品（セクショナルキッチン）　・（　）
上板及びシンク底部はステンレス製、単槽シンク、トラップ付

寸法	開戸	引き出し	備考
・W1200×D550～600×H800	※3枚 ・（　）	※1段 ・（　）	サイドパネル付
・W1500×D550～600×H800	※4枚 ・（　）	※1段 ・（　）	
・W1800×D550～600×H800	※4枚 ・（　）	※1段 ・（　）	

㉖ コンロ台　※優良住宅部品（セクショナルキッチン）　・（　）
テーブルトップはステンレス製、バックガード（※有り　・無し）

寸法	開戸
・W700×D550～600×H620	※2枚 ・（　）
・W600×D550～600×H620	※1枚または2枚 ・（　）

㉗ 吊戸棚　※優良住宅部品（セクショナルキッチン）　・（　）

寸法	開戸	棚板
・W900×D350～450×H500	※2枚 ・（　）	※1段 ・（　）
・W600×D350～450×H500	※2枚 ・（　）	※1段 ・（　）

㉘ 水切棚　※既製品　ステンレス製一般型　・（　）

㉙ フード　※市販品（レンジフード）　（　参考商品名：　）
・ 標準詳細図6-11-2　ステンレス板厚　※0.4　・1.0

30. 旗竿

材種	形式	高さ(mm)	操作方法	固定方法	備考
※アルミニウム合金製	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式	

31. 旗竿受金物　材　種　※ ステンレス製（SUS 304）　・

㉜ 車止め支柱

形式		材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
⊙上下式鎖内蔵式	⊙標準品 ・スプリング式	⊙ステンレス製 ▪	図示	・

㉝ フェンス　下記に示す製造所の商品程度とする
（　図示　）

㉞ 屋内掲示板

種類	取付方法	寸法	枠の材種	備考
・ピンレス	・メーカー仕様	・900×1200	・アルミ製	
⊙ピン、マグネット併用	・	⊙900×1800	⊙ 木製	

35. 敷地境界標　・花こう岩（文字記号入り）
・コンクリートブロック製の市販品程度
・金属製(真ちゅう製50角　アンカー共)

36. 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直方向 ・水平方向	※ 完全（全貫通型）	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・シーリング材（見え掛かりのみ） ・	・シーリング材（見え掛かりのみ） ・シーリング材（内外とも）
目地寸法（幅m×深さm）	・ 20×10　・	・ 20×10　・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.2による

37. 打継止水材　適用箇所　※EVピット　・（　）
材質　※水膨張性コンクリート打継止水材　寸法　w20×t10

38. エキスパンション・ジョイント金物

材種	クリアランス(mm)	耐火性能	備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50 ・100 ・150	・有り（　） ・無し	

外部は防水型とする

39. プレキャストコンクリート　(20.3.3～4)
コンクリートの設計基準強度
※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/㎥を満足する調合強度
・図示
配筋
※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。　・図示
取付け方法
※図示

40. 間知石及びコンクリート間知ブロック積み　(20.4.2～3)

材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	ー	ー	
・コンクリート間知ブロック	ー	・A ・B		

積み方　※谷積み　・布積み
目塗り　・図示
伸縮調整目地　材種　・図示　・
厚さ　・図示　・

㊶ マンホールふた（屋内）　公益社団法人空気調和・衛生工学会　SHASE-S209による
名称　・簡易密閉型（ﾊﾟｯｷﾝ式）　・密閉型（ﾃｰﾊﾟｰﾊﾟｯｷﾝ式）　・密閉型（ｶﾞｽｹｯﾄ式）
耐荷重　・5KN（T-2）　・15KN（T-6）　・50KN（T-20）
寸法　※内径650　・

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称　椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称　特記仕様書(5)

□ 縮尺　A3 : －　A1 : －

□ 日付　2017/07/31

□ 図面番号　A-05

21 排水工事

①屋外雨水排水

材料 (21.2.1、2) (表 21.2.1、2)

材種	管の種類	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管（１種）	・B形管 ・	※図示 ・	
・硬質ポリ塩化ビニル管	※ VP		※図示 ・	
	・ VU		※図示 ・	
	・ RS-VU G		※図示 ・	

基床の厚さ ・図示 ・
・呼び径300以下は100mm、呼び径300を超える場合は150mm
基床の種類 ・図示 ・砂地業 ※砂利地業

硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤 ・

側塊の形状及び寸法 ・図示 ・
排水桝の種類 ・図示 ・

砂地業に用いる材料 ※標準仕様書21.2.1(g)(1) ・図示
砂利地業に用いる材料 ※標準仕様書21.2.1(g)(2) ・図示

凍土抑制層に用いる材料 ・
砂の粒度試験 ・行う ・行わない

②鋳鉄製ふた (21.2.1)

形状及び寸法等 ※図示

③グレーチング (21.2.1)

形状及び寸法等 ※図示

④街きょ、縁石、側溝 (21.3.1、2) (表21.3.1)

形状及び寸法等 ※図示
地業の材料 ※標準仕様書4.6.2(a)による ・図示
砂利地業の厚さ ※100 (mm) ・図示
凍土抑制層に用いる材料 ・
砂の粒度試験 ・行う ・行わない

⑤埋戻し土 (21.2.1)

表3.2.1「埋戻し及び盛土の種別」による ※ B種 ・

22 舗装工事

①路床 (22.2.2、3、5) (表22.2.1)

路床土 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種

路床の構成及び仕上り ※図示

試験
路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験 ・行う ・行わない
路床締固め度の試験 ・行う ・行わない
現場ＣＢＲ試験 ・行う ・行わない

②路盤 (22.2.2、3、5)(表 22.3.1)

路盤の構成及び厚さ ・図示 ・
路盤材料の種類

・砕石	・クラッシャラン C-40 ・粒度調整砕石
※再生材 G	※クラッシャラン RC-40 ・粒度調整砕石
・クラッシャラン鉄鋼スラグ G	CS-40
・粒度調整鉄鋼スラグ G	
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G	

路盤締固め度の試験 ※行う ・行わない

③アスファルト舗装 (22.4.2～6) (表 22.4.4)

アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示 ・
材料
アスファルト ※ 再生アスファルト G ・ ストレートアスファルト
骨材 ・道路用砕石
※アスファルトコンクリート再生骨材 G
加熱アスファルト混合物等の種類

区分	地域	種類
表層	・一般地域	※密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13)

シールコートの施工 ・行う ・行わない
試験
アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない
舗装の平たん性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

④コンクリート舗装 (22.5.2～4、6) (表22.5.1、3)

コンクリート舗装の構成及び厚さ

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	車路及び駐車場	・図示	・図示 ・150 ・
	歩行者用通路	・図示	・図示 ・70 ・

縁部立下り寸法等 ・図示
材料
コンクリート ・標準仕様書表22.5.1による ・
早強セメント ・使用する ・使用しない
注入目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ
目地
種類、間隔、構造 ※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による ・図示
溶接金網 ※使用する

5.カラー舗装 (22.6.2～4)(表22.6.1)

カラー舗装の構成及び厚さ

カラー舗装の種類		部位	構成	厚さ(mm)
・加熱系	※ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物 ・石油樹脂系混合物	・車路 ・歩行者用通路	・図示	・図示
・常温系	・樹脂系混合物 ・ニート工法 ・塗布工法			

常温系カラー舗装の着色部の下部 ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装
加熱系混合物に添加する材料
・着色骨材（ ） ・自然石（ ）
配合
結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料添加量 ・
ニート工法及び塗布工法の配合等 ・

22 舗装工事（続き）

6.透水性アスファルト舗装 G (22.7.2、3、6)

透水性アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示 ・
材料
骨材 ※道路用砕石 ・アスファルトコンクリート再生骨材 G
試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ※行う ・行わない
舗装の平坦性 ※著しい不陸がないもの ・

※ジオテキスタイル
単位面積質量 ・60g/m²以上 ・
厚さ(mm) ・0.5～1.0 ・
引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm)以上 ・
透水係数 ・1.5×10⁻²cm/sec以上 ・

⑦ブロック系舗装

・ コンクリート平板舗装 (22.8.2、3)

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
※普通平板(N) G ・透水平板(P) G ・	※300角 ・	※ 60	※砂 ・ﾓﾙﾀﾙ	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

普通平板は G (再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水平板は G (透水性コンクリート)とする。
ただし、調達困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。
仕上り面の平たん性 ※歩行に支障のないものとし、ｺﾝｸﾘｰﾄ平板間の段差は3mm以内とする。
・

・ インターロッキングブロック舗装 (22.8.2、3)

種 類	厚さ(mm)	形状	曲げ強度(N/mm²)	備考
※ 普通ブロック （N） ・ 透水性ブロック （P）	車路 ※80 ・	・図示 ・	※5.0 ・	色彩、表面加工 ※ 標準品 ・
※ 普通ブロック （N） G ・ 透水性ブロック （P） G	歩行者用通路 ※60 ・	・図示 ・	※3.0 ・	張り方 ※ヘリンボンボンド ・ストレッチャーボンド ・図示

歩行者用通路に使用する普通ブロックは G (再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水性ブロックは G (透水性コンクリート)とする。
ただし、調達困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。
仕上り面の平たん性 ※歩行に支障のないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする。
・

・ 舗石舗装 (22.8.2、3)

種 類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	施工方法	基 層	基層の厚さ(mm)
※ 小舗石（花こう岩）	・図示 ・	・ ・	※ うろこ張り ・	※コンクリート版	※70 ・
				※アスファルト混合物	※50 ・

仕上り面の平たん性 ※歩行に支障のないものとし、舗石間の段差は3mm以内とする。

・ジオテキスタイル
単位面積質量 ・60g/m²以上 ・
厚さ(mm) ・0.5～1.0 ・
引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm)以上 ・
透水係数 ・1.5×10⁻²cm/sec以上 ・

⑧砂利敷き (22.9.2)

種別
・ A種（施工範囲：・図示 ・通路 ・ ）
・ B種（施工範囲：・図示 ・建物周囲 ・ ）

⑨路面標示用塗料

JIS K 5665（路面標示用塗料）による

・ 種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
・ １種 G	常温	液状	※ 白 ・	・ 150 ・ 100	・ 1.5 ・
・ ２種 G	加熱				
※ ３種１号	溶融	粉体状			

G 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

⑩車止め

車止め用既製コンクリート W200×L600×H120 小型反射板付き
全面接着アンカー併用固定（彫込み30mm埋込み65mm以上）

23 植栽及び屋上緑化工事

1.植栽地の確認等 (23.1.3)

土壌の水素イオン濃度指数（pH）試験 ・行う ・行わない
電気伝導度（EC）の試験 ・行う ・行わない

②植栽基盤の整備 (23.2.2、4)

植栽	工法	有効土層の厚さ（cm）	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・	樹高12m以上 （※100 ・120 ・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80 ・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60 ・80） 樹高3m未満 （※50 ・60）	・業張り部分 ・植栽部分 ※図示 ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※B種 ・	※20 ・	・植栽部分 ※図示 ・	・適用する ・適用しない

但し、現状地盤より高さが上がる場合はD種とする

植栽基盤の排水設備 ・設ける（※図示 ・ ） ・設けない

③植込み用土 (23.2.3)

※ 現場発生土の良質土 ・ 客土

④土壌改良材 (23.2.3)

・適用する （施工範囲 ※図示）

・パーク堆肥 G
使 用 量 ：植栽基盤面積1㎡あたり （ ・50L ・ ）
有機物の含有率（乾物） ：70% 以上
炭素窒素比（C/N比） ：35 以下
陽イオン交換容量（乾物） ：70meq/100g 以上
ｐＨ ：5.5～7.5
水分 ：55～65%
幼植物試験の結果 ：生育阻害その他の異常が認められない
窒素全量（現物） ：0.5% 以上
りん酸全量（現物） ：0.2% 以上
加里全量（現物） ：0.1% 以上

施工箇所の土壌及び植栽する植物の性質から使用が不適な場合、及び調達困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。

・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト） G
「金属等を含む廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、食害試験の調査の結果、害が認められないものとする。
使 用 量 ：植栽基盤面積1㎡あたり （ ・10L ・ ）
有機物の含有率（乾物） ：35% 以上
炭素窒素比（C/N比） ：20 以下
ｐＨ ：8.5 以下
水分 ：50% 以下
窒素全量（現物） ：0.8% 以上
りん酸全量（現物） ：1.0% 以上
アルカリ分（現物） ：15% 以下 （ただし、土壌の酸度を矯正する目的で使用する場合はこの限りではない）

施工箇所の土壌及び植栽する植物の性質から使用が不適な場合、及び調達困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。

⑤樹木 (23.3.2)

樹種、寸法、株立数等 ※図示 ・

⑥支柱 (23.3.2、3)

支柱材 ※ 丸太 ・ 真竹
防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太材 ・
形式 ・図示 ・

⑦幹巻き用材料 (23.3.2)

材料
※ 幹巻き用テープ ・ わら及びこも

⑧芝 (23.4.2、3)

種類 ※ コウライシバ ・ノシバ ・
芝張りの工法
平地 ※目地張り ・べた張り
法面 ・目地張り ※べた張り

9.吹付けは種 (23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量（g/㎡）	備考
※洋芝類（採取後2年以内） ・	※発芽率80%以上		

10.地被類 (23.4.2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・			
・			

11.屋上緑化 G (23.5.2、3)

植栽基盤及び材料
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ ・図示 ・
排水層 ・軽量骨材（層の厚さ： ） ・板状成型品
植込み用土 ※ 改良土 ・人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等 ※図示 ・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※ 図示 ・

（品質・性能・試験方法）
建築材料等品質性能表による

・屋上緑化軽量システム
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等 ※ 図示 ・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※ 図示

（品質・性能・試験方法）
建築材料等品質性能表による

支柱 ・設置する（形式 ・図示 ・ ）
かん水装置 ※ 設置する（種類 ・ ）

12.樹木札

図示による

その他特記事項

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
特記仕様書(6)

□ 縮尺
A3 : －
A1 : －

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-06

別表－１　　工事区分表

工事内容			建築	電気設備	機械設備	ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ設備
機器の基礎	電気関係	配電盤・制御盤の基礎 屋内		○		
		配電盤・制御盤の基礎 屋外		○		
		配電盤・制御盤の基礎 屋上	○			
		自家発電機の基礎	○			
		テレビアンテナ基礎	○			
		避雷針の基礎	○			
		ソーラーパネル基礎	○			
		特記した基礎	○	○		
		架台・アンカーボルト		○		
	機械関係	受水タンク及び高置タンクの基礎	○			
		冷却塔の基礎	○			
		特記した基礎	○		○	
		架台・アンカーボルト			○	
開口部	RC梁の貫通部	補強	○			
		スリーブ	○	○	○	
		型枠	○			
	鉄骨梁の貫通部	補強	○			
		スリーブ	○			
	RC造床及び壁の貫通部	補強	○			
		スリーブ	○	○	○	
		型枠	○			
	デッキプレートの貫通部	補強	○			
		切込	○			
	軽量鉄骨下地天井及び壁の開口部	補強	○			
		補強を要する切込	○			
		補強を要しない切込	○	○	○	
	埋込形盤類及び、箱類の型枠		○			
	上記の開口部の墨出し(※1)		○	○	○	
	穴埋め補修(型枠の穴埋めを含む)(※1)		○	○	○	
	ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの複合ｱｳﾄﾚｯﾄ用開口(工場加工)		○			
	ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの予備開口(工場加工)及びﾌﾞﾚｰﾄ		○			
	※1)墨出し、穴埋め補修は、スリーブ工事を行う施工者が実施する。					
点検口	床、壁、天井		○			
外部取付ｶﾞﾗﾘ	ダクト、チャンバーの接続用フランジを含む		○			
湯沸室のﾌｰﾄﾞ			○			
換気扇	本体				○	
	取付枠				○	
流し台	本体(排水トラップ共)		○			
	水栓				○	
防油堤	オイルサービスタンクの防油堤、タンク基礎		○			
地下タンク貯蔵所	主燃料槽（自家発用）			○		
	オイルタンク（空調用）				○	
	タンク室（躯体、土工事）		○			
屋内床下各種水槽等のマンホールふた			○			
屋外排水管	雨水		○			
	汚水、雑排水				○	
雨水立管　(たてどい)			○			
雨水集水管　(ナイフゲート弁以降)					○	
便所内に設置する手すり			○			
便所内に設置する手すり(衛生器具ユニットに含まれる場合)					○	
はめ込形洗面器用カウンター			○			
鏡			○		○	
ガスボンベ転倒防止用の鎖					○	
電気配管配線	機器などへの１次側配管配線及び接続			○		
	機器などから操作ｽｲｯﾁ等への２次側配管及び埋込ﾎﾞｯｸｽ			○		
	機器などから操作ｽｲｯﾁ等への２次側配線及び接続		○	○	○	
	自動制御盤と動力盤との渡り配管配線			○		
	個別ﾊﾟｯｹｰｼﾞの室内機、室外機の渡り配線(接地共)				○	
	煙感知器から連動制御盤を経て防煙ﾀﾞﾝﾊﾟに至る配管配線			○		
	小便器用節水装置の制御盤以降の２次側の配管配線				○	
	ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの複合ｱｳﾄﾚｯﾄ取付及び配線			○		
	防火扉レリーズ			○		
	電極棒				○	
ガス漏れ検知器				○		
電気錠	電気錠及び通電金具		○			
	ＴＥＮキー及び制御盤			○		
シャワーユニット、浴室ユニット、洗濯機パン					○	
システム天井	ボード・Tバー		○			
	照明ライン設備プレート			○		
	空調ライン設備プレート				○	
灌水装置（植栽用）	灌水コントローラー		○			
	灌水ボックス		○			
	灌水コントローラーまでの１次側配管配線及び接続			○		
	灌水ボックスまでの１次側給水配管及び接続				○	

工事内容	建築	電気設備	機械設備	ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ設備
昇降機関連 機械室・昇降路の躯体	○			
機械室の床開口	○			
機械室の床配管ピット・蓋	○			
機械室の上げ床コンクリート打設・仕上	○			
巻上機周囲のチェッカープレート敷				○
昇降路内ピット防水・集水桝	○			
点検用タラップ				○
各階出入口穴あけ・同補強	○			
スリーブ				○
三方枠取付・枠廻り埋戻し・同補強				○
昇降路がＳ造の時の出入口扉・三方枠及び幕板の受け	○			
昇降路の中間ビーム、ブラケット、レールブラケット支持柱、他昇降路内の鋼製部材一式				○
昇降路がＳ造の時の中間ビーム及びブラケットの受けピース	○			
機械室天井又は昇降路内のフック本体及びフック取付	○			
ホール押釦・インジケータなどの壁開口	○			
機械室内換気設備			○	
エレベーター制御盤から外部インターホンまでの配管・配線工事				○
点検用コンセント・煙感知器		○		
エレベーター制御盤までの動力・照明用電源、アース、防災信号、拡声設備（館内放送用）配管・配線工事		○		
エレベーター制御盤からエレベーター監視盤又はエレベーター警報盤までの配管・配線工事				○
エレベーター制御盤からエレベーター内監視カメラまでの配管・配線工事				○
エレベーター制御盤までの保守遠隔監視用（電話回線）配管工事		○		
エレベーター制御盤までの緊急地震速報受信用配管工事		○		
動力計測用電力計から自動制御盤までの配管・配線工事			○	
昇降路内の仮設物				○

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

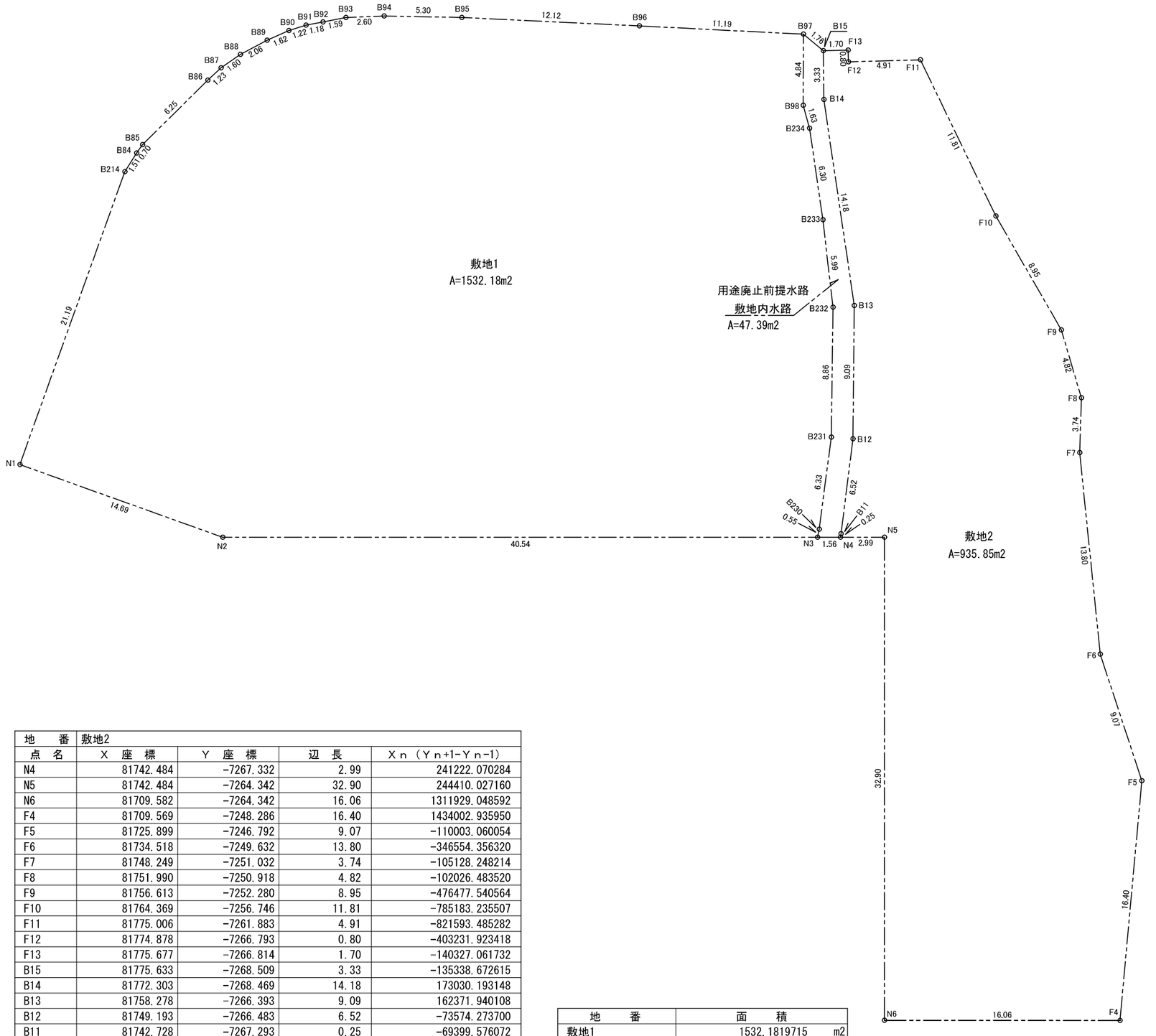
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
特記仕様書(7)

□ 縮尺
A3 : －
A1 : －

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-07



地　番	敷地内水路			
点　名	X　座　標	Y　座　標	辺　長	Xn（Yn+1-Yn-1）
B97	81776.758	-7269.864	4.84	-111625.274670
B98	81771.918	-7269.874	1.63	34753.065150
B234	81770.348	-7269.439	6.30	109654.036668
B233	81764.113	-7268.533	5.99	130495.524348
B232	81758.163	-7267.843	8.86	47010.943725
B231	81749.303	-7267.958	6.33	-77253.091335
B230	81743.028	-7268.788	0.55	-76429.731180
N3	81742.484	-7268.893	1.56	119017.056704
N4	81742.484	-7267.332	0.25	130787.974400
B11	81742.728	-7267.293	6.52	69399.576072
B12	81749.193	-7266.483	9.09	73574.273700
B13	81758.278	-7266.393	14.18	-162371.940108
B14	81772.303	-7268.469	3.33	-173030.193148
B15	81775.633	-7268.509	1.76	-114077.008035
			倍面積	-94.787709
			面　積	47.3938545
			地　積	47.39　m2

地　番	敷地1			
点　名	X　座　標	Y　座　標	辺　長	Xn（Yn+1-Yn-1）
N1	81747.440	-7323.264	14.69	545745.909440
N2	81742.484	-7309.437	40.54	4444420.597564
N3	81742.484	-7268.893	0.55	3322750.232116
B230	81743.028	-7268.788	6.33	76429.731180
B231	81749.303	-7267.958	8.86	77253.091335
B232	81758.163	-7267.843	5.99	-47010.943725
B233	81764.113	-7268.533	6.30	-130495.524348
B234	81770.348	-7269.439	1.63	-109654.036668
B98	81771.918	-7269.874	4.84	-34753.065150
B97	81776.758	-7269.864	11.19	-913037.503070
B96	81777.323	-7281.039	12.12	-1903776.079440
B95	81777.898	-7293.144	5.30	-1423262.536792
B94	81777.998	-7298.443	2.60	-645964.406202
B93	81777.898	-7301.043	1.59	-340196.055680
B92	81777.588	-7302.603	1.18	-222843.927300
B91	81777.373	-7303.768	1.22	-190132.392225
B90	81777.003	-7304.928	1.62	-216300.172935
B89	81776.348	-7306.413	2.06	-270270.830140
B88	81775.383	-7308.233	1.60	-256365.825705
B87	81774.468	-7309.548	1.23	-181539.318960
B86	81773.633	-7310.453	6.25	-437488.936550
B85	81769.233	-7314.898	0.70	-396989.626215
B84	81768.663	-7315.308	1.51	-99348.925545
B214	81767.388	-7316.113	11.60	871803.890856
F21	81765.629	-7304.646	12.40	1951500.267343
F22	81765.629	-7292.246	12.40	1013893.799600
F23	81753.229	-7292.246	12.40	-1013740.039600
F20	81753.229	-7304.646	12.40	-1013740.039600
F21	81765.629	-7304.646	11.60	-937606.467743
B214	81767.388	-7316.113	21.19	-1522345.229784
			倍面積	-3064.363943
			面　積	1532.1819715
			地　積	1532.18　m2

地　番	敷地2			
点　名	X　座　標	Y　座　標	辺　長	Xn（Yn+1-Yn-1）
N4	81742.484	-7267.332	2.99	241222.070284
N5	81742.484	-7264.342	32.90	244410.027160
N6	81709.582	-7264.342	16.06	1311929.048592
F4	81709.569	-7248.286	16.40	1434002.935950
F5	81725.899	-7246.792	9.07	-110003.060054
F6	81734.518	-7249.632	13.80	-346554.356320
F7	81748.249	-7251.032	3.74	-105128.248214
F8	81751.990	-7250.918	4.82	-102026.483520
F9	81756.613	-7252.280	8.95	-476477.540564
F10	81764.369	-7256.746	11.81	-785183.235507
F11	81775.006	-7261.883	4.91	-821593.485282
F12	81774.878	-7266.793	0.80	-403231.923418
F13	81775.677	-7266.814	1.70	-140327.061732
B15	81775.633	-7268.509	3.33	-135338.672615
B14	81772.303	-7268.469	14.18	173030.193148
B13	81758.278	-7266.393	9.09	162371.940108
B12	81749.193	-7266.483	6.52	-73574.273700
B11	81742.728	-7267.293	0.25	-69399.576072
			倍面積	-1871.701756
			面　積	935.8508780
			地　積	935.85　m2

地　番	面　積	
敷地1	1532.1819715	m2
敷地2	935.8508780	m2
敷地内水路	47.3938545	m2
総合計面積	2515.4267040	m2

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
敷地求積図

□ 縮尺
A3 : 1/ 300
A1 : 1/ 150

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-08

共通事項

1.各項目の※及び・の適用は特記仕様書と同じとする。
2.(○－○○－○)内の数字は建築工事標準詳細図の詳細番号を示す。
3.備考欄の「測定対象室(　)」は、特記仕様書の「室内空気中の化学物質の濃度測定」を行う対象室を示し、(　)内数値は測定箇所数を示す。
4.略号は下表による。

略号	仕上材等	略号	仕上材等
RC(　)	床:標準仕様書 表6.2.5による 壁、天井:コンクリート打放し(種別) 種別は表6.2.4による(種別記載がない場合は コンクリート打ちのまま)	PF板	押出法ポリスチレンフォーム保温板
		RW	ロックウールガラスクロス張り
		GW	グラスウールガラスクロス張り
		SOP	合成樹脂調合ペイント塗り
CB	コンクリートブロック積み	CL	クリアラッカー塗り
FS	複層ビニル床シート	NAD	アクリル樹脂系非水分散塗料塗り
FT	複層ビニル床タイル	DP	耐候性塗料塗り
KT	コンポジションビニル床タイル	EP-G	つや有合成樹脂エマルションペイント塗り
FOA	置敷きビニル床タイル	EP	合成樹脂エマルションペイント塗り
VB	ビニル幅木	EP-T	合成樹脂エマルション模様塗料塗り
WB	木製幅木	UC	ウレタン樹脂ワニス塗り
GB-R	せっこうボード	LE	ラッカーエナメル塗り
GB-L	せっこうラスボード	OS	オイルステイン塗り
GB-NC	不燃積層せっこうボード	WP	木材保護塗料塗り
GB-S	シージングせっこうボード	DA	珪藻土塗り
GB-F	強化せっこうボード	Cab	ケイ酸カルシウム板
GB-D	化粧せっこうボード	Cab-D	化粧ケイ酸カルシウム板
GB-D(W)	化粧せっこうボード(木目調)		
Cab	ケイ酸カルシウム板		
DR	ロックウール化粧吸音板		
RW-B	ロックウール吸音ボード		
GW-B	グラスウール吸音ボード		
OSB	オリエンティドストランドボード		

外部仕上

	種　別	施工箇所
床	・人口木材 145×30 (下地：亜鉛メッキ品)	・デッキ
	・木調磁器質タイル t8.0 (LIXIL「IPF-820/PMR」同等程度以上)	・カフェ部・バス停部座面
壁/柱/梁	・ALC t=50_吹付タイル ・ECP t=60_磁器質タイル t9.5 (LIXIL「HAL-25B/CRG」同等程度以上) ・ECP t=60_花崗岩 t30 (JB) ・アルミパネル	
腰	RC立ち上がり：モルタル金コテ	
屋根	・特殊かん合式平滑葺屋根@455：　カラーガルバリウム鋼板t0.4(発泡ポリエチレン t4.0裏貼)_ 発泡ポリスチレン板t40_ アスファルトルーフィング940_木毛セメント板t25 ・高耐候性塩ビシートt12_イソシアヌレートt=25 (断熱材) ゴムアスファルトルーフィングt=1.0_高圧木毛セメント板t25	
軒天	・軒裏:Cab t6_ DP	
庇		

外部詳細

・屋上パラペット	・コンクリート笠木：保護防水断熱工法(・5-01-3) ⊙アルミニウム製笠木：保護防水断熱工法(・5-01-1　・5-01-5　・5-01-7) ・
・塔屋取合い	・コンクリート笠木：(・5-01-4に準ずる) ・アルミニウム製笠木：(・5-01-2　・5-01-6) ・
・屋根排水溝	・外断熱(5-04-1)
・屋上点検口	・(5-21-1)ふたの材質 (・ステンレス製　・アルミニウム製　・鋼製
・屋上換気塔	・(5-21-2)
・屋上管類貫通部	・(5-22-1)
・屋上基礎	・コンクリート笠木(5-22-2)　・アルミニウム製笠木(5-22-3)
・屋上手すり	※(5-23-1)
・雨どい及びRドレン	※鋼管とい(5-32-1)径＝　　mm　ルーフドレン (・たて形　・横形)
・煙突	※成形パイプ(7-21-1)径＝　　mm　耐酸耐熱塗料なし　天板 (ない・あり)
・タラップ	⊙標準型(8-31-1)　・はしご型(8-31-2)　・安全ガード型(8-31-3)
・懸垂幕受金物	・回転型(8-32-1)　・固定型(8-32-2)
・くつふきマット	※排水付き(8-21-2)　・泥だまり、排水付き(8-21-3)
・くつ洗い流し	・一槽型(8-22-1)　・二槽型(8-22-2)
・建物名文字	文字　・(　　)　・図示 書体：

内部仕上

床

(1)特記以外の下地及び詳細番号は下記による。

仕上げ種別	詳細番号
FS、FT、KT、FOA	(1-01-4:t=10)
タイル	(1-01-5 、-6)
カーペット	(1-02-4 、-5)
畳	(1-02-3)
天然木化粧複合フローリング	(1-02-8)
コンクリート直均仕上げ、 塗床、床用塗料、防塵用塗料	(1-01-3:t=10)
モルタル、防水モルタル	(1-01-1)

(2)異なる床仕上げの取合いでくつずり、目地棒がない場合は (4-31-3) による。

幅　木

(1)特記以外の下地及び詳細番号は下記による。

仕上げ種別	高さ (mm)	詳細番号
VB	※60　・	(2-11-1)
WB (樹種　※杉　・　　)	※60　・	(2-11-4) :CL仕上げ
FS (ビニール床シート立上げ幅木)	※60　・	(2-11-2)

壁、柱

(1)特記以外の下地、詳細番号及びボード類は下記による。

仕上げ種別	詳細番号
ボード張り (RC又はCB下地)	(直張り工法：接着剤＝11～13mm)(1枚張り)
ボード張り (軽量鉄骨壁下地：一般壁)	(2-22-1)(2-24-5及び6：継目処理の場合)
ボード張り (軽量鉄骨壁下地：遮音壁)	(2-23-1)(2-24-5及び6：継目処理の場合)
内装タイル (RC又はCB下地)	(2-01-2)
モルタル	(2-02-13)
吸音材張り (RC又はCB下地)	(2-02-14)

種別	厚さ(mm)	備考
GB-R	12.5	塗装仕上げ及び壁紙張りの場合は継目処理(2-03-6)(2-03-10) ただし、仕上げ等行わない場合は突付け(2-03-9)(2-03-13)とする。 (二重張りは特記なき限り上張り、下張り共、同一ボードとする)
Cab	8	突付け(V目地)(2-03-17：下地張りはGB-S) (2-03-12：下地張りは　・GB-S　・ケイカル板)

(3)コンクリート打放しの出隅面取りは10mmとする。(梁形共)
(4)下がり壁(3-12-1：・塩ビ製見切り縁　・アルミ製見切り縁)の仕上げは壁と同じとする。
ただし、下地張りはなしとする。
(5)ボード壁とRC又はCB壁との取合いは(2-24-7：継目処理の場合　塩ビ製見切り縁)とする。
(6)ボード壁とサッシ取合いは(2-24-8)とする。
(7)押入(6-46-1)の壁はGB-R厚さ12.5mm塗装なし突付けとする。
(8)内装タイルをS下地のボード面に接着張りを行う場合のボードは,(2-01-3)/(2-03-13)による。

天　井

(1)軽量鉄骨天井下地は(3-21-1)(3-21-2)(3-21-3)(3-41)(3-42)とする。
(2)特記以外のボード類は下記による。

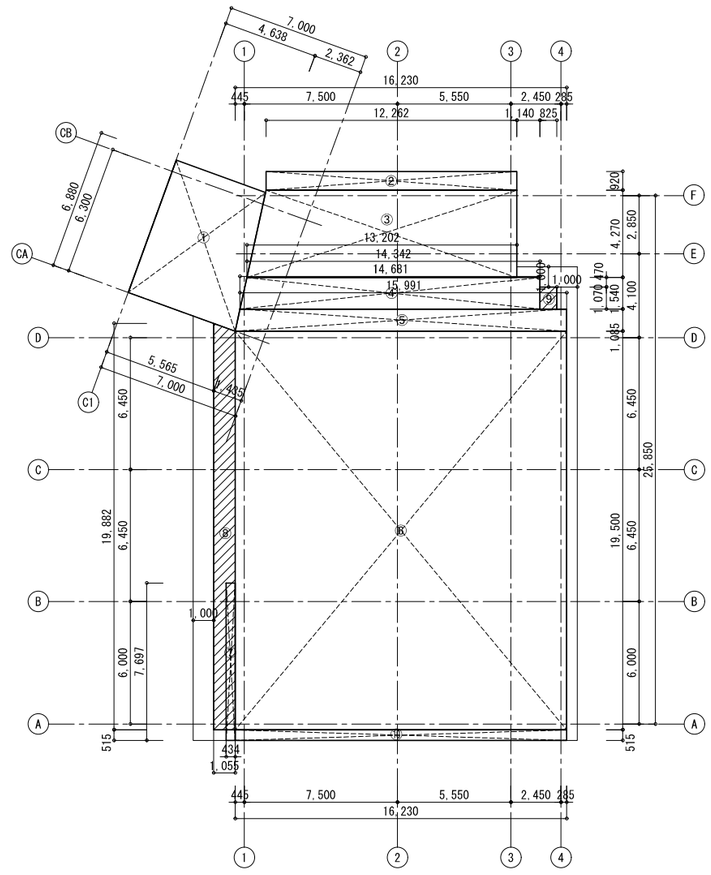
仕上げ種別	厚さ (mm)	詳細番号
DR	※9　・12	(3-01-4)
DR (凹凸)	※12　・15	(3-01-4)
ケイカル板	6	(3-01-2)V目地
GB-NC (T)	9.5	(3-01-2)
GB-D	12.5	下地は製造所の仕様とする
RW又はGW	25	(3-01-12)

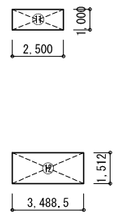
(3)押入(6-46-1)の天井はGB-R厚さ12.5mm塗装なし突付けとする。
(4)壁との取合いは天井付き目地(3-11-3/4/7/8：※塩ビ製見切り縁・アルミ製見切り縁)とする。
(5)DRの下張りは　※GB-R厚さ12.5mm　・GB-NC厚さ9.5mmとする。
(6)GB-NC (T) の大きさ　※910×455mm　・910×910mm
(7)塗装仕上げ及び壁紙張りの場合はGB-R厚さ12.5mm (継目処理) とする。

内部詳細

・断熱材	種別　※RF板打込み　・現場発泡断熱材 窓回り等の補修材は現場発泡断熱材とする。
	施工範囲　外壁　※内面がGB-R張り (直張り工法) の床面から梁形下端まで (階段は除く) の部分(7-01-2) ・図示 スラブ・土層接地スラブ下面 (機械室、電気室、自家発電機室は除く) 及び図示の範囲(7-01-2) (ただし、防水が断熱工法の場合は屋根スラブ下面を除く) ・図示
・雨どい及び掃除口	※鋼管とい(5-32-1及び2)
・トラフ/ピット蓋	・ビニル床タイル(1-21-4)　・しま鋼板SOP又はEP-G(1-21-3)
⊙ｶｰﾃﾝﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ	・アルミニウム製(3-31-3)　・木製(3-32-1)　⊙図示
・扉	(1)壁当たりとなる開き戸の取付け位置は壁面からの逃げ寸法を100mmとする。 (2)RC又はCB壁に取り付く建具は室外側枠納まりとする。
・階段手すり	・ビニル製(7-12-5～7：プラケットは既製品)　・集成材(7-12-2～4)　⊙図示
・流し台及びｺﾝﾛ台	・(6-11-1)　・図示
・流し上部水切り	・奥行き55mm(6-11-3)　・奥行き(　　mm)　(6-11-4)　・図示
・吊戸棚	・(6-11-5)　・図示
・フード	・(6-11-2)　・図示
・便所防水	※塗膜防水(1-31-2)
・トイレブース	※既製品
・多機能便所手すり	固定手すり(6-24-1)　可動手すり(既製品：取付けは6-27-5に準ずる)
・浴室	(6-31-1　※防水あり　・防水なし) 既製浴槽の種別 (鋼鉄製ホーローバス　・FRP製バス　・ステンレス製バス)
・脱衣箱	・(6-32-1)　・図示
・和室出入口	・(6-42-1、-2)　・(6-41-　)　・
・押入	・(6-46-1　・天袋なし　・天袋あり)
・くつふきマット	・排水なし(8-21-1)　※排水付き(8-21-2)　・泥だまり、排水付き(8-21-3)
・タッラブ	※標準型(8-31-1)
⊙郵便受	※既製品 (　　程度)
・屋内掲示板	※既製品 (アルミ枠)
・表示標識	・建物案内板　・各階案内板　・室名札　・ピクトグラフ　・階段表示板 ・誘導標識　(既製品)

階	室名	内装制限	床 下地	床 仕上	幅木 仕上	幅木 高	壁・柱 下地	壁・柱 仕上	天井 下地	天井 仕上	天井 高	天井 廻縁	化学物質濃度測定	備考
1	土間ホール		－	FT t=3.0	VB	60	LGS	GB-R12.5+12.5	－	直天+木ルーバー	3550~4850	塩ビ	○	
			－	－	－	－	－	EP	－	SOP	－			
1	カフェ	告示(4) 下地仕上共不燃	－	FT t=3.0	VB	60	LGS	GB-R12.5+12.5	－	GB-R12.5	3400	塩ビ		
			－	－	－	－	－	ビニルクロス (木調)	－	DR9.0	－			
1	厨房	告示(4) 下地仕上共不燃	－	FS(厨房用) t=2.5	VB	60	LGS	Cab8.0	LGS	Cab6.0	2400	塩ビ		
			－	－	－	－	－	EP-G	－	EP-G	－			
1	事務室	告示(4) 下地仕上共不燃	－	OAフロアーH5.0	VB	60	LGS	GB-R12.5+12.5	LGS	GB-D9.5	2700	塩ビ		
			－	タイルカーペット	－	－	－	EP	－	－	－			
1	和室		構造用合板	畳 t=55	畳寄せ	－	LGS	GB-R12.5+12.5	LGS	GB-D(W)9.5	2500	塩ビ		
			構造用合板	フローリング t=12	－	－	－	DA	－		－			
1	給湯室		－	FS t=2.5	VB	60	LGS	GBR12.5+BG-S12.5	LGS	Cab6.0	2800	塩ビ		
			－	－	－	－	－	EP-G	－	EP-G	－			
1	大会議室		－	FS(木調) t=2.0	VB	60	LGS	GB-R12.5+12.5	LGS	GB-F15.0+15.0	2800	塩ビ	○	
			－		－	－	－	EP	－	DR9.0	－			
1	休憩室		－	FS t=2.5	VB	60	LGS	GB-R12.5+12.5	LGS	GB-D9.5	2700	塩ビ		
			－		－	－	－	EP	－	－	－			
1	調理室	告示(4) 下地仕上共不燃	－	FS(木調) t=2.0	VB	60	LGS	GB-R12.5+Cab6.0	LGS	Cab6.0	2700	塩ビ		
			－		－	－	－	EP-G	－	EP-G	－			
1	便所(男)(女)		－	FS(防臭抗菌) t=2.5	VB	60	LGS	GB-R12.5+Cab-D6.0	LGS	GB-R12.5	2700	塩ビ		
			－		－	－	－	－	－	DR9.0	－			
1	多目的便所		－	FS(防臭抗菌) t=2.5	VB	60	LGS	GB-R12.5+Cab-D6.0	LGS	GB-R12.5	2700	塩ビ		
			－		－	－	－	－	－	DR9.0	－			
1	授乳室		－	FS t=2.5	VB	60	LGS	GB-R12.5+12.5	LGS	GB-R12.5	2700	塩ビ		
			－		－	－	－	EP	－	DR9.0	－			
1	倉庫(1)		－	FS t=2.5	VB	60	LGS	GB-R12.5+12.5	LGS	GB-D9.5	2800	塩ビ		
			－		－	－	－	EP	－	－	－			
1	倉庫(2)		－	FS t=2.5	VB	60	LGS	GB-R12.5+12.5	LGS	GB-D9.5	2500	塩ビ		
			－		－	－	－	EP	－	－	－			
1	収納		構造用合板	フローリング t=12	VB	60	LGS	GB-R12.5+12.5	LGS	GB-D9.5	2500	塩ビ		
			－		－	－	－	EP	－	－	－			
1	通路		－	FS t=2.5	VB	60	LGS	GB-R12.5+12.5	LGS	GB-R12.5	4500~5105	塩ビ		
			－		－	－	－	EP	－	DR9.0	－			





防火認定材料(特記なき限り、下記防火認定材料とする)

せっこうボード t12.5	NM-8619
ケイ酸カルシウム板(化粧)	NM-8579
合成樹脂エマルションペイント塗り	NM-8585
つや有合成樹脂エマルションペイント塗り	NM-8585
ロックウール吸音板 t9.0	NM-8599
化粧せっこうボード t9.5	NM-1864
化粧せっこうボード (木目調)　t9.5	QM-9824
強化石こうボード t15.0	NM-8615
合成樹脂調合ペイント塗り	NM-8585
ビニルクロス (不燃せっこうボード直貼)	NM-3992

記　号	計　算　式				面積(m²)
①	(4.638+5.565) /2	×	6.880	=	35.0983
②	12.262	×	0.920	=	11.2810
③	(12.262+13.202) /2	×	4.270	=	54.3656
④	(14.342+14.681) /2	×	1.540	=	22.3477
⑤	(15.991+16.230) /2	×	1.085	=	17.4798
⑥	16.230	×	19.500	=	316.4850
⑦	0.434	×	7.697	=	3.3404
⑧	1.055	×	(19.500+19.882) /2	=	20.7740
⑨	0.825	+	1.070	=	0.8827
⑩	16.230	×	0.515	=	8.3584
⑪	2.500	×	1.000	=	2.5000
⑫	3.4885	×	1.512	=	5.2746
延床面積	①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑩+⑪+⑫				476.52
建築面積	①+②+③+④+⑤+⑥+⑧+⑨+⑪+⑫				486.48

下地区分欄
C　：コンクリート下地、コンクリートブロック下地、ALC下地、押出成形セメント板下地
S　：軽量鉄骨下地
W　：木造下地　　PF：ポリスチレンフォーム床下地板 (床下地のみ)

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

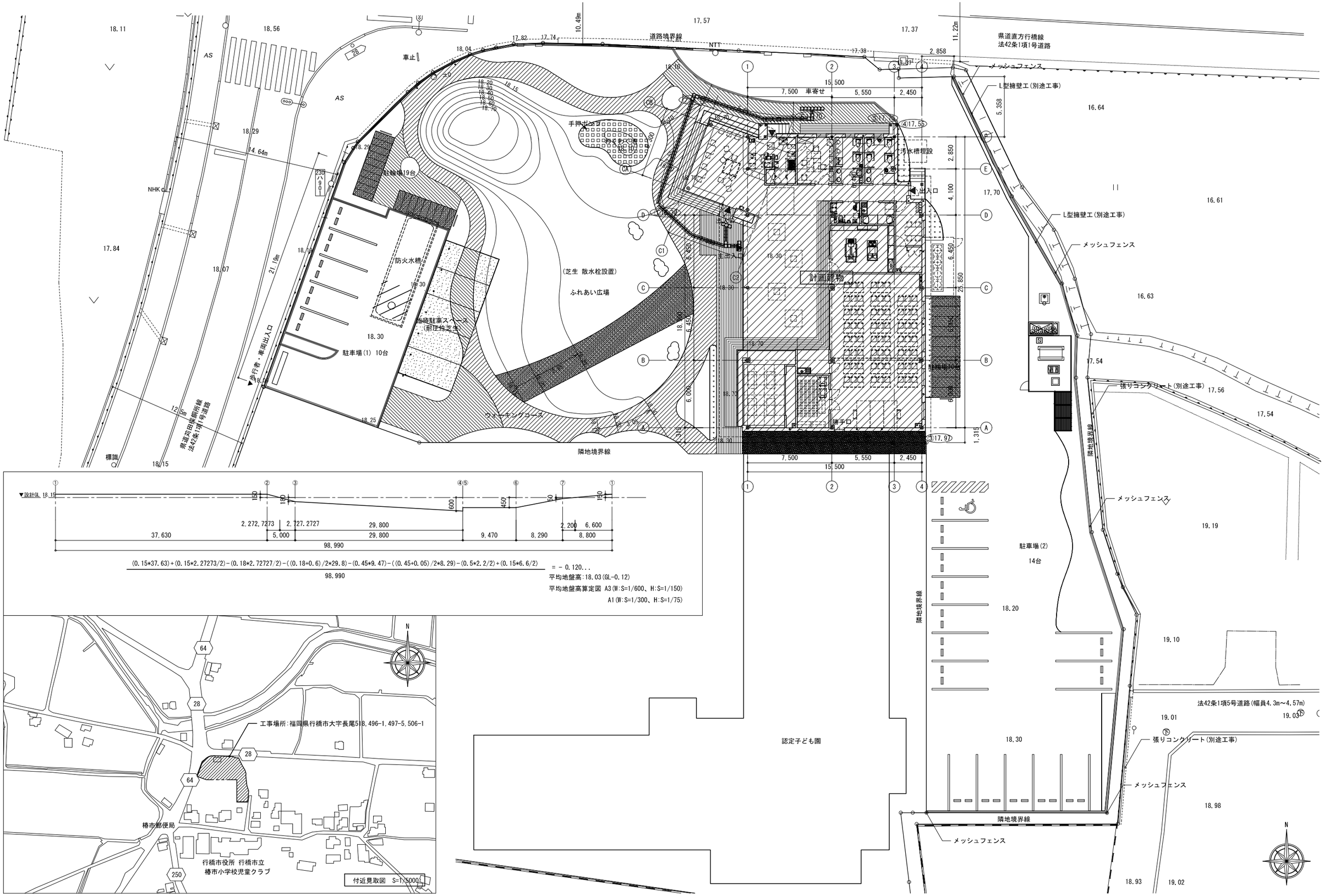
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
仕上表・建物求積図

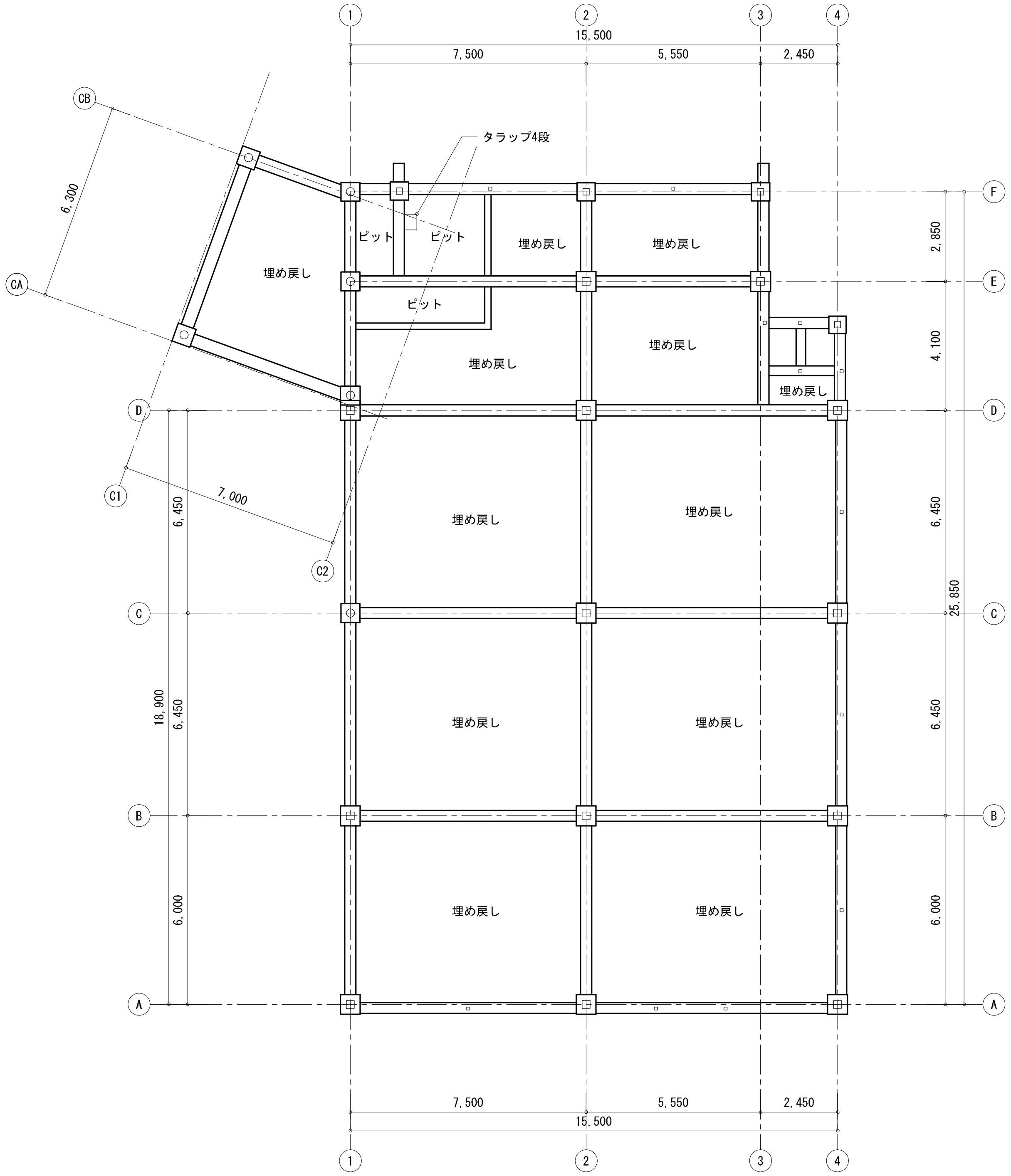
□ 縮尺
A3 : 1/300
A1 : 1/150

□ 日付
2017/07/31

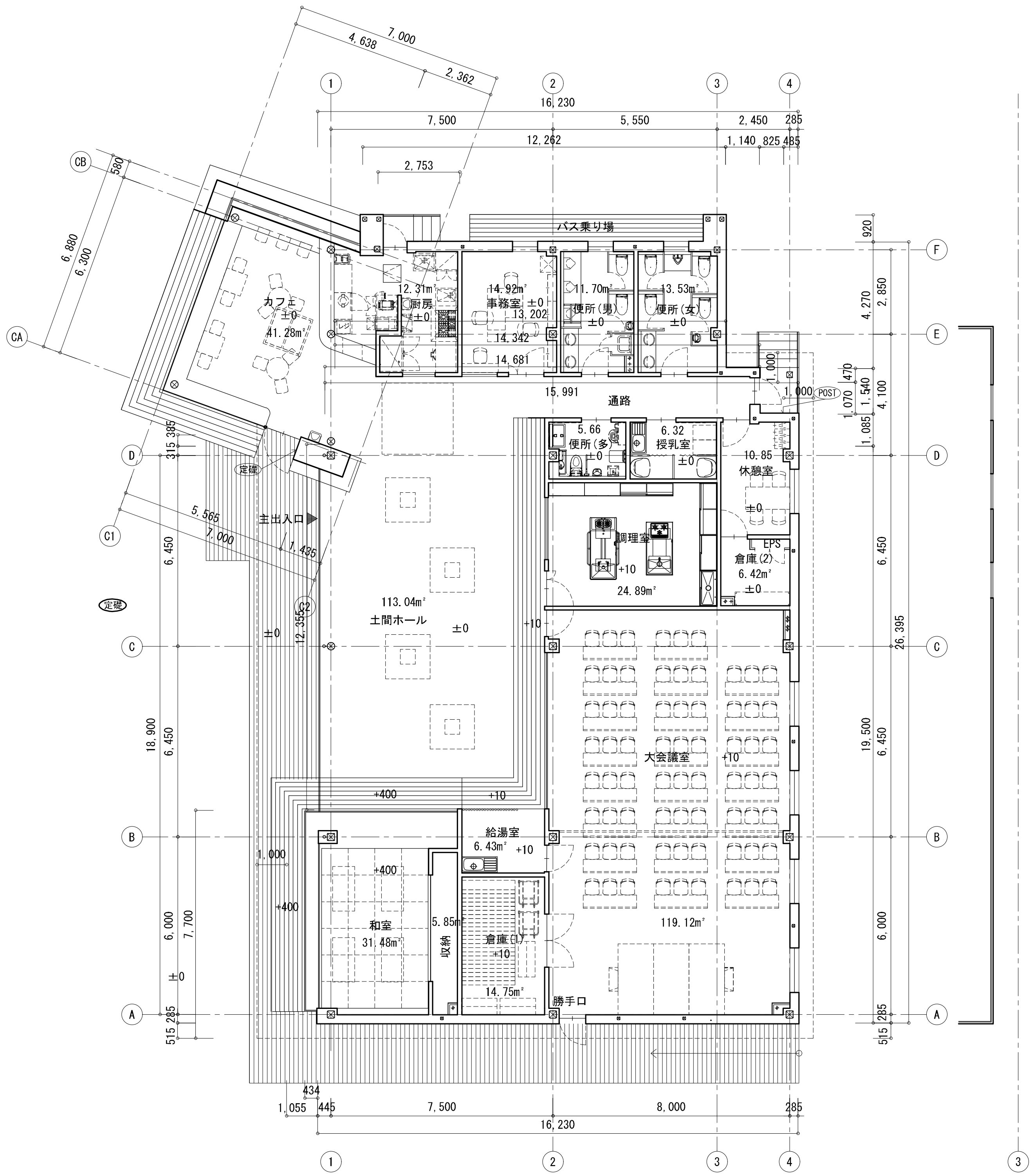
□ 図面番号
A-09



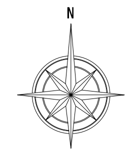
Shun Architect Office 株式会社 俊設計 一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号 一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文	□ CHECKED	□ 工事名称 椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事 □ 図面名称 配置図	□ 縮尺 A3 : 1/ 300 A1 : 1/ 150 □ 日付 2017/07/31	□ 図面番号 A-10



ビット階平面図

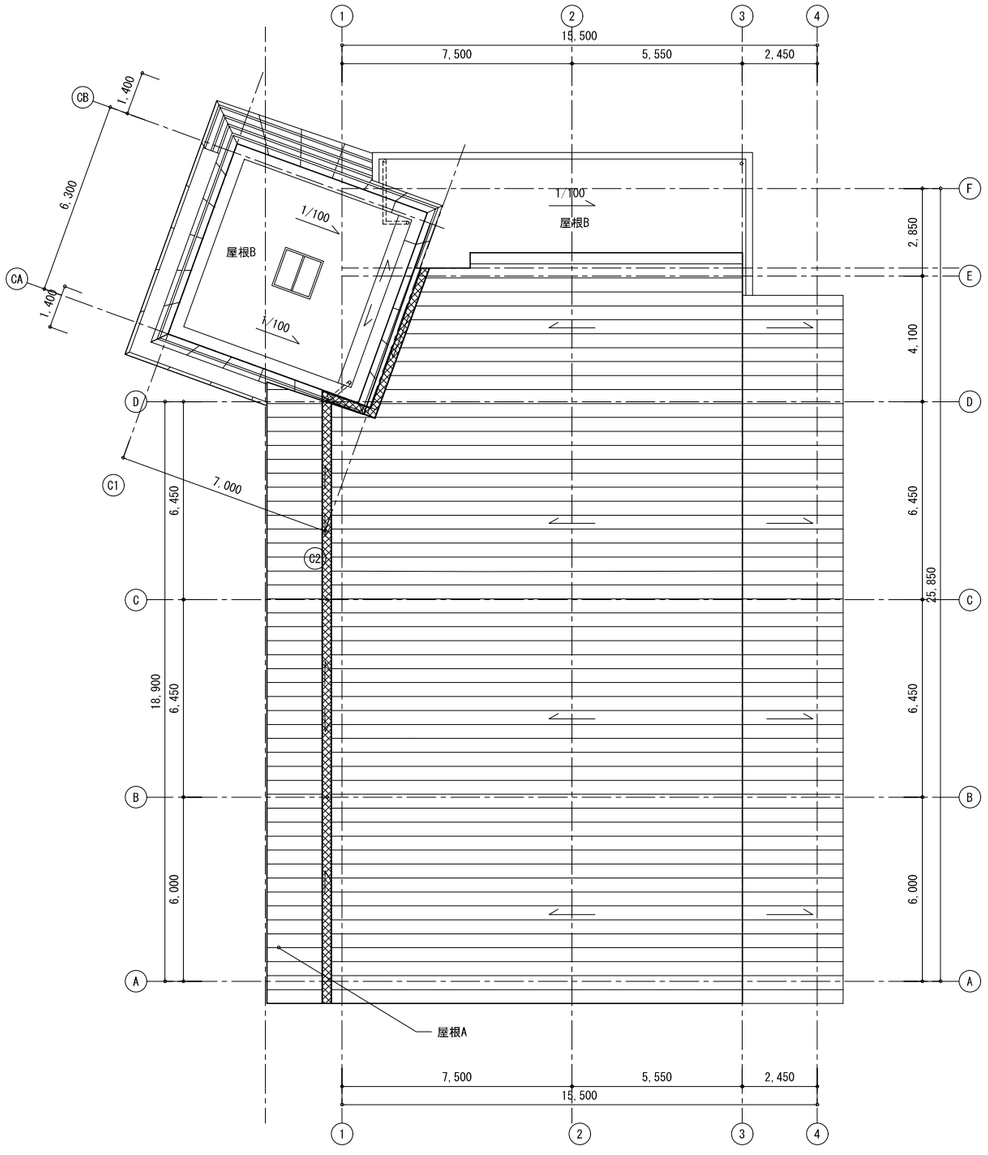


1階平面図

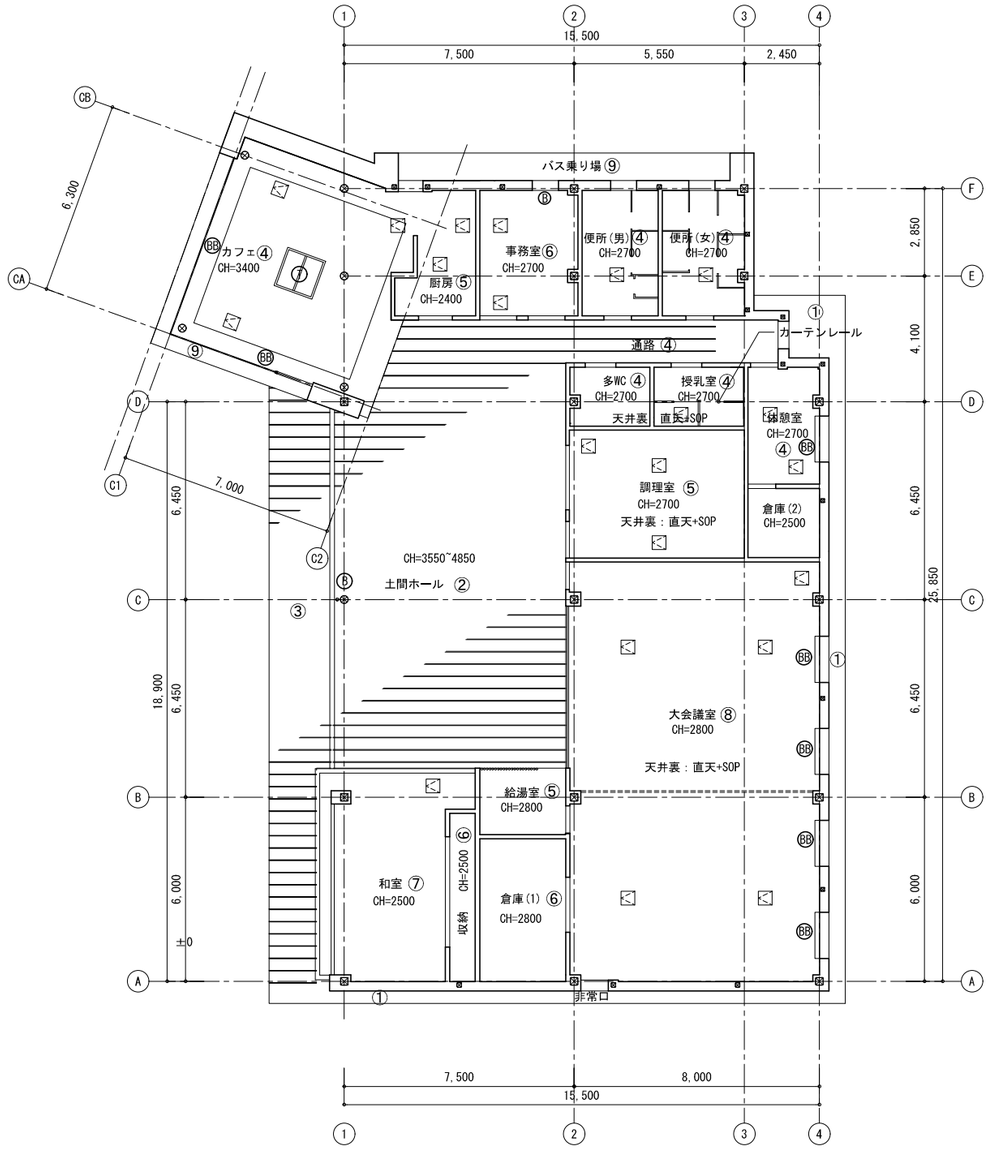


Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

CHECKED	
工事名称	椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事
図面名称	ビット階平面図・1階平面図
縮尺	A3 : 1/ 200 A1 : 1/ 100
日付	2017/07/31
図面番号	A-11



屋根伏図



天井伏図

天 井 仕 上 等 凡 例	
①	Cab6.0+EP-G
②	直天+SOP+木ルーバー
③	直天+EP-G+木ルーバー
④	GB-R12.5+DR9.0
⑤	Cab6.0+EP-G
⑥	GB-D12.5
⑦	GB-D12.5(W)
⑧	DB-F15.0+15.0+DR9.0
⑨	アルミパネル
Ⓑ	ブラインド
ⒷⒷ	ブラインドボックス+ブラインド
Ⓣ	トップライト+ロールスクリーン
◁	アルミ製天井点検口 □450×21箇所 （詳細な位置は現場にて決定）

凡例
屋根A：特殊かん合式平滑葺屋根
屋根B：ステンレス防水

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

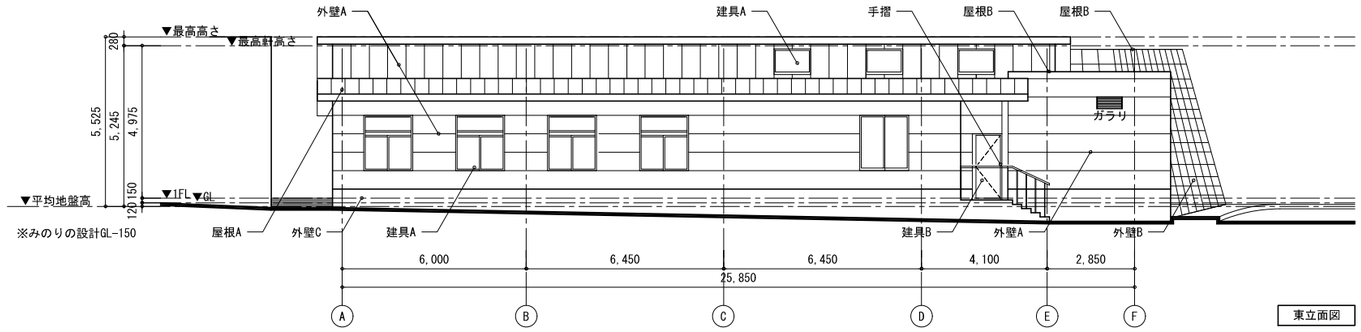
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
屋根伏図・天井伏図

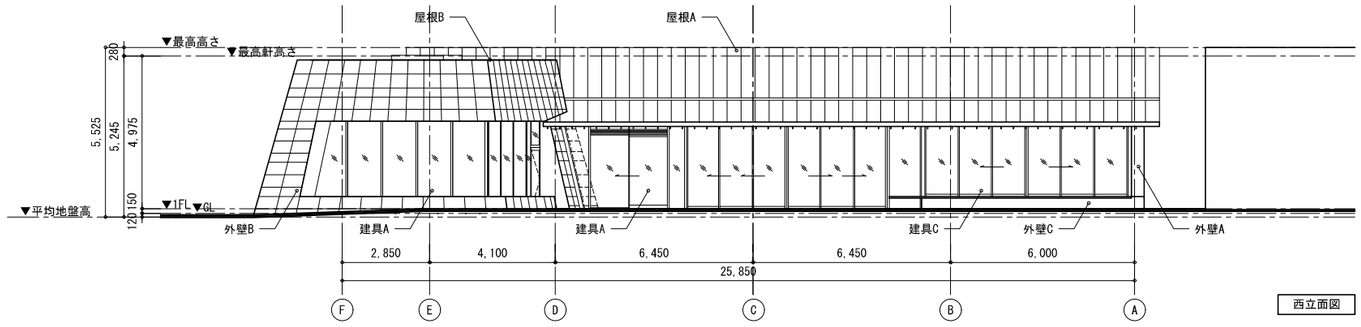
□ 縮尺
A3 : 1/ 200
A1 : 1/ 100

□ 日付
2017/07/31

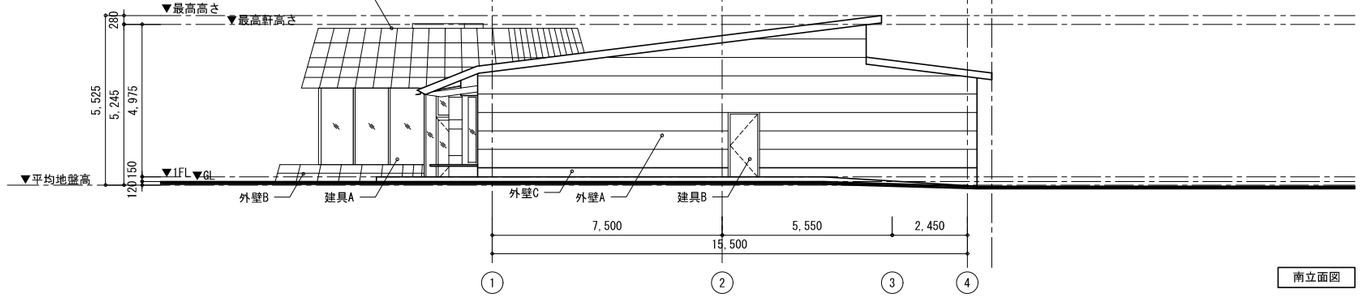
□ 図面番号
A-12



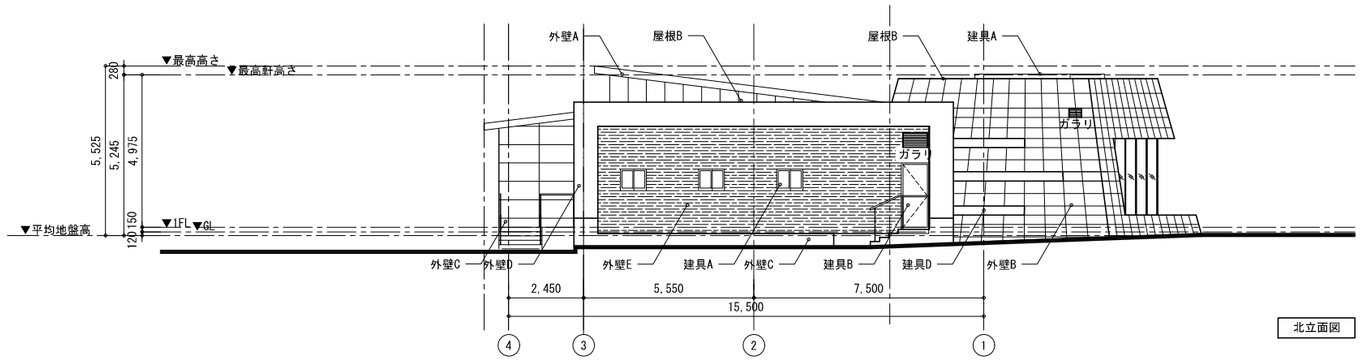
東立面図



西立面図



南立面図



北立面図

凡例

外壁A：ALC+吹付タイル	屋根A：特殊かん合式平滑葺屋根	建具A：アルミサッシ
外壁B：ECP+花崗岩（JB）	屋根B：シート防水	建具B：スチール製ドア　ウレタン焼付塗装
外壁C：コンクリート立上り		建具C：アルミサッシ（内部：和障子）
外壁D：ガルバニウム鋼板 t1.5		建具D：ガラス
外壁E：ECP+磁器質タイル		

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

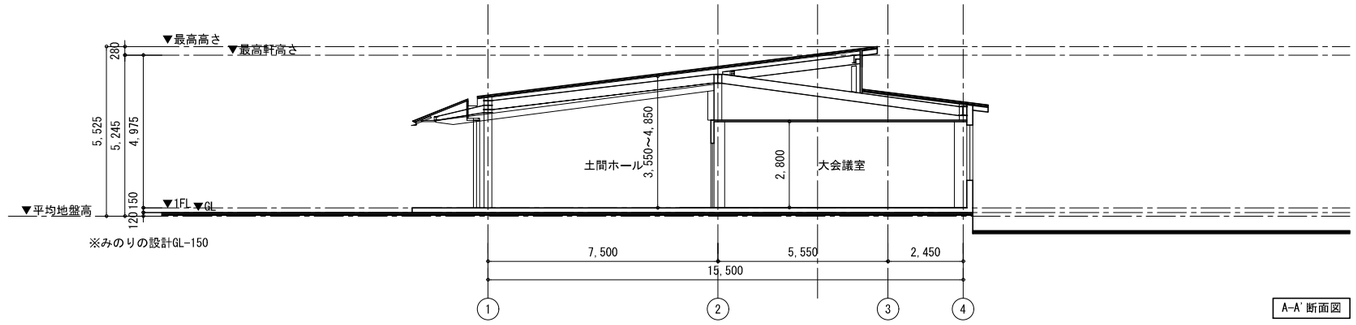
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
立面図

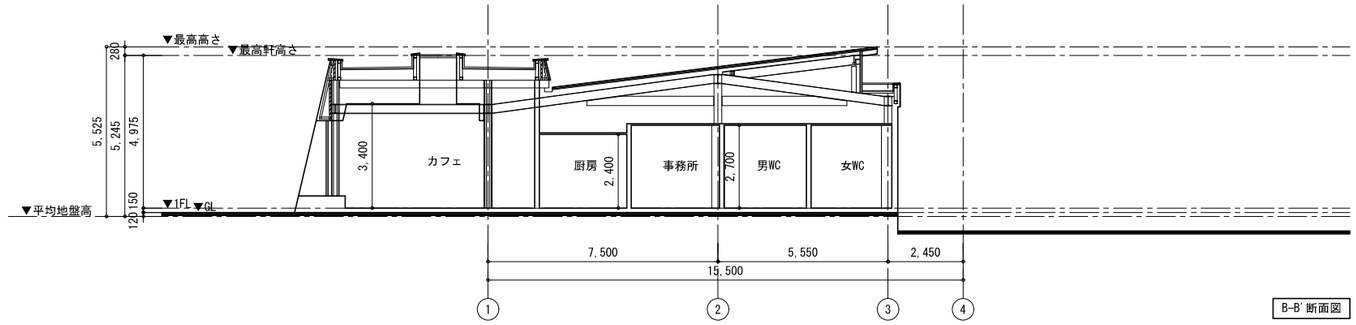
□ 縮尺
A3 : 1/ 200
A1 : 1/ 100

□ 日付
2017/07/31

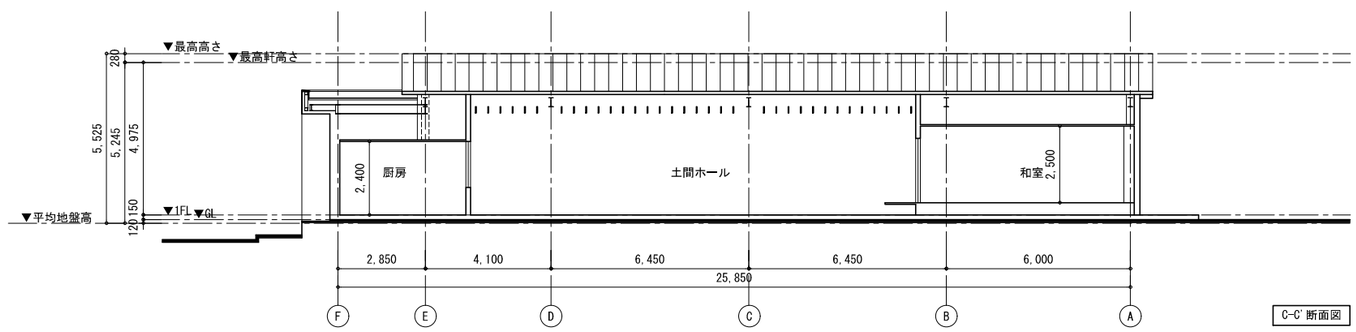
□ 図面番号
A-13



A-A' 断面図

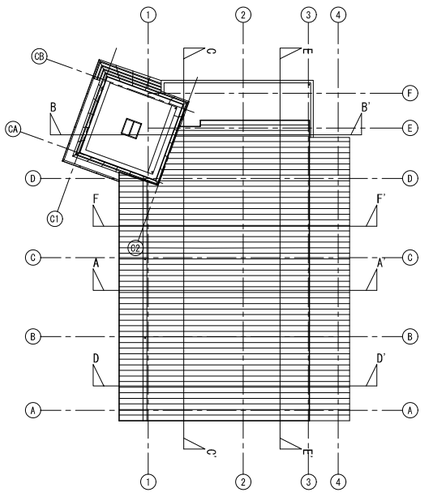


B-B' 断面図

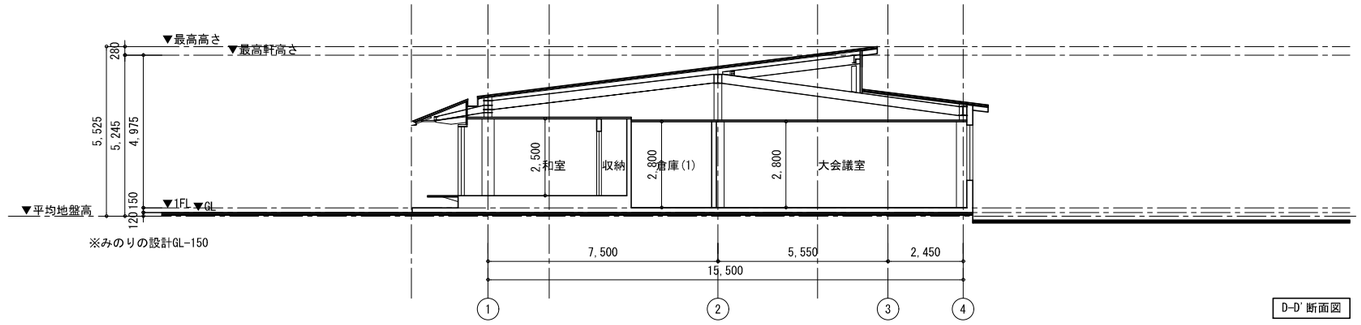


C-C' 断面図

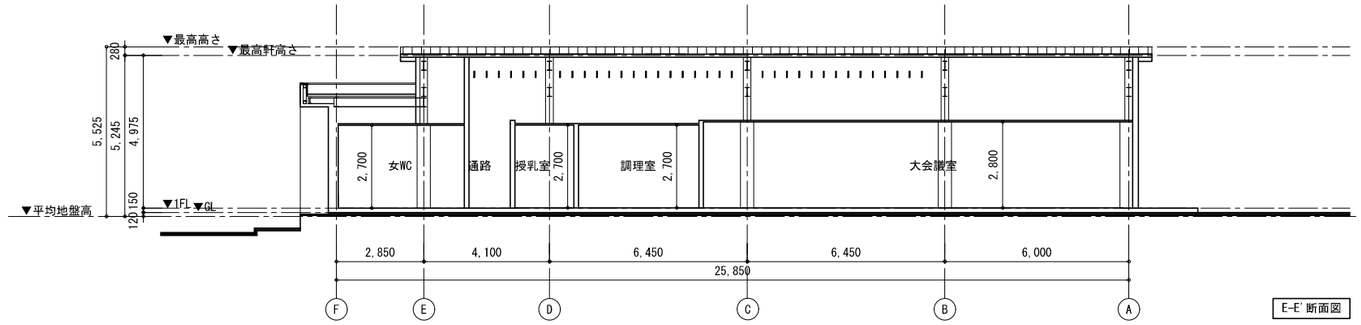
キープラン S=1/500



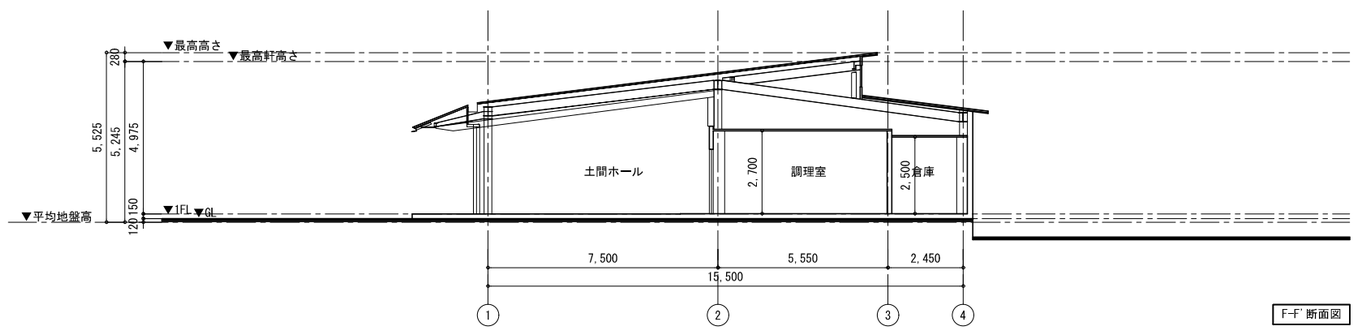
Shun Architect Office 株式会社 俊設計 一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号 一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文	CHECKED	工事名称 椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事 図面名称 断面図(1)	縮尺 A3 : 1/ 200 A1 : 1/ 100 日付 2017/07/31	図面番号 A-14



D-D' 断面図

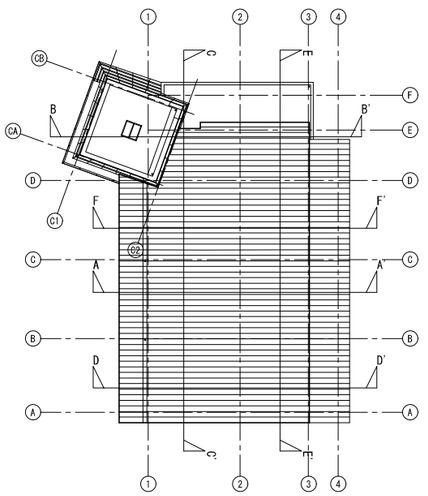


E-E' 断面図



F-F' 断面図

キープラン S=1/500



Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

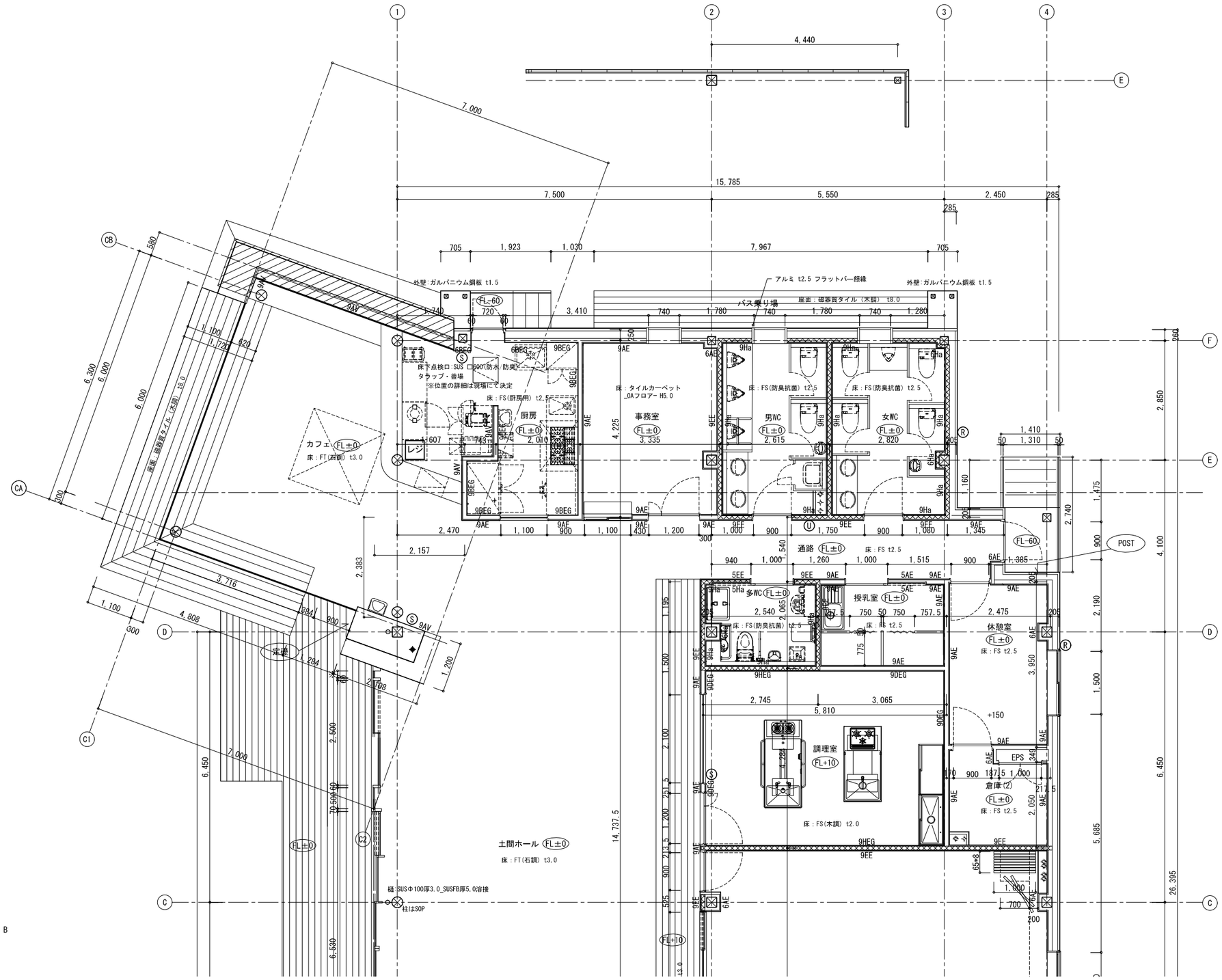
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
断面図(2)

□ 縮尺
A3 : 1/ 200
A1 : 1/ 100

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-15



壁　下　地　凡　例	
-A (一般壁1)	LGS(天井まで) GB-R t=12.5+12.5(天井まで)
-B (一般壁2)	LGS(天井まで) Cab t=8.0(天井まで)
-C (一般壁3)	LGS(天井まで) GB-R12.5+GB-S12.5(天井まで)
-D(a) (一般壁4)	LGS(天井まで) GB-R12.5+Cab6.0(天井まで)
-E (遮音壁1)	LGS(天井まで) GB-R t=12.5+12.5(天井まで)
-F (遮音壁2)	LGS(天井まで) Cab t=8.0(天井まで)
-G (遮音壁3)	LGS(グラスウール充填・天井まで) GB-R12.5+GB-S12.5(天井まで)
-H(a) (遮音壁4)	LGS(グラスウール充填・天井まで) GB-R12.5+Cab6.0(天井まで)
上記[-]はLGSサイズを示す [9]=90　[6]=65 [5]=50　　a:化粧ケイカル板	

壁　仕　上　凡　例	
E	EP
EG	EP-G
M	化粧塩ビシート
V	ビニルクロス
D	珪藻土塗り

付　属　物　凡　例
Ⓢ:消火器スタンド　Ⓤ:消火器埋込BOX　Ⓡ:消火器露出BOX

Shan Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

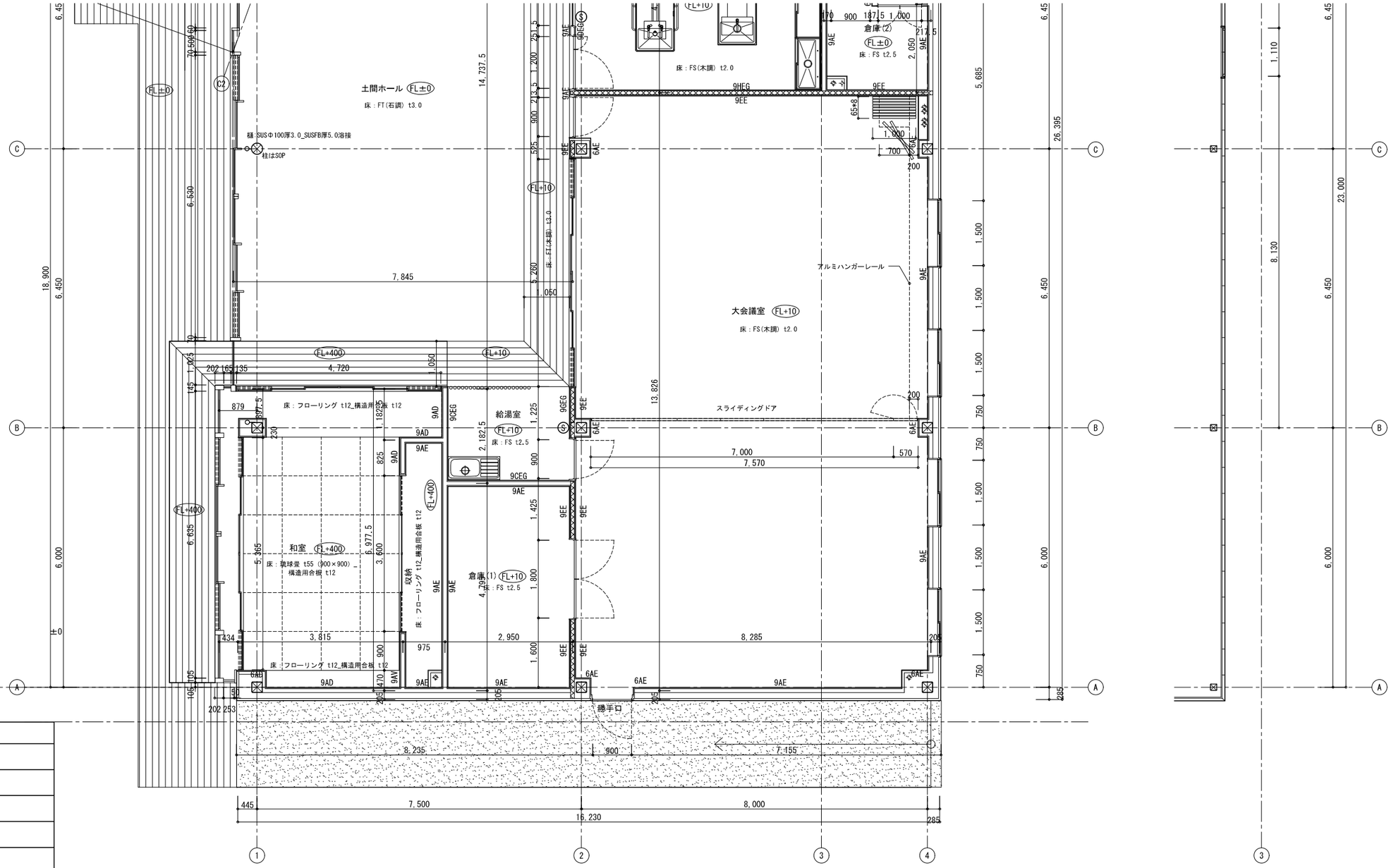
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
平面詳細図(1)

□ 縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

□ 日付
2017/07/31

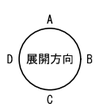
□ 図面番号
A-16



壁　下　地　凡　例	
-A (一般壁1)	LGS(天井まで) GB-R t=12.5+12.5(天井まで)
-B (一般壁2)	LGS(天井まで) Cab t=8.0(天井まで)
-C (一般壁3)	LGS(天井まで) GB-R12.5+GB-S12.5(天井まで)
-D(a) (一般壁4)	LGS(天井まで) GB-R12.5+Cab6.0(天井まで)
-E (遮音壁1)	LGS(天井まで) GB-R t=12.5+12.5(天井まで)
-F (遮音壁2)	LGS(天井まで) Cab t=8.0(天井まで)
-G (遮音壁3)	LGS(グラスウール充填・天井まで) GB-R12.5+GB-S12.5(天井まで)
-H(a) (遮音壁4)	LGS(グラスウール充填・天井まで) GB-R12.5+Cab6.0(天井まで)
上記[-]はLGSサイズを示す [9]=90　[6]=65　[5]=50　　a:化粧ケイカル板	

壁　仕　上　凡　例	
E	EP
EG	EP-G
M	化粧塩ビシート
V	ビニルクロス
D	珪藻土塗り

付　属　物　凡　例
Ⓢ:消火器スタンド　Ⓤ:消火器埋込BOX　Ⓡ:消火器露出BOX



Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

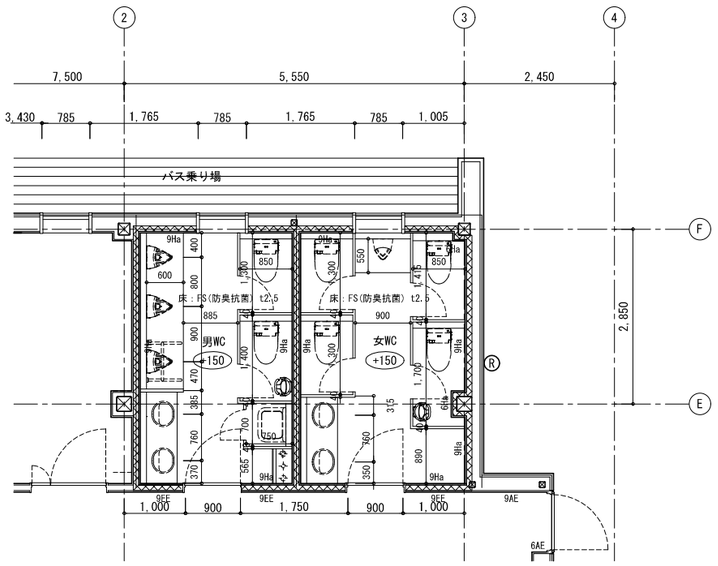
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
平面詳細図(2)

□ 縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-17

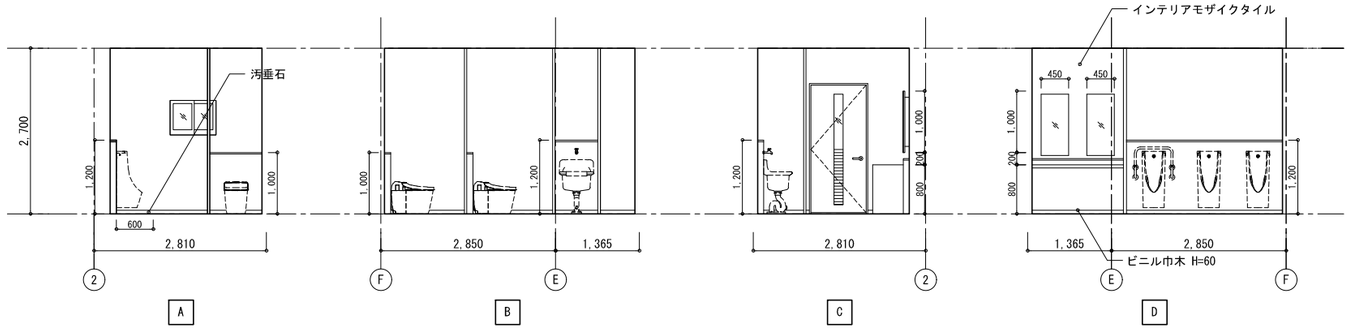


WC平面詳細図

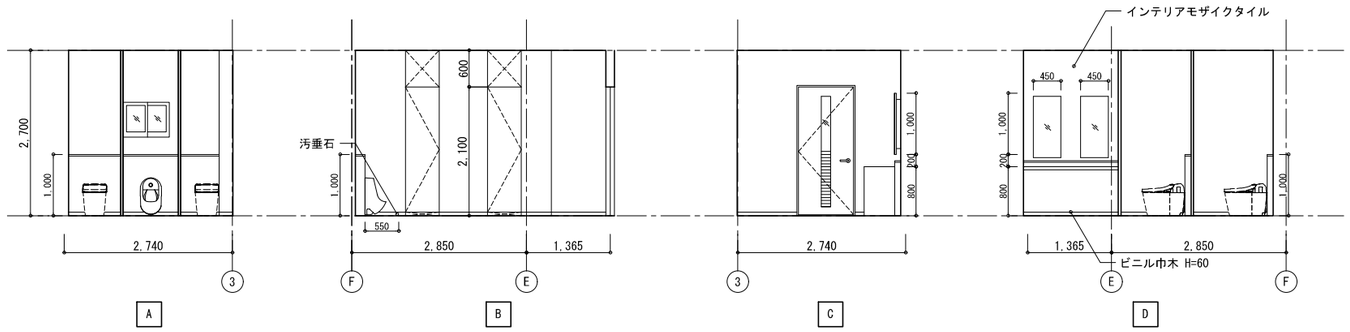
壁　下　地　凡　例	
-A (一般壁1)	LGS(天井まで) GB-R t=12.5+12.5(天井まで)
-B (一般壁2)	LGS(天井まで) Cab t=8.0(天井まで)
-C (一般壁3)	LGS(天井まで) GB-R12.5+GB-S12.5(天井まで)
-D(a) (一般壁4)	LGS(天井まで) GB-R12.5+Cab6.0(天井まで)
-E (遮音壁1)	LGS(天井まで) GB-R t=12.5+12.5(天井まで)
-F (遮音壁2)	LGS(天井まで) Cab t=8.0(天井まで)
-G (遮音壁3)	LGS(グラスウール充填・天井まで) GB-R12.5+GB-S12.5(天井まで)
-H(a) (遮音壁4)	LGS(グラスウール充填・天井まで) GB-R12.5+Cab6.0(天井まで)
上記[-]はLGSサイズを示す [9]=90　[6]=65　[5]=50	a:化粧ケイカル板
壁　仕　上　凡　例	
E	EP
EG	EP-G
M	化粧塩ビシート
V	ビニルクロス
D	珪藻土塗り
付　属　物　凡　例	
Ⓢ:消火器スタンド　Ⓤ:消火器埋込BOX　Ⓡ:消火器露出BOX	



男子WC 展開図

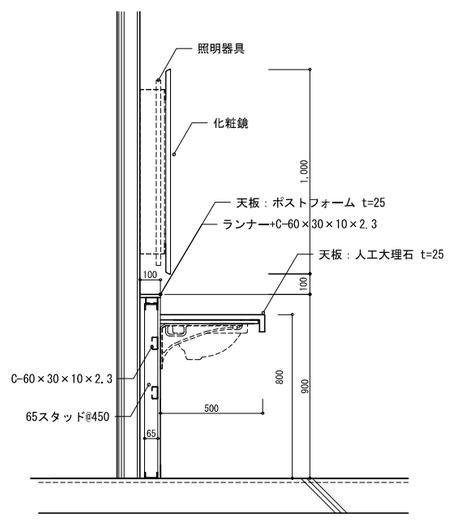


女子WC 展開図



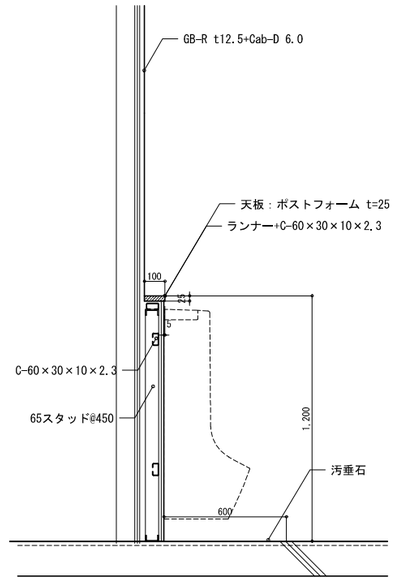
※トイレブースはすべてエッジレス加工とする

洗面所詳細図　S=1/30



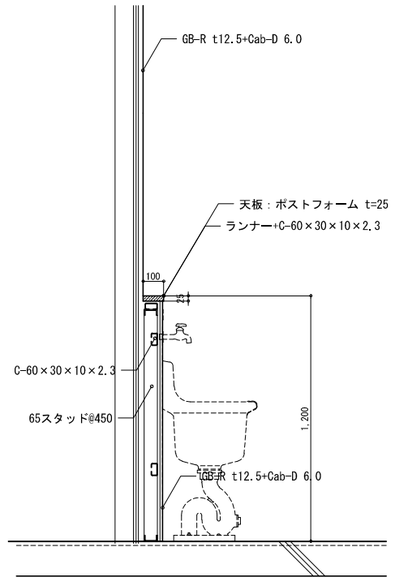
※本体間仕切壁(RC・LGS)より倒れ止をとること。

小便器周り詳細図　S=1/30



※本体間仕切壁(RC・LGS)より倒れ止をとること。

SK周り詳細図　S=1/30



※本体間仕切壁(RC・LGS)より倒れ止をとること。

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

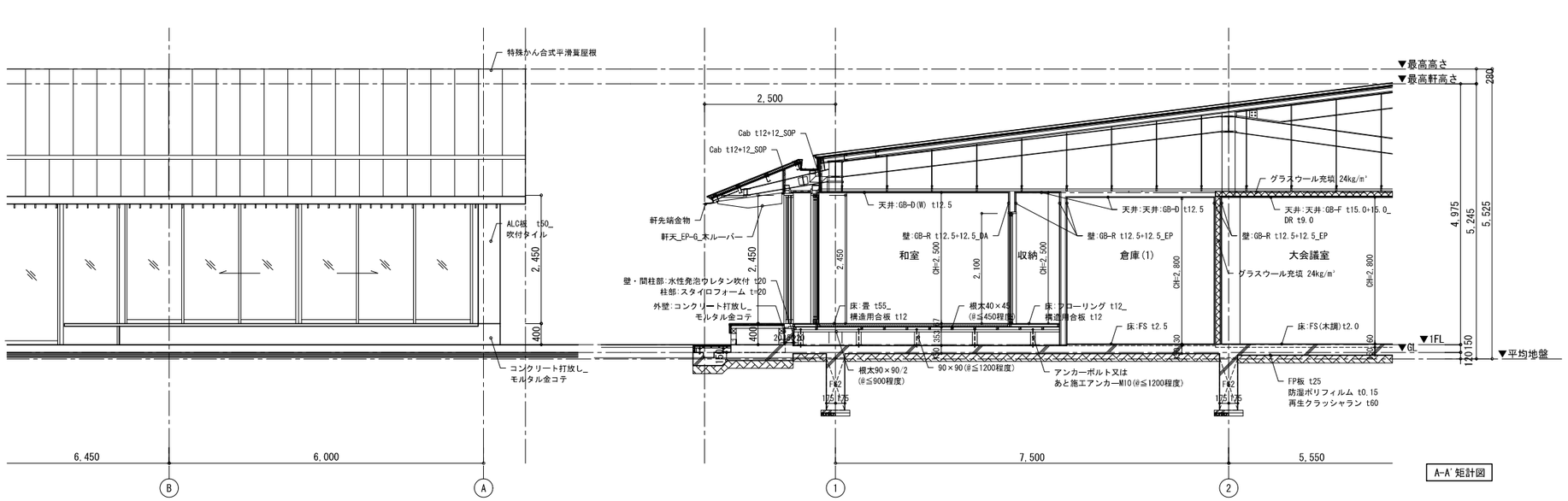
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
トイレ詳細図

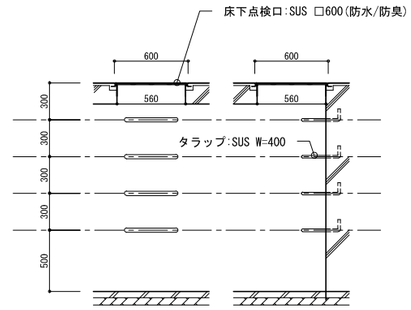
□ 縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

□ 日付
2017/07/31

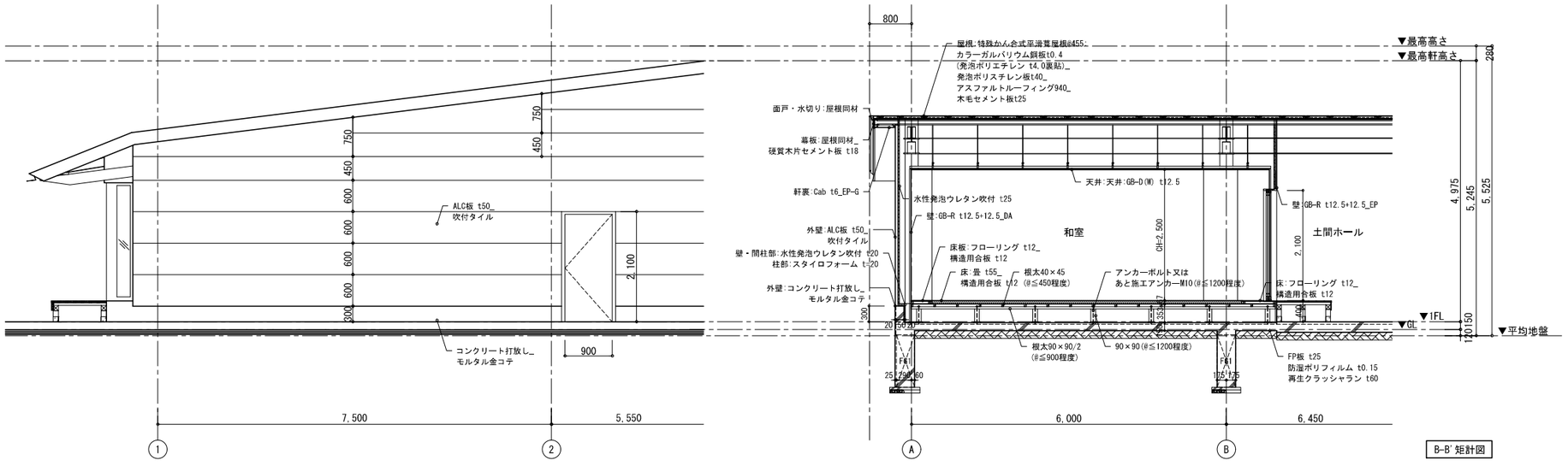
□ 図面番号
A-18



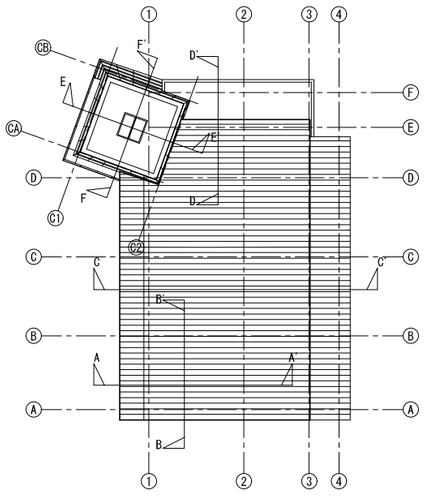
A-A' 矩計図



床下点検口詳細 A3:S=1/50、A1:S=1/25



B-B' 矩計図



キープラン

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

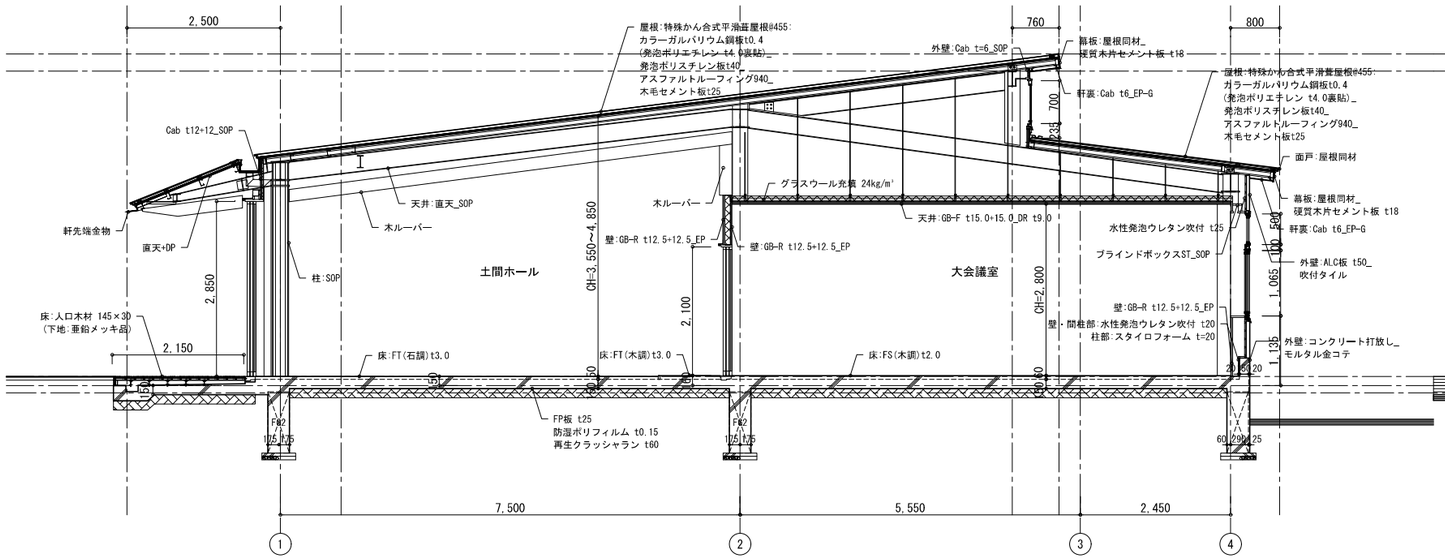
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

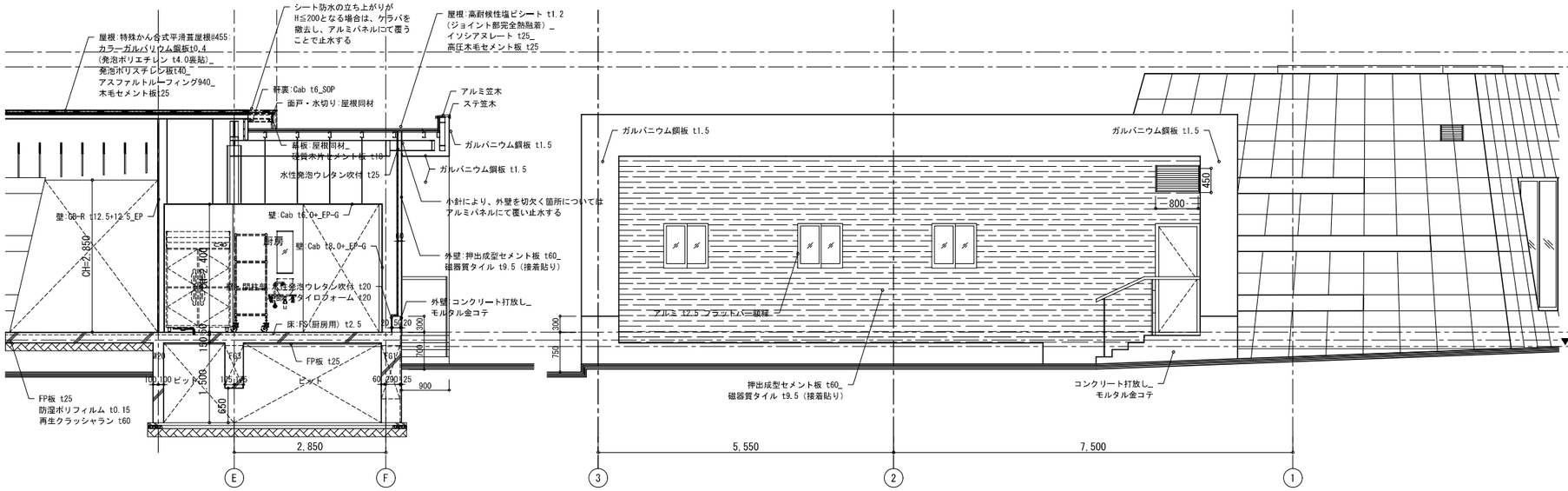
□ 図面名称
矩計図(1)

□ 縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-19





Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

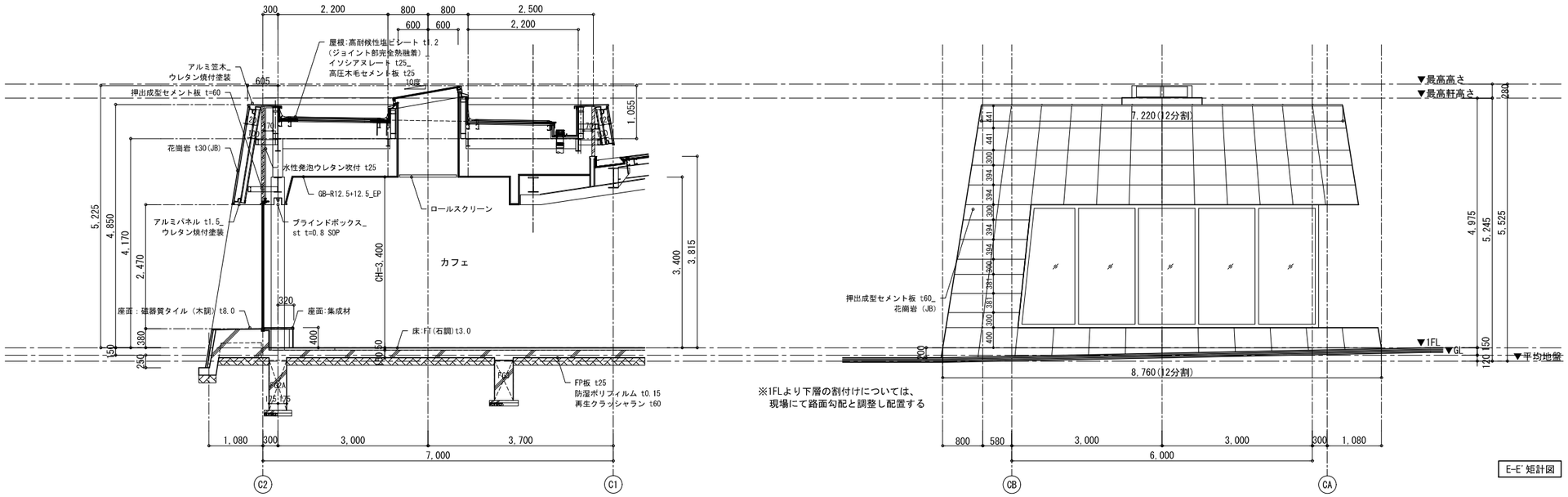
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

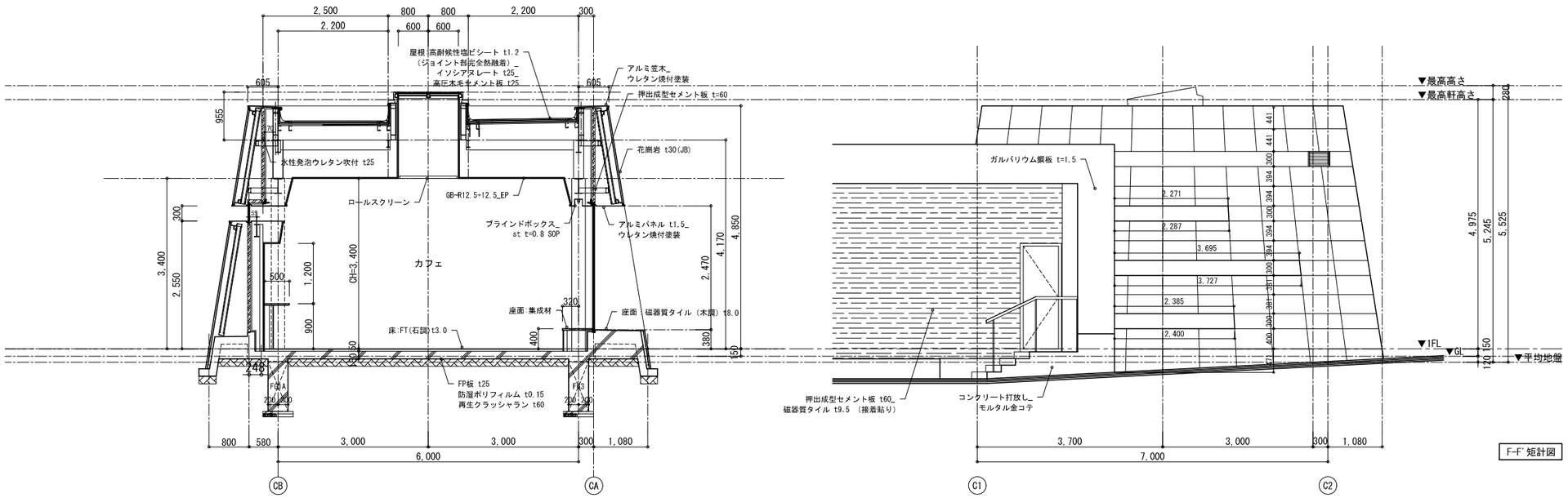
□ 図面名称
矩計図(2)

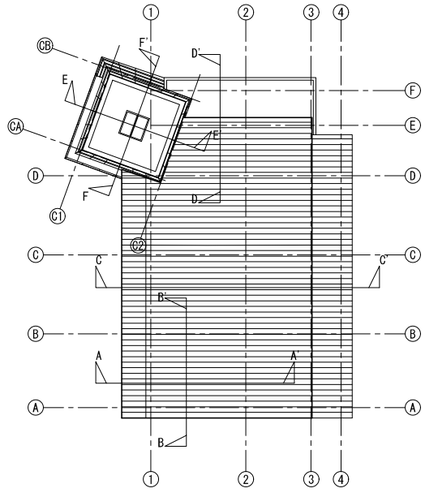
□ 縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-20







キープラン

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

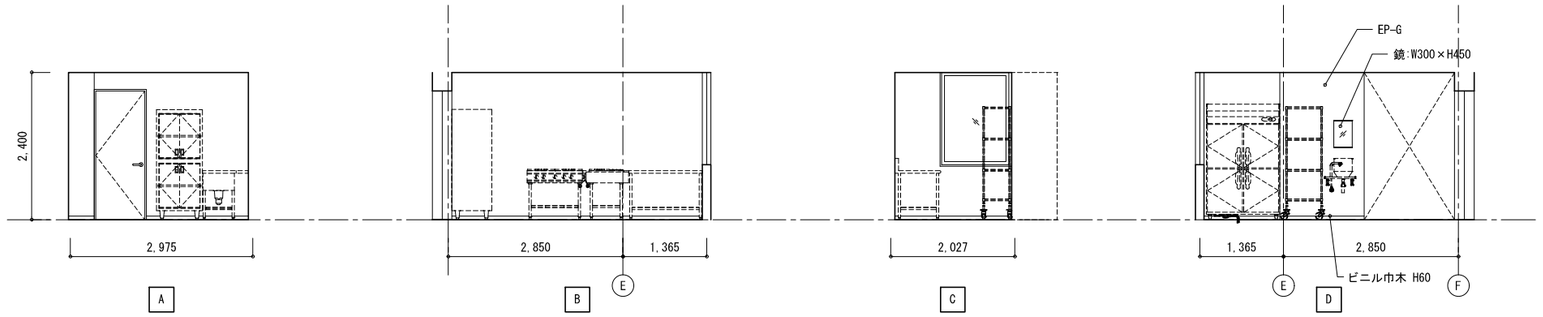
□ 図面名称
矩計図(3)

□ 縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

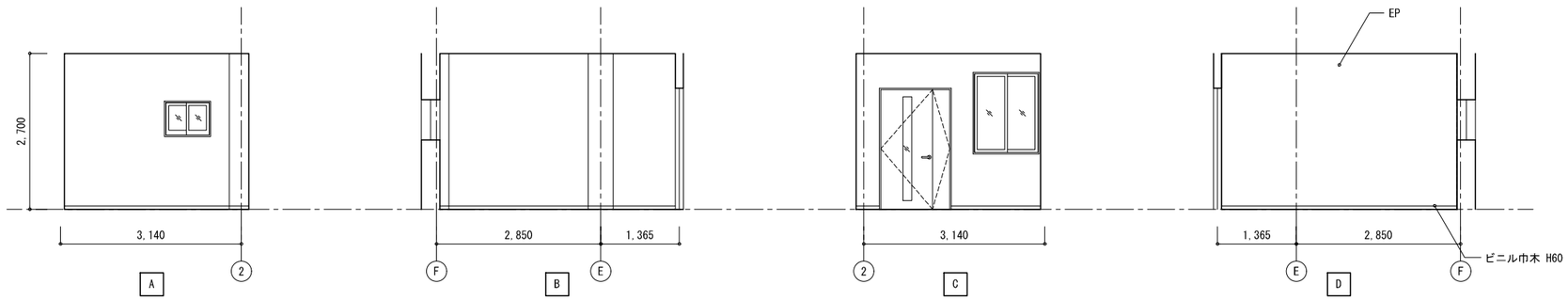
□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-21

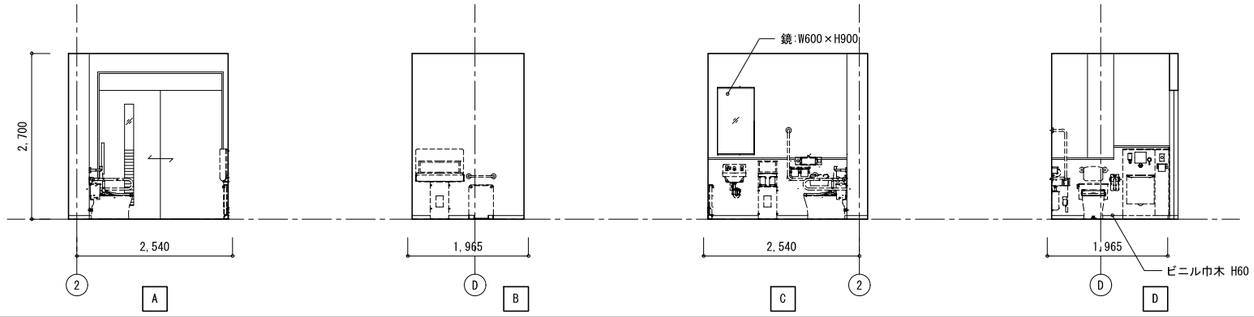
厨房



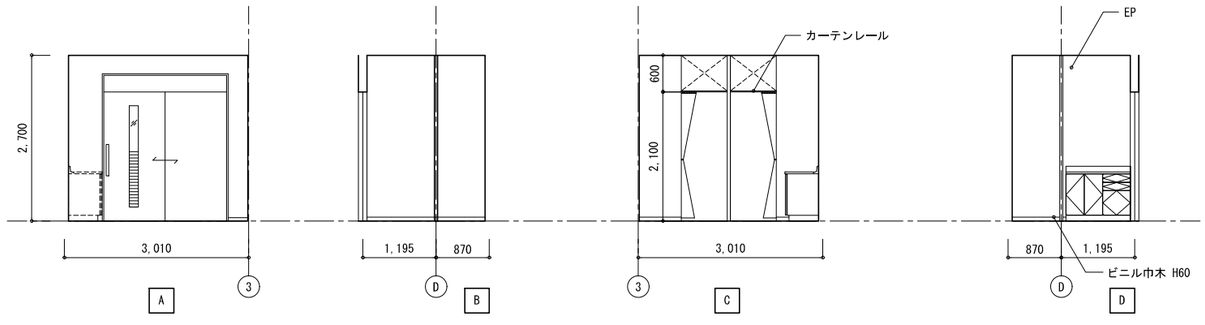
事務室

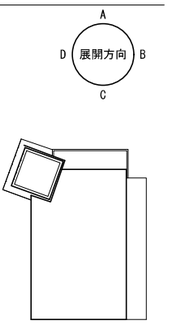


多目的WC



授乳室





Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

CHECKED

工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

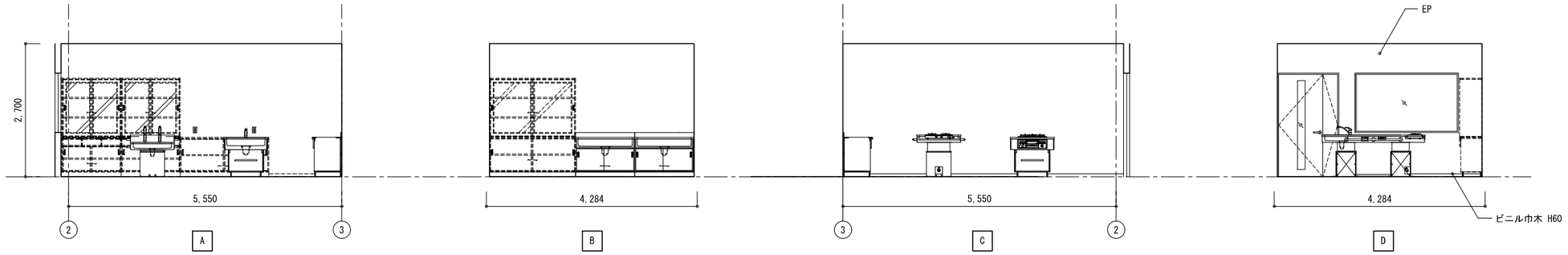
図面名称
展開図(1)

縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

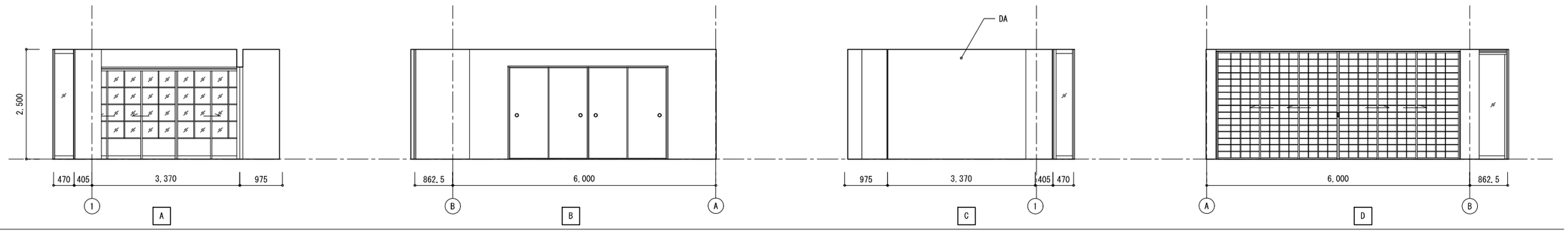
日付
2017/07/31

図面番号
A-22

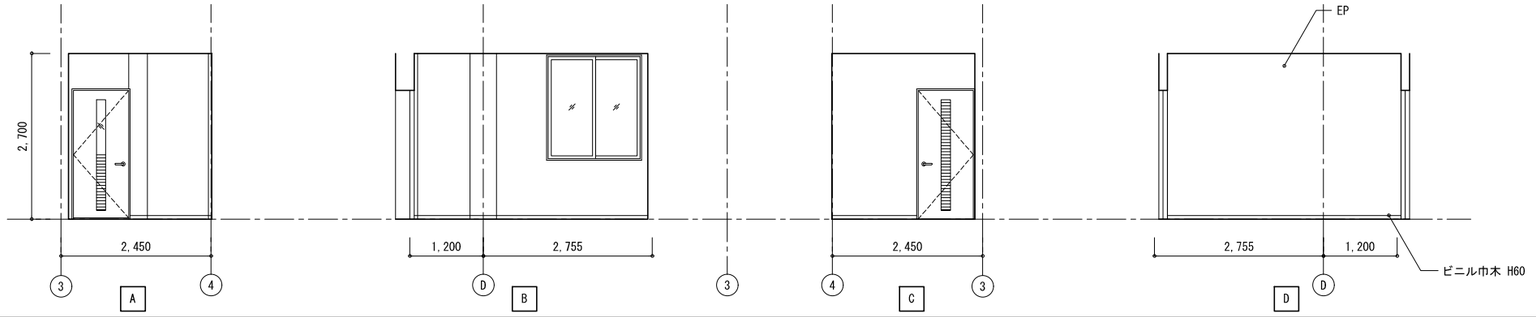
調理室



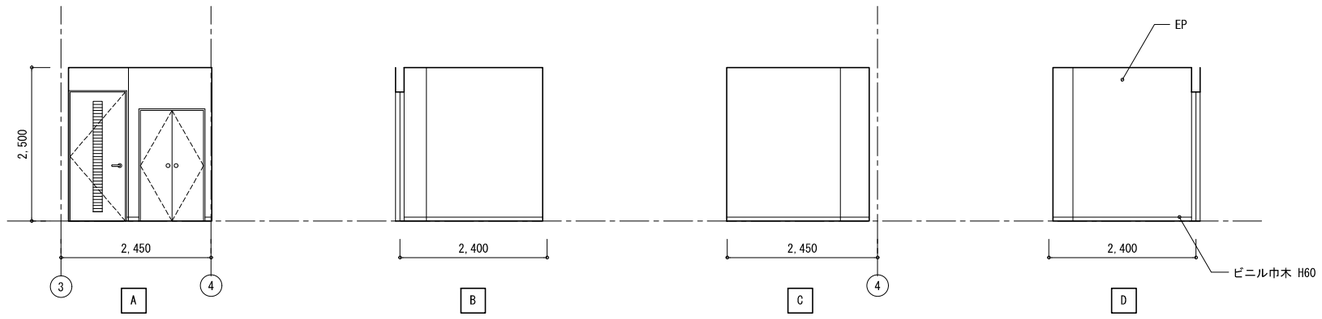
和室・収納

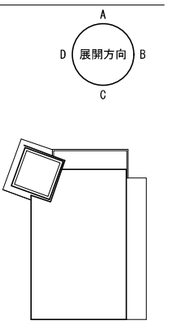


休憩室



倉庫(2)





Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

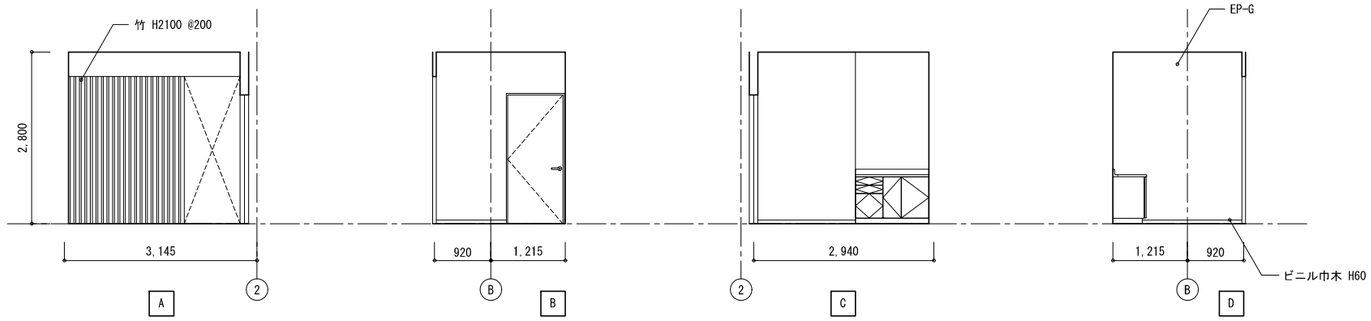
□ 図面名称
展開図(2)

□ 縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

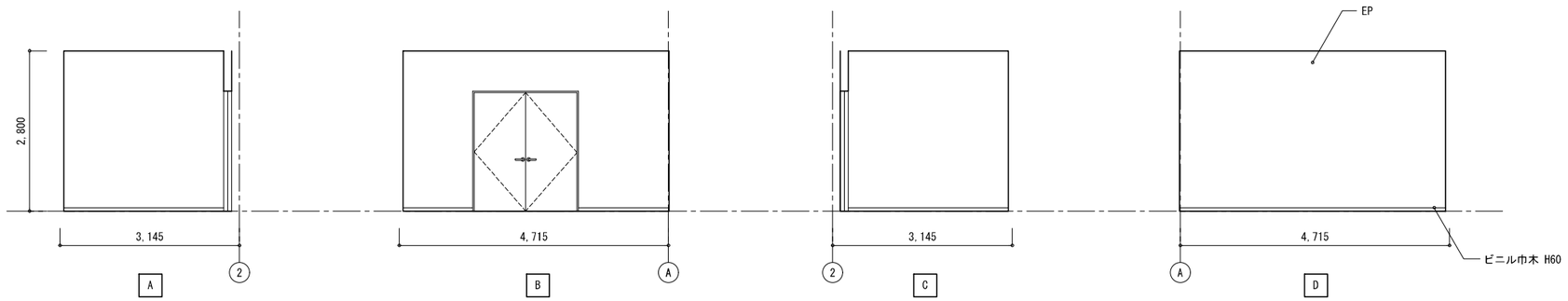
□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-23

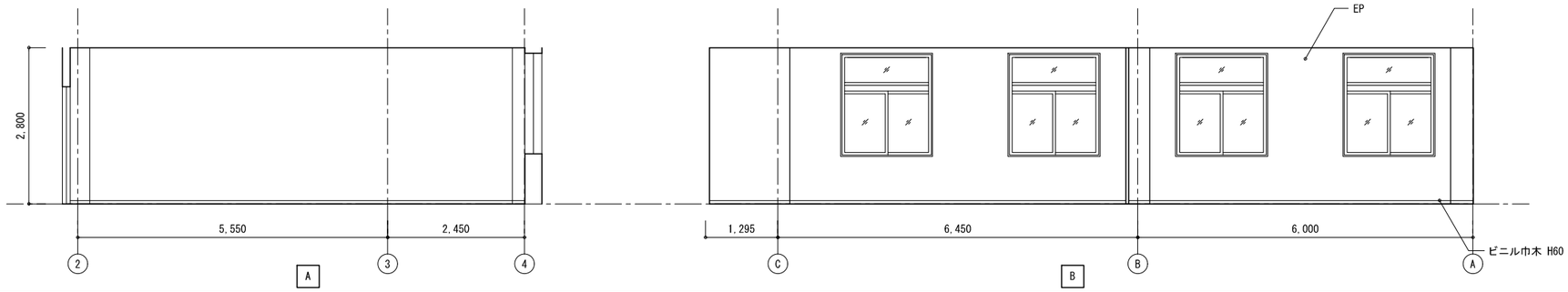
給湯室



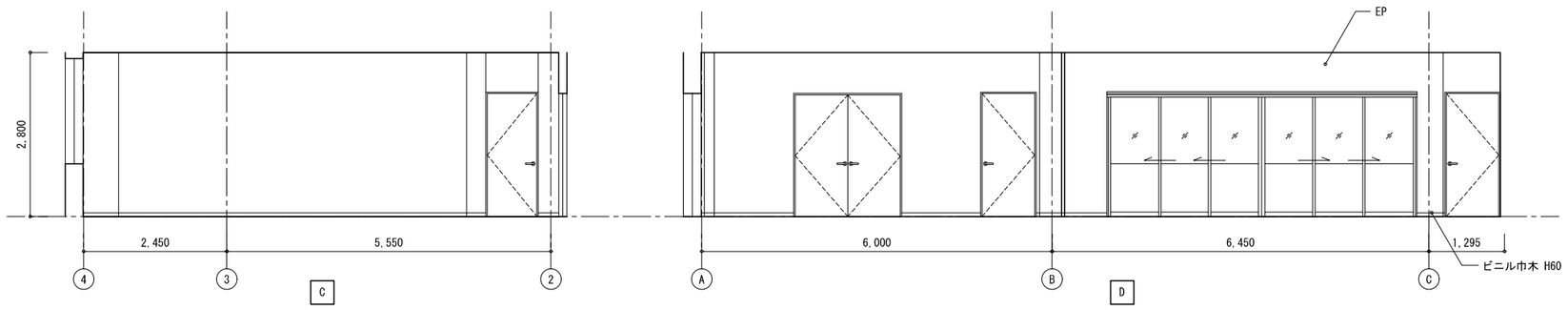
倉庫(1)

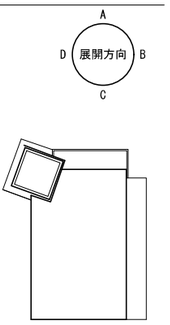


大会議室



大会議室





Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

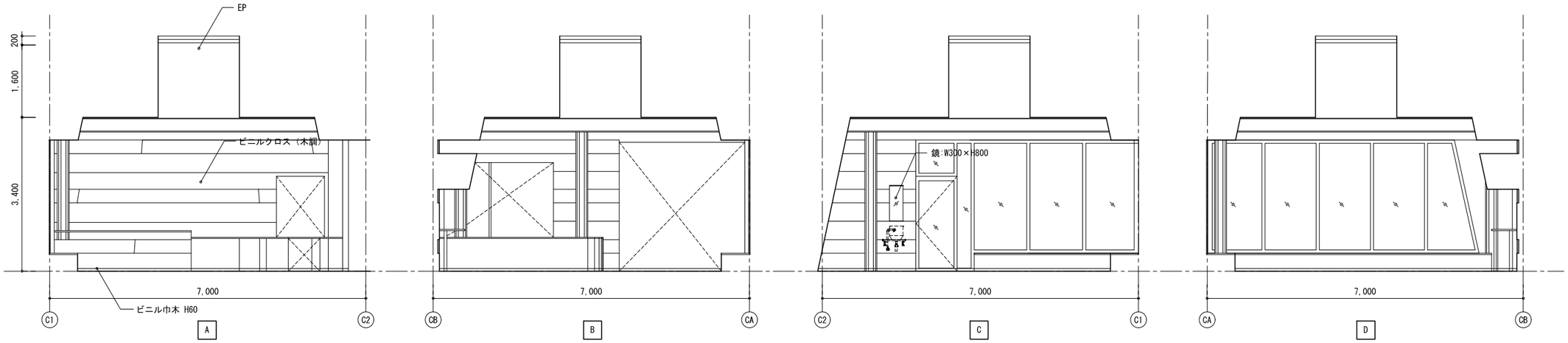
□ 図面名称
展開図(3)

□ 縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

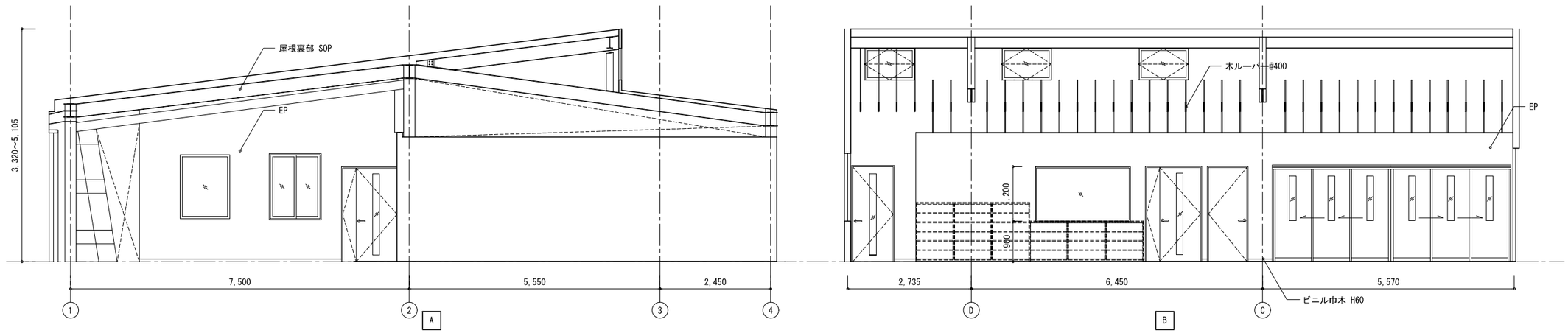
□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-24

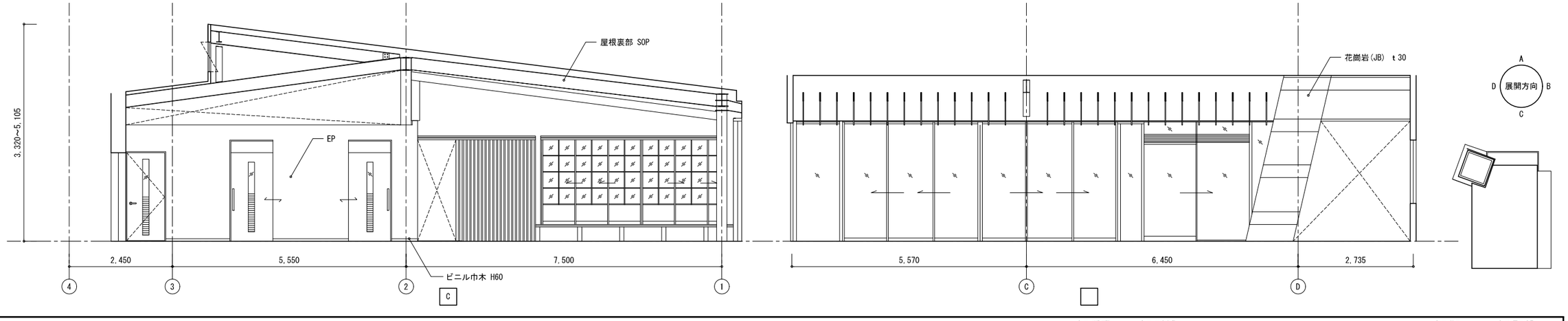
カフェ



土間ホール



土間ホール



Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

CHECKED

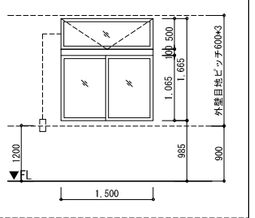
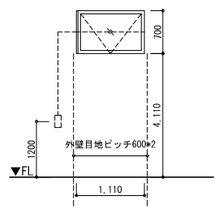
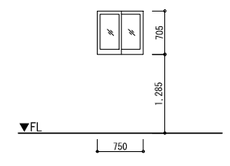
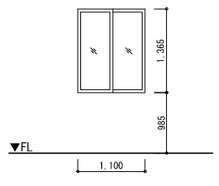
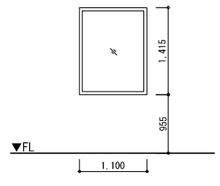
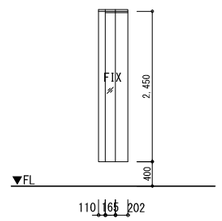
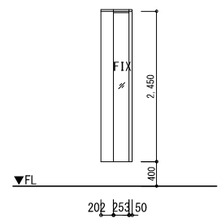
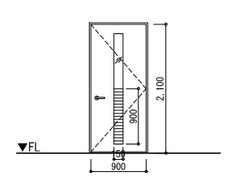
工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

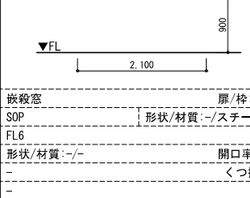
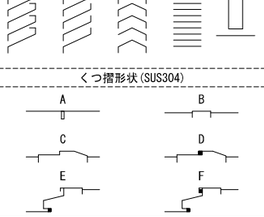
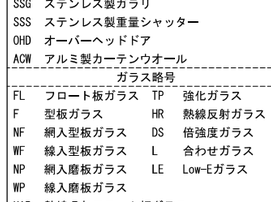
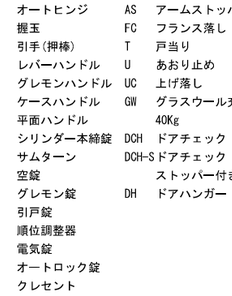
図面名称
展開図(4)

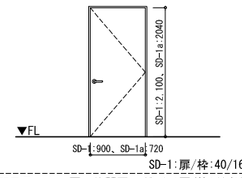
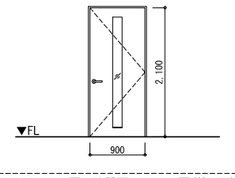
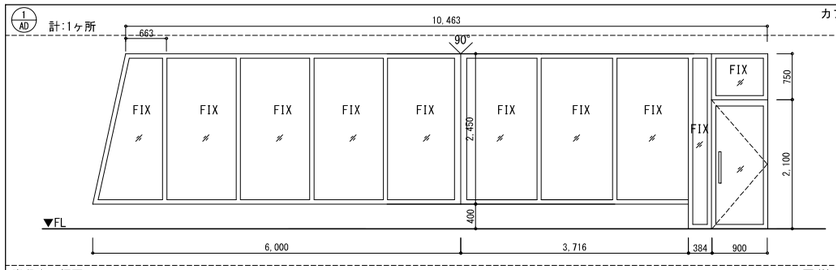
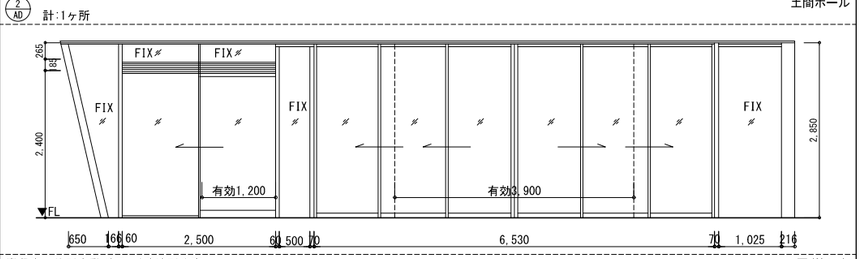
縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

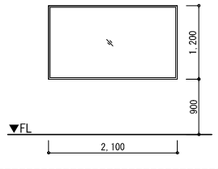
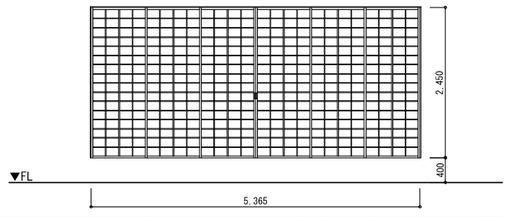
日付
2017/07/31

図面番号
A-25

記号・数量	1 AW 計:4ヶ所	2 AW 計:3ヶ所	3 AW 計:1ヶ所	3a AW 計:2ヶ所	4 AW 計:1ヶ所	5 AW 計:1ヶ所	6 AW 計:1ヶ所	7 AW 計:1ヶ所	1 WD 計:3ヶ所
	大会議室	天井裏	AW-3:事務室	AW-3a:男女WC	事務室	厨房	和室	和室	男女WC 休憩室
姿図・寸法									
型式・見込	外倒し排煙窓 45度_引違い窓 建具:70	外倒し排煙窓 45度 建具:70	引違い窓 建具:70		引違い窓 建具:70	嵌殺窓 扉/枠:-/-	嵌殺窓 扉/枠:-/105	嵌殺窓 扉/枠:-/105	両面フラッシュ扉 片開戸 扉/枠:36/160
仕上・枠	電解着色 / 形状/材質:-/アルミ	電解着色 / 形状/材質:-/アルミ	電解着色 / 形状/材質:-/アルミ		電解着色 / 形状/材質:-/アルミ	電解着色 / 形状/材質:-/アルミ	電解着色 / 形状/材質:-/アルミ	電解着色 / 形状/材質:-/アルミ	本体:メラミン化粧合板 枠:SOP / 形状/材質:A/木
ガラス	FL5+A6+FL5	FL5+A6+FL5	AW-3:FL5+A6+FL5	AW-3a:F6	FL5	FL5+A6+FL5	FL5+A6+FL5	FL5+A6+FL5	F4
ガラリ	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%		形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:B/アルミ 開口率:-%
金物	CR くつ摺:-	- くつ摺:-	CR くつ摺:-		CR くつ摺:-	- くつ摺:-	- くつ摺:-	- くつ摺:-	LH、PH、C、DCH くつ摺:B
備考	付属金物一式、オペレーター 網戸（サランネット）	付属金物一式、オペレーター	付属金物一式、アルミ t2.5 フラットバー額縁 網戸（サランネット）		付属金物一式 網戸（サランネット）	付属金物一式 -	付属金物一式 （別紙詳細図による）	付属金物一式 （別紙詳細図による）	付属金物一式 アンダーカット（20mm）

記号・数量	2 WD 計:1ヶ所	3 WD 計:2ヶ所	4 WD 計:2ヶ所	9 WD 計:2ヶ所	10 WD 計:1ヶ所	1 SW 計:1ヶ所	2 SW 計:1ヶ所	3 SW 計:1ヶ所
	倉庫(2)	事務室 調理室	多目的WC 授乳室	大会議室 給湯室	大会議室	カフェ	カフェ	カフェ
姿図・寸法								
型式・見込	両面フラッシュ扉 片開戸 扉/枠:36/160	両面フラッシュ扉 親子戸 扉/枠:36/160	両面フラッシュ扉 片引戸 扉/枠:40/160	両面フラッシュ扉 片開戸 扉/枠:40/160	両面フラッシュ扉 両開戸 扉/枠:40/160	嵌殺窓 扉/枠:-/-	嵌殺窓 扉/枠:-/-	嵌殺窓 扉/枠:-/-
仕上・枠	本体:メラミン化粧合板 枠:SOP / 形状/材質:A/木	本体:メラミン化粧合板 枠:SOP / 形状/材質:A/木	本体:メラミン化粧合板 枠:SOP / 形状/材質:A/木	本体:メラミン化粧合板 枠:SOP / 形状/材質:A/木	本体:メラミン化粧合板 枠:SOP / 形状/材質:A/木	ヘアーライン / 形状/材質:-/ステンレス	ヘアーライン / 形状/材質:-/ステンレス	ヘアーライン / 形状/材質:-/ステンレス
ガラス	-	FL5	F4	-	-	FL5+A6+FL5	FL5+A6+FL5	FL5+A6+FL5
ガラリ	形状/材質:B/アルミ 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:B/アルミ 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%
金物	LH、CP、PH、DCH-S くつ摺:B	LH、CP、FC、PH、DCH-S くつ摺:B	HT、DH、表示錠 くつ摺:-	LH、CP、PH、DCH-S くつ摺:B	LH、CP、FC、PH、DCH-S くつ摺:B	- くつ摺:-	- くつ摺:-	- くつ摺:-
備考	付属金物一式 -	付属金物一式 -	付属金物一式 -	付属金物一式	付属金物一式	- -	- -	- -

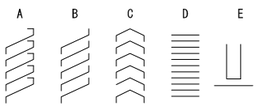
記号・数量	1 SD 計:1ヶ所 / 1a SD 計:1ヶ所	2 SD 計:1ヶ所	1 AD 計:1ヶ所	2 AD 計:1ヶ所
	SD-1:大会議室 / SD-1a:厨房	通路	カフェ	土間ホール
姿図・寸法				
型式・見込	SD-1:扉/枠:40/160 両面フラッシュ扉 片開戸 SD-1a:扉/枠:40/120	両面フラッシュ扉 片開戸 扉/枠:40/120	嵌殺窓、框戸 扉/枠:-/-	嵌殺窓、片引自動ドア、6連建引違窓 扉/枠:-/-
仕上・枠	焼付塗装（ウレタン） / 形状/材質:B/スチール	焼付塗装（ウレタン） / 形状/材質:B/スチール	電解着色 / 形状/材質:-/アルミ	電解着色 / 形状/材質:-/アルミ
ガラス	-	FL5	LE5+A6+FL5	LE5+A6+FL5
ガラリ	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%
金物	LH、CP、PH、DCH くつ摺:F	LH、CP、PH、電気錠 くつ摺:F	HT くつ摺:-	- くつ摺:-
備考	付属金物一式 -	付属金物一式 -	付属金物一式 -	自動ドアエンジン 付属金物一式（別紙詳細図による）

記号・数量	1 SW 計:1ヶ所	3 AD 計:1ヶ所	5 WD 計:1ヶ所
	調理室	和室	和室
姿図・寸法			
型式・見込	嵌殺窓 扉/枠:-/-	6連建引違窓 扉/枠:-/140	6連引違窓 扉/枠:-/120
仕上・枠	SOP / 形状/材質:-/スチール	電解着色 / 形状/材質:-/アルミ	WP / 形状/材質:-/木
ガラス	FL6	FL5+A6+FL5	アクリル板
ガラリ	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%	形状/材質:-/- 開口率:-%
金物	- くつ摺:-	- くつ摺:-	- くつ摺:-
備考	- -	付属金物一式 （別紙詳細図による）	付属金物一式 -

枠形状



ガラリ形状



くつ摺形状(SUS304)

建具記号

T	3方枠	SW	鋼製窓
AW	アルミ製窓	SD	鋼製戸
AD	アルミ製戸	SG	鋼製ガラリ
AG	アルミ製ガラリ	SS	重量シャッター
LD	鋼製軽量戸	WD	木製戸
LS	軽量シャッター	TD	強化ガラス戸
SSW	ステンレス製窓	H	ふすま
SSD	ステンレス製戸	P	障子
SSG	ステンレス製ガラリ		
SSS	ステンレス製重量シャッター		
OHD	オーバーヘッドドア		
ACW	アルミ製カーテンウオール		

ガラス略号

FL	フロート板ガラス	TP	強化ガラス
F	型板ガラス	HR	熱線反射ガラス
NF	網入型板ガラス	DS	倍強度ガラス
WF	線入型板ガラス	L	合わせガラス
NP	網入磨板ガラス	LE	Low-Eガラス
WP	線入磨板ガラス		
HAP	熱線吸収フロート板ガラス		

金物略号

H	丁番	DC	ドアクローザ
PH	ピボットヒンジ	DCF	ドアクローザ
FH	フロアーヒンジ		ヒューズ付
AH	オートヒンジ	AS	アームストッパー
N	握玉	FC	フランス落し
HT	引手(押棒)	T	戸当り
LH	レバーハンドル	U	あおり止め
GH	グレモンハンドル	UC	上げ落し
CH	ケースハンドル	GW	グラスウール充填
HH	平面ハンドル		40Kg
CP	シリンダー本締錠	DCH	ドアチェック
SL	サムターン	DCH-S	ドアチェック
C	空錠		ストッパー付き
G	グレモン錠	DH	ドアハンガー
HG	引戸錠		
K	順位調整器		
EL	電気錠		
AL	オートロック錠		
CR	クレセント		

共通事項（特記なき限り下記による）

01. 建具寸法は内法寸法を示す。
02. 材料及び仕上の略号は仕上表による。
03. 建具枠取合は、建築工事標準詳細図又は建具詳細図による。
04. 金物はステンレス製とし見本品提出の上承認を受ける。
05. 戸開閉時に壁及び柱等が当たる場合、戸当りを設置する。
06. クレセント及び排煙窓の操作レバーの位置は床面から800mm以上1500mm以下とする。
07. 握玉、把手類の取付高さは床から1000mmとし、押板類は1100mmとする。
08. ドアクローザはストッパー有りとし、両開き戸には各戸に設置し　順位調整器付とする。特定防火設備、防火設備はドアストッパー無しとする。
09. 外部戸にはあおり止めを設ける(戸サイズ、風圧力を考慮の上現場決定)
10. 下番は戸サイズ考慮の上支持数を決定する。
11. AW及び内部仕上げのあるSD,LD,SSWは額縁付とし壁仕上げ厚　+10mmとする。
12. 外部水切り類は外壁面+20mmとし、両サイド立ち上がり　プレート付きとする。

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

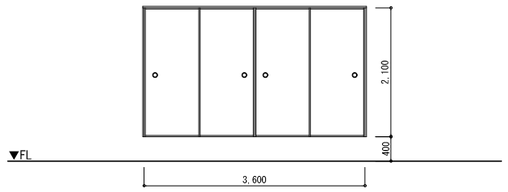
□ 工事名称: 椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

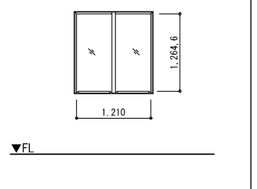
□ 図面名称: 建具表(1)

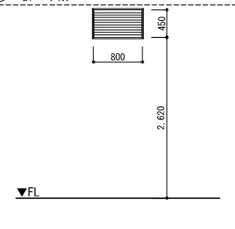
□ 縮尺: A3 : 1/ 100 / A1 : 1/ 50

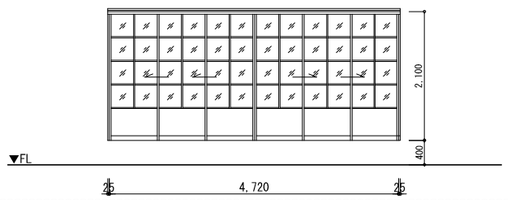
□ 日付: 2017/07/31

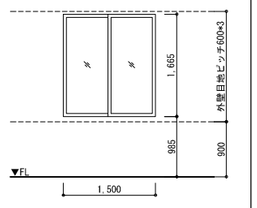
□ 図面番号: A-26

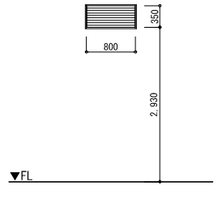
記号・数量	6 WD 計:1ヶ所		和室
姿図・寸法			
型式・見込	4連引違窓		扉/枠:-/-
仕上・枠	襖:新鳥の子貼り、枠:カシュー塗り	形状/材質:-/木	形状/材質:-/-
ガラス	-		
ガラリ	形状/材質:-/-		開口率:-%
金物	-		くつ摺:-
備考	付属金物一式 -		

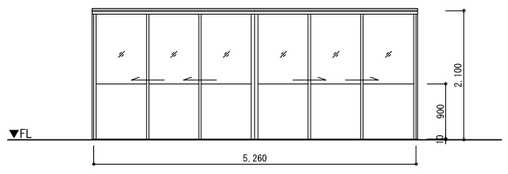
記号・数量	1 TL 計:1ヶ所		カフェ
姿図・寸法			
型式・見込	トップライト		扉/枠:-/-
仕上・枠	電解着色	形状/材質:-/アルミ	
ガラス	TP6+A6+NP6.8		
ガラリ	形状/材質:-/-		開口率:-%
金物	-		くつ摺:-
備考	付属金物一式 （別紙詳細図による）		

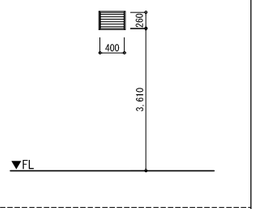
記号・数量	2 AG 計:1ヶ所		厨房
姿図・寸法			
型式・見込	ガラリ		扉/枠:-/-
仕上・枠	電解着色	形状/材質:-/-	
ガラス	-		
ガラリ	形状/材質:B/アルミ		開口率:30%以上
金物	-		くつ摺:-
備考	付属金物一式 -		

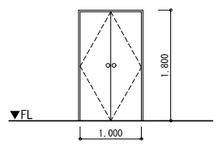
記号・数量	7 WD 計:1ヶ所		和室
姿図・寸法			
型式・見込	6連引違窓		扉/枠:-/120
仕上・枠	-	形状/材質:-/木	
ガラス	F4		
ガラリ	形状/材質:-/-		開口率:-%
金物	-		くつ摺:-
備考	付属金物一式 -		

記号・数量	8 AW 計:1ヶ所		休憩室
姿図・寸法			
型式・見込	引違い窓		建具:70
仕上・枠	電解着色	形状/材質:-/アルミ	
ガラス	FL5+A6+FL5		
ガラリ	形状/材質:-/-		開口率:-%
金物	CR		くつ摺:-
備考	付属金物一式 網戸（サランネット）		

記号・数量	3 AG 計:1ヶ所		女子WC
姿図・寸法			
型式・見込	ガラリ		扉/枠:-/-
仕上・枠	電解着色	形状/材質:-/-	
ガラス	-		
ガラリ	形状/材質:B/アルミ		開口率:30%以上
金物	-		くつ摺:-
備考	付属金物一式 -		

記号・数量	8 WD 計:1ヶ所		大会議室
姿図・寸法			
型式・見込	6連引違窓		扉/枠:-/160
仕上・枠	-	形状/材質:-/木	
ガラス	FL5		
ガラリ	形状/材質:-/-		開口率:-%
金物	-		くつ摺:-
備考	付属金物一式 -		

記号・数量	1 AG 計:1ヶ所		カフェ
姿図・寸法			
型式・見込	ガラリ		扉/枠:-/-
仕上・枠	電解着色	形状/材質:-/-	
ガラス			
ガラリ	形状/材質:B/アルミ		開口率:30%以上
金物	-		くつ摺:-
備考	付属金物一式 -		

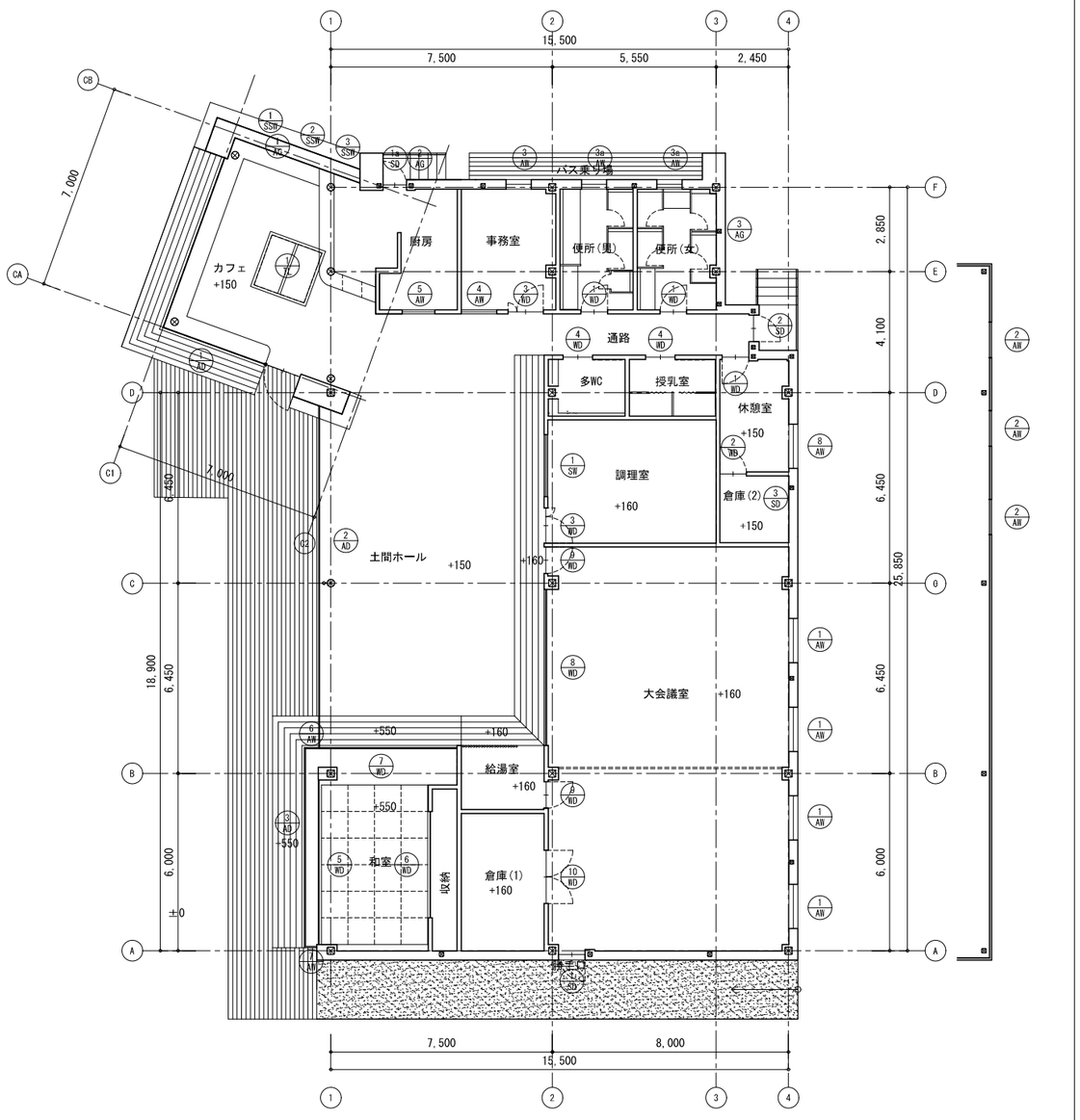
記号・数量	3 SD 計:1ヶ所		EPS
姿図・寸法			
型式・見込	片面フラッシュ扉		扉/枠:40/120
仕上・枠	焼付塗装（ウレタン）	形状/材質:B/スチール	
ガラス	-		
ガラリ	形状/材質:-/-		開口率:-%
金物	CH、CP、AH、DCH		くつ摺:F
備考	付属金物一式 -		

記号・数量	枠形状					
姿図・寸法	A	B	C	D	E	F
	ガラリ形状					
	A	B	C	D	E	
	くつ摺形状(SUS304)					
	A	B	C	D	E	F

建具記号			
T	3方枠	SW	鋼製窓
AW	アルミ製窓	SD	鋼製戸
AD	アルミ製戸	SG	鋼製ガラリ
AG	アルミ製ガラリ	SS	重量シャッター
LD	鋼製軽量戸	WD	木製戸
LS	軽量シャッター	TD	強化ガラス戸
SSW	ステンレス製窓	H	ふすま
SSD	ステンレス製戸	P	障子
SSG	ステンレス製ガラリ		
SSS	ステンレス製重量シャッター		
OHD	オーバーヘッドドア		
ACW	アルミ製カーテンウオール		

ガラス略号			
FL	フロート板ガラス	TP	強化ガラス
F	型板ガラス	HR	熱線反射ガラス
NF	網入型板ガラス	DS	倍強度ガラス
WF	線入型板ガラス	L	合わせガラス
NP	網入磨板ガラス	LE	Low-Eガラス
WP	線入磨板ガラス		
HAP	熱線吸収フロート板ガラス		

金物略号			
H	丁番	DC	ドアクローザ
PH	ピボットヒンジ	DCF	ドアクローザ
FH	フロアーヒンジ		ヒューズ付
AH	オートヒンジ	AS	アームストッパー
N	握玉	FC	フランス落し
HT	引手(押棒)	T	戸当り
LH	レバーハンドル	U	あおり止め
GH	グレモンハンドル	UC	上げ落し
CH	ケースハンドル	GW	グラスウール充填
HH	平面ハンドル		40Kg
CP	シリンダー本締錠	DCH	ドアチェック
SL	サムターン	DCH-S	ドアチェック
C	空錠		ストッパー付き
G	グレモン錠	DH	ドアハンガー
HG	引戸錠		
K	順位調整器		
EL	電気錠		
AL	オートロック錠		
CR	クレセント		



共通事項（特記なき限り下記による）

01. 建具寸法は内法寸法を示す。
02. 材料及び仕上の略号は仕上表による。
03. 建具枠取合は、建築工事標準詳細図又は建具詳細図による。
04. 金物はステンレス製とし見本品提出の上承認を受ける。
05. 戸開閉時に壁及び柱等が当たる場合、戸当りを設置する。
06. クレセント及び排煙窓の操作レバーの位置は床面から800mm以上1500mm以下とする。
07. 握玉、把手類の取付高さは床から1000mmとし、押板類は1100mmとする。
08. ドアクローザはストッパー有りとし、両開き戸には各戸に設置し
09. 外部戸にはあおり止めを設ける(戸サイズ、風圧力を考慮の上現場決定)
10. 丁番は戸サイズ考慮の上支持数を決定する。
11. AW及び内部仕上げのあるSD, LD, SSWは額縁付とし壁仕上げ厚
+10mmとする。
12. 外部水切り類は外壁面+20mmとし、両サイド立ち上がり
プレート付きとする。

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

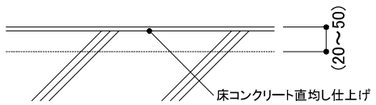
□ 図面名称
建具表(2)

□ 縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

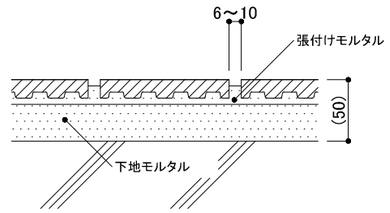
□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-27

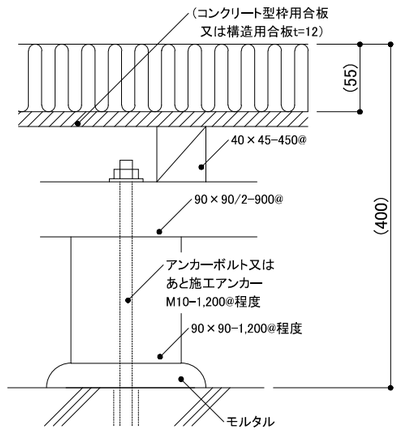
ビニル床シート、ビニル床タイル



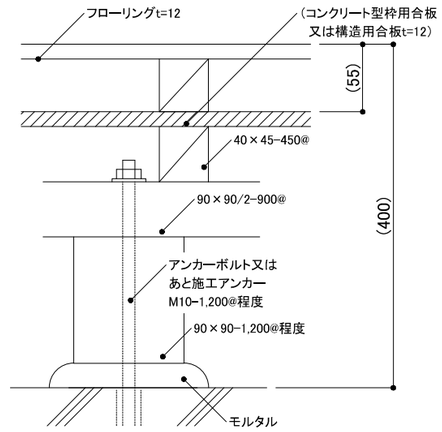
磁器質タイル



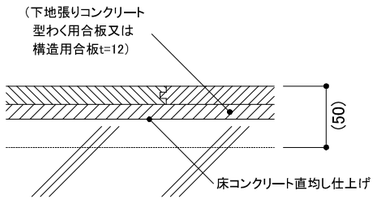
畳敷き



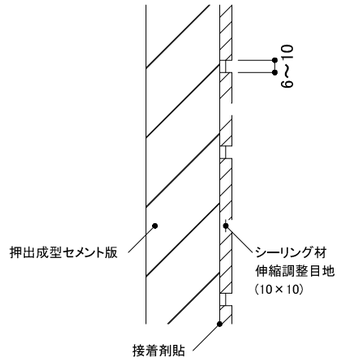
フローリング（和室部）



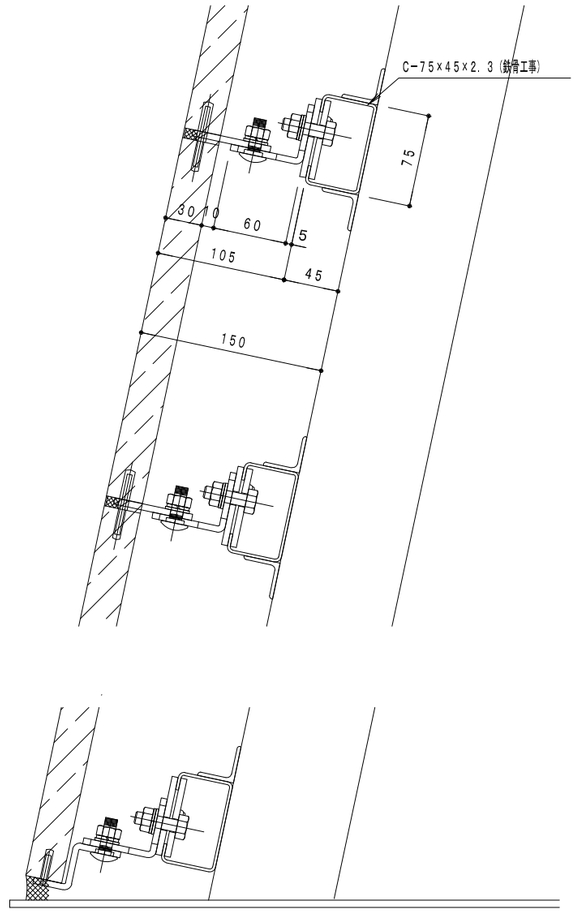
フローリング（一般部）



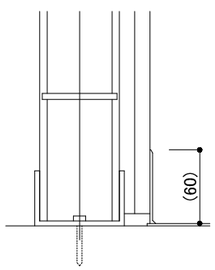
外装タイル



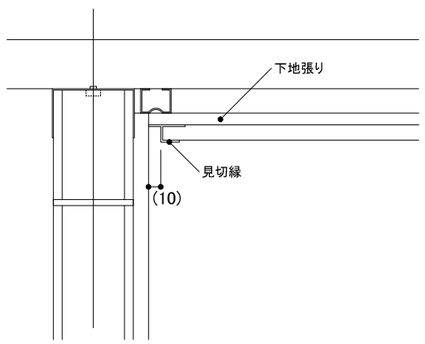
石貼り（JB）



ビニル巾木



天井付き目地（軽量鉄骨壁下地）



Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

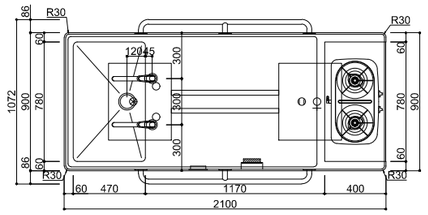
□ 図面名称
標準詳細図

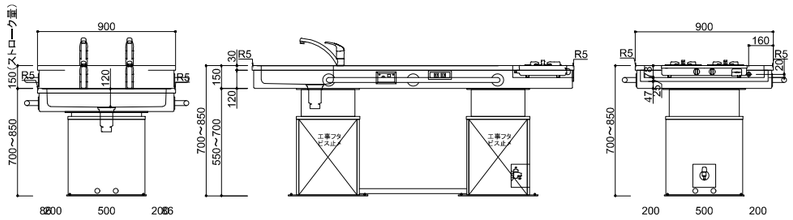
□ 縮尺
A3 : 1/ 10
A1 : 1/ 5

□ 日付
2017/07/31

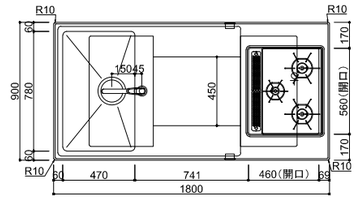
□ 図面番号
A-28

調理室家具

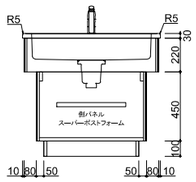


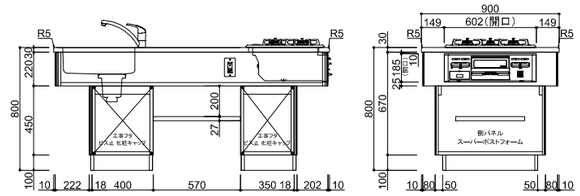


仕　様	
天 板	ステンレス SUS430 t1.0mm(R付) 表面仕上:#400 水切りロール加工、下地合板 t9mm
シンク	ステンレス SUS430 t1.0mm 表面仕上:#400 (D=120)
本体主材	上部昇降ユニット:ステンレスSUS430 t1。0mm 表面仕上:#400 下部固定ユニット:スチールt1.6mm メラミン焼付塗装 床固定ベース:スチールt6mm メラミン焼付塗装
附 属 器 具	
内部 昇降装置	電動ドライブユニット　1式
消費電力	50W
2ッ口ガステーブルコンロ	PA-28F (パロマ)　1
ガス消費量	都市ガス(13A)　5.80kW LPガス　5.40kW
シングルレバー混合水栓	NKX876JV　2
排水トラップ	M-14AP　1
排水ジャバラ	φ30x700　1
防臭キャップ	40A、50A兼用
AC電気コンセント	AC-2P(WCF2011W)
モーター、電源接続用コンセント	AC-2P(WK1021W)
ガスコード	φ7×2m
スリムプラグ	13A、LPG共通



仕　様	
天 板	ステンレス SUS430 t1.0mm(R付) 表面仕上:#400 水切りロール加工、下地合板 t9mm
シンク	ステンレス SUS430 t1.0mm 表面仕上:#400 (D=170)
本体主材	側パネル:スーパーポストフォーム加工(R8mm) 内部:メラミン化粧MDF貼　外部:メラミン化粧MDF貼
工事フタ	両面メラミン化粧パーティクルボード　木口:シート貼 ビス止 化粧キャップ
固定棚	メラミン化粧MDFフラッシュ　木口:樹脂シートt1.0mm貼
台 輪	ポリ合板貼(樹脂製コーナーガード付)
附 属 器 具	
3ッ口ガスビルトインコンロ	DG32N2SQ1SVR (ハーマン)　1
ガス消費量	都市ガス(13A)　8.72kW LPガス　8.58kW
シングルレバー混合水栓	NKX876JV　1
大型ゴミカゴ付排水トラップ	N-14BPs　1
AC電気コンセント(ET付)	AC-2P・接地極付(WN11329)　2



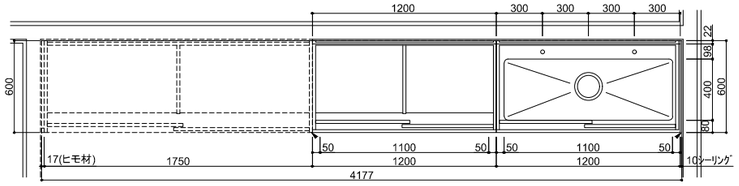


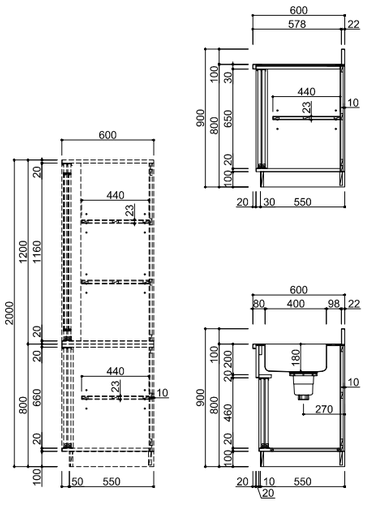
仕　様	
本体主材	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼
引違戸 (ガラス戸)	枠組:両面メラミン化粧パーティクルボード　木口:シート貼 ガラス:透明強化ガラスt4mm、樹脂製ガラス押え縁 樹脂成型レール、調整式戸車、樹脂製空気孔付舟底引手
引違戸	両面メラミン化粧パーティクルボード　木口:シート貼 樹脂成型レール、調整式戸車、樹脂製空気孔付舟底引手
棚 板	メラミン化粧MDFフラッシュ 木口:樹脂シートt1.0mm貼 棚ダボφ9 (3段)
台 輪	ポリ合板貼

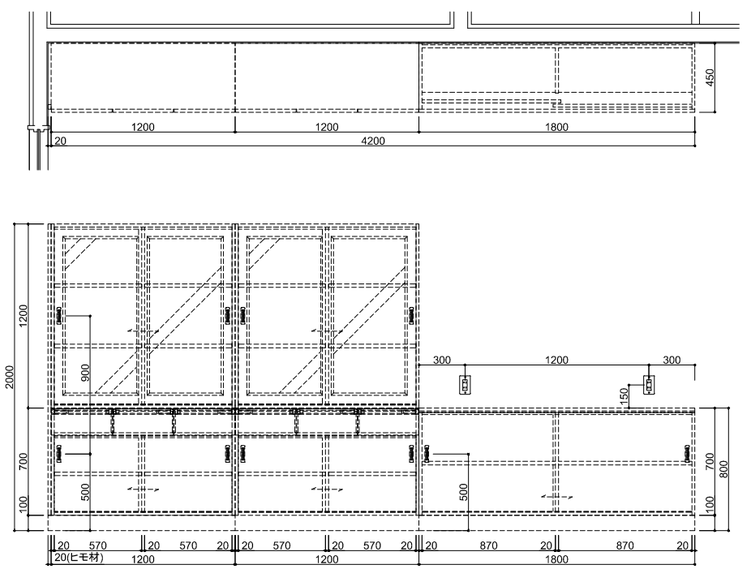
仕　様	
天 板	ステンレス SUS430 t1.0mm(R付) 表面仕上:#400 下地合板 t9mm
シンク	ステンレス SUS430 t1.0mm 表面仕上:#400
本体主材	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼 *取外し式地板:メラミン化粧MDFt4mm(ビス止)
引違戸	両面メラミン化粧パーティクルボード　木口:シート貼 樹脂成型レール、調整式戸車、樹脂製空気孔付舟底引手
棚 板	メラミン化粧MDFフラッシュ 木口:樹脂シートt1.0mm貼 棚ダボφ9 (3段)
台 輪	ポリ合板貼
附 属 器 具	
大型ゴミカゴ付排水トラップ	N-14BPs　1

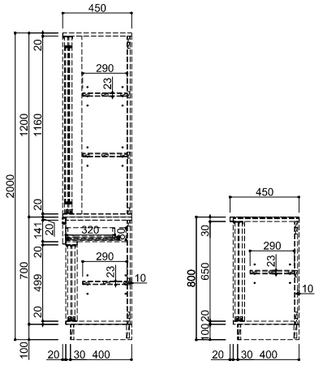
仕　様	
本体主材	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼
引違戸 (ガラス戸)	枠組:両面メラミン化粧パーティクルボード　木口:シート貼 ガラス:透明強化ガラスt4mm、樹脂製ガラス押え縁 樹脂成型レール、調整式戸車、樹脂製空気孔付舟底引手
引違戸	両面メラミン化粧パーティクルボード　木口:シート貼 樹脂成型レール、調整式戸車、樹脂製空気孔付舟底引手
引 出	口板:両面メラミン化粧パーティクルボード　木口:シート貼 内部:両面メラミン化粧パーティクルボード 底板:メラミン化粧MDFt4mm スライドレール、品名差付ラインハンドル
棚 板	メラミン化粧MDFフラッシュ 木口:樹脂シートt1.0mm貼 棚ダボφ9 (3段)
台 輪	ポリ合板貼

仕　様	
天 板	ステンレス SUS430 t1.0mm(R付) 表面仕上:#400 下地合板 t9mm
本体主材	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼
引違戸	両面メラミン化粧パーティクルボード　木口:シート貼 樹脂成型レール、調整式戸車、樹脂製空気孔付舟底引手
棚 板	メラミン化粧MDFフラッシュ 木口:樹脂シートt1.0mm貼 棚ダボφ9 (3段)
台 輪	ポリ合板貼









--------　:別途工事

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
家具図及び備品参考図 (1)

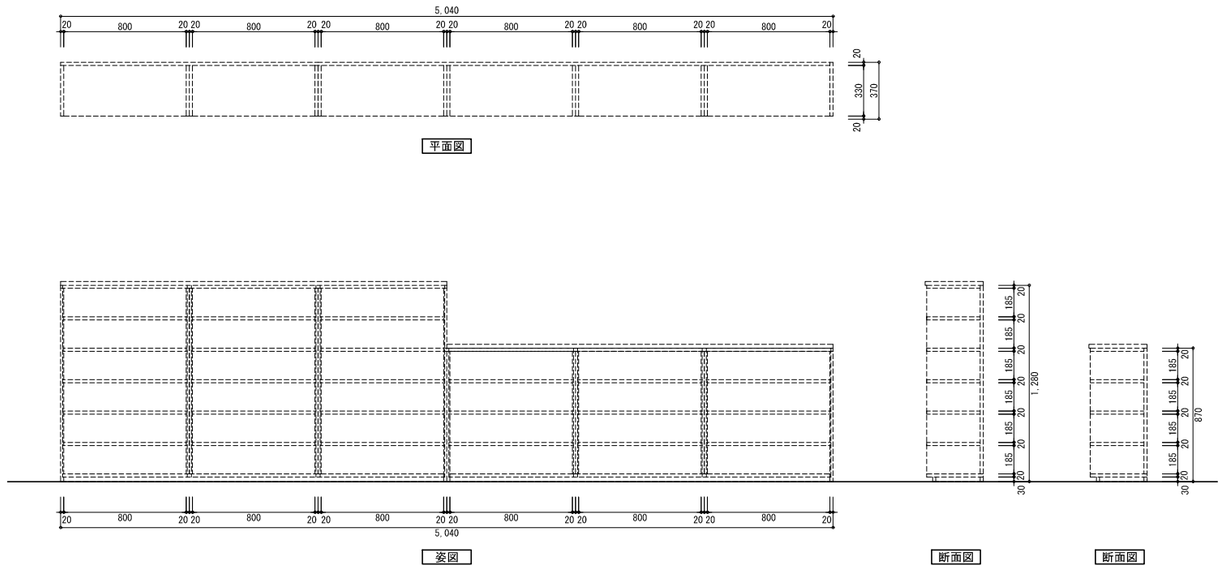
□ 縮尺
A3 : 1/ 40
A1 : 1/ 20

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-29

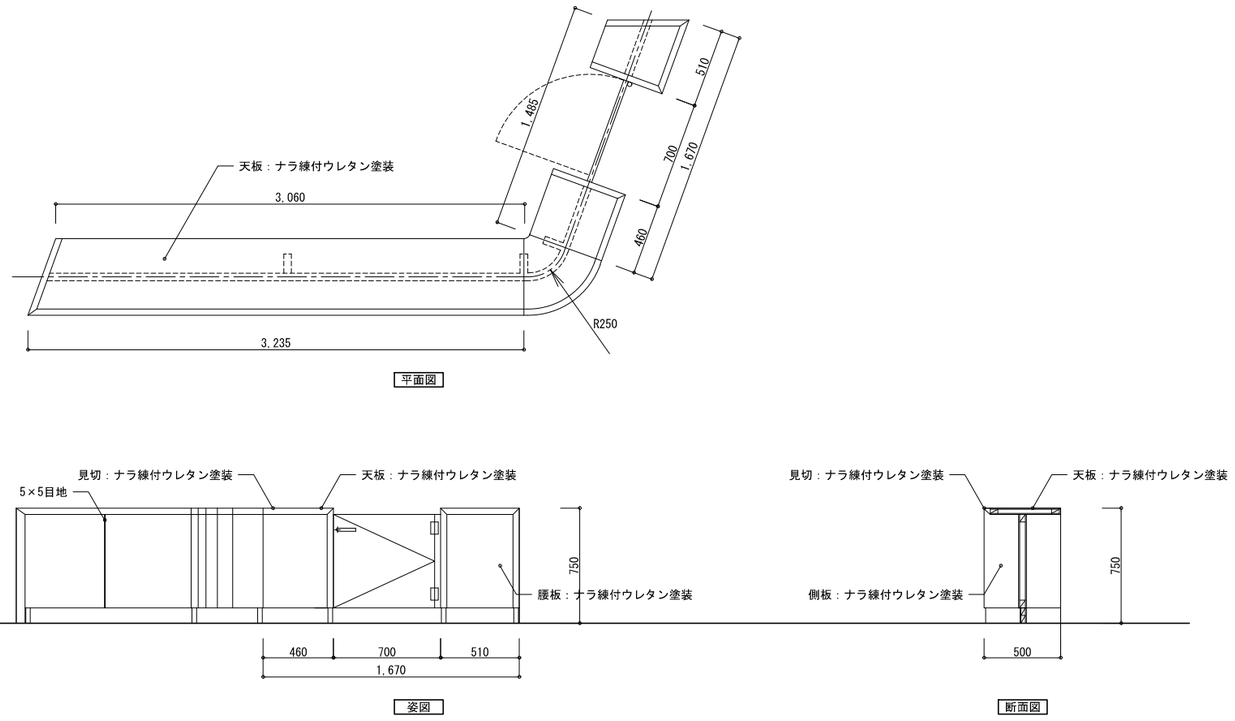
下足棚

見え掛りはマーレスボード
その他はポリ合板

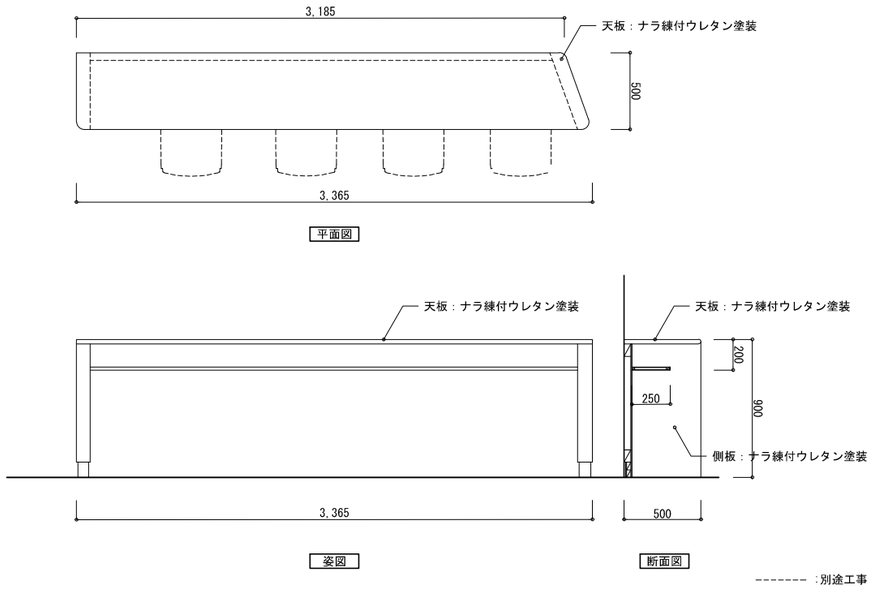


--------：別途工事

カフェカウンター



カフェテーブル



--------：別途工事

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

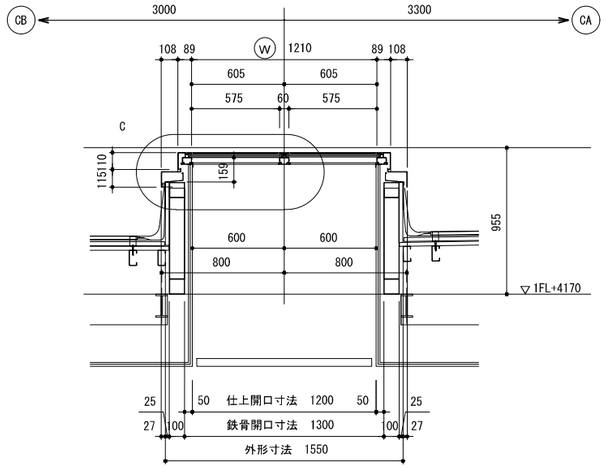
□ 図面名称
家具図及び備品参考図（2）

□ 縮尺
A3 : 1/ 40
A1 : 1/ 20

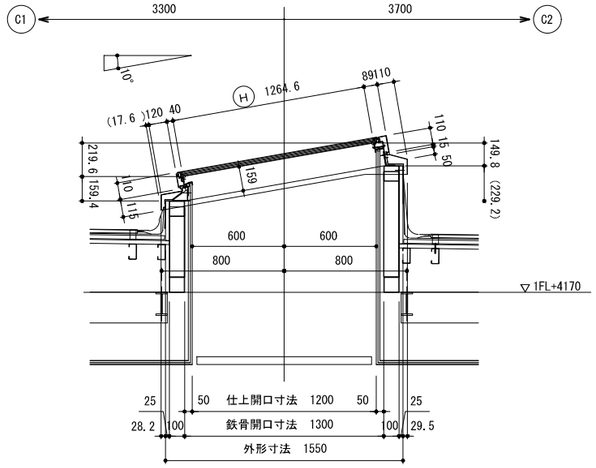
□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-30

カフェ部トップライト詳細図



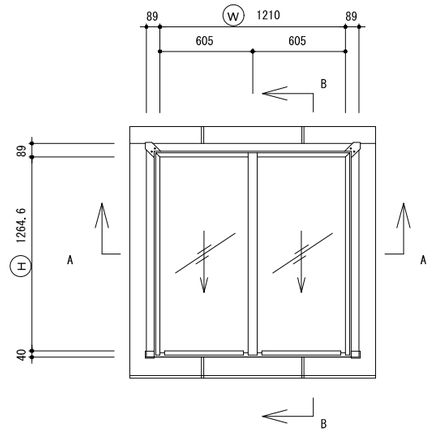
A-A 断面　　A3:1/400　A1:1/200



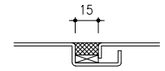
B-B 断面　　A3:1/400　A1:1/200

記号	名称	数量
⊖	片流れ W1210 x H1264.6	1台
ガラス	複層ガラス FL6+A6+NP6.8 （ガラスサイズ：600 × 1210　2枚/ 台）	
仕上	枠アルミシルバー	

・屋根30分耐火仕様（告示 1399号第5の3 ）
・水抜カバー
・二段水切

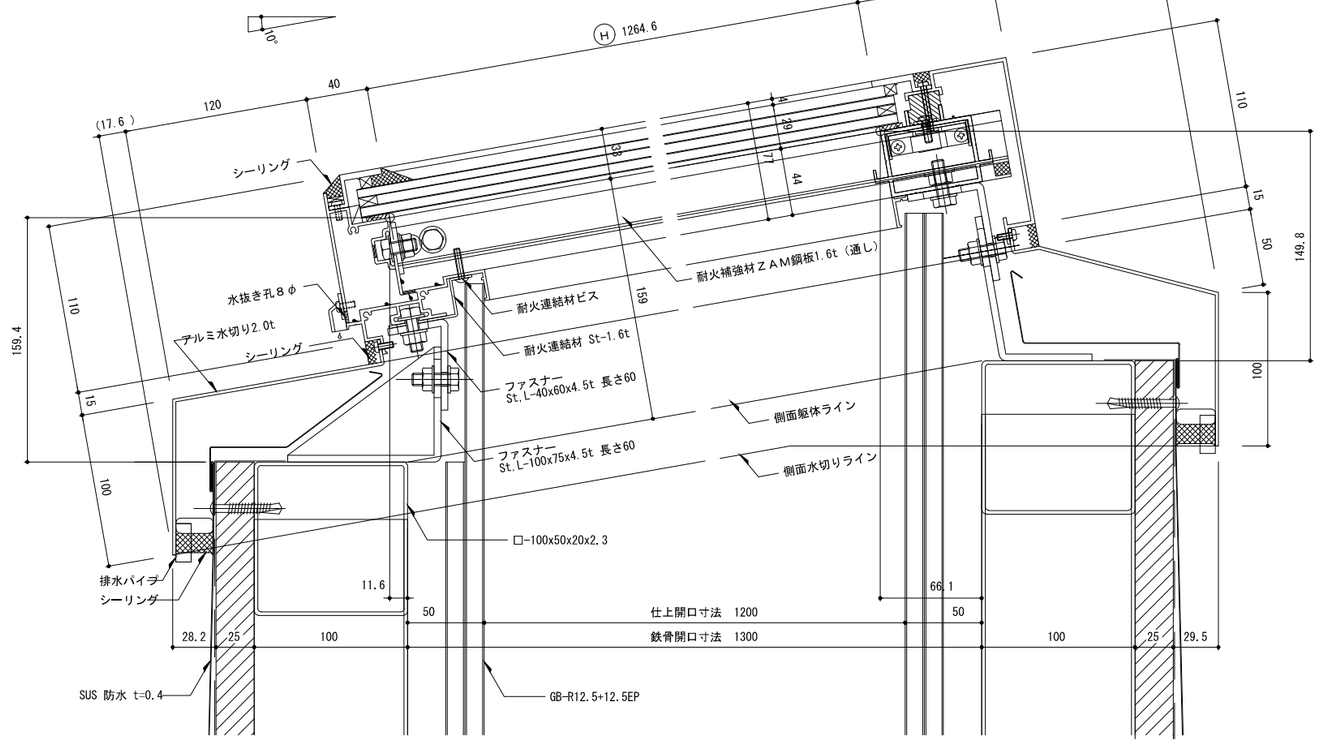


平 面 図　　A3:1/400　A1:1/200



水切りジョイント目地詳細

C 断面詳細図



B-B 断面詳細図

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称：椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

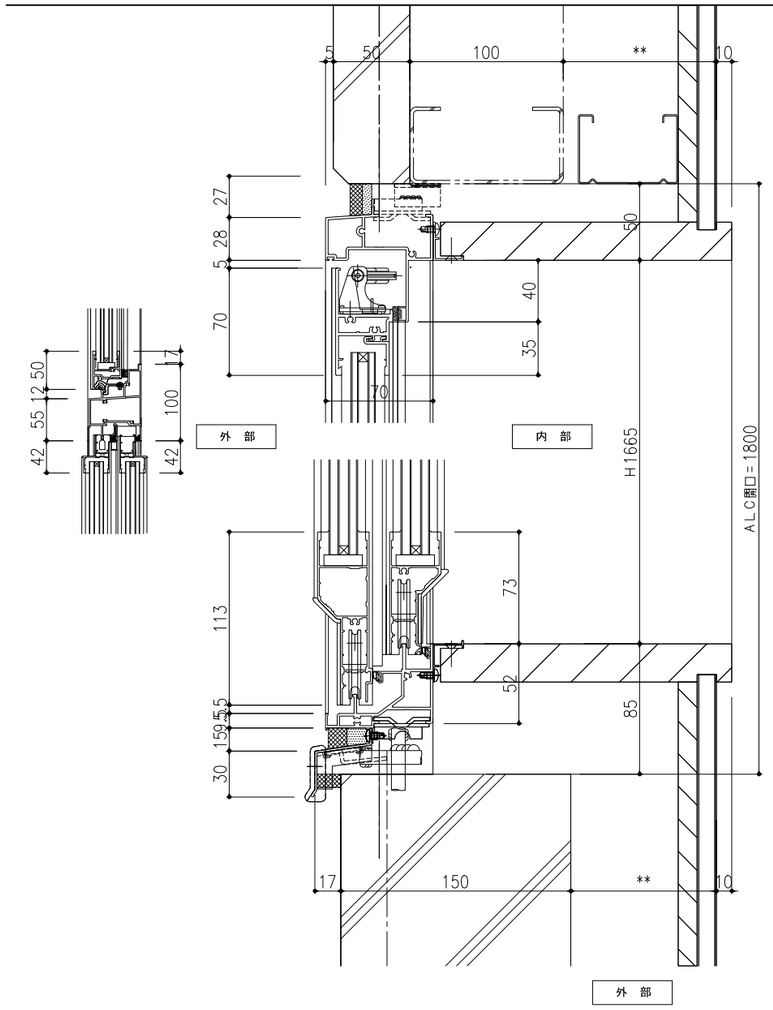
□ 図面名称：建具詳細図（1）

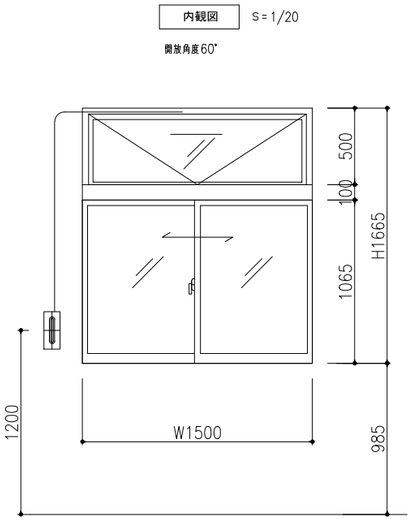
□ 縮尺：A3 : 1/ 40　A1 : 1/ 20

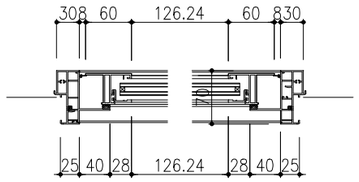
□ 日付：2017/07/31

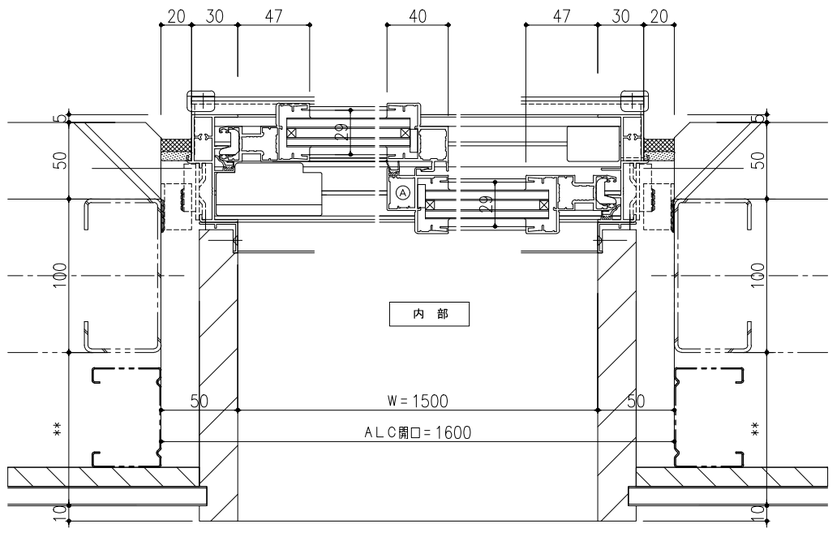
□ 図面番号：A-31

外倒し排煙窓 45度_引違い窓

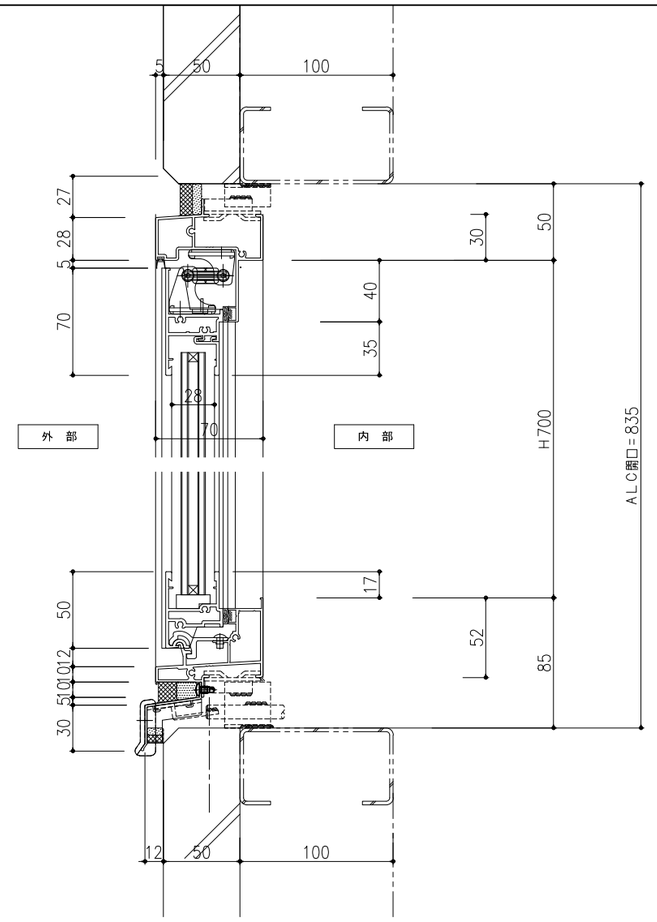


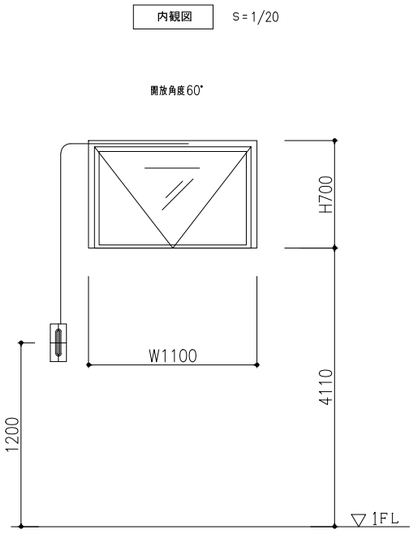


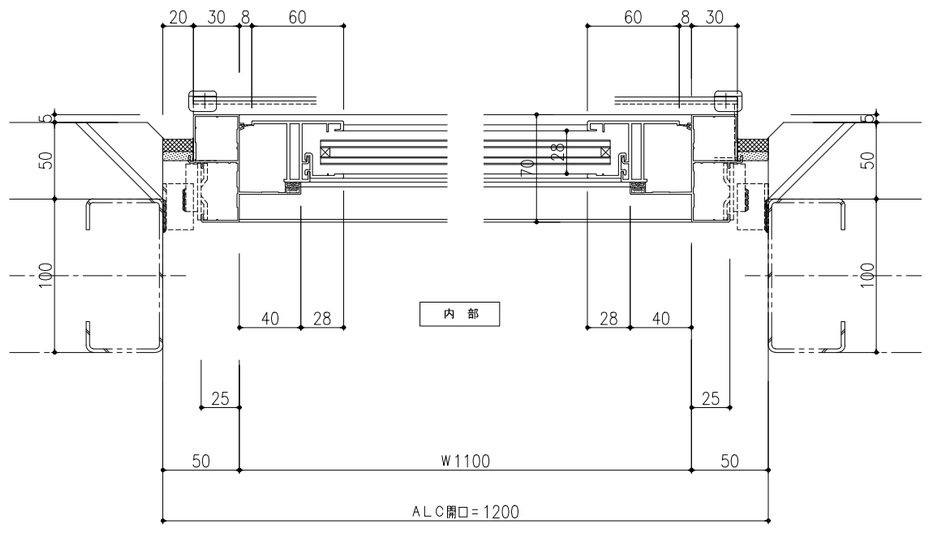




外倒し排煙窓 45度

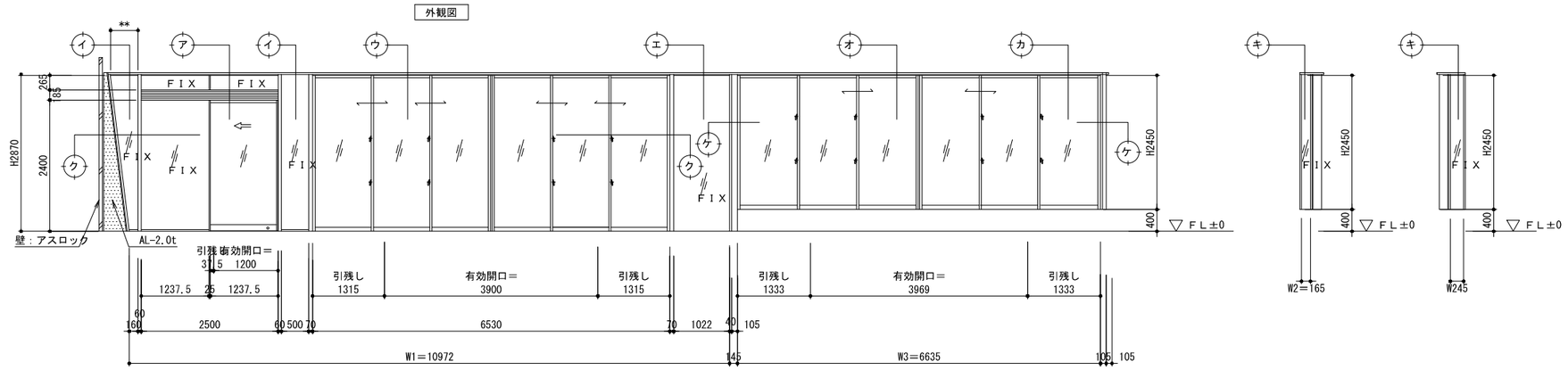






Shun Architect Office 株式会社 俊設計 一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号 一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文	□ CHECKED	□ 工事名称 椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事 □ 図面名称 建具詳細図（2）	□ 縮尺 A3：1/4 A1：1/2 □ 日付 2017/07/31	□ 図面番号 A-32

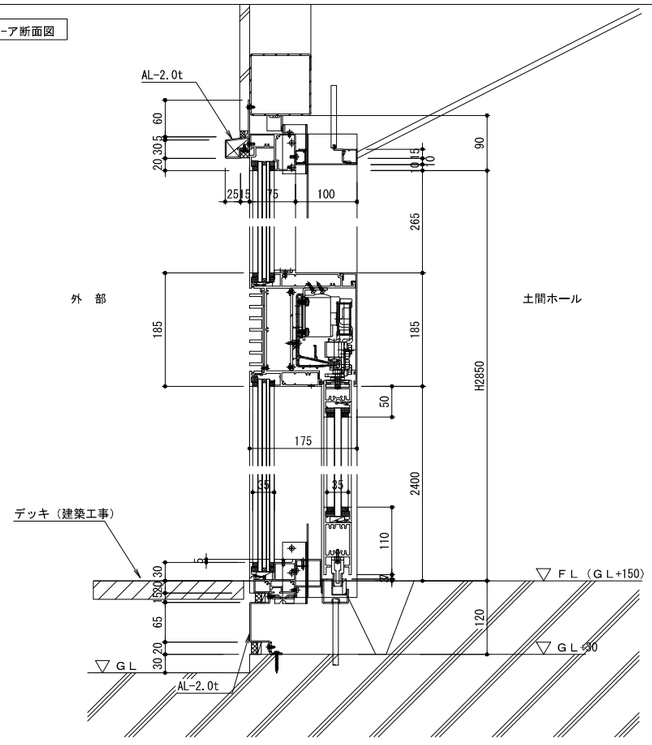
外観図



A3:1/100
A1:1/50

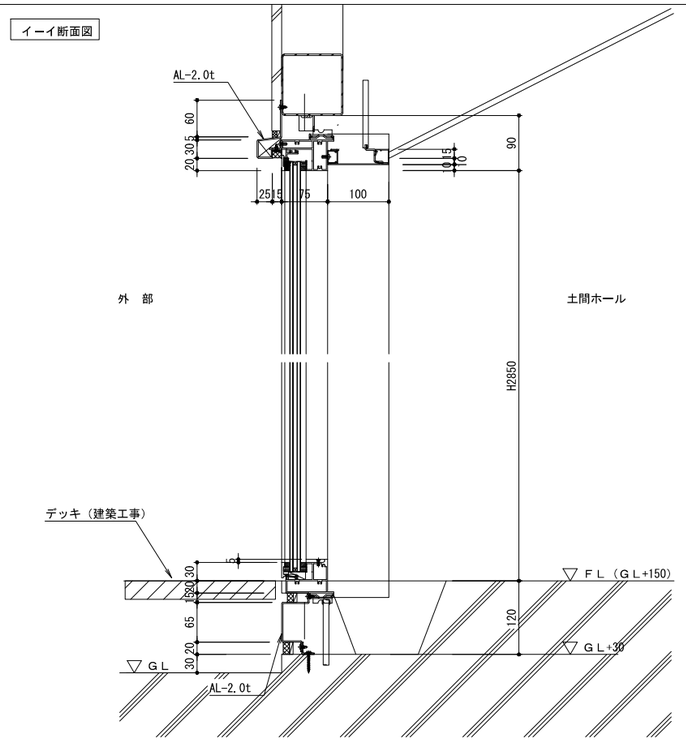
西側サッシ詳細図

アーア断面図



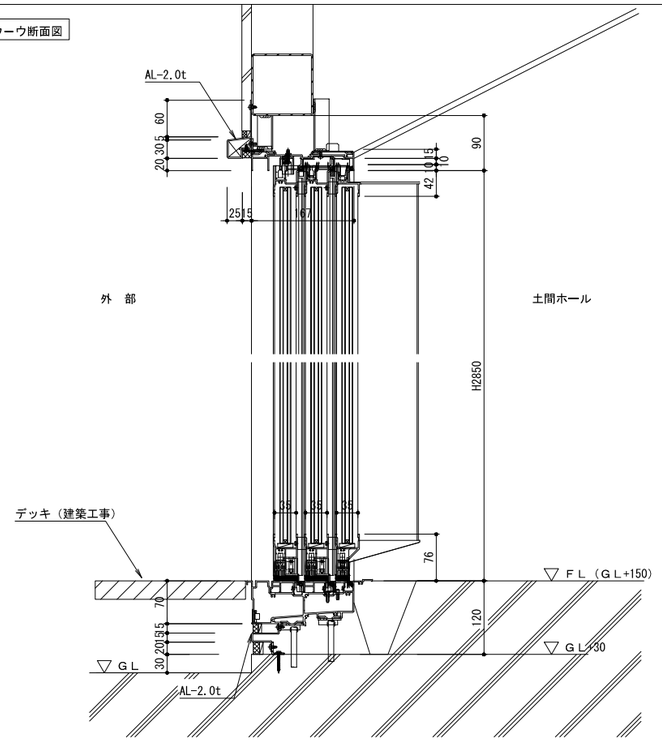
西側サッシ詳細図

イーイ断面図



西側サッシ詳細図

ウーウ断面図



Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
建具詳細図（3）

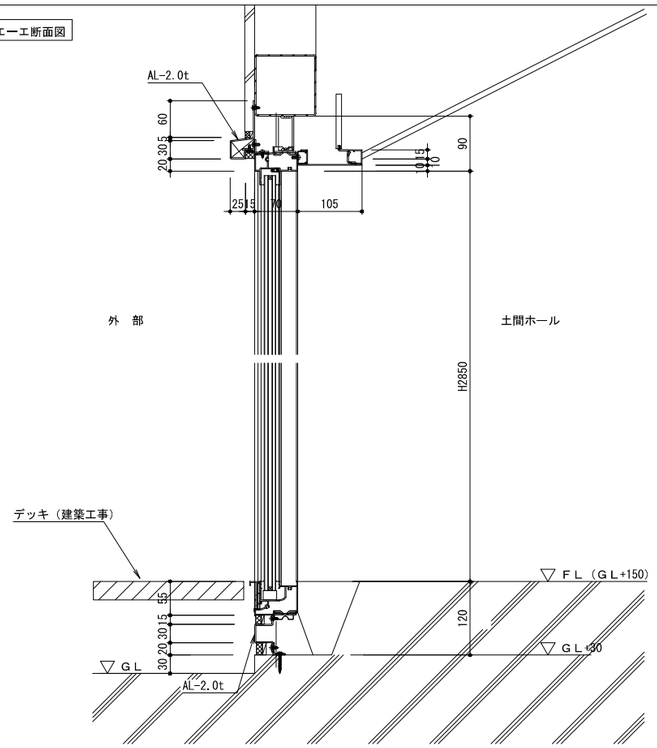
□ 縮尺
A3 : 1/ 10
A1 : 1/ 5

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-33

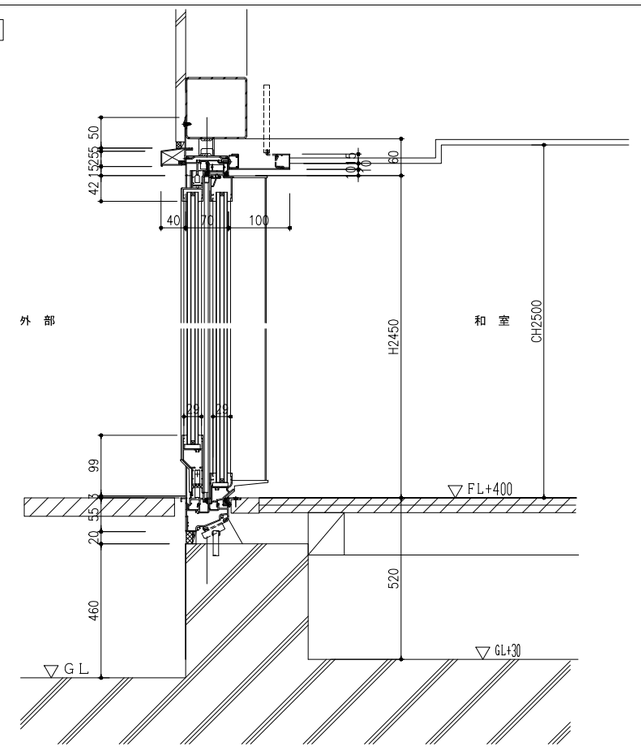
西側サッシ詳細図

エーエ断面図



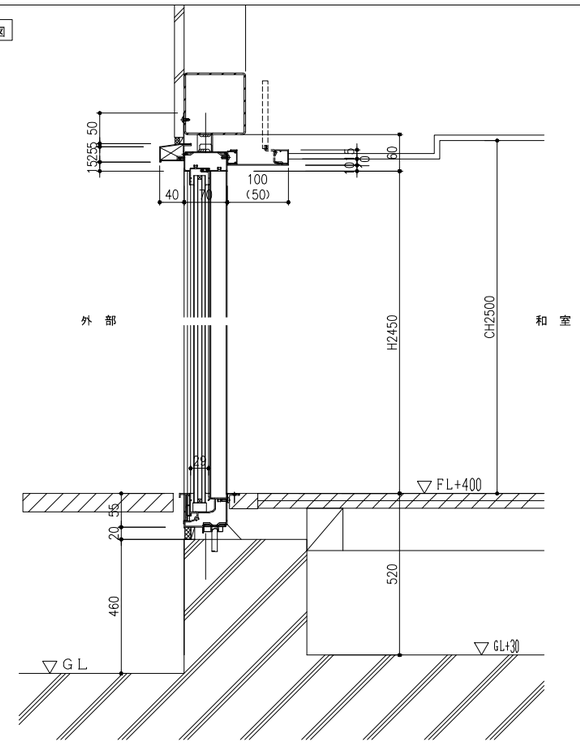
西側サッシ詳細図

オーオ断面図



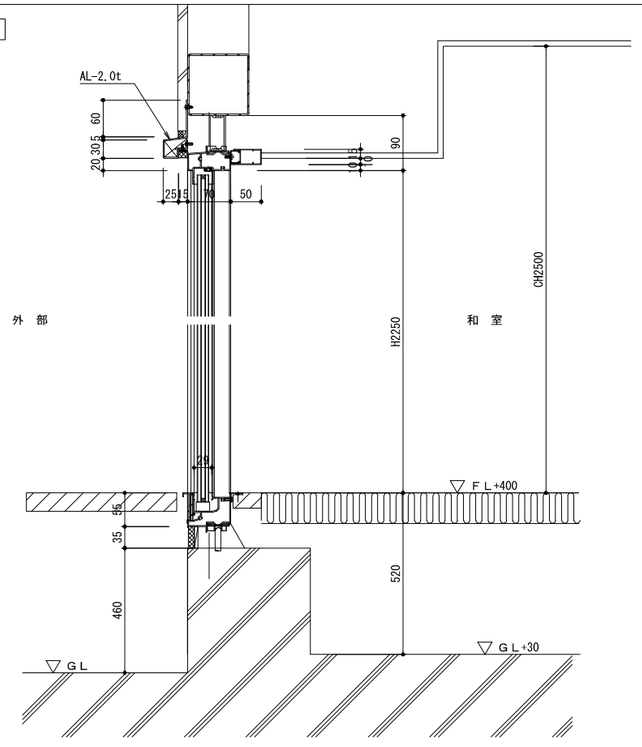
西側サッシ詳細図

カーカ断面図



西側サッシ詳細図

キーキ断面図



Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
建具詳細図（4）

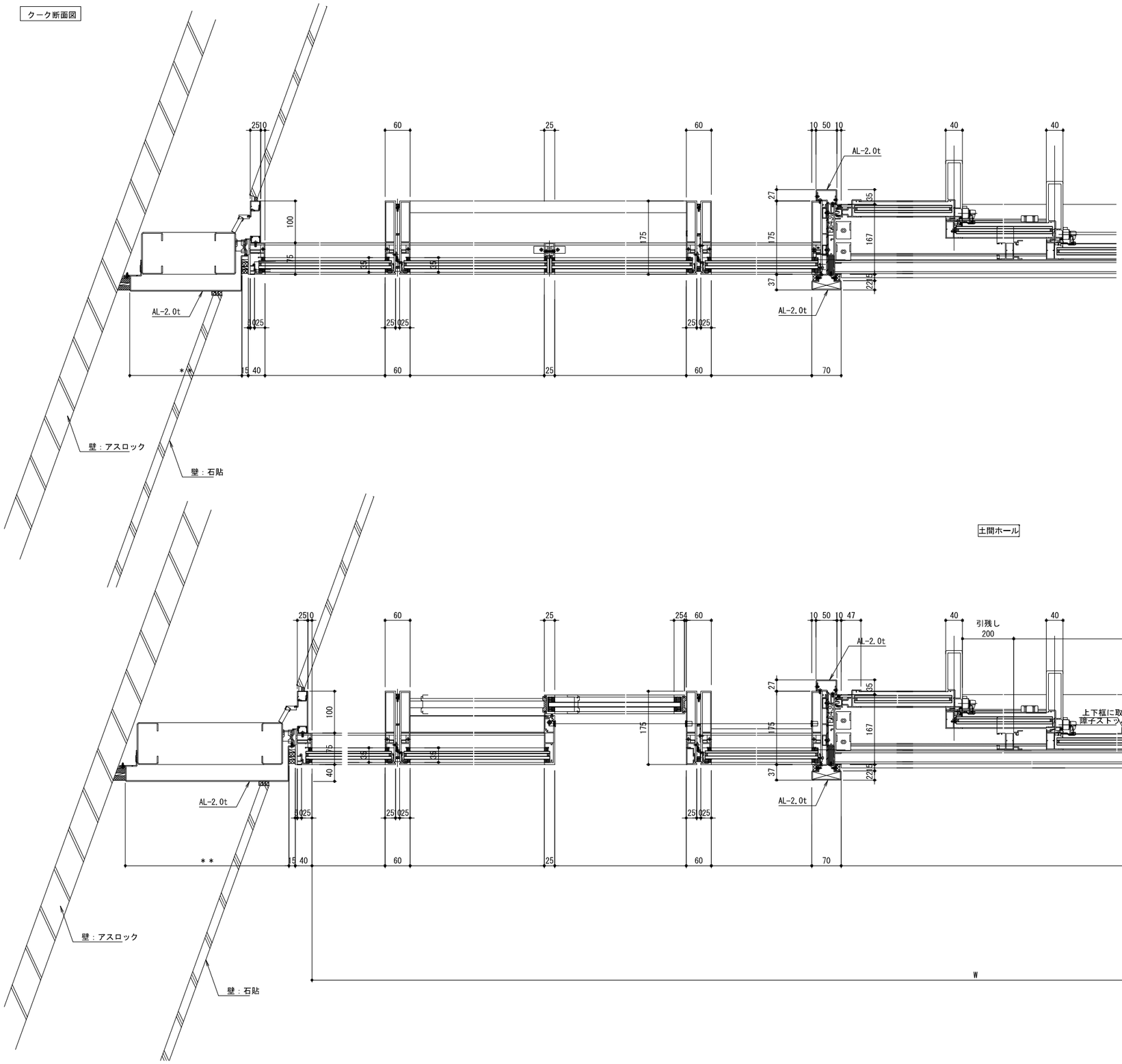
□ 縮尺
A3 : 1/ 10
A1 : 1/ 5

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-34

西側サッシ詳細図

クーク断面図



土間ホール

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
建具詳細図（5）

□ 縮尺
A3 : 1/ 10
A1 : 1/ 5

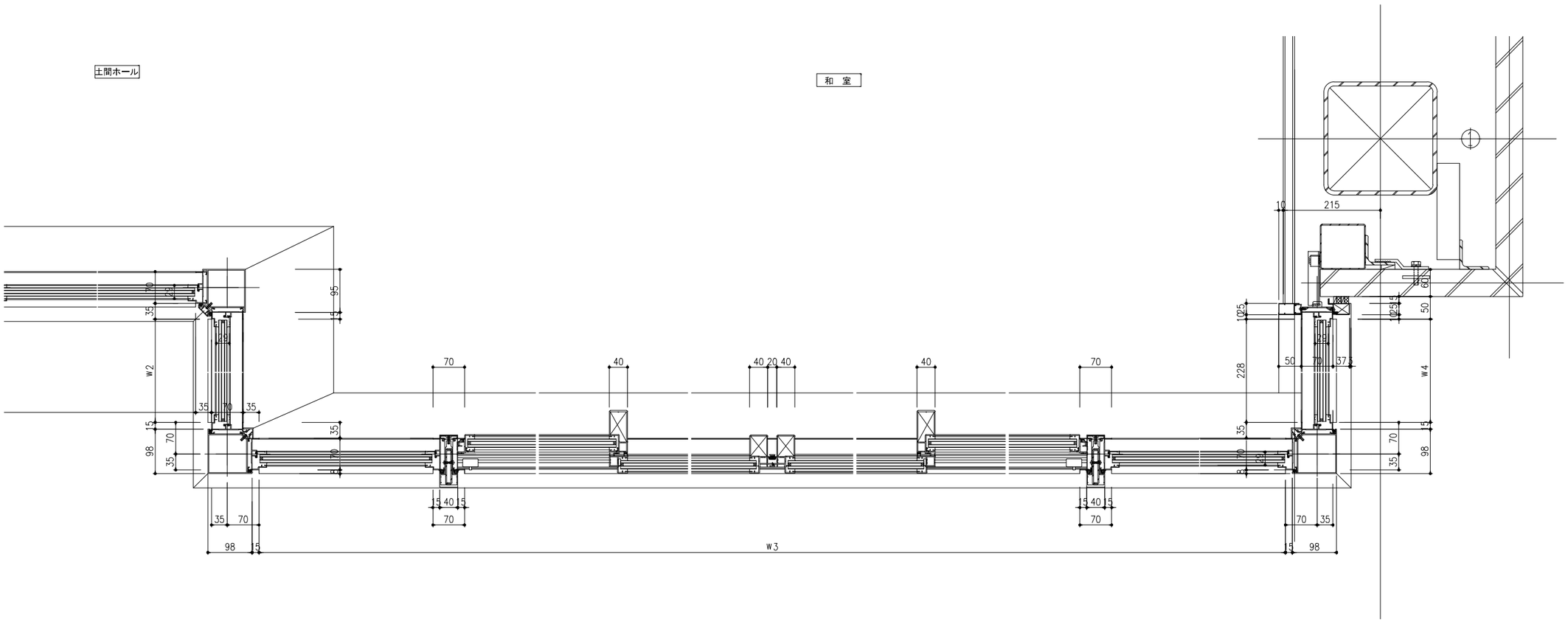
□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-35

ケーケ断面図

土間ホール

和　室



外　部

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

CHECKED

工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

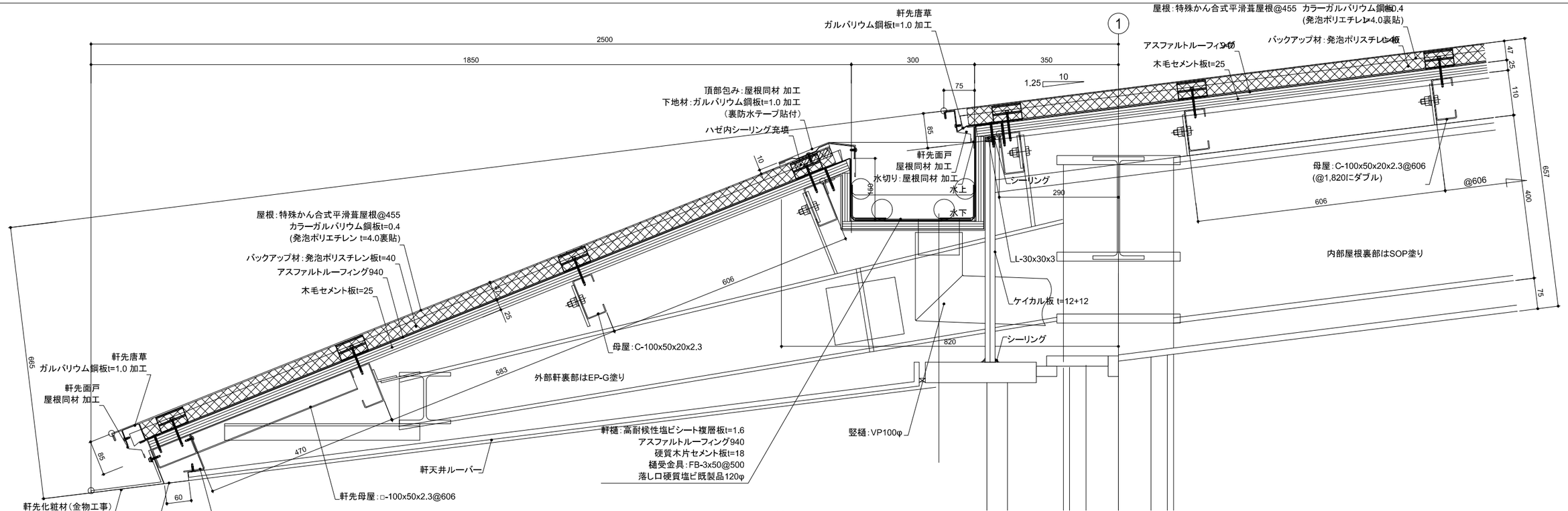
図面名称
建具詳細図（6）

縮尺
A3 : 1/ 10
A1 : 1/ 5

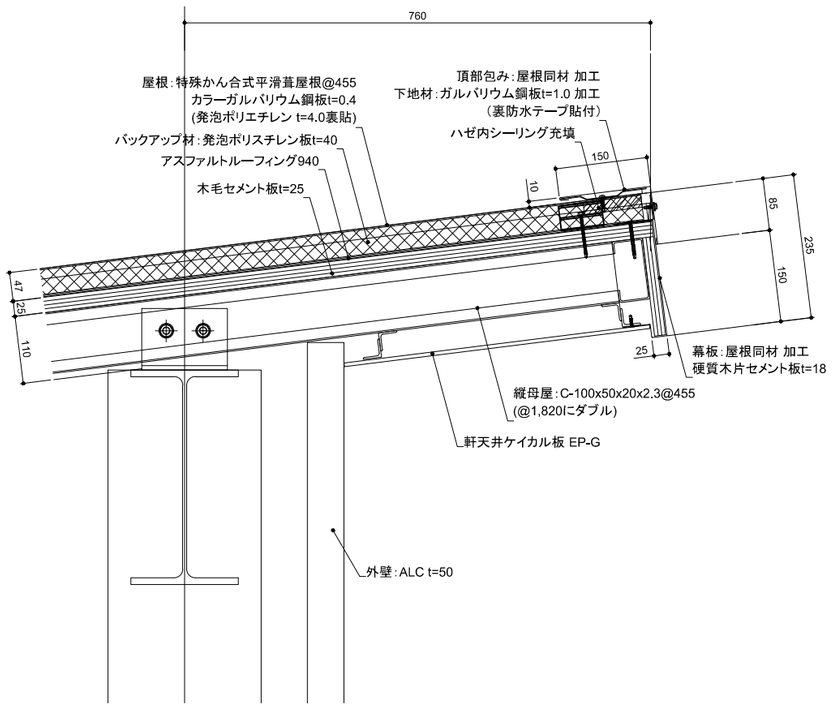
日付
2017/07/31

図面番号
A-36

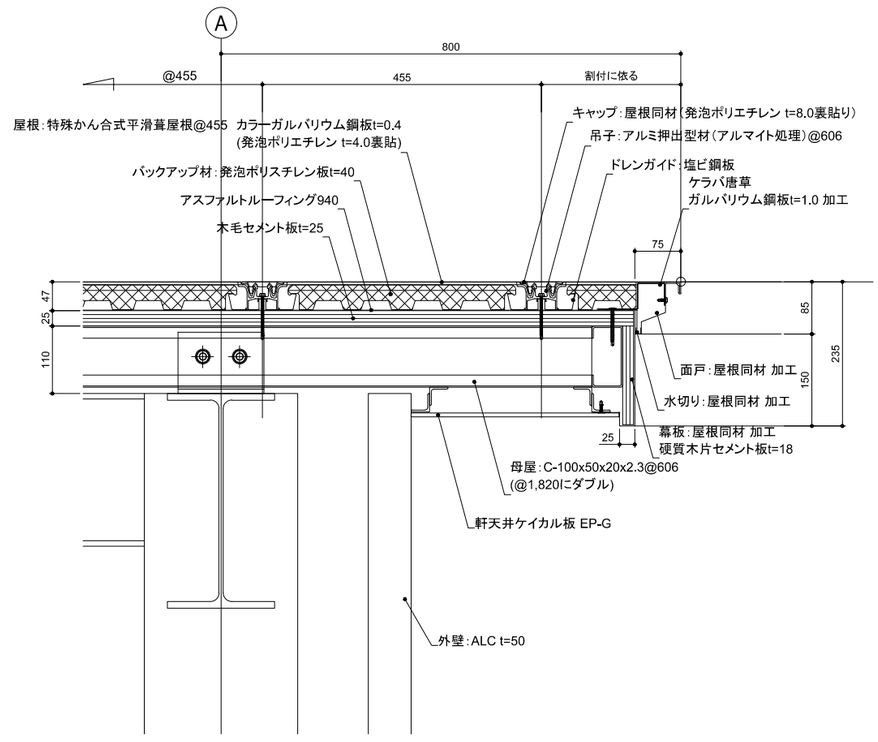
屋根詳細図 軒先断面図 【A】



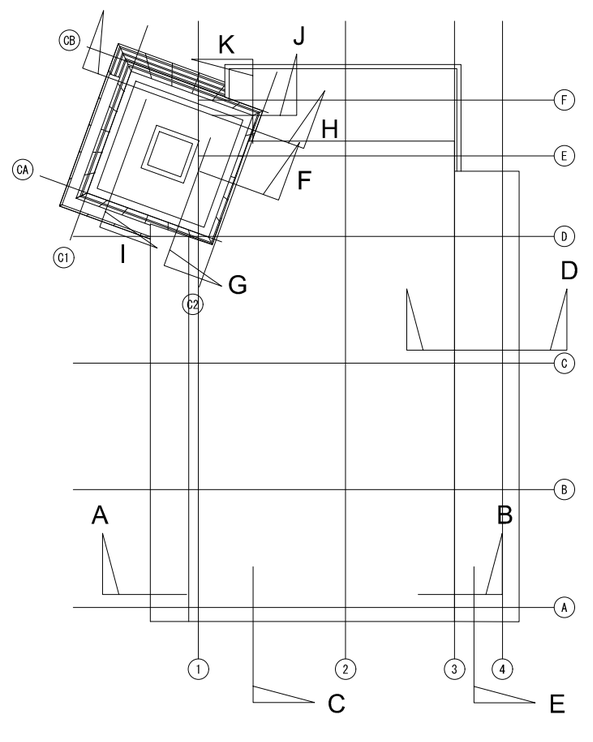
屋根詳細図 ケラバ断面図 【B】



屋根詳細図 ケラバ断面図 【C】

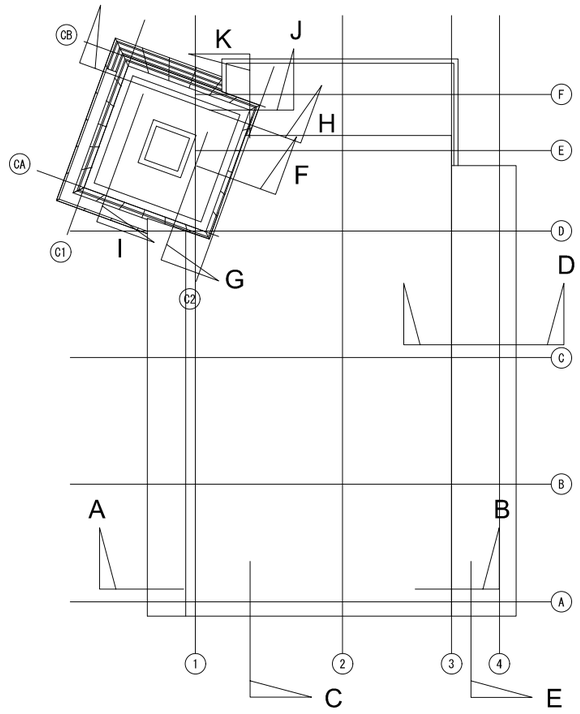


屋根詳細図 キープラン

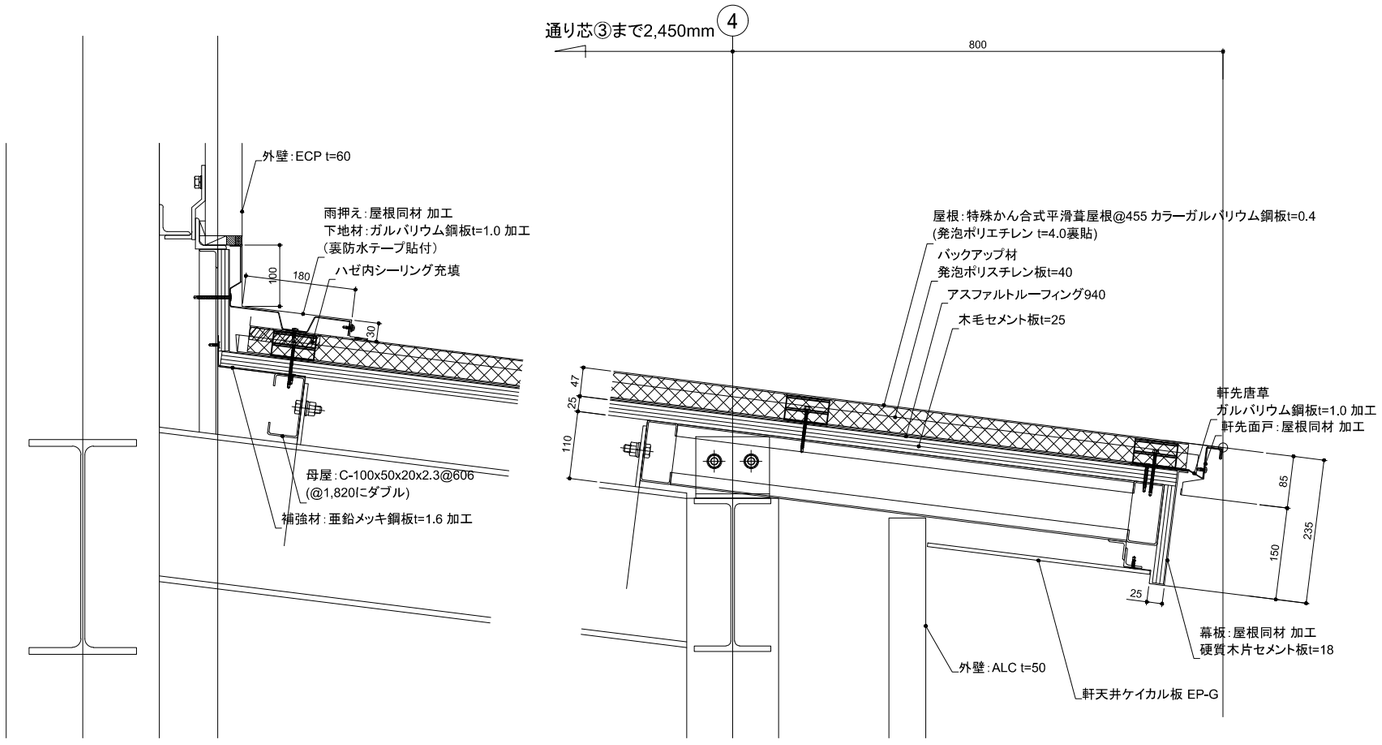


Shun Architect Office 株式会社 俊設計 一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号 一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文	CHECKED	工事名称: 椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事 図面名称: 屋根詳細図 (1)	縮尺: A3 : 1/ 10, A1 : 1/ 5 日付: 2017/07/31	図面番号: A-37

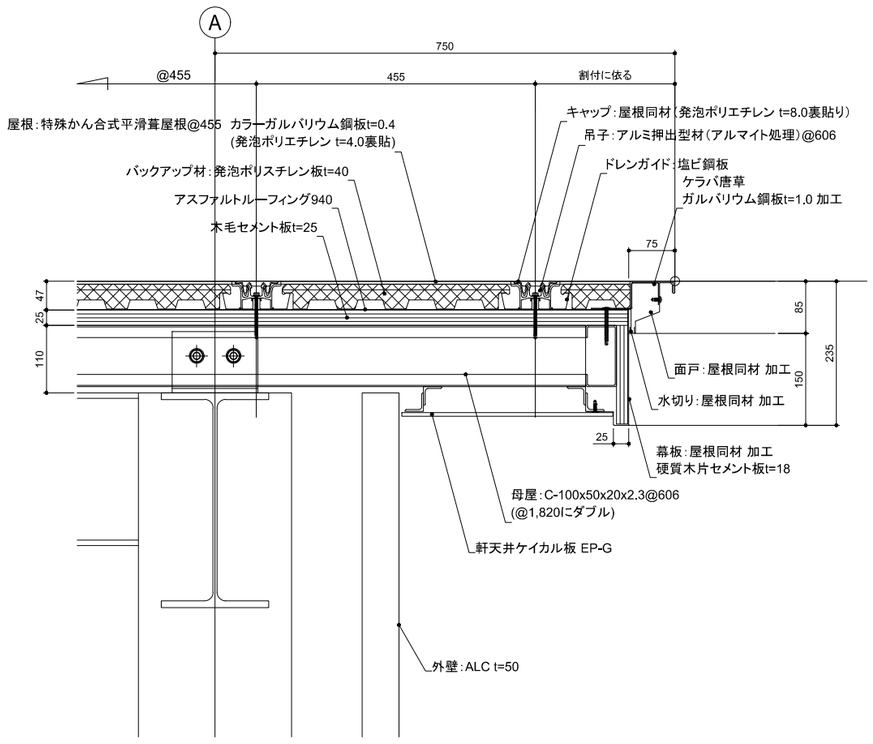
屋根詳細図　キープラン



屋根詳細図　軒先・壁立上り断面図【D】



屋根詳細図　ケラバ断面図【E】



Shan Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

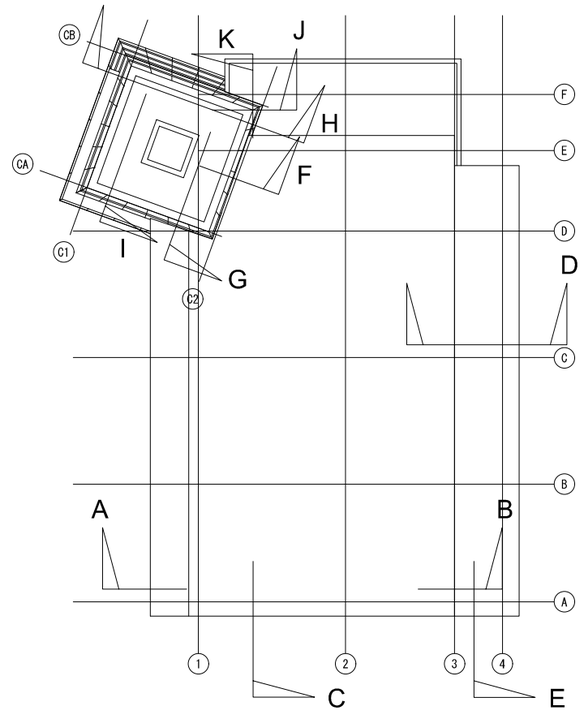
□ 図面名称
屋根詳細図（2）

□ 縮尺
A3 : 1/10
A1 : 1/5

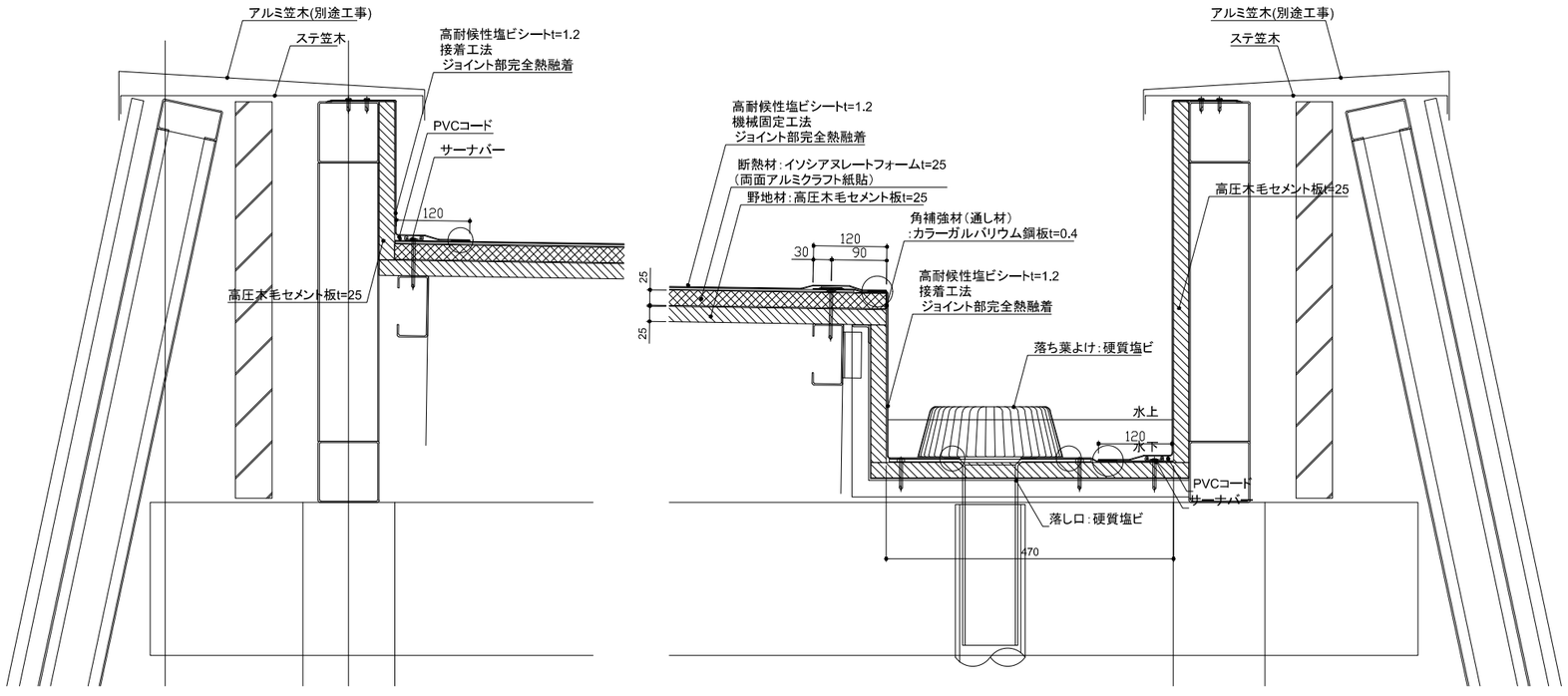
□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-38

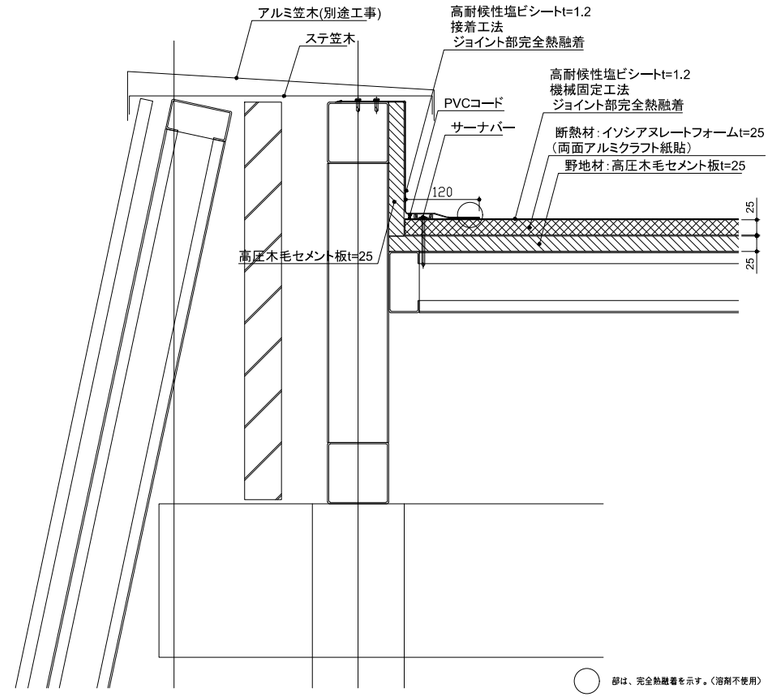
屋根詳細図　キープラン



屋根詳細図　シート防水　樋・壁立上り断面図【H】



屋根詳細図　ステンレス防水　壁捨て谷断面図【I】



○部は、完全熱融着を示す。(溶剤不使用)

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録　第1-61409号
一級建築士大臣登録　第243931　　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

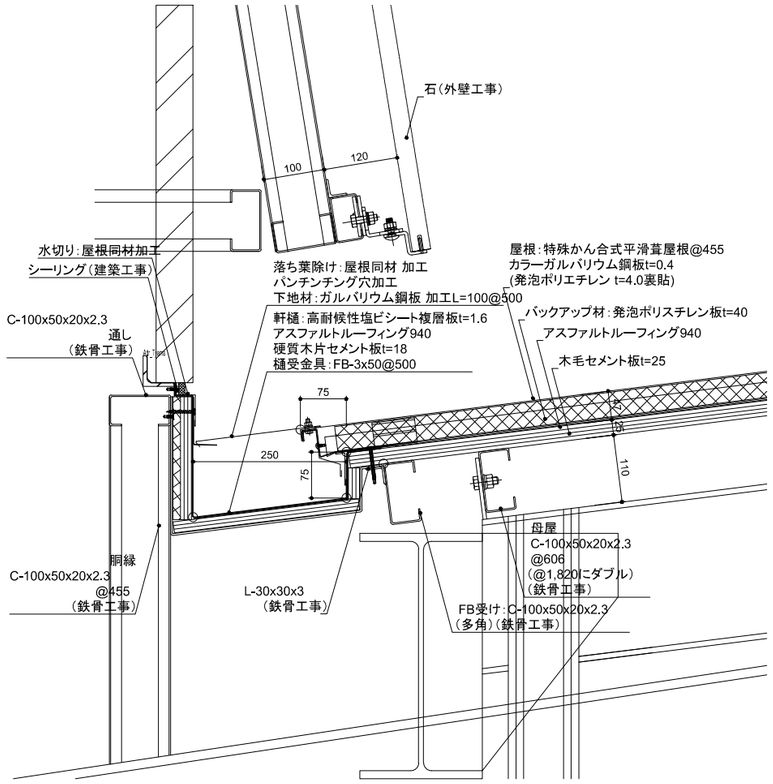
□ 図面名称
屋根詳細図（3）

□ 縮尺
A3 ： 1/ 10
A1 ： 1/ 5

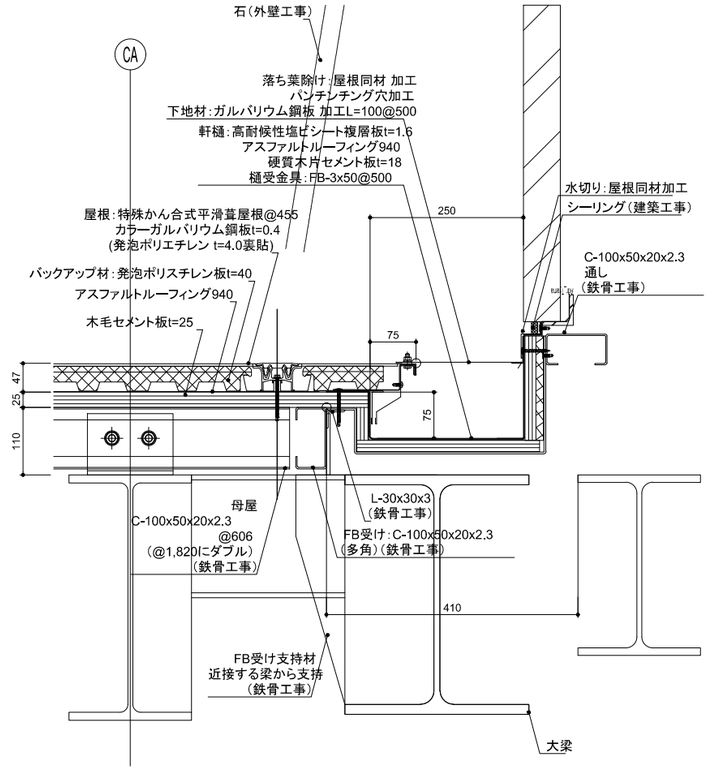
□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-39

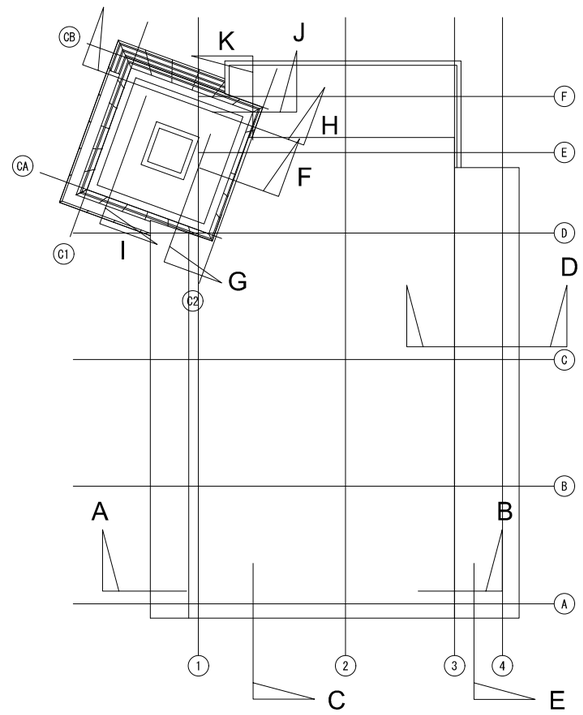
【F】 樋廻り断面図（水上）



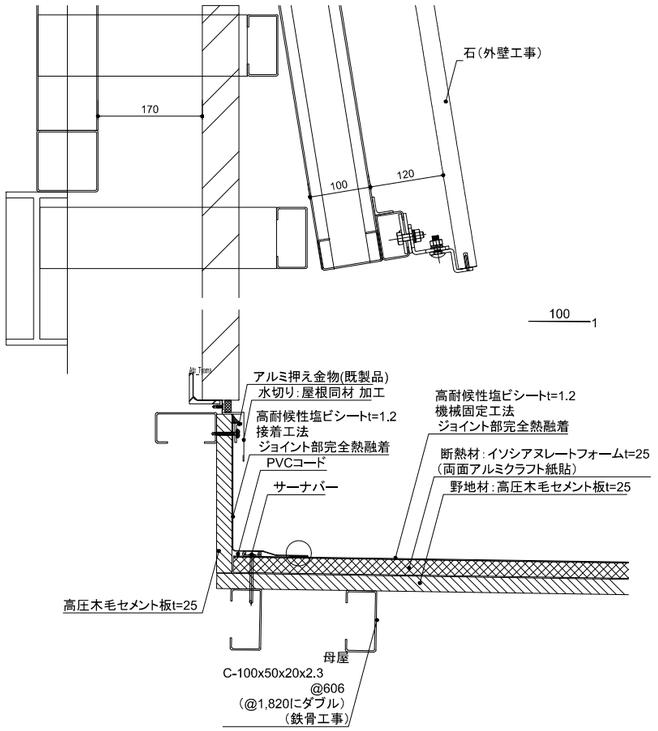
【G】 樋廻り断面図（中間）



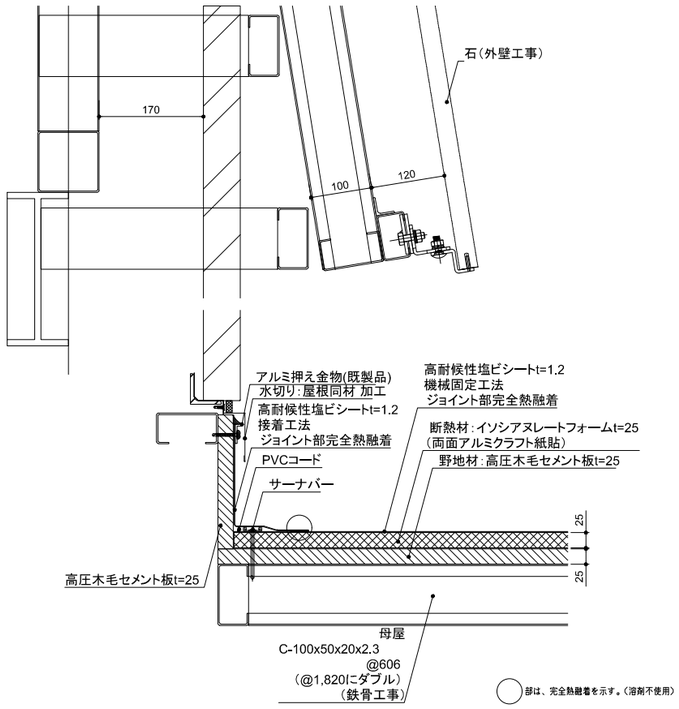
屋根詳細図 キープラン



【J】 ステンレス防水 カフェ外壁立上り断面図



【K】 ステンレス防水 カフェ外壁捨て谷断面図



Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

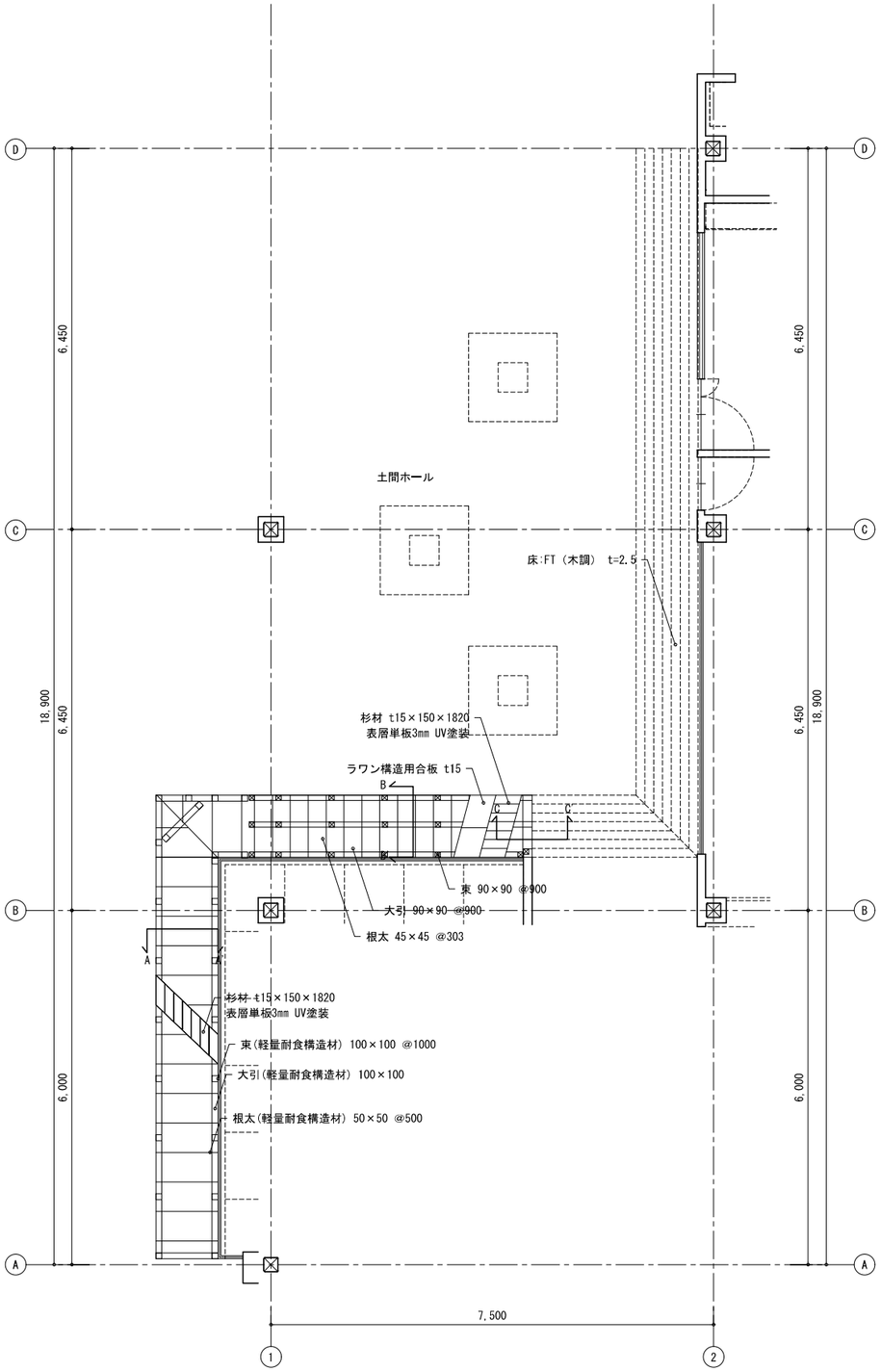
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
屋根詳細図（4）

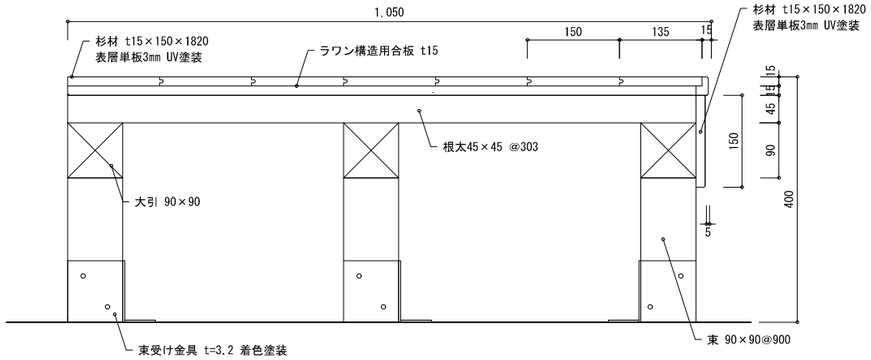
□ 縮尺
A3 ： 1/ 10
A1 ： 1/ 5

□ 日付
2017/07/31

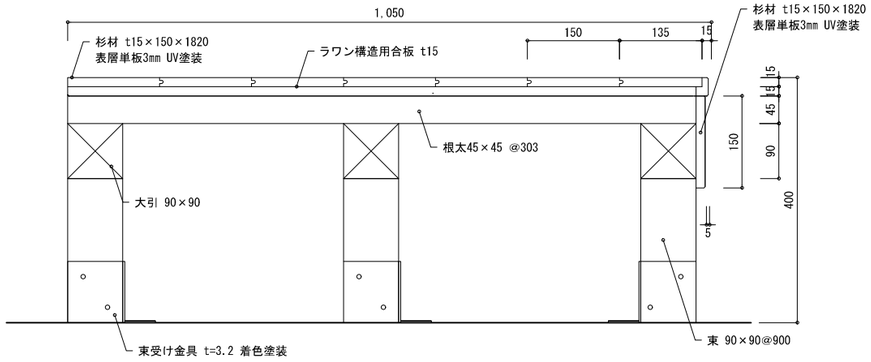
□ 図面番号
A-40



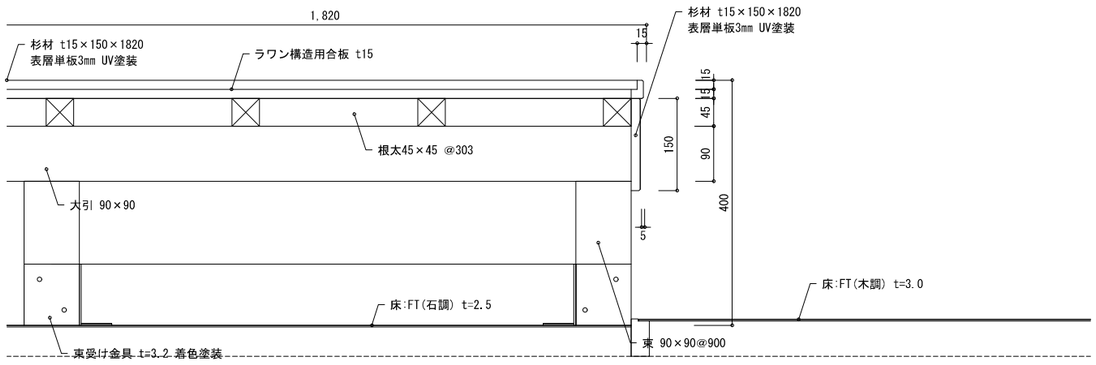
デッキ割付図



A-A' 断面図(屋外) 1/10



B-B' 断面図(屋内) 1/10



C-C' 断面図(屋内) 1/10

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

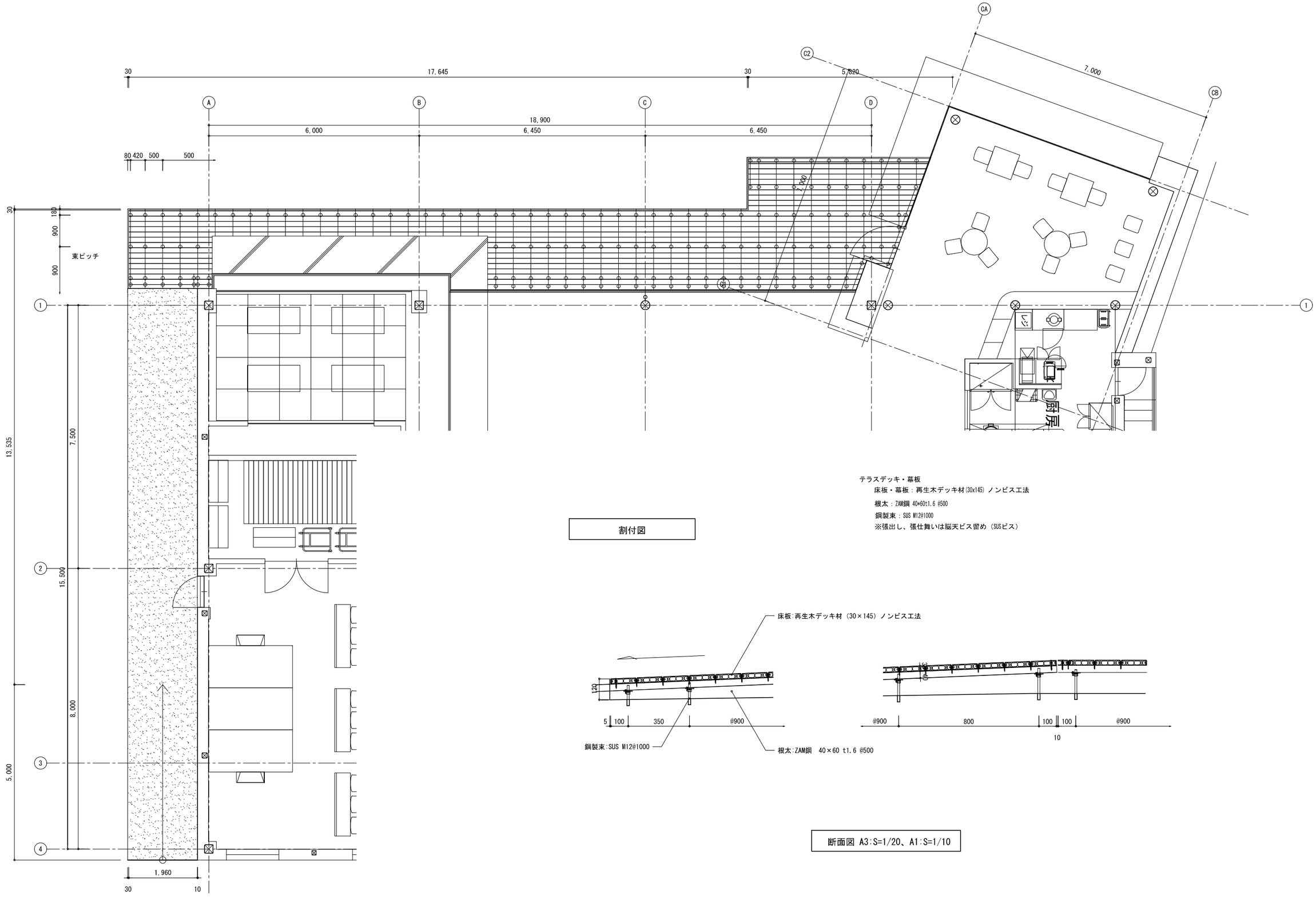
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
デッキ詳細図 (1)

□ 縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-41

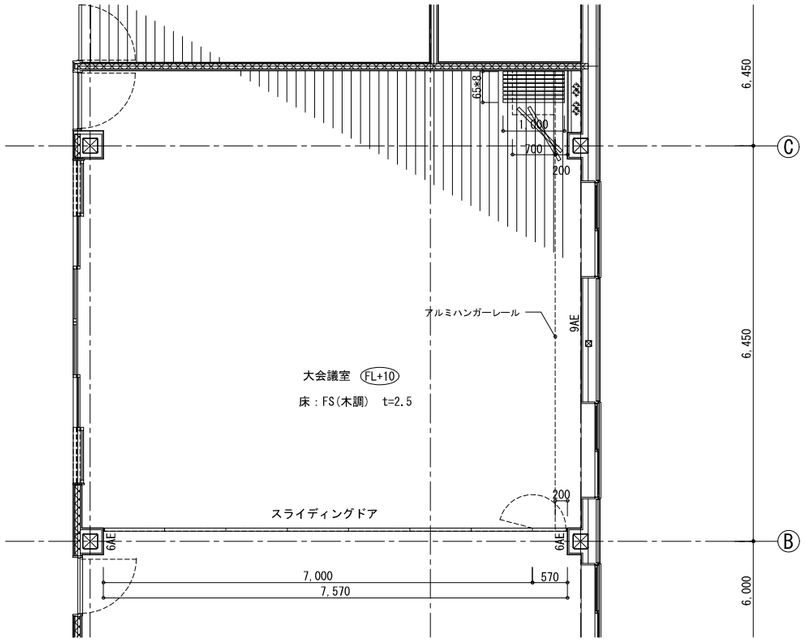


テラスデッキ・幕板
床板・幕板：再生木デッキ材(30x145) ノンビス工法
根太：ZAM鋼 40×60t1.6 @500
鋼製束：SUS M12@1000
※張出し、張仕舞いは脳天ビス留め（SUSビス）

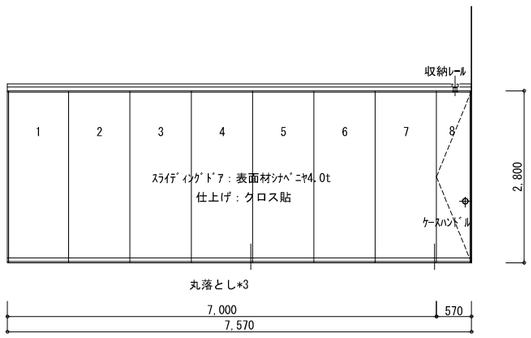
割付図

断面図 A3:S=1/20、A1:S=1/10

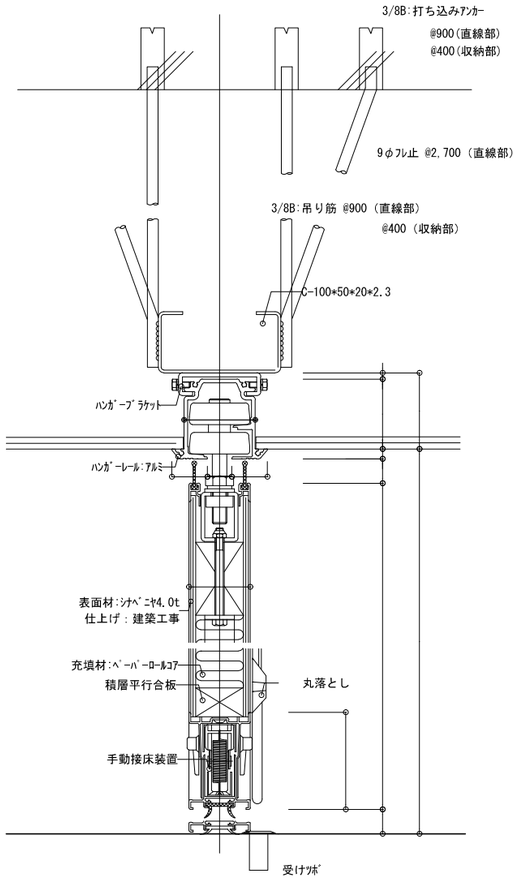
Shun Architect Office 株式会社 俊設計 一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号 一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文	□ CHECKED	□ 工事名称 椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事 □ 図面名称 デッキ詳細図（2）	□ 縮尺 A3 : 1/ 100 A1 : 1/ 50 □ 日付 2017/07/31	□ 図面番号 A-42



スライディングドア平面図

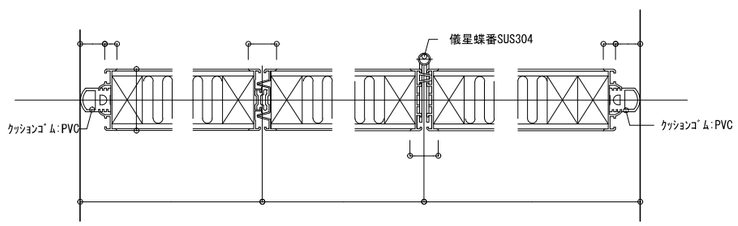


スライディングドア展開図



パネル断面詳細図 A3:S=1/10、A1:S=1/5

ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞﾄﾞｱ:SD50ﾊﾟﾈﾙ仕様		
	ﾊﾟﾈﾙ	
ｶﾏﾁ寸法	50mm	
ﾊﾟﾈﾙ厚	46mm	
ﾊﾟﾈﾙ表面材	ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔ:4.0t	
	ｸﾛｽ別途工事	
ﾊﾟﾈﾙ内部充填材	ﾍﾞｰﾊﾟｰﾛｰﾙｺｱt=20	
ﾊﾟﾈﾙ重量	普通ﾊﾟﾈﾙ	17Kg/m2
	丁番ﾊﾟﾈﾙ	23Kg/m2
	ﾄﾞｱﾊﾟﾈﾙ	18Kg/m2
接天･接床範囲	20mm	
ﾊﾟﾈﾙ召合せ構造	ｱﾙﾐ押出型材	
	特殊形状合成ｺﾞﾑ	
接天･接床操作	手動接天･接床	
ﾚｰﾙｾｯﾄ	ｱﾙﾐｼｰﾙ(100Kg用)	



パネル平面詳細図 A3:S=1/10、A1:S=1/5

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

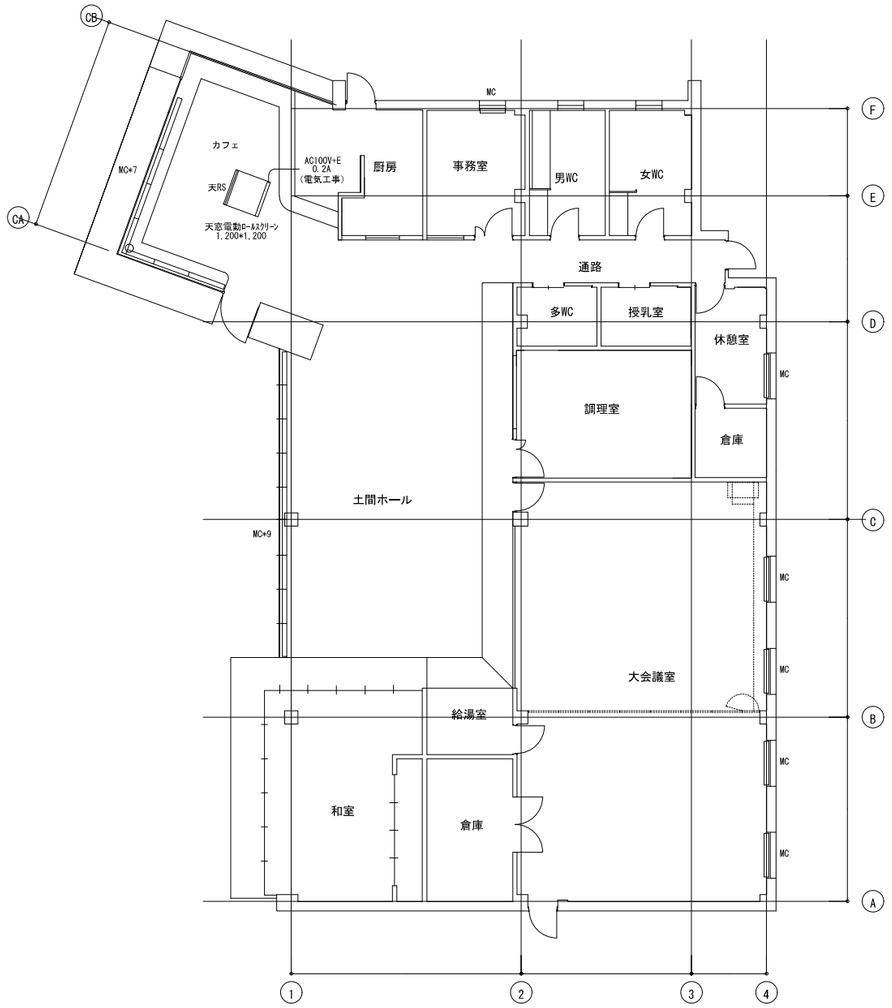
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
スライディングドア詳細図

□ 縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-43



1階：ブラインド配置図・配線図

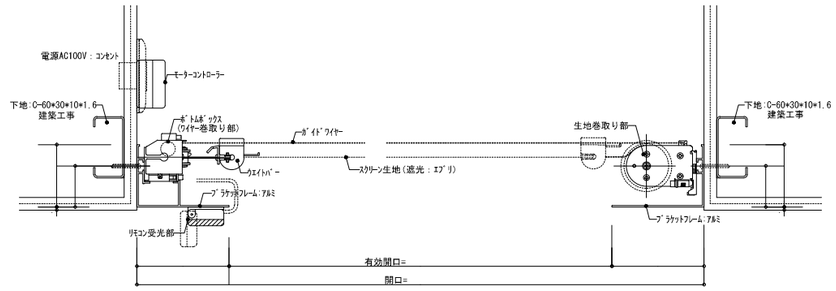
天RS　天窓電動ロールスクリーン

部屋名	寸法(W*H)	ヵ所数	備考
カフェ	1200*1200	1	TL-1

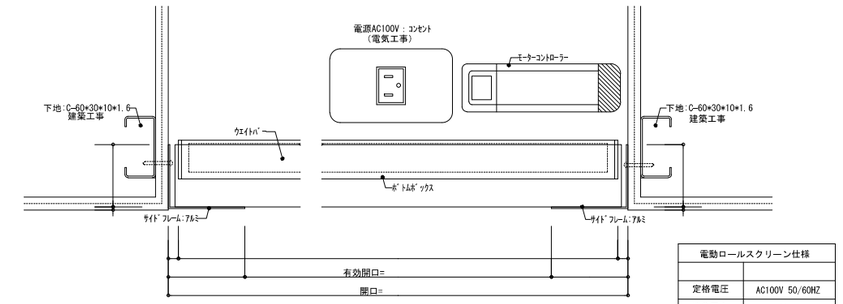
MC　ギヤ式横型ブラインド：スラットW25(高遮蔽)

部屋名	寸法(W*H)	ヵ所数	備考
事務室	750*565	1	AW-3
	サッシ:W750*H565		
休憩室	1480*1815	1	AW-1
大会議室	1480*1815	4	AW-1
	サッシ:W1500*H1665		
カフェ	1200*2750	5	AD-1
	1250*2750	1	
	1760*2750	1	
	サッシ:H2500		

部屋名	寸法(W*H)	ヵ所数	備考
土間ホール	1090*3000	7	AD-2
	1400*3000	2	
	CH=2,850		



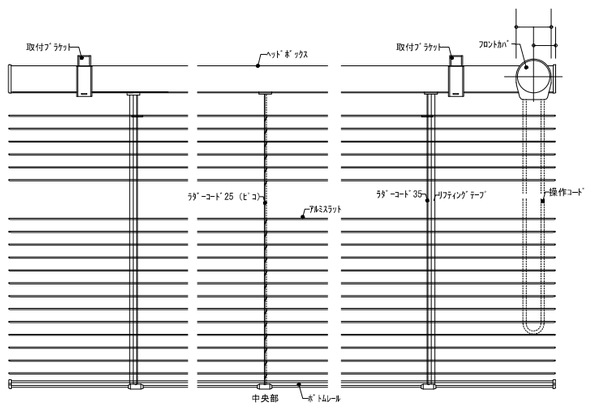
電動ロールスクリーン(W)断面図　A3:S=1/10,A1:S=1/5



天RS

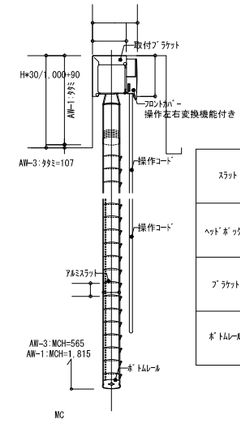
電動ロールスクリーン(L)断面図　A3:S=1/10,A1:S=1/5

電動ロールスクリーン仕様	
定格電圧	AC100V 50/60HZ
消費電力	20W
使用温度	-10d～45d



MC

手動ブラインド正面図　A3:S=1/10,A1:S=1/5



MC

手動ブラインド断面図　A3:S=1/10,A1:S=1/5

ｽﾗｯﾄ	材質	耐食ｱﾙﾐ合金
	ｻｲｽﾞ	幅 35mm
	ｶﾗｰ	全45色
ﾍｯﾄﾞﾎﾞｯｸｽ	材質	電気亜鉛ﾒｯｷ鋼板
	ｻｲｽﾞ	幅 41mm 高さ 43mm
	ｶﾗｰ	ｽﾗｯﾄ色と同色・同系色
ﾌﾞﾗｹｯﾄ	材質	冷間圧延鋼板
	ｻｲｽﾞ	幅 49mm 高さ 53.8mm
	ｶﾗｰ	ｽﾗｯﾄ色と同色・同系色
ﾎﾞﾄﾑﾚｰﾙ	材質	電気亜鉛ﾒｯｷ鋼板
	ｻｲｽﾞ	幅 33mm 厚み 16.5mm
	ｶﾗｰ	ｽﾗｯﾄ色と同色・同系色

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

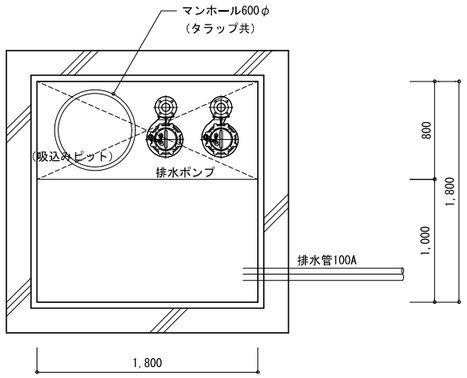
□ 図面名称
ブラインド詳細図

□ 縮尺
A3 : 1/ 200
A1 : 1/ 100

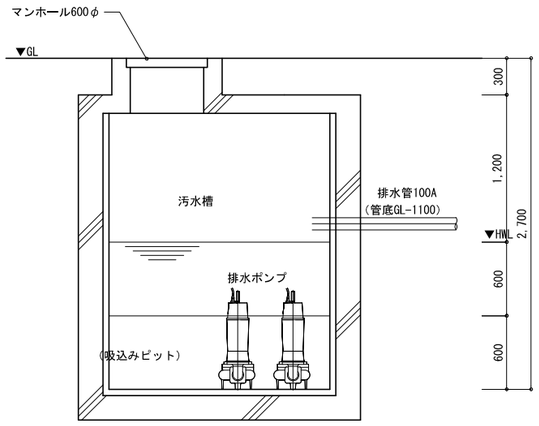
□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-44

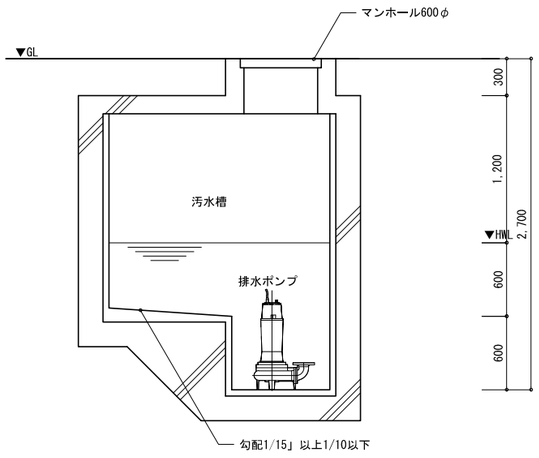
汚水槽詳細図



平面図



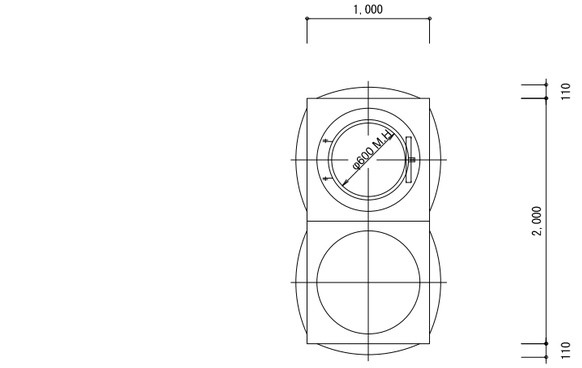
断面図①

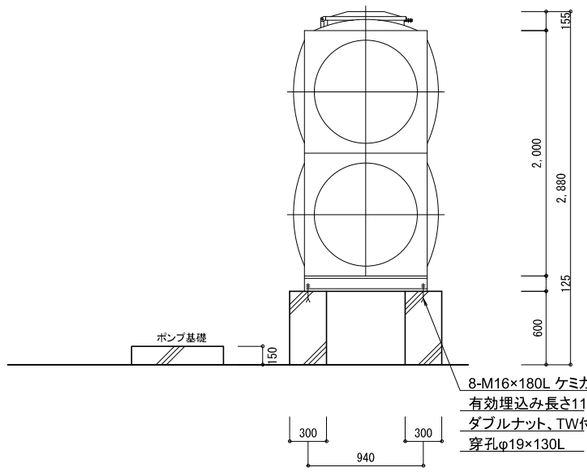


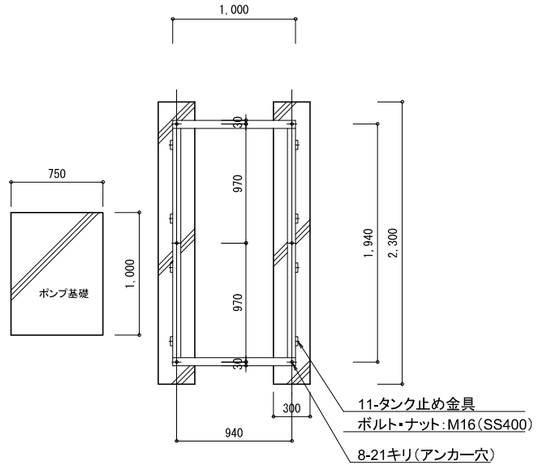
断面図②

基礎及び配筋計画については構造図による

受水槽詳細図







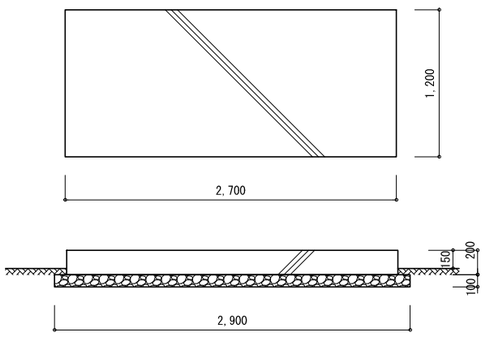
受台伏図



ステンレスパネル溶接形受水槽仕様		1基　S=1/30
寸　法	2000 × 1000 × 2000H	
本　体	天井板、側板上段、側板下段、底板	SUS444-1.5t
	ポンプ室は、SUS444-1.5tとする。	
補　強		SUS304A
タラップ	内：L-30×30×2（水槽）	SUS444
受　台	2000×1000×125H	SS400
	C-125×65×6	
仕　上	SUS溶接部酸洗い仕上げ	
	受台：溶融亜鉛メッキ	
質　量	本体：266kg　受台：97kg　計：363kg	
特　記	耐震：KH=1.0	

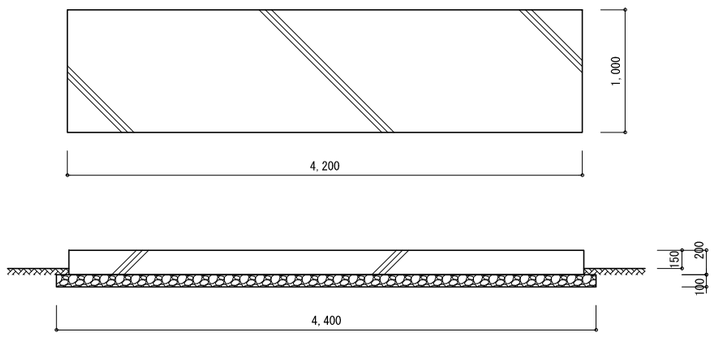
基礎及び配筋計画については構造図による

プロパンボンベ庫基礎詳細図



基礎及び配筋計画については構造図による

室外機基礎詳細図



基礎及び配筋計画については構造図による

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

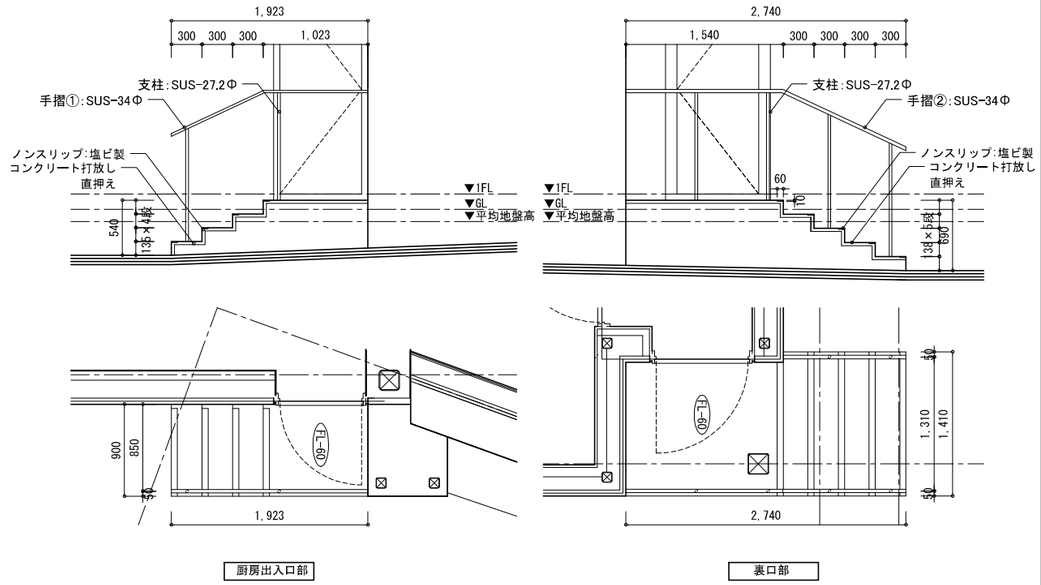
□ 図面名称
雑詳細図（1）

□ 縮尺
A3：1/50
A1：1/25

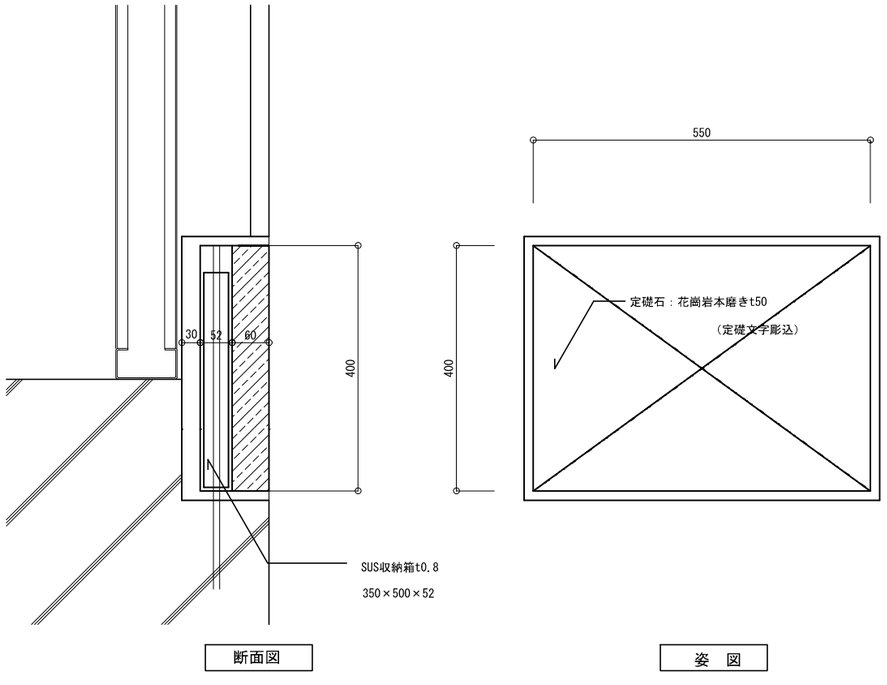
□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-45

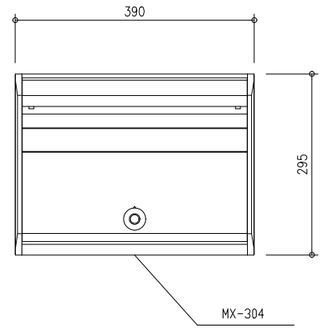
階段詳細図　S=1/60

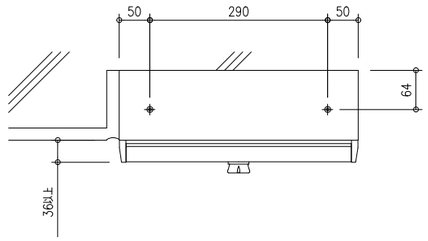


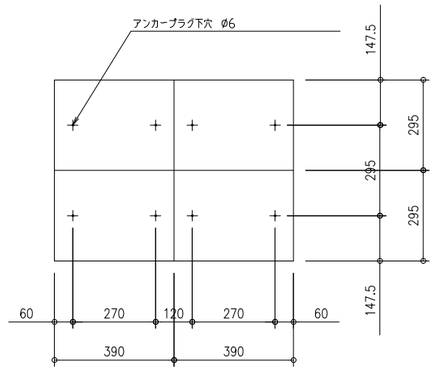
定礎　S=1/10



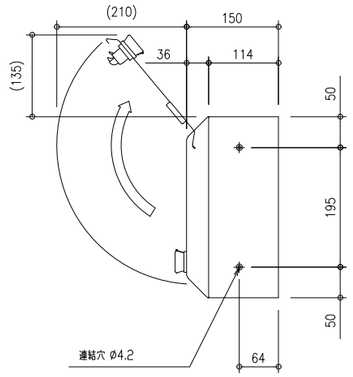
郵便ポスト詳細図　S=1/10







標準仕様	
本　体	ステンレス(SUS304)　ヘアライン仕上　0.7t　硬質ゴム
扉	ステンレス(SUS304)　ヘアライン仕上　1.0t
差入口プレート	ステンレス(SUS304)　ブラスト調焼付塗装　1.0t
錠　前	ダイヤル錠
名　札	アクリル樹脂



Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録　第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　　吉田俊文

CHECKED

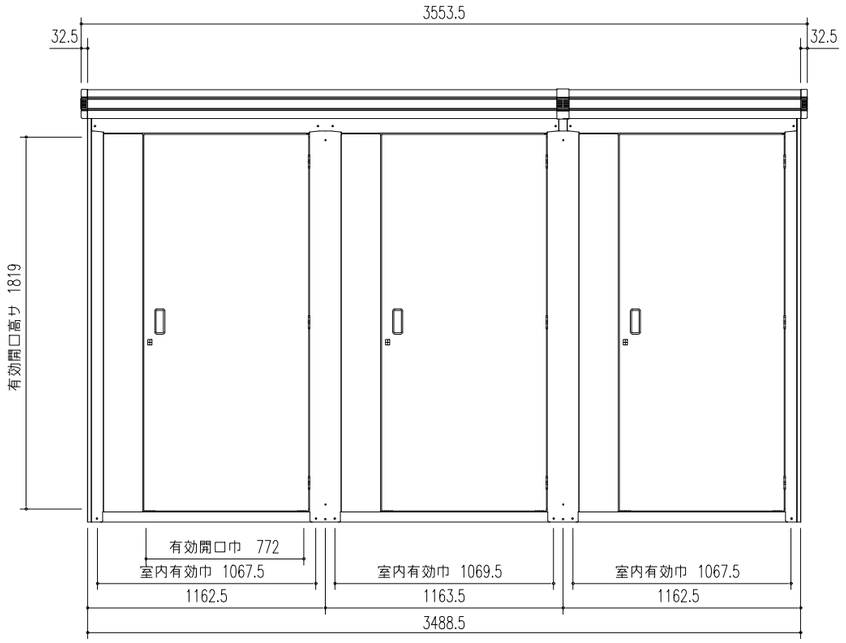
工事名称：椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

図面名称：雑詳細図（2）

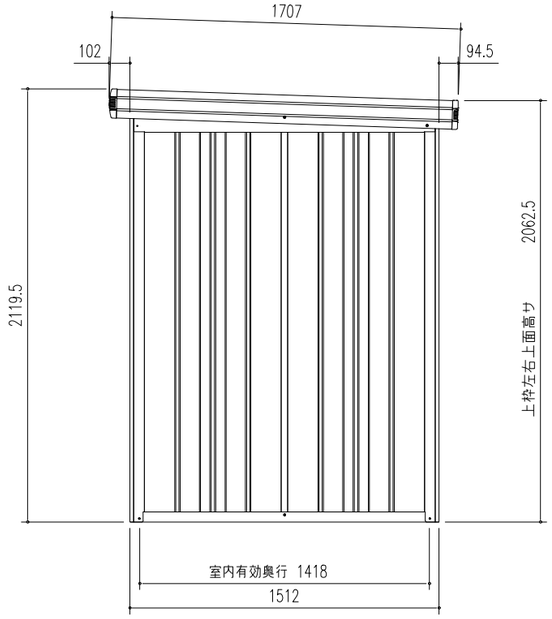
縮尺：A3：図示　A1：図示×2

日付：2017/07/31

図面番号：A-46

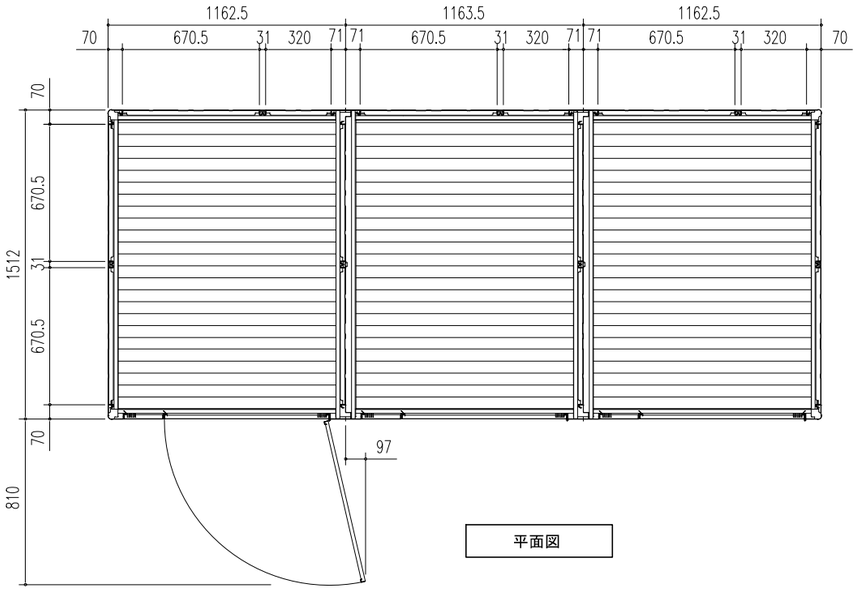


正面立面図

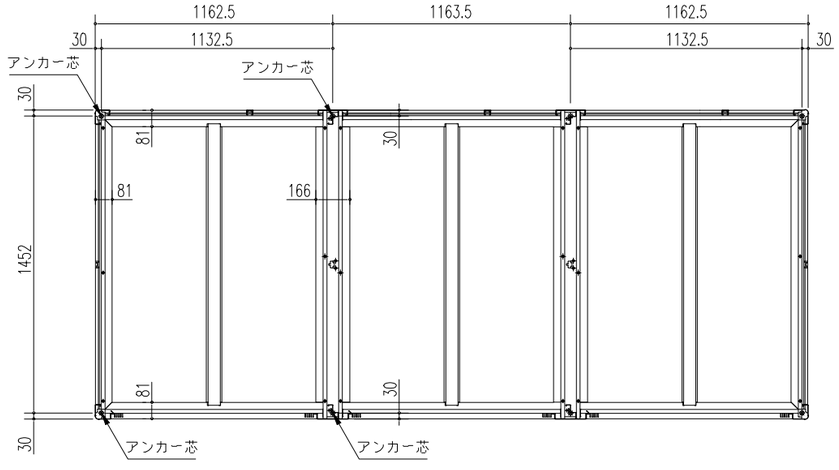


側面立面図

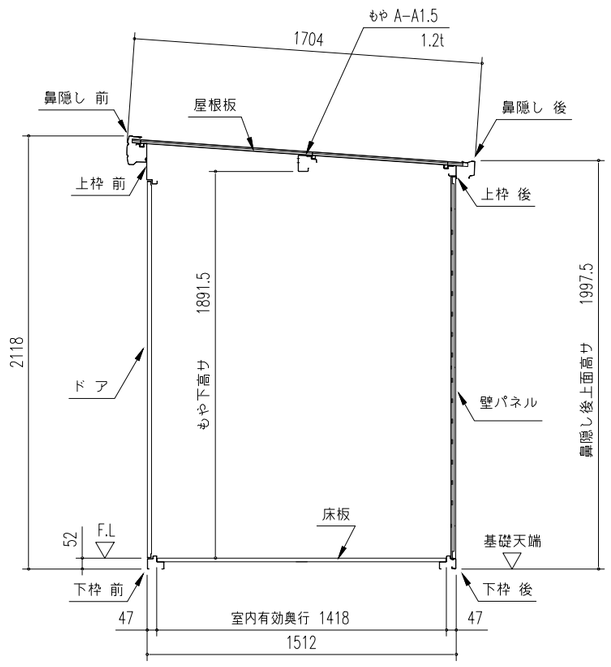
部　材　名	厚さ(m/m)	材　質
屋 根 板	0.4	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
床 補 強	1.2	JIS G3321 溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 SGLCC
<共通型>もやA－A1.5	1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
下　枠	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上 枠 前（後）	1.0（0.8）	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上 枠 中	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上 枠 左,右	0.6	塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板（ツートンカラー）
鼻 隠 し 前	0.5	塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板（ツートンカラー）
鼻 隠 し 後	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
隅柱 前（後）	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
中柱 前（後）	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
ド　ア	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
壁 パ ネ ル	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
袖　壁	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
間　柱	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
床　板	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC



平面図



床伏図



矩計図



Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

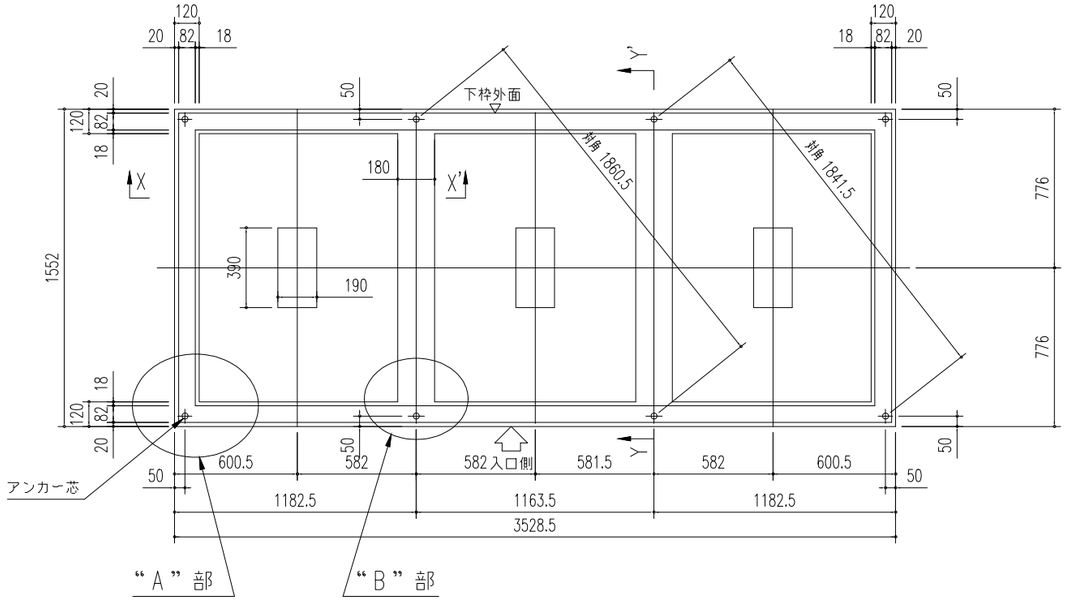
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
ゴミ庫詳細図

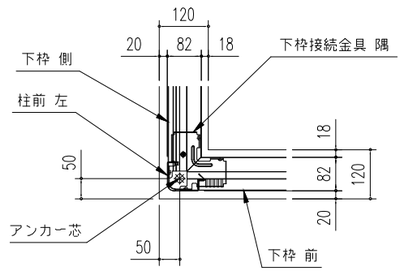
□ 縮尺
A3 : 1/ 100
A1 : 1/ 50

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-47

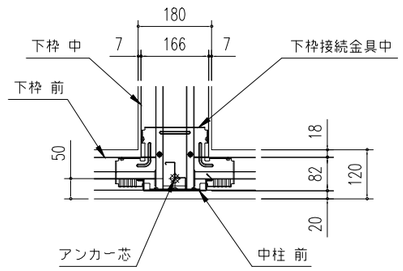


基礎伏図



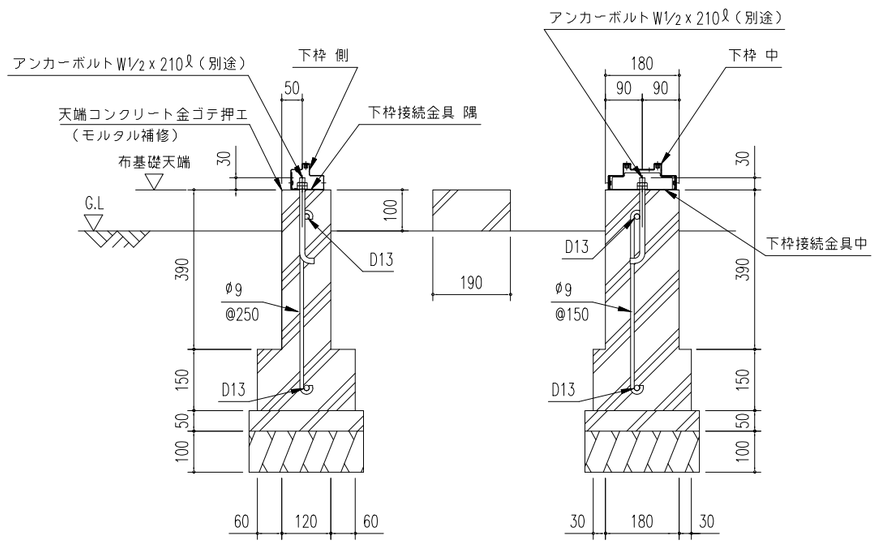
"A" 部詳細図 (S=1/15)

"A"部詳細図

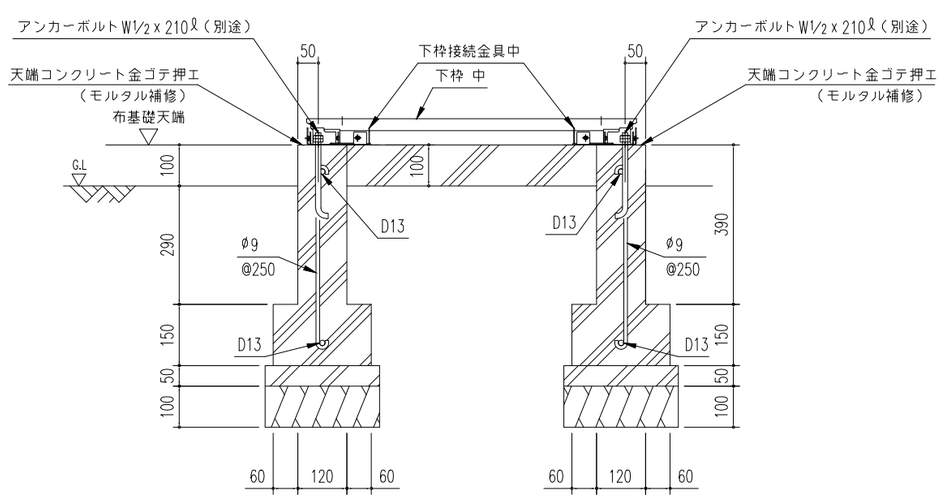


"B" 部詳細図 (S=1/15)

"B"部詳細図



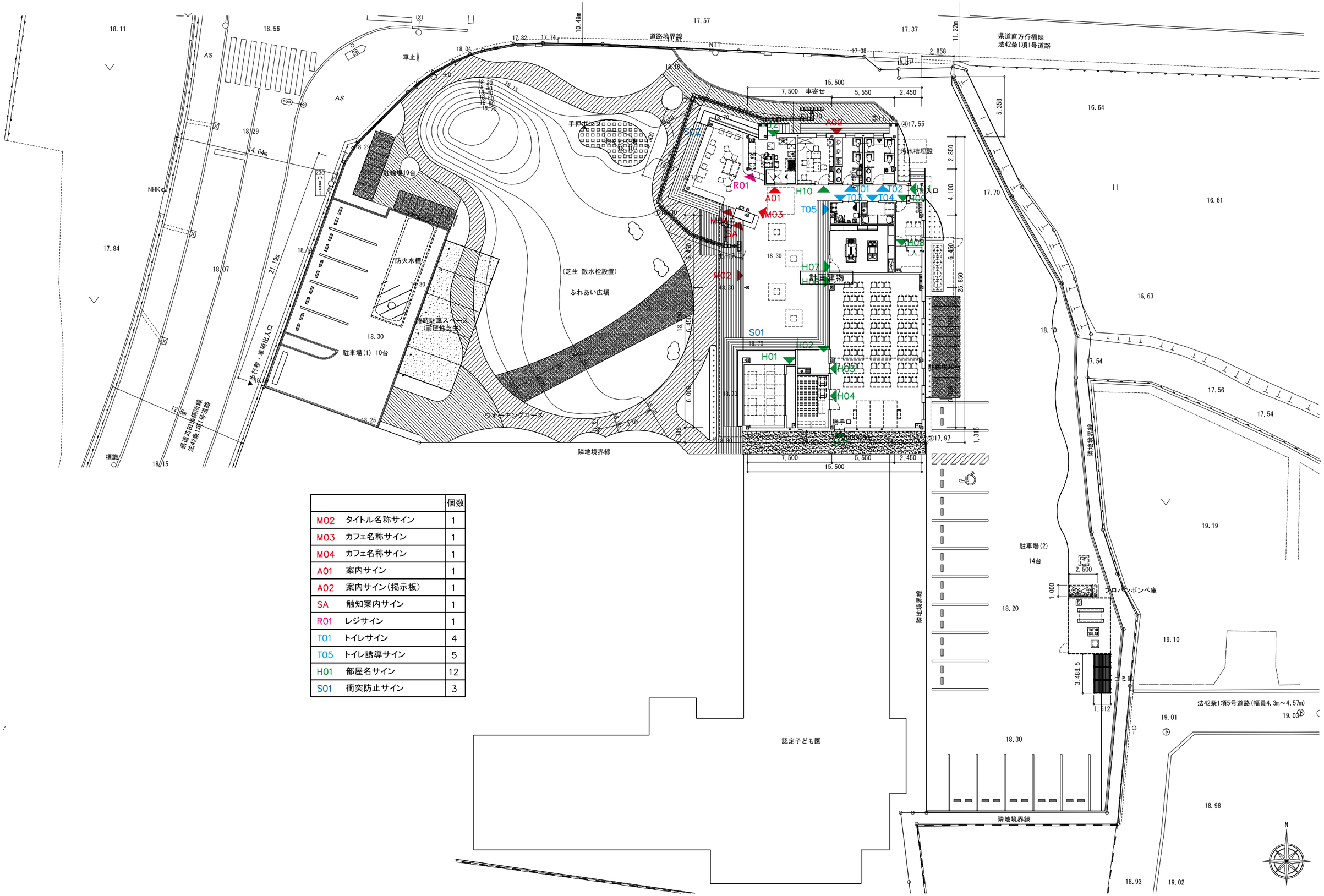
X-X' 断面図



Y-Y' 断面図

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

CHECKED	
工事名称	椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事
図面名称	ゴミ庫基礎図
縮尺	A3 : 1/ 100 A1 : 1/ 50
日付	2017/07/31
図面番号	A-48



		個数
M02	タイトル名称サイン	1
M03	カフェ名称サイン	1
M04	カフェ名称サイン	1
A01	案内サイン	1
A02	案内サイン(掲示板)	1
SA	触知案内サイン	1
R01	レジサイン	1
T01	トイレサイン	4
T05	トイレ誘導サイン	5
H01	部屋名サイン	12
S01	衝突防止サイン	3

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

CHECKED

工事名称: 椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

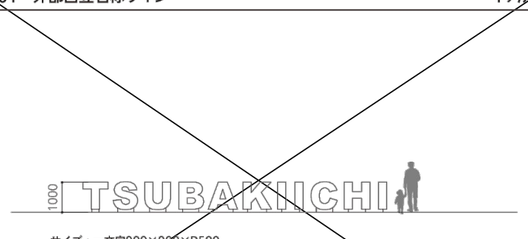
図面名称: サイン配置図

縮尺: A3 : 1/ 300 / A1 : 1/ 150

日付: 2017/07/31

図面番号: A-49

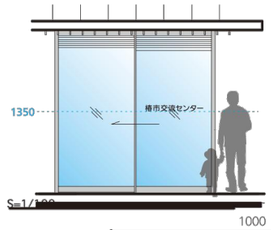
M01　外部自立名称サイン　1ヶ所



サイズ：一文字900×900×D500
本体：亜鉛箱文字＋鉄骨亜鉛メッキ脚　900角11文字

＊館名については現場にて決定

M02　タイトル名称サイン　1ヶ所



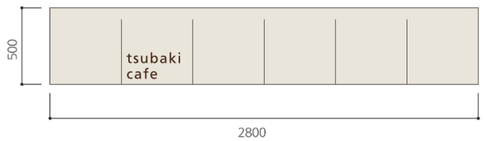
サイズ：1000×150
透明出力シート（両面印刷）



＊館名については現場にて決定

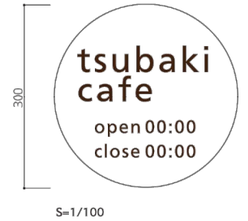
M03　カフェ名称サイン　1ヶ所

ポリエステル麻、顔料捺染
木棒、掛け金具
W2800×H500
S=1/40



＊館名については現場にて決定

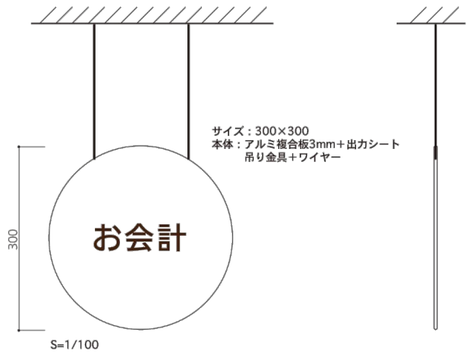
M04　カフェ名称サイン　1ヶ所



サイズ：300×300
本体：透明出力シート（両面印刷）
※扉の使用、色確認

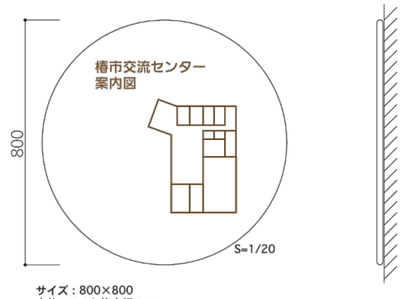
＊館名については現場にて決定

R01　レジサイン　1ヶ所



サイズ：300×300
本体：アルミ複合板3mm＋出力シート
吊り金具＋ワイヤー

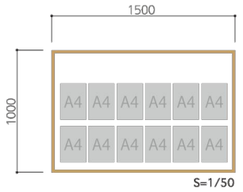
A01　案内サイン　1ヶ所



サイズ：800×800
本体：アルミ複合板５mm
地図：IJ出力シート貼り
＋ミラーマット（壁面設置）

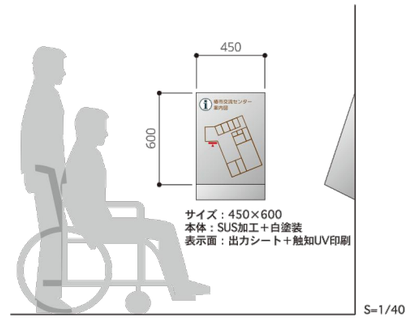
＊館名については現場にて決定

A02　案内サイン（掲示板）　1ヶ所



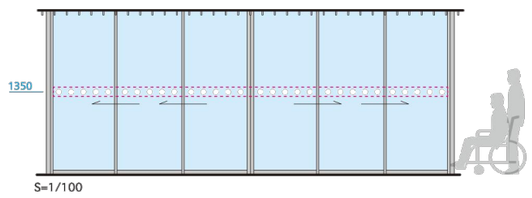
サイズ：1500×1000
本体：SUSフレーム+ダイノックシート（木調）
ホワイトボード仕様

SA　触知案内サイン　1ヶ所



サイズ：450×600
本体：SUS加工＋白塗装
表示面：出力シート＋触知UV印刷

S　衝突防止サイン　3ヶ所

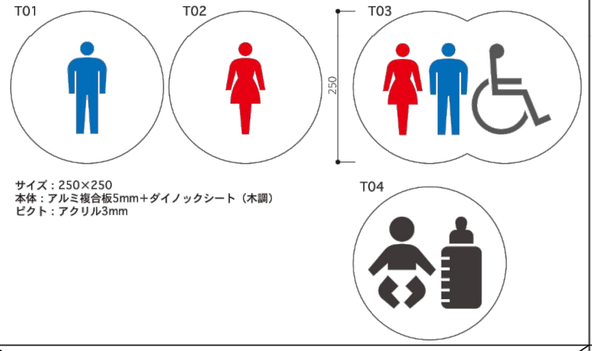


衝突防止帯状シート
透明出力シート（白）

S01：112000×150
S02：6000×150
　　3500×150

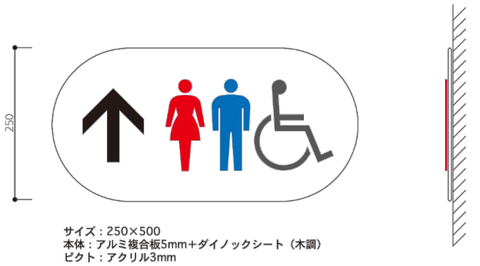
＊詳細デザインはマークなど確認後決定

T　トイレサイン　4ヶ所



サイズ：250×250
本体：アルミ複合板5mm＋ダイノックシート（木調）
ピクト：アクリル3mm

T05　トイレ誘導サイン　1ヶ所



サイズ：250×500
本体：アルミ複合板5mm＋ダイノックシート（木調）
ピクト：アクリル3mm

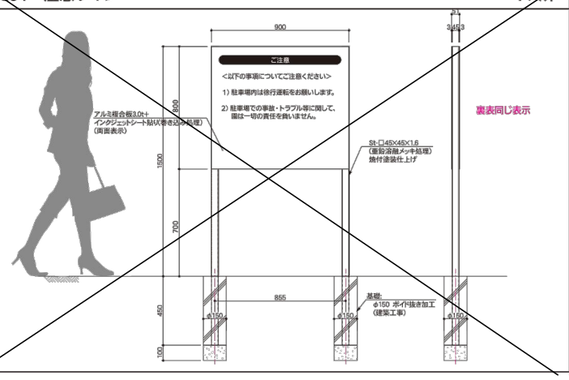
H　部屋名サイン　12ヶ所



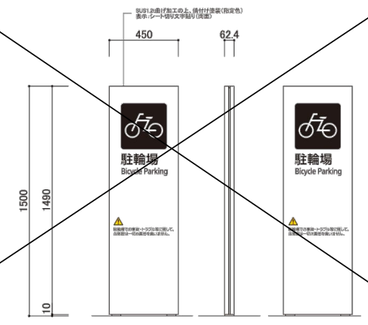
サイズ：H35
カッティングシート屑貼り
（屑素材確認後 色決定）
書体：UDゴシックM

H01.和室
H02.給湯室
H03.給湯室
H04.倉庫
H05.大会議室
H06.大会議室
H07.調理室
H08.倉庫
H09.休憩室
H10.事務室
H11.STAFF ONLY
H12.STAFF ONLY

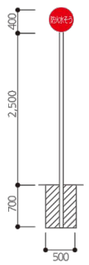
C01　注意サイン　1ヶ所



C02　注意サイン　1ヶ所



B　防火水槽サイン　1ヶ所



表示面サイズ：400×400
本体：表示アルミ複合板、60Ø亜鉛メッキ鋼管＋静電粉体塗装
表示Uバンド金具固定

※基礎建築工事

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

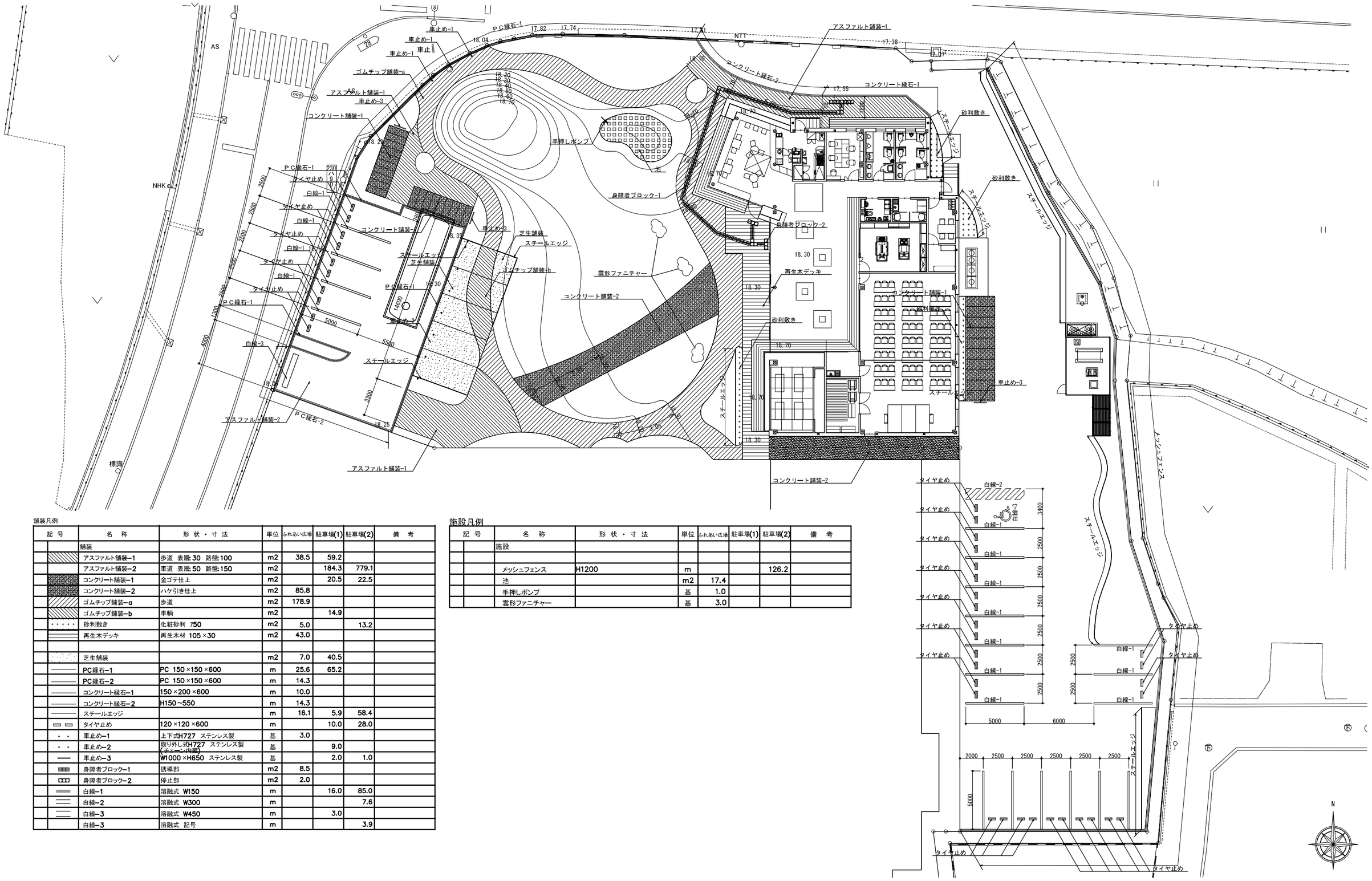
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
サイン一覧図

□ 縮尺
A3 : －
A1 : －

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-50



舗装凡例

記号	名称	形状・寸法	単位	ふれあい広場	駐車場(1)	駐車場(2)	備考
	舗装						
	アスファルト舗装−1	歩道 表層:30 路盤:100	m2	38.5	59.2		
	アスファルト舗装−2	車道 表層:50 路盤:150	m2		184.3	779.1	
	コンクリート舗装−1	金ゴテ仕上	m2		20.5	22.5	
	コンクリート舗装−2	ハケ引き仕上	m2	85.8			
	ゴムチップ舗装−a	歩道	m2	178.9			
	ゴムチップ舗装−b	車輌	m2		14.9		
	砂利敷き	化粧砂利 7?50	m2	5.0		13.2	
	再生木デッキ	再生木材 105×30	m2	43.0			
	芝生舗装		m2	7.0	40.5		
	PC縁石−1	PC 150×150×600	m	25.6	65.2		
	PC縁石−2	PC 150×150×600	m	14.3			
	コンクリート縁石−1	150×200×600	m	10.0			
	コンクリート縁石−2	H150~550	m	14.3			
	スチールエッジ		m	16.1	5.9	58.4	
	タイヤ止め	120×120×600	m		10.0	28.0	
	車止め−1	上下式H727 ステンレス製	基	3.0			
	車止め−2	取り外し式H727 ステンレス製 (チェーン内蔵)	基		9.0		
	車止め−3	W1000×H650 ステンレス製	基		2.0	1.0	
	身障者ブロック−1	誘導部	m2	8.5			
	身障者ブロック−2	停止部	m2	2.0			
	白線−1	溶融式 W150	m		16.0	85.0	
	白線−2	溶融式 W300	m			7.6	
	白線−3	溶融式 W450	m		3.0		
	白線−3	溶融式 記号	m			3.9	

施設凡例

記号	名称	形状・寸法	単位	ふれあい広場	駐車場(1)	駐車場(2)	備考
	施設						
	メッシュフェンス	H1200	m			126.2	
	池		m2	17.4			
	手押しポンプ		基	1.0			
	震形ファニチャー		基	3.0			

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1−61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

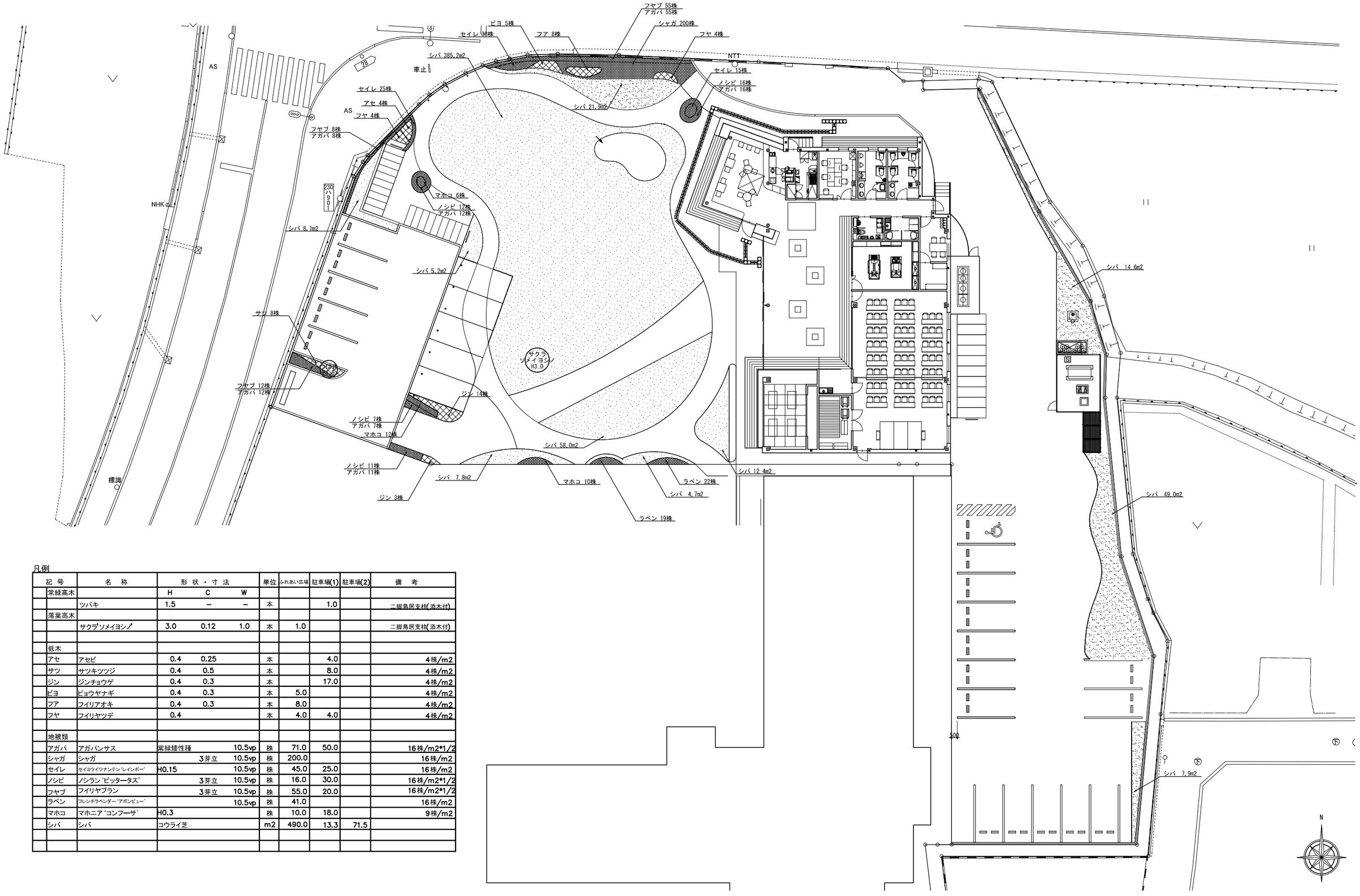
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
外構図 (1)

□ 縮尺
A3 : 1/ 300
A1 : 1/ 150

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-51



凡例

記号	名称	形状・寸法 H	C	W	単位	ふれあい広場	駐車場(1)	駐車場(2)	備考
	常緑高木								
	ツバキ	1.5	–	–	本		1.0		二脚鳥居支柱(添木付)
	落葉高木								
	サクラ'ソメイヨシノ'	3.0	0.12	1.0	本	1.0			二脚鳥居支柱(添木付)
	低木								
アセ	アセビ	0.4	0.25		本		4.0		4株/m2
サツ	サツキツツジ	0.4	0.5		本		8.0		4株/m2
ジン	ジンチョウゲ	0.4	0.3		本		17.0		4株/m2
ビヨ	ビョウヤナギ	0.4	0.3		本	5.0			4株/m2
フア	フイリアオキ	0.4	0.3		本	8.0			4株/m2
フヤ	フイリヤツデ	0.4			本	4.0	4.0		4株/m2
	地被類								
アガパ	アガパンサス	常緑矮性種		10.5vp	株	71.0	50.0		16株/m2*1/2
シャガ	シャガ		3芽立	10.5vp	株	200.0			16株/m2
セイレ	セイヨウイワナンテン'レインボー'	H0.15		10.5vp	株	45.0	25.0		16株/m2
ノシビ	ノシラン'ビッタータス'		3芽立	10.5vp	株	16.0	30.0		16株/m2*1/2
フヤブ	フイリヤブラン		3芽立	10.5vp	株	55.0	20.0		16株/m2*1/2
ラベン	フレンチラベンダー'アボンビュー'			10.5vp	株	41.0			16株/m2
マホコ	マホニア'コンフーサ'	H0.3			株	10.0	18.0		9株/m2
シバ	シバ	コウライ芝			m2	490.0	13.3	71.5	

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

CHECKED

工事名称: 椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

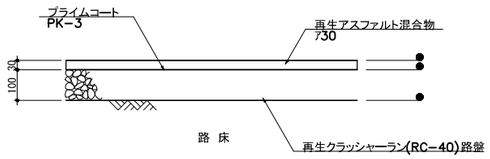
図面名称: 外構図 (2)

縮尺: A3 : 1/ 300, A1 : 1/ 150

日付: 2017/07/31

図面番号: A-52

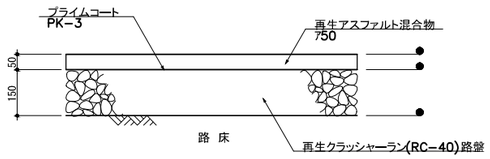
アスファルト舗装-1　S=1:10



標準断面図 S=1:10

特 記
・図中の ——● は、ローラー転圧を標準とする。
・路床設計CBRは、3%を標準とする。
・密粒度アスコンの粗骨材料最大寸法は13とする。

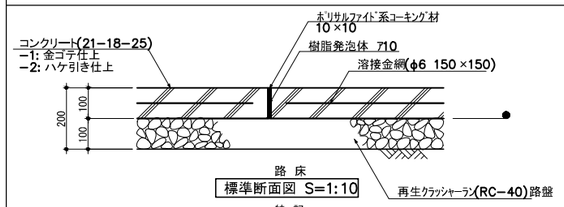
アスファルト舗装-2　S=1:10



標準断面図 S=1:10

特 記
・図中の ——● は、ローラー転圧を標準とする。
・路床設計CBRは、3%を標準とする。
・密粒度アスコンの粗骨材料最大寸法は13とする。

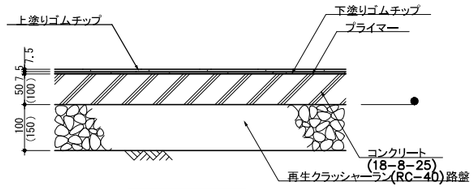
コンクリート舗装-1, -2　S=1:10



標準断面図 S=1:10

特 記
・図中の ——● は、ローラー転圧を標準とする。
・路床設計CBRは、3%を標準とする。
・伸縮目地は@5.0mを標準として設置すること。
・伸縮目地は、発泡樹脂発泡体t10とし、
表層部はコーキングを施すこと。

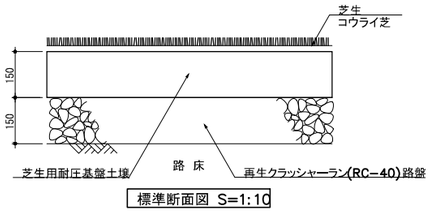
ゴムチップ舗装-a, -b　S=1:10



断面図 S=1:10

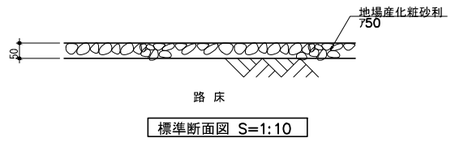
特 記
・図中の ——● は、ローラー転圧を標準とする。
・( )内寸法は、-bの寸法を示す。

芝生舗装



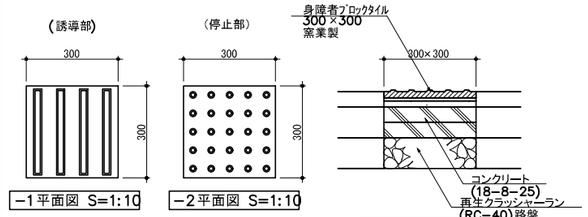
標準断面図 S=1:10

砂利敷き　S=1:10



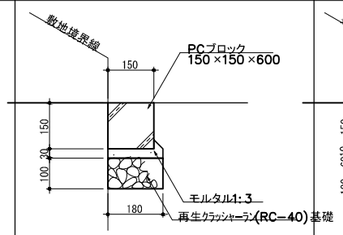
標準断面図 S=1:10

身障者ブロック-1, -2　S=1:10



-1平面図 S=1:10　-2平面図 S=1:10　標準断面図 S=1:10

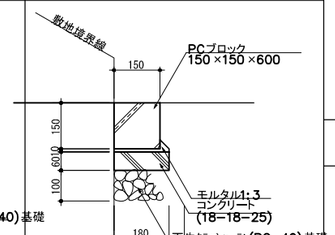
PC縁石-1　S=1:10



標準断面図 S=1:10

特 記
・目地モルタルは1:2とし、目地幅6mmとする。
・基礎部には@10.0mを標準として
伸縮目地を設けること。
伸縮目地は樹脂発泡体t10とする。

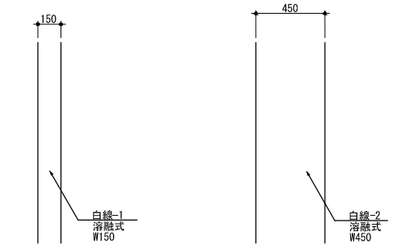
PC縁石-2　S=1:10



標準断面図 S=1:10

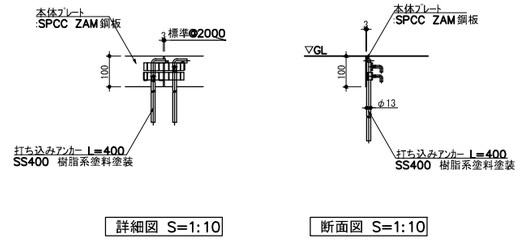
特 記
・目地モルタルは1:2とし、目地幅6mmとする。
・基礎部には@10.0mを標準として
伸縮目地を設けること。
伸縮目地は樹脂発泡体t10とする。

白線-1, -2　S=1:20



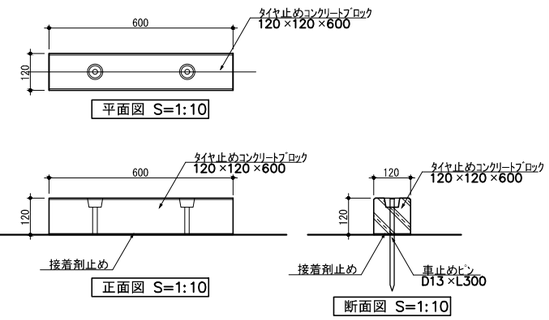
-1平面図 S=1:20　-2平面図 S=1:20

スチールエッジ　S=1:10

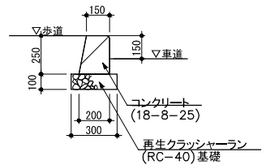


詳細図 S=1:10　断面図 S=1:10

タイヤ止め　S=1:10

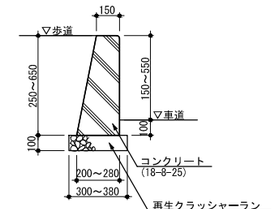


コンクリート縁石-1　S=1:10



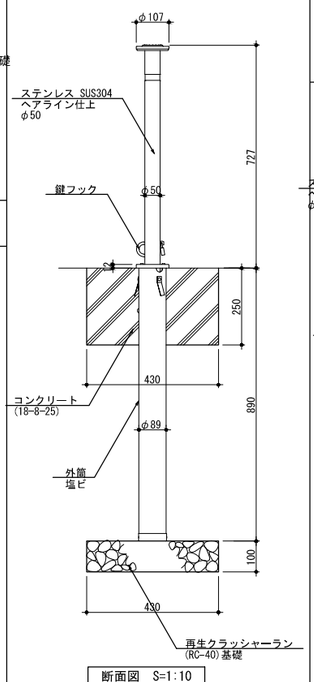
標準断面図 S=1:10

コンクリート縁石-2　S=1:20



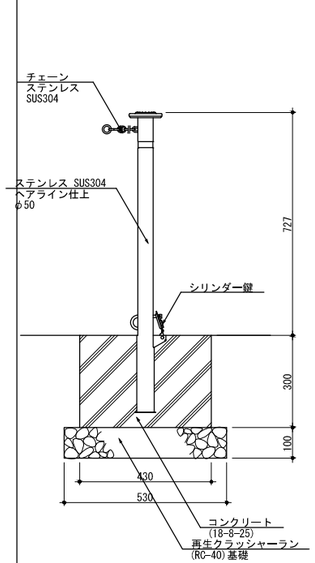
標準断面図 S=1:20

車止め-1　S=1:10



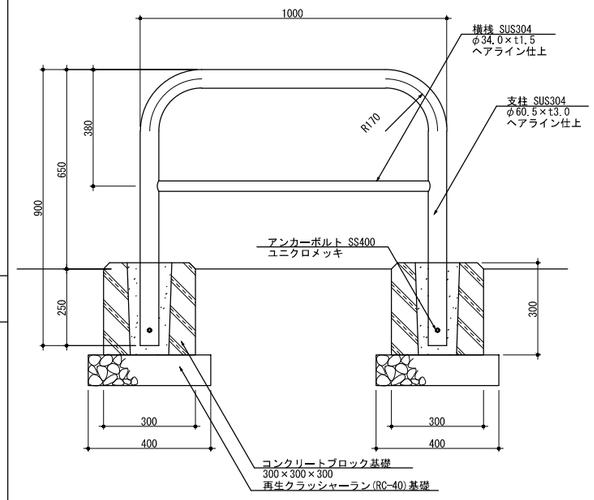
断面図 S=1:10

車止め-2　S=1:10



断面図 S=1:10

車止め-3　S=1:10



断面図 S=1:10

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

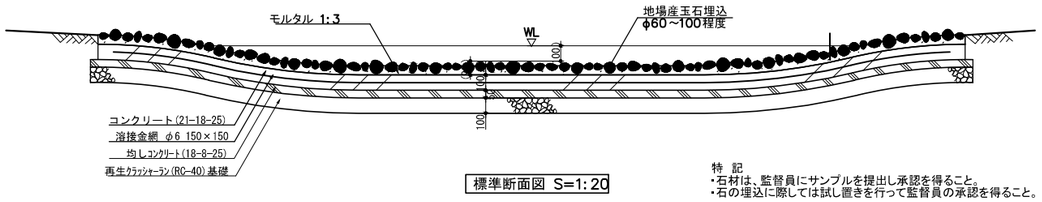
□ 図面名称
外構図 (3)

□ 縮尺
A3 : 図示*2
A1 : 図示

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-53

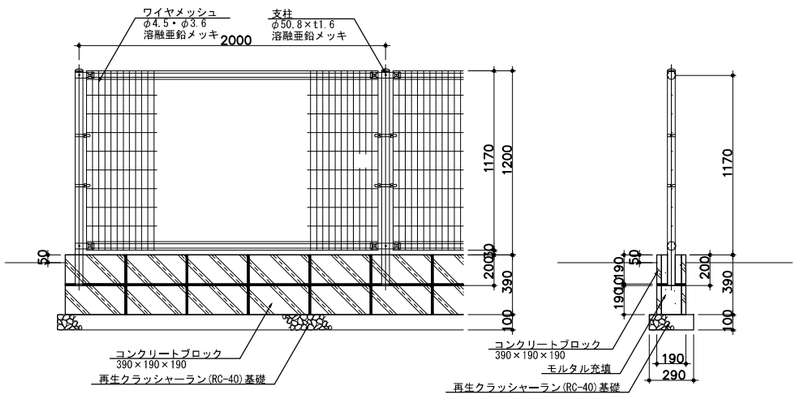
池　S=1:20



標準断面図 S=1:20

特 記
・石材は、監督員にサンプルを提出し承認を得ること。
・石の埋込に際しては試し置きを行って監督員の承認を得ること。

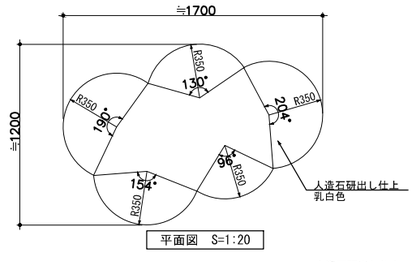
メッシュフェンス　S=1:20



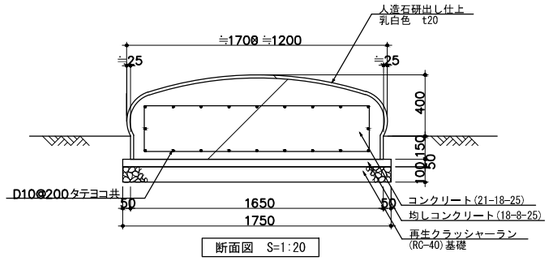
立面図 S=1:20

断面図 S=1:20

雲形ファニチャー　S=1:20



平面図 S=1:20



断面図 S=1:20

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

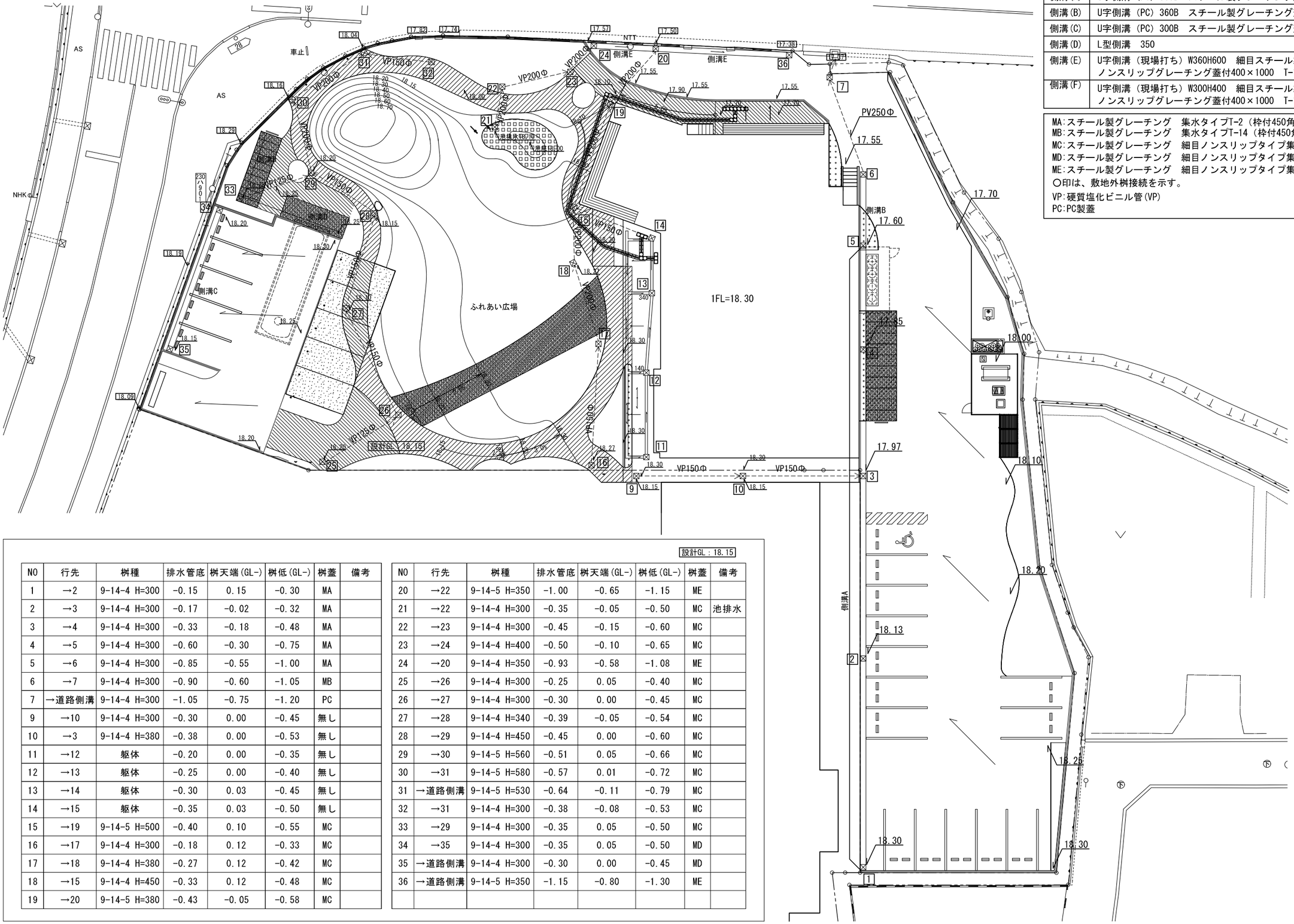
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
外構図 (4)

□ 縮尺
A3 : 図示*2
A1 : 図示

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-54



種　別	内　容	適　用
側溝(A)	U字側溝（PC）360B　スチール製グレーチング蓋付450×1000　T-2	9-12-1
側溝(B)	U字側溝（PC）360B　スチール製グレーチング蓋付450×1000　T-6	9-12-1
側溝(C)	U字側溝（PC）300B　スチール製グレーチング蓋付400×1000　T-2	9-12-1
側溝(D)	L型側溝　350	9-11-1
側溝(E)	U字側溝（現場打ち）W360H600　細目スチール製細目 ノンスリップグレーチング蓋付400×1000　T-14	9-12-5
側溝(F)	U字側溝（現場打ち）W300H400　細目スチール製細目 ノンスリップグレーチング蓋付400×1000　T-14	9-12-4

MA:スチール製グレーチング　集水タイプT-2（枠付450角）
MB:スチール製グレーチング　集水タイプT-14（枠付450角）
MC:スチール製グレーチング　細目ノンスリップタイプ集水桝蓋　T-2（枠付）
MD:スチール製グレーチング　細目ノンスリップタイプ集水桝蓋　T-6（枠付）
ME:スチール製グレーチング　細目ノンスリップタイプ集水桝蓋　T-14（枠付）
○印は、敷地外桝接続を示す。
VP:硬質塩化ビニル管(VP)
PC:PC製蓋

設計GL：18.15

NO	行先	桝種	排水管底	桝天端(GL-)	桝低(GL-)	桝蓋	備考
1	→2	9-14-4 H=300	-0.15	0.15	-0.30	MA	
2	→3	9-14-4 H=300	-0.17	-0.02	-0.32	MA	
3	→4	9-14-4 H=300	-0.33	-0.18	-0.48	MA	
4	→5	9-14-4 H=300	-0.60	-0.30	-0.75	MA	
5	→6	9-14-4 H=300	-0.85	-0.55	-1.00	MA	
6	→7	9-14-4 H=300	-0.90	-0.60	-1.05	MB	
7	→道路側溝	9-14-4 H=300	-1.05	-0.75	-1.20	PC	
9	→10	9-14-4 H=300	-0.30	0.00	-0.45	無し	
10	→3	9-14-4 H=380	-0.38	0.00	-0.53	無し	
11	→12	躯体	-0.20	0.00	-0.35	無し	
12	→13	躯体	-0.25	0.00	-0.40	無し	
13	→14	躯体	-0.30	0.03	-0.45	無し	
14	→15	躯体	-0.35	0.03	-0.50	無し	
15	→19	9-14-5 H=500	-0.40	0.10	-0.55	MC	
16	→17	9-14-4 H=300	-0.18	0.12	-0.33	MC	
17	→18	9-14-4 H=380	-0.27	0.12	-0.42	MC	
18	→15	9-14-4 H=450	-0.33	0.12	-0.48	MC	
19	→20	9-14-5 H=380	-0.43	-0.05	-0.58	MC	

NO	行先	桝種	排水管底	桝天端(GL-)	桝低(GL-)	桝蓋	備考
20	→22	9-14-5 H=350	-1.00	-0.65	-1.15	ME	
21	→22	9-14-4 H=300	-0.35	-0.05	-0.50	MC	池排水
22	→23	9-14-4 H=300	-0.45	-0.15	-0.60	MC	
23	→24	9-14-4 H=400	-0.50	-0.10	-0.65	MC	
24	→20	9-14-4 H=350	-0.93	-0.58	-1.08	ME	
25	→26	9-14-4 H=300	-0.25	0.05	-0.40	MC	
26	→27	9-14-4 H=300	-0.30	0.00	-0.45	MC	
27	→28	9-14-4 H=340	-0.39	-0.05	-0.54	MC	
28	→29	9-14-4 H=450	-0.45	0.00	-0.60	MC	
29	→30	9-14-5 H=560	-0.51	0.05	-0.66	MC	
30	→31	9-14-5 H=580	-0.57	0.01	-0.72	MC	
31	→道路側溝	9-14-5 H=530	-0.64	-0.11	-0.79	MC	
32	→31	9-14-4 H=300	-0.38	-0.08	-0.53	MC	
33	→29	9-14-4 H=300	-0.35	0.05	-0.50	MC	
34	→35	9-14-4 H=300	-0.35	0.05	-0.50	MD	
35	→道路側溝	9-14-4 H=300	-0.30	0.00	-0.45	MD	
36	→道路側溝	9-14-5 H=350	-1.15	-0.80	-1.30	ME	

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
行橋市椿市地域交流センター等施設　新築工事

□ 図面名称
外構図（排水計画図）

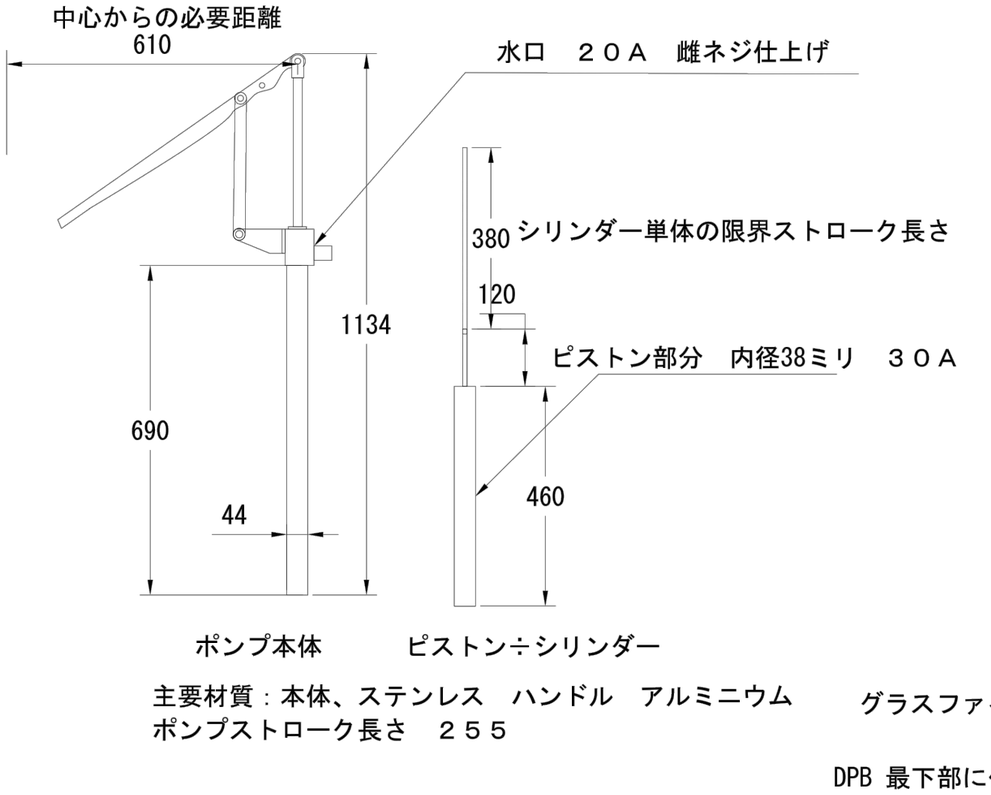
□ 縮尺
A3 : 1/ 300
A1 : 1/ 150

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-55

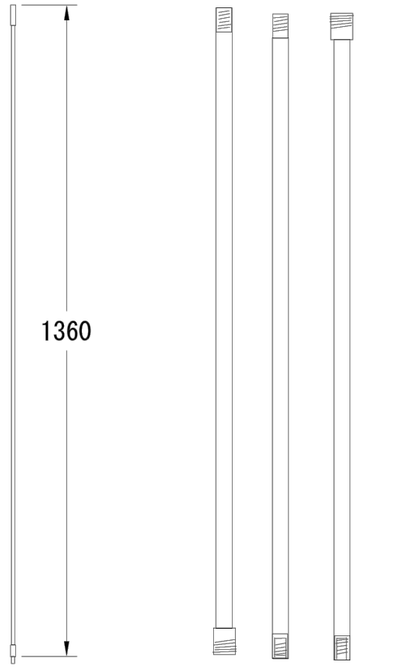
手押しポンプ　標準図

単位（㎜）



ポンプ本体　　ピストン÷シリンダー

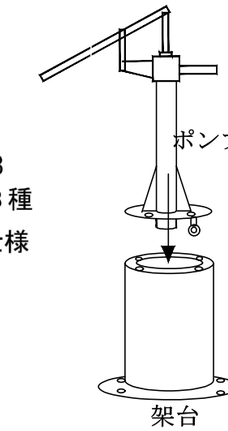
主要材質：本体、ステンレス　ハンドル　アルミニウム
ポンプストローク長さ　２５５

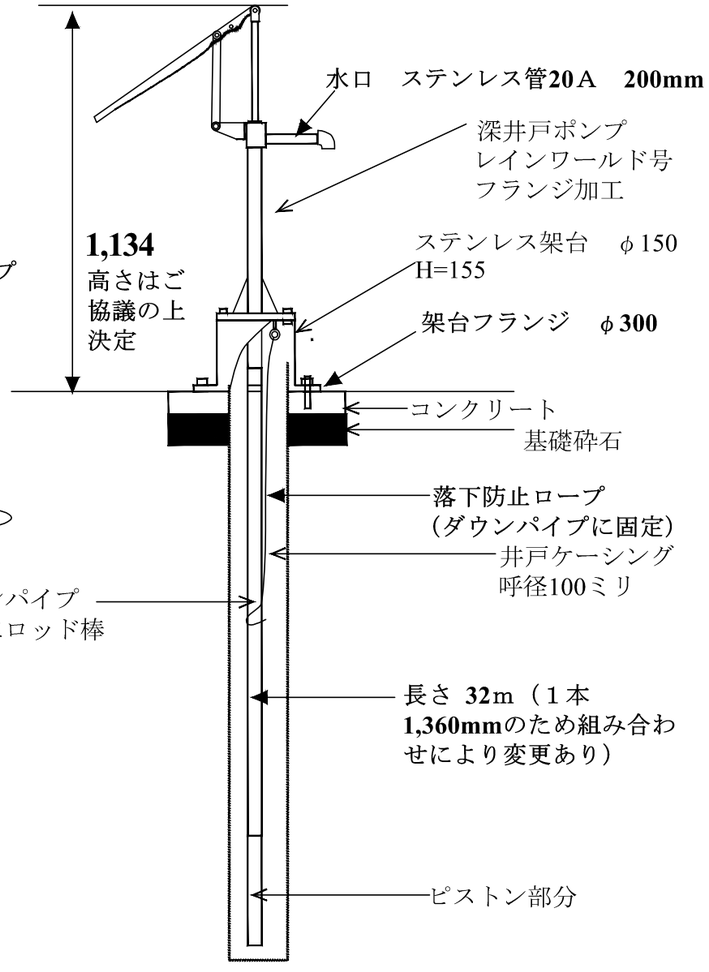


グラスファイバーロッド

ダウンパイプ３種

DPB 最下部に仕様 DP 途中　DPT 最上部に仕様



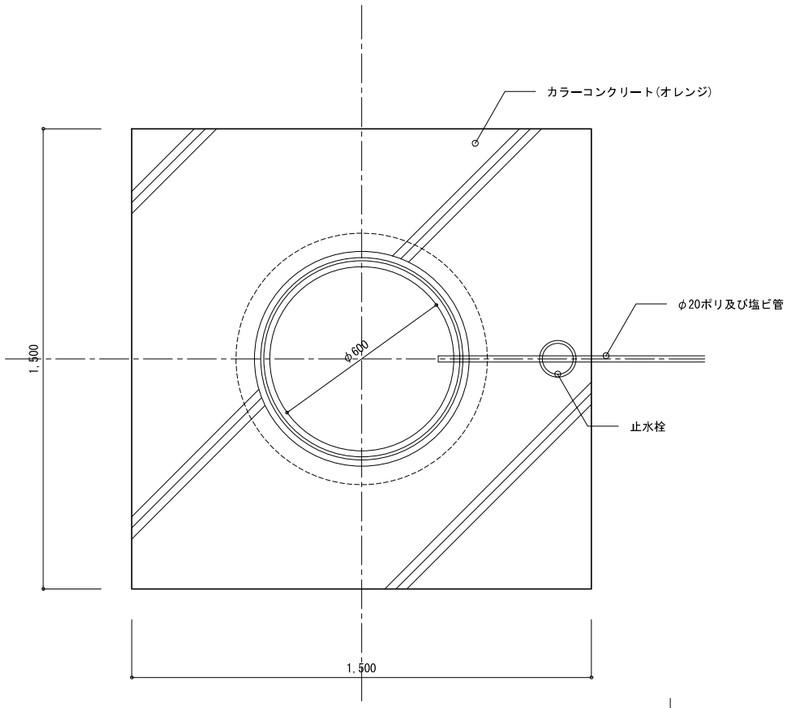


Shun Archi ec Office 株式会社 俊設計 一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号 一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文	CHECKED	工事名称 椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事	縮尺 A3：－ A1：－	図面番号 A-56
		図面名称 深井戸ポンプ参考図	日付 2017/07/31	

防火水槽マンホール蓋部・詳細図

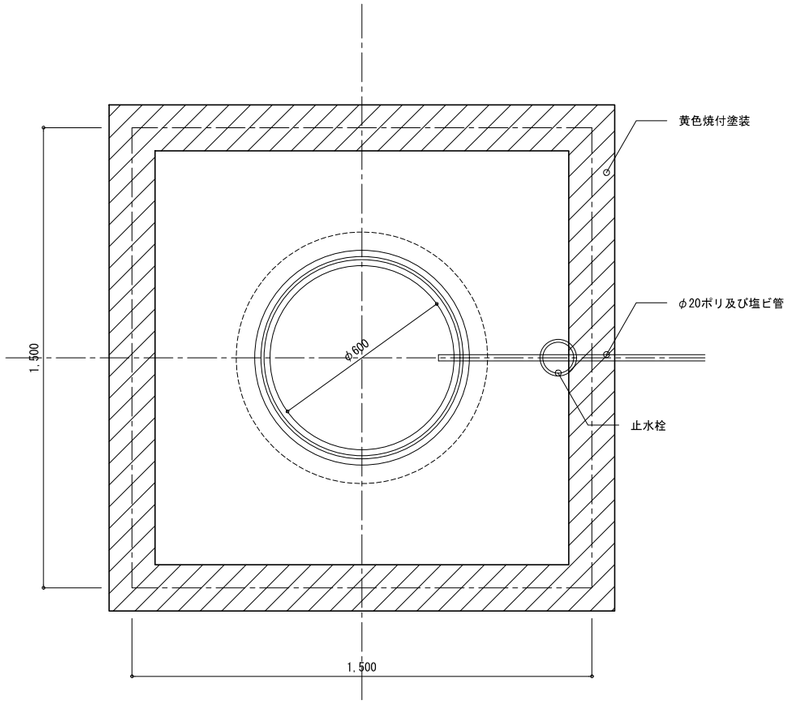
パターン１

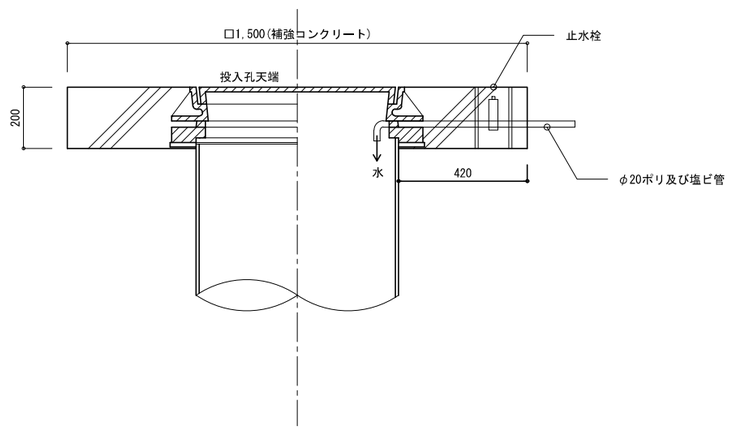
（上部にカラーコンクリートにて囲うケース）



パターン２

（AS舗装にラインを引くケース）

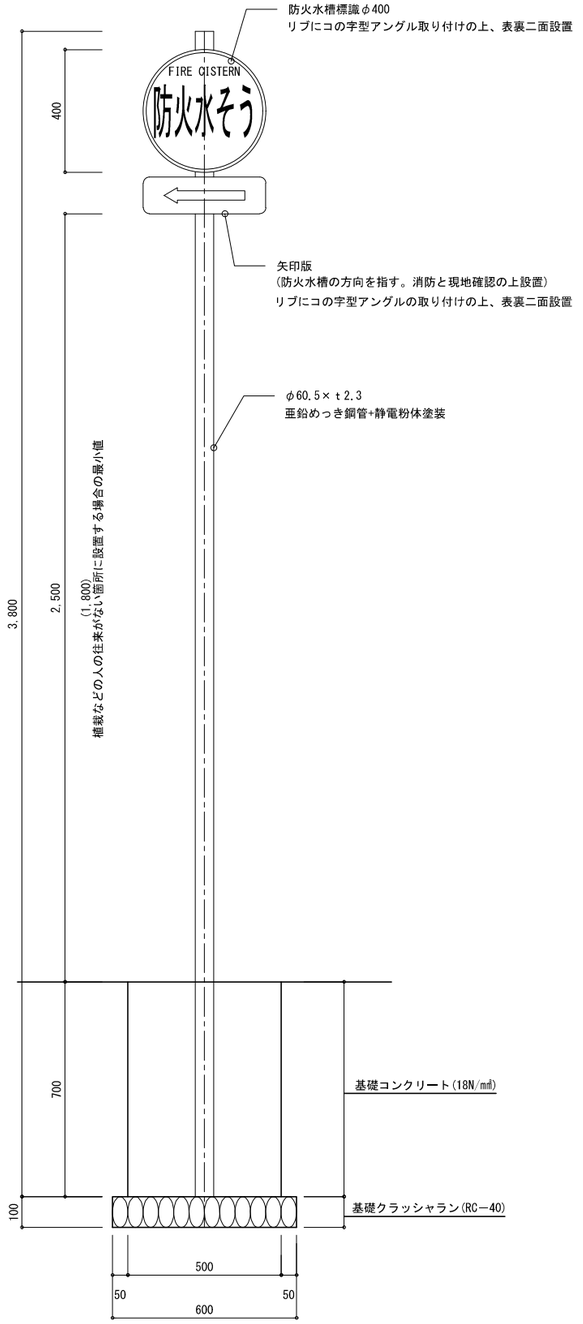




※　マンホールを設置する時には蓋の閉会方向（向き）が重要になりますので、設置の際には必ず行橋消防署の確認を得てください。

※　止水栓のバルブは誤入防止のため、通常のハンドルではなく別途の開閉棒を使用する仕様にしてください。

防火水槽標識



※　防火水槽標識を１本設置すること。

※　位置向きについては、行橋消防署と協議の上、現地立会の元決定すること。

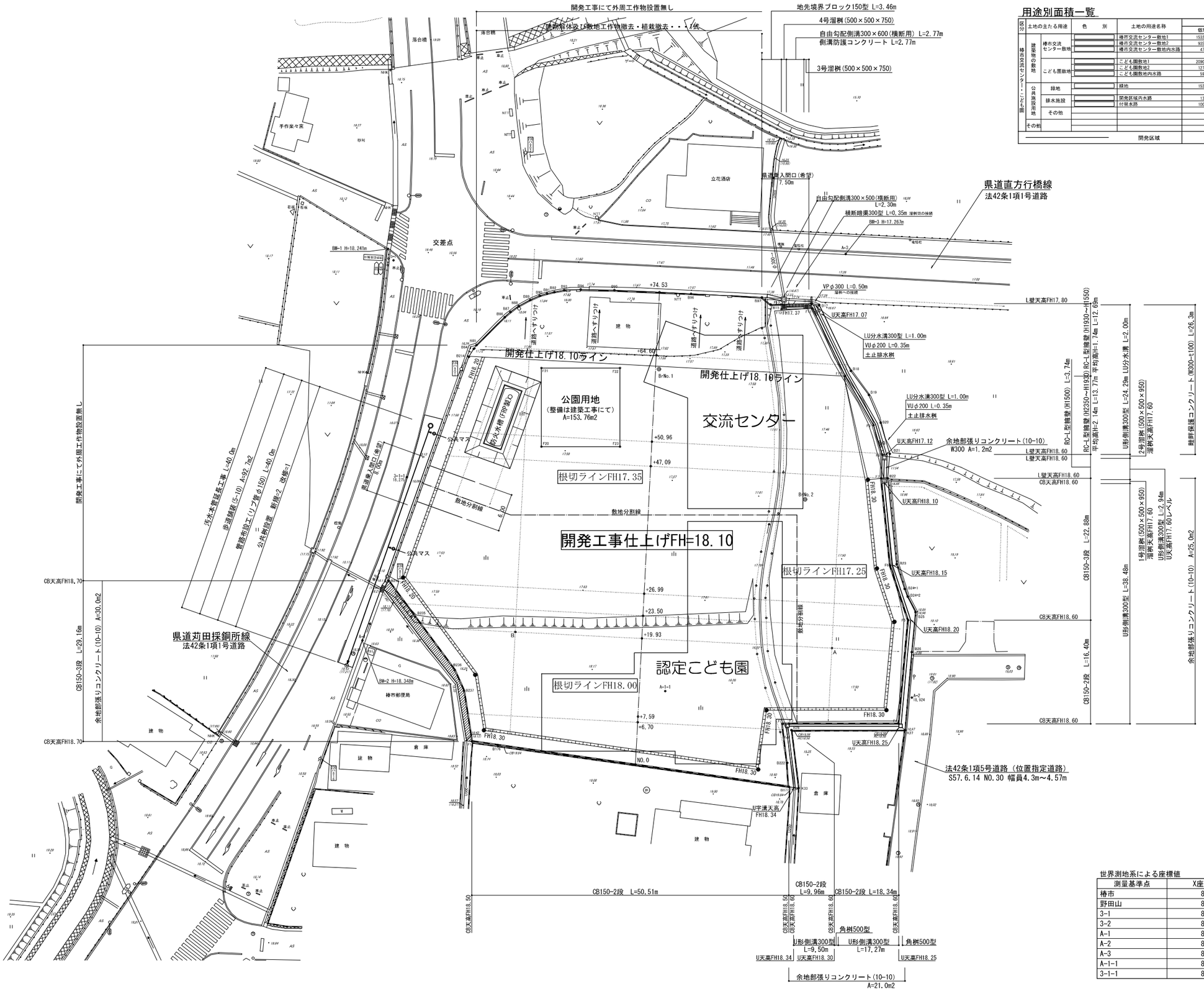
※　標識二面は県道より視認できるように配置すること。

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1−61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

CHECKED	
工事名称	椿市地域交流センター建設工事の内建築主休工事
図面名称	防火水槽詳細図
縮尺	A3 : 1/ 20 A1 : 1/ 10
日付	2017/07/31
図面番号	A-57

用途別面積一覧

区分	土地の主たる用途		色別	土地の用途名称	面積 個別面積	面積 小計	面積 開発上の区分	面積 合計面積
椿市交流センター・こども園	建築物の敷地	椿市交流センター敷地		椿市交流センター敷地1	1532.18197715 ㎡	2515.43 ㎡	2515.43 ㎡ (49.70%)	5060.85 ㎡ (100.0%)
				椿市交流センター敷地2	935.85508780 ㎡			
				椿市交流センター敷地内水路	47.3938545 ㎡			
		こども園敷地		こども園敷地1	2090.4383160 ㎡	2278.17 ㎡	2278.17 ㎡ (45.02%)	
				こども園敷地2	127.8159980 ㎡			
				こども園敷地内水路	59.9179950 ㎡			
	公共施設用地	緑地		緑地	153.7600000 ㎡	153.76 ㎡	153.76 ㎡ (3.04%)	
		排水施設		開発区域内水路	13.2274780 ㎡	113.49 ㎡	113.49 ㎡ (2.24%)	
				付替水路	100.2670365 ㎡			
		その他						
	その他							
開発区域								5060.85 ㎡ (100.0%)



世界測地系による座標値

測量基準点	X座標	Y座標	備考
椿市	81647.241	-7285.588	四等三角点
野田山	81410.569	-5804.652	三等三角点
3-1	81782.609	-7327.967	3級基準点
3-2	81775.032	-7081.649	3級基準点
A-1	81722.731	-7332.868	ステンレス鋲
A-2	81713.711	-7246.226	金属鋲(青)
A-3	81783.600	-7256.655	ステンレス鋲
A-1-1	81714.740	-7285.106	プラスチック杭
3-1-1	81748.443	-7325.863	金属鋲(白)

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
造成計画平面図

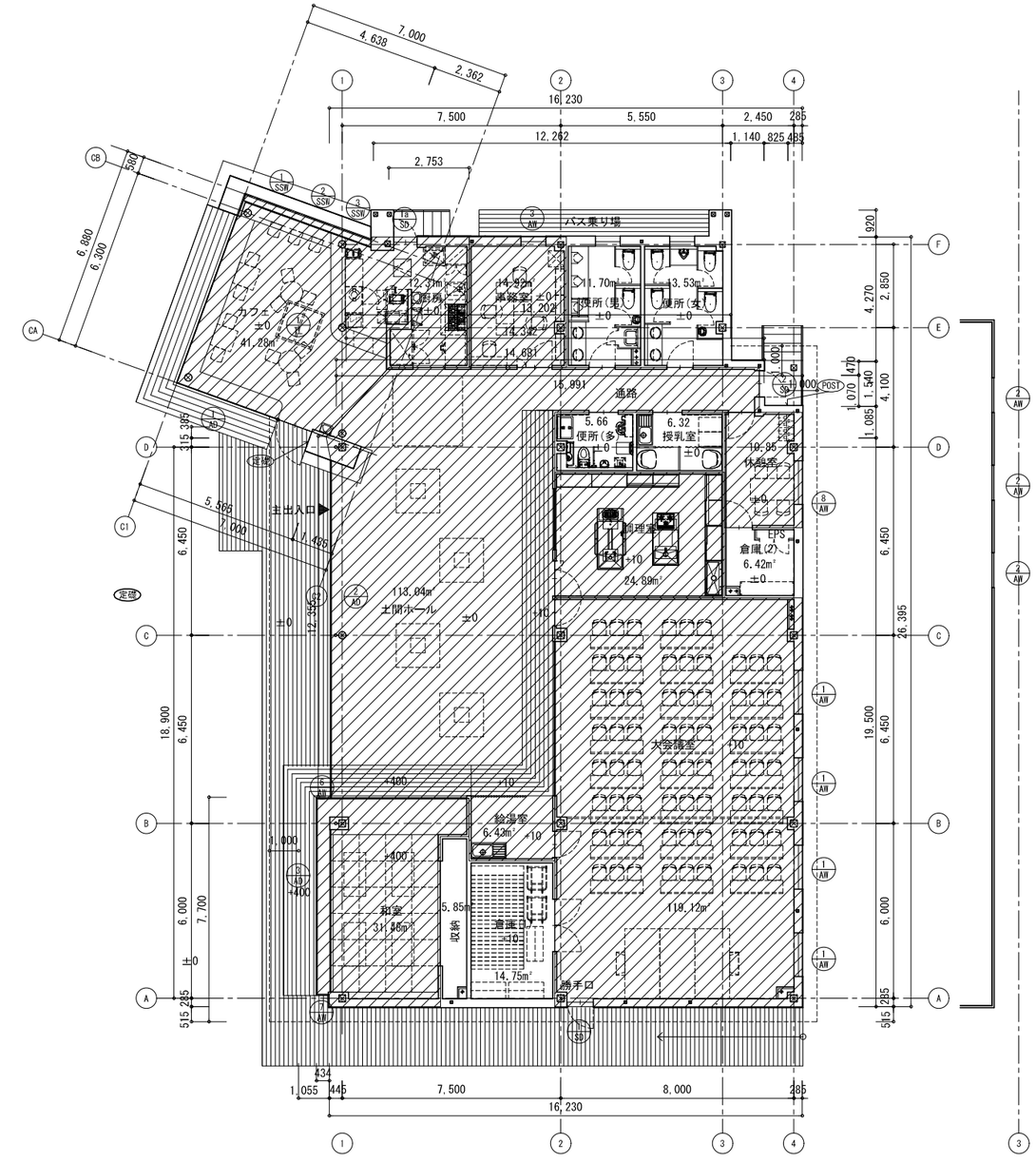
□ 縮尺
A3 : 1/ 300
A1 : 1/ 150

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
A-58

1 AW	L:1.5x1.565	2.34㎡
	V:1.5x0.5+1.5×1.065/2	1.54㎡
	S:1.5x0.5+1.5×0.05/2	0.75㎡
2 AW	L:1.11x0.7	0.77㎡
	V:1.11x0.7	0.77㎡
	S:1.11x0.7	0.77㎡
3 AW	L:0.75x0.705	0.52㎡
	V:0.75x0.705/2	0.26㎡
	S:-	-
6 AW	L:0.165x2.45	0.40㎡
	V:-	-
	S:-	-
7 AW	L:0.253x2.45	0.61㎡
	V:-	-
	S:-	-
8 AW	L:1.5x1.665	2.49㎡
	V:1.5x1.665/2	1.24㎡
	S:1.5x0.65/2	0.48㎡
1 AD	L:(9.716+9.179)x2.45/2 +1.284x2.45	26.29㎡
	V:0.9×2.1	1.89㎡
	S:-	-
2 AD	L:(0.816+0.166)/2+0.5+6.53+ 1.025x2.850+2.5x(0.185+2.4)	30.81㎡
	V:1.2x2.4+3.9x2.85	13.99㎡
	S:3.9x0.1	0.39㎡
3 AD	L:6.635x2.45	16.25㎡
	V:1.795x2.45	4.39㎡
	S:1.795x0.75	1.34㎡
1 SSW	L:(2.385+2.401)x0.3/2	0.71㎡
	V:-	-
	S:-	-
2 SSW	L:(3.695+3.727)x0.3/2	1.11㎡
	V:-	-
	S:-	-
3 SSW	L:(2.271+2.287)x0.3/2	0.68㎡
	V:-	-
	S:-	-
1 SD	L:-	-
	V:0.9×2.1	1.89㎡
	S:-	-
1a SD	L:-	-
	V:0.8×2.1	1.68㎡
	S:0.8×0.5	0.40㎡
2 SD	L:-	-
	V:0.9×2.1	1.89㎡
	S:-	-
1 TL	L:1.21×1.2646	1.53㎡
	V:-	-
	S:-	-

階	室名	室面積	天井高	採光(L)			換気(V)			排煙(S)		
		A(㎡)	H(mm)	必要面積 A/20	有効面積	判定	必要面積 A/20	有効面積	判定	必要面積 A/50	有効面積	判定
1階	カフェ・厨房	53.59	2400 3400	2.68	30.32	OK	2.68	—	機械	1.07	0.40	告示1436号 四-ニ-4
	事務室	14.92	2700	0.75	—	非常用照明	0.75	—	機械	0.30	—	告示1436号 四-ニ-4
	土間ホール	113.04	3550～ 4850	5.65	33.12	OK	5.65	—	機械	2.26	2.70	OK
	調理室	24.89	2700	1.24	—	非常用照明	1.24	—	機械	0.50	—	告示1436号 四-ニ-4
	休憩室	10.85	2700	0.54	2.49	OK	0.54	—	機械	0.22	0.48	OK
	大会議室	119.12	2800	5.96	9.36	OK	5.96	—	機械	2.38	3.00	OK
	和室	31.48	3710	1.57	17.26	OK	1.57	—	機械	0.63	1.34	OK



1階平面図

:対象居室

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

CHECKED

工事名称: 椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

図面名称: 法チェック図

縮尺: A3 : 1/ 200 A1 : 1/ 100

日付: 2017/07/31

図面番号: A-59

構　造　特　記　仕　様　書（1）

§1　一般事項

選択項目は ⦿ 印を適用し、⦿ 印が無い場合は ＊ 印を適用する。
○ 印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1　1．工事名称：　椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事
　　2．工事場所：　福岡県行橋市大字長尾地内
　　3．工事種別：　◉ 新築　□ 増築　□ 増改築　□ 改築
　　4．用　　途：　地域交流センター等施設
　　5．規　　模：　地下 0 階　　地上 1 階　　塔屋 0 階

1-2　使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。

1-3　設計図書の優先順位は下記による。
　1）本特記仕様書
　2）設計図
　3）標準図　⦿ 鉄筋コンクリート構造配筋標準図　⦿ 鉄骨構造標準図
　　• 鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図　• 高強度せん断補強筋施工仕様書
　　• 鉄筋コンクリート壁式標準配筋図
　4）仕様書　⦿ 公共建築協会　• 日本建築家協会
　5）日本建築学会標準仕様書 、JASS5 、JASS6

1-4　各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1-5　構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。

1-6　設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-7　梁貫通位置、径、及び箇所数は（ • 意匠図 ⦿ 構造図 • 設備図 ）による。

§2　構造概要・計算ルート

2-1　構造種別　◉ 鉄骨造（S）
　□ 鉄筋コンクリート造（RC）
　□ 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）
　□ 壁式鉄筋コンクリート造（WRC）

2-2　増築予定　□ 有　◉ 無

2-3

方　向	構造計算ルート
X	⦿ルート1 • ルート2 • ルート3 •
Y	⦿ルート1 • ルート2 • ルート3 •

2-4　鉄筋の継手
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
＊ 建築基準法施行令第73条(政令第73条第2項)による仕様規定
• 日本建築学会 JASS5,鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
• 日本建築学会 鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 2010(RC規準 2010)
XY方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、政令第73条の仕様規定によらずJASS5,鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準 2010とすることができる。

2-5　① 積載荷重

室名	スラブ用	小梁用	ラーメン用	地震用	備考
屋根	500	500	300	200	
ホール・玄関屋根	400	400	100	0	
保育室・事務室	2,900	2,900	2,100	1,100	
ホール・ロビー	3,500	3,500	3,200	2,100	
WC	1,800	1,800	1,300	600	
厨房	2,900	2,900	2,400	1,300	

② 地震荷重

一次固有周期	T = 0.151 s
地盤種別	第2種地盤 , Tc = 0.6 s
振動特性係数	Rt = 1.0
地域係数	Z = 0.8
標準せん断力係数	Co = 0.3
地下震度	K = 0.1

③ 風荷重

速度圧q(N/㎡)	q = 0.6 EVo²
	地表面粗度区分(Ⅲ)
	Vo = 34 m/s

④ 積雪荷重

垂直積雪量	0.17 m	長期	N/㎡
単位荷重	20 N/cm/㎡	短期	340 N/㎡
多雪地域の雪下ろし □ 有			
垂直積雪量が cmを越した場合は雪下ろしを行う			

⑤ 土圧及び水圧

土圧係数	□ kh=0.5 □
地下水位	設計地下水位 GL− m

⑥ 設備機器

機械名	階	荷重	機械名	階	荷重
高架水槽		—	エレベーター	1	—
クーリングタワー		—	太陽光発電	R	—
自家発電機		—			
受水槽		—			
キュービクル		—			

⑦ 層間変形角(一次設計時)
◉ 1/200以下　□ 1/150以下　□ 1/120以下
(注)外装材の取付工法に関しては別紙建築工事特記仕様書による

2-6　地盤調査
ボーリング調査
◉ 有　（ ◉ 敷地内　□ 近隣 ）
□ 無　（ 調査予定　□ 有　□ 無 ）
□ 平板載荷試験　□ 静的貫入試験　◉ 標準貫入試験　□ 物理探査　□ 土質試験

§3　仮設工事，土工事

3-1　山留め、根切り

3-2　埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土　＊ 根切り土の中の良土　• 搬入良土
盛土　＊ 根切り土の中の良土　• 搬入良土
残土処分　• 場内地均し　＊ 場外搬出処分（＊ 自由 • 指定場所）

§4　地業工事

4-1　基礎及びスラブ下地業　（単位mm）

場所		捨てコンクリート厚さ ※(1)	A：砕石 B：割栗石	厚さ
基礎	独立,布	⦿ 50 • 60 • 100	⦿ A • B	• 60 • 100 • 150
	ベタ	• 50 • 60 • 100	⦿ A • B	⦿ 60 • 100 • 150
地中梁		⦿ 50 • 60 • 100	⦿ A • B	⦿ 60 • 100 • 150
構造スラブ		• 50 • 60 • 100	• A • B	• 60 • 100 • 150
土間スラブ	屋内	• 50 • 60 • 100	⦿ A • B	• 60 • 100 ⦿ 150
	屋外	• 50 • 60 • 100	⦿ A • B	• 60 • 100 ⦿ 150

注 (1)　アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
(2)　端部aは100以上とする。

4-2　設計地耐力　長期 350 kN／㎡　短期 700 kN／㎡　終局 *** kN／㎡
地耐力載荷試験 • 行う （箇所，長期設計耐力の３倍を確認する） ⦿ 行わない

4-3　地盤改良
• 無筋コンクリート地業　• 締固め工法　• ソイルセメント杭
• セメント系固化材撹拌　• 圧密排水工法　⦿ ウィンドミルソイルコラム工法（同等程度）
[• 載荷試験　• 一軸圧縮試験]　• 行う　⦿ 行わない
[• 六価クロム溶出試験]　• 行う　⦿ 行わない

4-4　既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
1）　杭種
• PHC杭　• A種　• B種　• C種　•
• ST杭　• A種　• B種　• C種　•
• SC杭　t mm　•　•　•　•
• CPRC杭　• Ⅰ種　• Ⅱ種　• Ⅲ種　• Ⅳ種
• 節杭　• A種　• B種　• C種　•
2）　工法
• 打撃工法　• 油圧ハンマー　• ディーゼルハンマー
• 埋込み工法　• Hyper-MEGA工法工法　拡大比 w=1.0
• プレボーリング拡大根固め工法（認定工法）
杭周固定液　＊ あり　• なし
• 中掘拡大根固め工法（認定工法）
• 回転埋設根固め工法（認定工法）
3）　杭径，設計耐力，本数表

杭　径（拡底部）mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備　考
（　）					
（　）					「杭・基礎伏図またはリスト」による

4）　杭の構成は設計図による。
5）　杭頭補強
• かご筋　• スタッド溶接　• 杭外周溶接

4-5　場所打鉄筋コンクリート杭，場所打鋼管コンクリート杭
1）　工法
• アースドリル工法　• 拡底アースドリル工法
• リバース工法　• オールケーシング工法
• BH工法　• ベノト工法
2）　杭径，設計耐力，本数表（拡底部は施工径を示す）

杭　径（拡底部）mm	管厚 mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備　考
（　）						
（　）						
（　）						
（　）						「杭・基礎伏図またはリスト」による
（　）						

3）　杭先端深さ　GL− m
4）　孔壁測定（2方向）
＊ 行う　（ • 全数　• % ）　• 行わない
5）　使用材料　コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。
コンクリート　Fc　（ • 普通ポルトランドセメント • 高炉セメントB種）
鉄筋　• D 以下 SD295A　• D 以上 SD345
• D 以上 SD390
鋼管（リブ付）• ＳＫＫ４００ • ＳＫＫ４９０

4-6　杭打地業共通事項
1）　[• 杭長決定用先行杭 • 試験掘]　• 行う　• 行わない
2）　載荷試験　• 行う （箇所，長期設計耐力の３倍を確認する）　• 行わない
3）　ＳＬ塗布　• 行う　• 行わない

§5　鉄筋工事

5-1　材種

種　類	径	継　手
⦿ SD295A	D 16 以下	⦿ 重ね継手　• スパイラル　• 工場溶接
⦿ SD345	D 19～25	• 重ね継手　⦿ 溶接継手　• 機械継手
• SD390	D 29 以上	• 溶接継手　• 機械継手
• SD490		• 溶接継手　• 機械継手
• 溶接金網	6φ-150×150	• 重ね継手
• 高強度せん断補強筋	• 1275級 P	• 重ね継手　• スパイラル　• 工場溶接
	• 785級 K	
	• 685級 UD UR	

溶接継手　⦿ ガス圧接　• 突き合せ溶接（D16以下は重ねアーク溶接でも可）

5-2　溶接部の検査（第三者機関による）外観検査全数　※圧接は全国圧接業共同組合連合会のZGPシステムを採用する。
⦿ 抜取り検査
• 引張り試験(JISZ3120)
1検査ロットにつき3本　• 原則 柱・梁の径毎に3本
⦿ 超音波探傷試験 (JISZ3062)　• 熱間押抜き試験
1検査ロットにつき30箇所　•
○ 不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した溶接箇所の数量で200箇所以内

5-3　梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品（評定品）を使用する。

5-4　その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として• ①一般　• ②地反力を受ける
• ③上載荷重が大きい場合　とする。
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6　コンクリート工事

6-1　設計基準強度 (N/mm²)
1）　⦿ 普通ポルトランドセメントJISR5210　• 高炉セメントB種
• 低熱ポルトランドセメントJISR5210
2）　粗骨材　• 砂利 ⦿ 砕石　• 高炉スラグ骨材　• 人工軽量骨材　• 再生骨材
最大径(mm)　• ２０ ⦿ ２５　• ４０
3）　躯体
⦿ 普通コンクリート
• Fc18　⦿ Fc24　（基礎・地中梁・スラブ）
• 軽量コンクリート（　• １種　• ２種　気乾単位容積質量　• 18.5　）
• LFc18　• LFc21　• LFc24　• LFc27　• LFc30　• LFc
4）　土間コンクリート ⦿ Fc 18　（ただし柱，壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする）
5）　捨てコンクリート ⦿ Fc 16
6）　防水押さえコンクリート　• Fc　• LFc　（気乾単位容積質量　• 18.5 ）
7）　かさ上げコンクリート　• Fc　• LFc　（気乾単位容積質量　• 18.5 ）

6-2　混和材　⦿ AE減水剤　• 高性能AE減水剤　• 躯体防水材　• 膨張材
注1.混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたもの使用する。

6-3

箇　所	基礎,地中梁				備　考
スランプ cm	１５				
水セメント比 %	６５				
単位水量 kg／㎥					１８５以下
単位セメント量 kg／㎥					２７０以上

6-4　試験　（躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う）
1）　骨材 [• 塩分含有量 • アルカリシリカ反応性]　⦿ 行う　• 行わない
2）　フレッシュコンクリート [• スランプ • 空気量]　⦿ 行う　• 行わない
3）　躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験　⦿ 行う　• 行わない
4）　コンクリートコア抜き取り圧縮試験　⦿ 行う　• 行わない
5）　マスコンクリートのひび割れ照査（温度応力解析）　⦿ 行う　• 行わない
6）　単位水量測定　⦿ 行う　• 行わない

6-5　調合
計画供用期間の級（　）は耐久設計基準強度Fd
• 短期(18)　• 標準(24)　• 長期(30)　• 超長期(36)
調合管理強度　Fm=Max(Fc,Fd)+S　S=3～6
材齢28日の調合強度Fは下記の両式を満足するものとする。
F≧Fm+1.73σ　F≧0.85Fm+3σ

6-6　せき板及び支柱の存置期間

種別 / 部位	せき板						支柱			
	基礎，梁側，柱，壁			スラブ下，はり下			スラブ下		はり下	
セメントの種類 / 存置期間の平均気温	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの材令（日） 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28			
コンクリートの材令（日） 5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28			
コンクリートの材令（日） 5℃未満	5	8	10	16	15	28	28			
コンクリートの圧縮強度	50 N／cm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の 85%		100%			

6-7　住宅性能表示
劣化等級　• 等級2　• 等級3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）2-7かぶり厚さが変わる場合があるので注意すること。

6-8　Fc60を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書による。

§7　鉄骨工事

7-1　材種及び使用箇所

規格名称	鋼材名	柱	通しダイア	内ダイア	大梁	ブレース	小梁,他
一般構造用圧延鋼材	⦿ SS400			○	○	○	○
溶接構造用圧延鋼材	• SM400A • SM490A						
建築構造用圧延鋼材	• SN400A						
	⦿ SN400B • SN490B				○		
	• SN400C ⦿ SN490C		○				
一般構造用角形鋼管	⦿ STKR400 • STKR490	○					
冷間成形角形鋼管	⦿ BCR295	○					
	• BCP235 • BCP325						
熱間成形角形鋼管	• SHC400B • SHC400C						
	• SHC490B • SHC490C						
一般構造用炭素鋼管	⦿ STK400 • STK490	○					
一般構造用軽量形鋼	⦿ SSC400						○
建築構造用圧延棒鋼	• SNR400						

7-2　高力ボルト

高力ボルトの種類		使用箇所
トルシア形高力ボルト	⦿ S10T	全般
JIS形高力ボルト	⦿ F10T	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	• F8T	母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	• S14T	屋内環境

7-3　普通ボルト，アンカーボルト
1）　材質 ⦿ SS400　• SS490
• ABR400　• ABR490　• ABM400　• ABM490（ABMはM24以上）
2）　大臣認定柱脚（メーカー仕様による）⦿ 使用する　• 使用しない

7-4　頭付きスタッド

径	長さ(mm)	使用箇所
16 φ	• 80 • 100 • 120 • 150 •	
19 φ	• 80 • 100 • 120 • 150 •	
22 φ	• 100 • 120 • 150 • •	

7-5　溶接材料
1）　アーク溶接に使用する溶接棒，ワイヤ及びフラックスは母材の種類，寸法，及び溶接条件に相応したものを選定する。
2）　ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6　スカラップ形状　• スカラップ工法　⦿ ノンスカラップ工法

7-7　継手

	柱		梁	
フランジ	• 高力ボルト	• 現場溶接	⦿ 高力ボルト	• 現場溶接
ウェブ	• 高力ボルト	• 現場溶接	⦿ 高力ボルト	• 現場溶接

7-8　溶接手法及び管理
1）　使用する溶接ワイヤー、入熱量及びパス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2）　本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技量検定付加試験を　• 行う ⦿ 行わない
3）　AM検定(工場・現場・代替タブ)の有資格者で、係員の承認を受けた者は技量検定付加試験を免除する。

7-9　デッキプレート（単位 mm）
1）　床用　高さ •　板厚 •
2）　合成スラブ用　高さ •　板厚 •
3）　型枠用　高さ •　板厚 •　形版　タイプ
4）　防錆処理　• プライマー　• 亜鉛メッキ　• Z12　• Z27

7-10　錆止め塗装（工場塗 ＊2回 ・1回、現場タッチアップ程度とする）
1）　素地こしらえ ⦿ ケレン　• ブラスト
2）　錆止め塗料

適用 室外	適用 室内	塗料	種別		標準膜厚
⦿	⦿	鉛、クロムフリー錆止め JISK5674			30μm
•	•	一般用錆止めペイント JISK5621	• 1種	• 2種	35μm
•	•	ジンクリッチクライマー JISK5552	• 1種	• 2種	15μm
•	•	シアナミド鉛錆止めペイント JISK5625	• 1種	• 2種	35μm

3）　溶融亜鉛メッキ　• 行う ⦿ 行わない

7-11　溶接部の検査（受入検査）　⦿ 行う　• 行わない
1）　受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者（元請）との直接契約による。
2）　第三者検査機関は（社）日本溶接協会によるＣＩＷ検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
3）　受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4）　外観検査の合否判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 付則6. 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
5）　超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」により、合否判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6）　溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事」表5.1溶接箇所数の数え方による。
7）　受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。
　a）工場溶接の場合
　　i．検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
　　ii．抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
　　iii．サンプリングの結果、不合格率が5%以内の場合はロットを合格とし、不合格率が5%を超えた場合は更に同一ロットの中から30箇所をサンプリングし、合計60箇所の不合格率が5%以内の場合を合格とする。不合格率が5%を超えた場合は残り全数の検査を行う。
　b）現場溶接の場合
　　i．全数検査とする。
8）　検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
9）　ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人　建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」等を参考にする。

7-12　鉄骨製作工場

国土交通省大臣認定（グレード）					
S	H	(M)	R	J	

《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称　椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事
□ 図面名称　構造特記仕様書（1）
□ 縮尺　A3： —　A1： —
□ 日付　2017/07/31
□ 図面番号　S-01

構　造　特　記　仕　様　書（２）

§8　コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板・ＰＣａ板工事

8-1　コンクリートブロック

1）　種類　　• A 種　　• B 種　　• C 種
2）　厚さ(mm)　• 100　　• 120　　• 150　　• 190

8-2　ALC　パネル

1）　使用箇所　• 床　　• 屋根　　• 外壁　　• 内壁
2）　厚さ(mm)　• 75 (80)　• 100　　• 120　　• 150　　• 175
3）　外壁取り付け構法

方　向	構　法	使用箇所	備　考
縦	• スライド構法		
	• ロッキング構法		
横	• アンカー構法		
	• ボルト止め構法		

8-3　押出成形セメント板

外壁取付構法及び厚さ(mm)　•　　•

方　向	構　法	使用箇所	備　考
縦	• ロッキング構法		
横	• スライド構法		

8-4　PCa板

1）　床及び屋根　　• 床　　• 屋根
• PCa板単独　厚さ(mm)　•　　•
• 合成板

PCa板厚さ(mm)	現場打厚さ(mm)	合計厚さ(mm)	備　考

2）　外壁　　厚さ(mm)　•　　•

§9　建築設備の構造耐力

令第129 条の２の４の事項 ※ 設計が該当する場合には x　にチェックを記入する。

・建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

- 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。
- 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
- 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
- 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
- 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
  - 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
  - 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
  - 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
  - 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
- 法第20 条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示第1389 号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。
- 給湯設備は、国土交通省告示第1447号により、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
  満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法とする。

§10　監理標準仕様

※試験を実施するものについては、試験結果報告書を設計監理者に提出すること。

1、試験

	項目	内容
地業工事	☐ 杭鉛直載荷試験	試験本数　　箇所　　最大荷重　　kN
	☐ 安定液の品質試験	ベントナイトの質及び添加量、比重、粘性等
	☐ 既製杭貫入試験	貫入量、打撃回数、モンケン落下高さ等
鉄筋工事	☐ 材料の試験	☐ 引張　☐ 曲　げ（材質、径が異なる毎に３本） ☐ ミルシート提出
	☐ ガス圧接試験	☐ 引張 ☐ 曲げ（同一作業班が１日に施工した圧接箇所を１ロッドとし１ロッドにつき材質、径が異なる毎に３本を抜取る） ☐ 超音波探傷試験
コンクリート工事	☐ 材料の試験	骨材　☐ 粘土塊量（砂、砂利、砕石） ☐ 塩　分（砂）　☐ 骨材ふるい分け
	☐ 試し練り試験	圧縮強度　１週　４週　各３本 ｽﾗﾝﾌﾟ、空気量、単位重量、温度
	☐ ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄ品質試験（硬化前）	☐ 荷卸し地点　ｽﾗﾝﾌﾟ、空気量、単位重量、温度 ☐ 打込み直前　ｽﾗﾝﾌﾟ、空気量、単位重量、温度
	☐ 圧縮強度試験	☐ 荷卸し地点　４週　☐ 打込み直前　４週 （試験は1日3本かつ　150m³ 毎に3本 高級コンクリートは　100m³ 毎に3本）
鉄骨工事	☐ 材料の試験	鋼材　☐ 引張　☐ 曲げ　☐ ミルシート提出 ☐ （材質、板厚が異なる毎に３本）
	☐ 材料の試験	☐ 試験対象者
	☐ 溶接部試験	☐ 超音波探傷試験　☐ 外観（目視）検査 （監理者が指定する第三者機関とし、工場突合せ溶接部の10%現場溶接の場合は100%）
	☐ 高力ボルトすべり試験	
	☐ 高力ボルト軸力試験	

2、検査

		報告書
☐ 試験杭	杭の種別、杭径、杭先端の位置、建入れ精度、継手等	☐
☐ 配筋検査	鉄筋の材質、本数、位置、継手、設備配管等	☐
☐ 型枠検査	型枠の材料、寸法、建入れの状態	☐
☐ コンクリート打ち	コンクリートの打込み状態	☐
☐ コンクリート打上りの検査	コンクリートの廻り込み、豆板、硬化不良等	☐
☐ 現寸検査	基本寸法の確認、詳細の検討	☐
☐ 仮付け検査	開先形状、組立て順序、仮付け状態	☐
☐ 溶接検査	外観、探傷試験の実施	☐
☐ 製品検査	寸法、精度、錆止め塗装	☐
☐ 建方検査	精度、ボルト締め付け	☐
☐ 試 験 堀		☐
☐		☐

3、その他提出書類

☐ 杭材料検査書	☐ セメント検査証明書
☐ 杭施工結果報告書	☐ 塗料検査
☐ 杭工事施工計画書	☐ 鉄骨製作要領書
☐ 杭水平偏芯報告書	☐ 鉄骨工事施工計画書
☐ 鉄筋材料検査証明書	☐ 鉄骨工作図
☐ ガス圧接計画書	☐ 鋼材検査証明書
☐ コンクリート調合計画書	☐ 高力ボルト検査証明書

(1) コンクリート

■ コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。
■ セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
■ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
■ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
■ 構造体コンクリート現場の圧縮度試験供試体（JASS5T-603）は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。また、打込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者か従事すること。なお、灯ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の隔合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

（２）　鉄　筋

■ 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。
■ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋基準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
■ D19末満は、すべて重ね継手とする。継手（D19以止）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
■ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（200箇所を超えるときは、200箇所ごと）に１回行い、１回試験は５本以上とする。
外観検査 ■ 有□　無、引張試験 ■ 有□ 無、超音波深傷試験 □ 有□ 無
■ 柱の帯筋（ＨＯＯＰ）の加工方法は 型（タガ型） □ W型（溶接型）
□ S型（スパイラルラル型）とする。
□ コンクリート及び鉄筋の試験は「建事物の工事における試験及び検査に関する東京都採取要綱」第４条の試験機関で行うこと。
試験機関名
代行業者名
代行業者名とは、試験、検査に伴なう業務を代行する者をいう。

（３）　型　枠

■ 材料　合板厚　12㎜を標準と㎝る。
■ 型枠存置期間

注）１　片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注）２　大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注）３　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
主）４　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）５　支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）６　上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称　椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事
□ 図面名称　構造特記仕様書（２）
□ 縮尺　A3：—　A1：—
□ 日付　2017/07/31
□ 図面番号　S-02

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

§１　一　般　事　項

１－１　基本事項

１．使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
２．設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
　また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書§1.一般事項に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説（RC規準2010）」による。
３．本標準図は異形鉄筋を対象とし、ｄは呼び名に用いた数値とする。
４．本標準図に示す単位は特記なき限りすべて mm とする。
５．本標準図以外の不明点については、設計図書及び係員の指示による。

§２　共　通　事　項

２－１　鉄筋の加工・組立

１．鉄筋は設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。
２．異形鉄筋の径は、呼び名に用いた数値とする。
３．有害な曲り又は損傷等のある鉄筋を使用してはならない。
４．コイル状の鉄筋は直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。
５．鉄筋には、点付け溶接を行わない。また、アートストライク等を起こしてはならない。

２－２　鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記　号	•	×	⌀	●	○	⊙	⊠	◎	⌖	◈	⊛
呼び名ｄ	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径Ｄ	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

・フックのない場合
・フックのある場合
・本数に差がある場合　（多い ― 少ない）
・機械式継手表示
・溶接継手表示(ガス圧接、突き合せ溶接)

２－３　鉄筋の折り曲げ

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

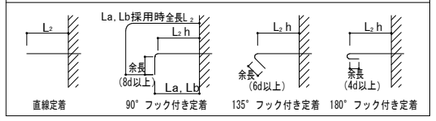
折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径（D）
180°	余長 4ｄ以上	柱・梁主筋 基礎主筋 帯　筋 あばら筋 スパイラル筋 スラブ筋 壁　筋	SD295	D16以下	3ｄ以上
			SD345	D19～D41	4ｄ以上
135°	余長 6ｄ以上		SD390	D41以下	5ｄ以上
			SD490	D25以下	5ｄ以上
90°	余長 8ｄ以上			D29～D41	6ｄ以上

２－４　鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

「ＪＡＳＳ５（２０１３）」に準拠

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)	重ね継手の長さ	定着の長さ 一般	定着の長さ 小梁・床スラブ	
		上段 直線 L₁ 下段 フック付き L₁h	上段 直線 L₂ 下段 フック付き L₂h,La	上端筋 フック付きLb	下端筋 L₃ ，L₃h
SD295 SD345 （ ）はSD345を示す	18	45d (50d) 35d	40d 30d ，20d	15d (20d)	L₃ = 20d L₃h = 10d 床スラブの場合 L₃ = 10d かつ 150 以上 SD490は適用外
	21	40d (45d) 30d	35d 25d ，15d (20d)		
	24～27	35d (40d) 25d (30d)	30d (35d) 20d (25d)，15d (20d)	15d	
	30～36	35d 25d	30d 20d ，15d		
	39～45	30d (35d) 20d (25d)	25d (30d) 15d (20d)，15d		
	48～60	30d 20d	25d 15d ，15d		
SD390 (SD490) (－)は適用外	21	50d (－) 35d (－)	40d (－) 30d (－) ，20d (－)	20d (－)	
	24～27	45d (55d) 35d (45d)	40d (45d) 30d (35d)，20d (25d)		
	30～36	40d (50d) 30d (35d)	35d (40d) 25d (30d)，20d (25d)	15d (－)	
	39～45	40d (45d) 30d (35d)	35d (40d) 25d (30d)，15d (20d)		
	48～60	35d (40d) 25d (30d)	30d (35d) 20d (25d)，15d (20d)		

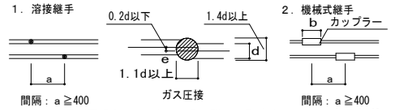
一般定着の直線L₂ またはフック付きの L₂h ， La ， Lb の図



１．重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きのL2hは仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
２．軽量コンクリートを使用する場合は、表の値に5dを加算する。
３．標準図（1）2-4で政令第73条とした場合、主筋又は耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは2-5 3.より L1 かつ 40d（軽量コンクリートを使用する場合は50d）とする。
４．標準図（1） 1-1 2.でJASS5、RC規準 2013とした場合、主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは設計者の指示による。参考値として上表JASS5にL1，L2を示す。
５．大梁の柱内への定着は全てL1とする。（仕様規定）

２－５　継手一般

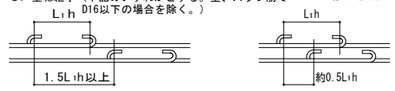
１．溶接継手



２．機械式継手

間隔：a≧400　　間隔：a≧400 かつ b+40

３．重ね継手（下記のいずれかとする。壁、スラブ筋で D16以下の場合を除く。）



４．D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。
　（溶接、機械式継手等による）
５．溶接継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、突き合せ溶接の場合は1サイズまでとする。
６．突合せ溶接継手及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。

２－６　鉄筋のフック

・下記の1．～7．に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。
　１．あばら筋及び帯筋　　２．煙突の鉄筋
　３．柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部分の鉄筋（下図参照）



※上図の • 印の鉄筋の末端にはフックが必要。

４．片持ちスラブの上端筋の先端
５．最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の四隅の鉄筋
６．杭基礎の基礎筋（偏心基礎及び杭2本打以上の場合）
７．鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋

２－７　鉄筋のあき

・鉄筋のあきａは、原則として下記による。
　呼び名の数値ｄの1.5倍以上 ）
　粗骨材の最大寸法の1.25倍以上 ）かつ 25以上



※Dは最外径を示す

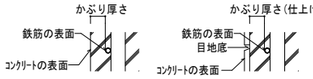
・鉄筋径が異なる場合は大きい方による。
・二段筋のあきは1.5dとする。

２－８　かぶり厚さ

鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

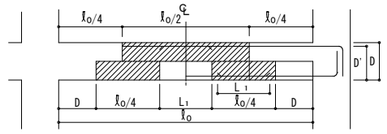
部　位			かぶり厚さ 仕上げあり	かぶり厚さ 仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30 (20)	30 (20)
		屋外	30 (20)	40 (30)
	柱 梁 耐力壁	屋内	40 (30)	40 (30)
		屋外	40 (30)	50 (40)
	擁壁		50 *1 (40) *1	50 *1 (40) *1
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁 布基礎の立上り		50 *2 (40) *2	
	基礎・擁壁		70 *2 (60) *2	

（1）（　）内の数値は最小かぶり厚さを示す。
（2）仕上げあり　とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
（3）＊1　品質・施工法に応じ、工事監理者の承認で10減の値とすることができる。
（4）＊2　軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。
（5）柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。
（6）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
（7）ひび割れ誘発目地・施工目地などかぶり厚さが部分的に減少する箇所は、防塵処理を施した鉄筋を使用するか、目地底から必要なかぶり厚さを確保する。
（8）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは(7)による。
（9）柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上を確保するように最小かぶり厚さを定める。



§３　梁

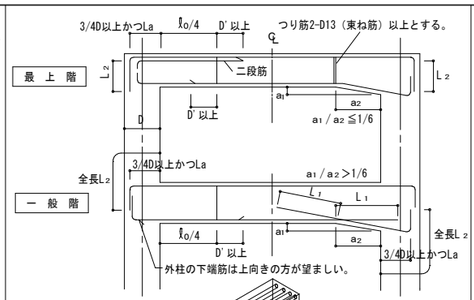
３－１　主筋の継手



・▨ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし、溶接継手の場合は、柱面より500以上はなすこと。
・定着形状を下記以外とする場合は設計図書による。

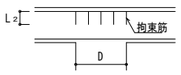
３－２　主筋の定着及び余長

外　柱



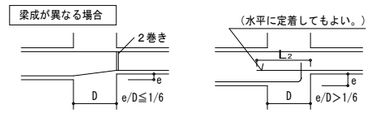
中　柱

※　余長D'は梁有効成とし、構造計算によって確認すれば、それによってもよい。

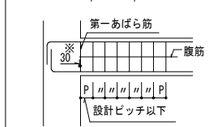


・梁主筋は原則として通し筋とするが、拘束筋Πをあばら筋と同径同ピッチで落とし込む。

梁成が異なる場合

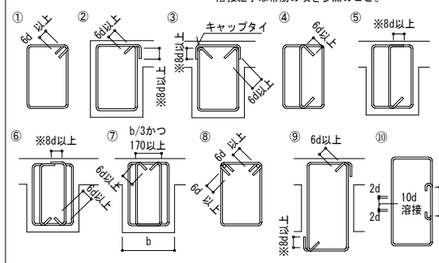


３－３　あばら筋副あばら筋



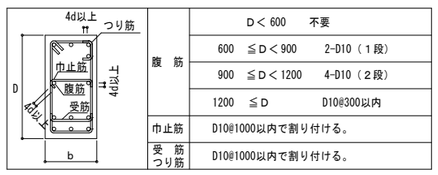
※　ねじれ応力を受ける腹筋は定着長さL₂とする。

・第一あばら筋は柱面に入れその間を設計ピッチ以下に割りつける。
・あばら筋の加工は下図 ① 又は⑧ による。
　② ③ ⑤ ⑥ ⑨　は同時打込みのスラブ付の場合に限る。
・⑨ ⑩ は梁成の大きい場合。
・① はピッチ２ｐで交互配置とする。
・135° フックは180° フックでも可とする。
・溶接継手は帯筋の項を参照のこと。



⑩ は、溶接継手または重ね継手のどちらかとする。
※　柱面より梁成の範囲は、180° フック又は135° フックが望ましい。

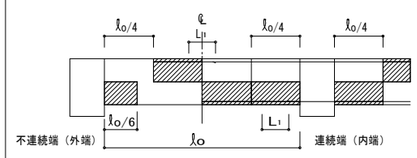
３－４　補助筋



腹　筋	D＜600	不要
	600 ≦D＜900	2-D10（１段）
	900 ≦D＜1200	4-D10（２段）
	1200 ≦D	D10@300以内
中止筋	D10@1000以内で割り付ける。	
受筋 つり筋	D10@1000以内で割り付ける。	

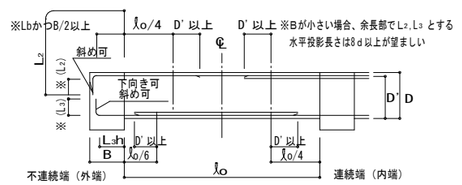
３－５　小梁及び片持梁

ａ）小梁継手



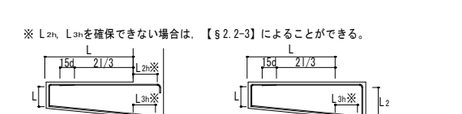
・▨ 印内に継手中心部を設けること。ただし溶接継手の場合は梁面より500以上はなすこと。

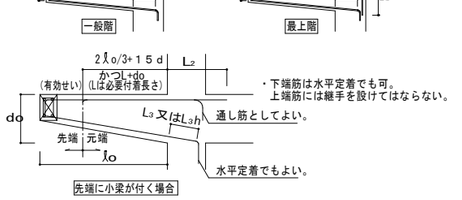
定着



ｂ）片持梁定着継手

※ L2h, L3hを確保できない場合は、【§2.2-3】によることができる。





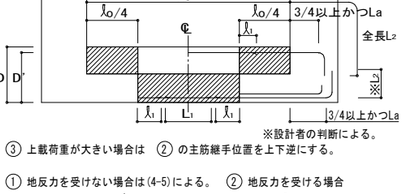
・下端筋は水平定着でも可。
　上端筋には継手を設けてはならない。

３－６　基礎梁及び基礎小梁

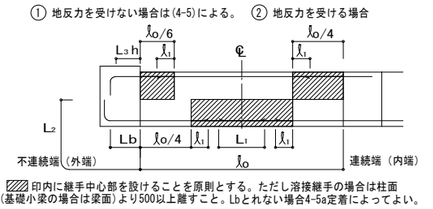
余長は　ℓ₁[　ℓ₁≧min (D',L₂)] とする。
余長ℓ₁は構造計算によって確認すれば、それによってもよい。

ａ）基礎梁の継手及び定着

① 一般（独立基礎、杭打独立基礎）



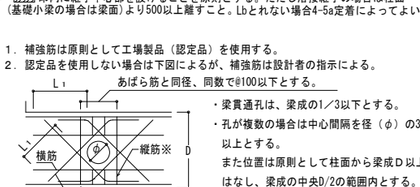
② 地反力（又は杭反力）を受ける場合



③ 上載荷重が大きい場合は　② の主筋継手位置を上下逆にする。

ｂ）基礎小梁の継手及び定着

① 地反力を受けない場合は(4-5)による。　② 地反力を受ける場合



・▨ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし溶接継手の場合は柱面（基礎小梁の場合は梁面）より500以上離すこと。Lbとれない場合4-5a定着によってよい。

３－７　梁の貫通補強

１．補強筋は原則として工場製品（認定品）を使用する。
２．認定品を使用しない場合は下図によるが、補強筋は設計者の指示による。

・梁貫通孔は、梁成のI／3以下とする。
・孔が複数の場合は中心間隔を径（φ）の3倍以上とする。
　また位置は原則として柱面から梁成Ｄ以上はなし、梁成の中央D/2の範囲内とする。
・φが100かつD/10以下のとき補強を必要としないが、あばら筋を切断してはならない。
・※縦筋はあばら筋加工とする。

《構造設計者》株式会社慧建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称：椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称：鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

□ 縮尺：A3 ： ―　A1 ： ―

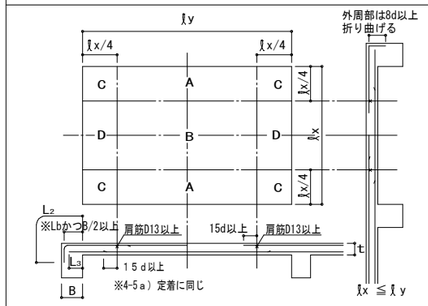
□ 日付：2017/07/31

□ 図面番号：S-03

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

§４　スラブ

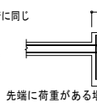
4－1 鉄筋の折り曲げ及び定着



4－2 継手

継手位置は原則として下表によるが、右図でもよい。

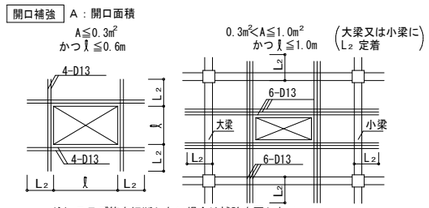
		標準継手位置	
上端筋	短辺方向	B	D
	長辺方向	A	B
下端筋	短辺・長辺方向	A	C　D



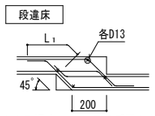
4－3 片持ちスラブ

4－4 補強筋

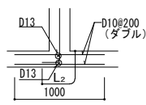
開口補強　A：開口面積

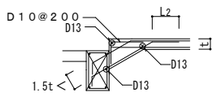


段違床



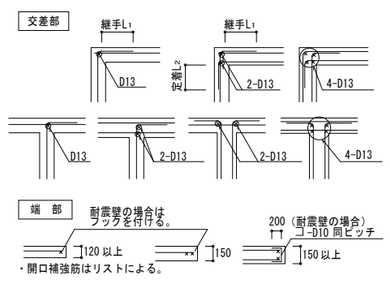
RC壁・CB壁が床にのる場合



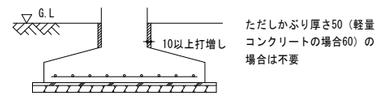


§５　壁

5－1 補強筋

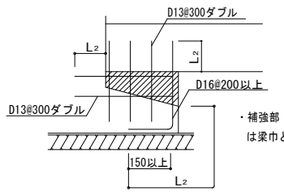


6－1 独立基礎



ただしかぶり厚さ50（軽量コンクリートの場合60）の場合は不要

6－2 基礎と基礎梁

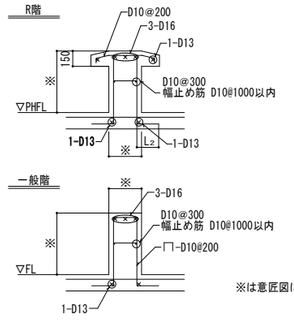


・補強筋 ▨ の厚さは梁巾とする。

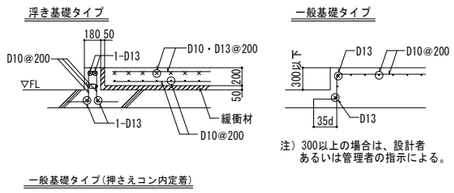
§６　基礎

§７　設備

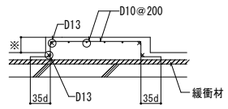
7－1 屋上設備基礎配筋詳細図



7－2 機械基礎配筋詳細図



一般基礎タイプ（押さえコン内定着）

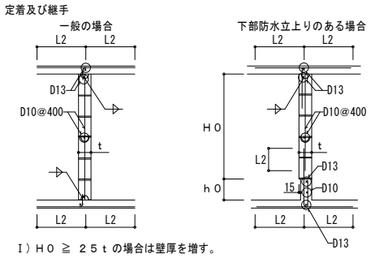


※は意匠図による

§８　コンクリートブロック

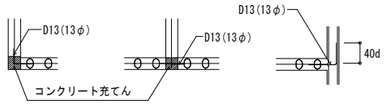
8－1 コンクリートブロック帳壁の配筋要領（外壁除く）

1）定着及び継手



Ⅰ）Ｈ０ ≧ ２５ｔ の場合は壁厚を増す。
　但し直方向の ２５ｔ 以内に壁又は柱が有る場合は除く。
Ⅱ）ｈ０ はコンクリートブロック段数調整寸法とする。
　但し、２００ ≦ ｈ０ ≦ ４００

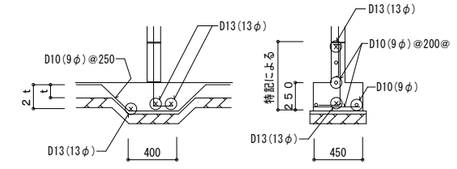
2）交差部の配筋



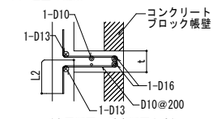
8－2 コンクリートブロック帳壁用控壁

3）基礎（コンクリートブロック造の場合は別途とする。）

Ⅰ）土間コンクリートから立上る場合　　Ⅱ）土間コンクリートのない場合

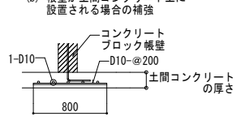


(a) 控壁の配筋



（水平断面、垂直断面とも）

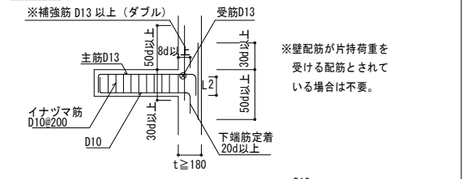
(b) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強



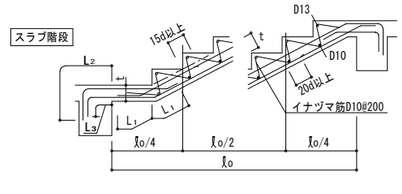
§９　その他

9－1 階段

片持階段

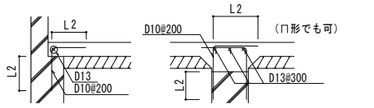


スラブ階段

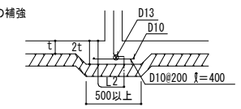


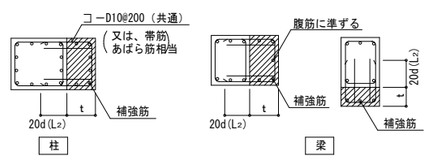
9－2 打放しコンクリート

打放しコンクリートのふかし
　a、外部　：　２０　㎜
　b、内部　：　１０　㎜



RC壁・CB壁の補強

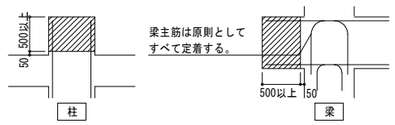




・ ▨ は打増し部分を示す。 ——— と配筋してもよい。
・補強筋　定着は20d（L２）（　）は、主要な耐力壁等が取付く場合で設計者の 判断による。

ｔ≦５０　補強なし
１００ ＜ ｔ≦２００　Ｄ１６＠３００
ｔ＞３００　設計図による

５０＜ ｔ≦１００　Ｄ１３＠３００
２００ ＜ ｔ≦３００　Ｄ１６＠２００

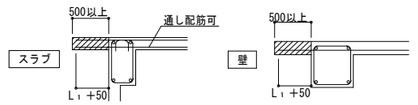


9－5 増築予定

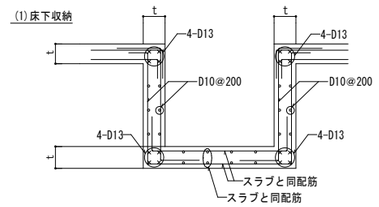
9－3 土間コンクリート

9－4 柱・梁打増し補強

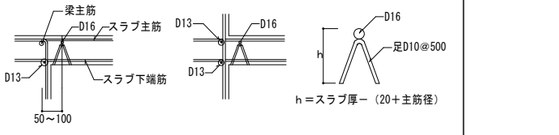
9－8 スラブピットの配筋要領



・ ▨ は、はつり部分を示す。
・増築時の継手は、原則として柱・梁の主筋は溶接継手する。
　（増築側の鉄筋は水平定着でもよい）



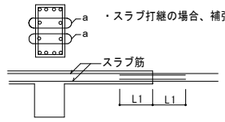
9－11 片持スラブのスペーサー



9－13 せん断補強筋

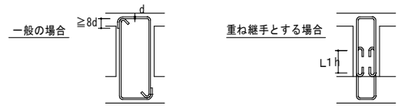
◎コンクリートの打継部分のせん断補強筋
・打継面に於いて新旧部分のコンクリート打込日時が７日以上経るものに適用する。

イ）打継ぎ ケ所はせん断力の最小の部分に設ける（一般梁に於いては
　スパン中央）打継部には補強筋を入れる
　ａ筋（補強筋）は主筋と同径、本数は主筋の１／２（端数切上）
ロ）イ）以外のケ所に設ける場合
　ａ筋は主筋と同径、本数は主筋の１／２　＋２（端数切上）



9－14 基礎のあばら筋

あばら筋組立の形及びフックの位置は、§4.4-3【あばら筋】 による。
ただし、梁の上下にスラブが付く場合で、かつ梁せいが1.5m以上の場合は、下図によることができる。



《構造設計者》株式会社慧建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称：椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称：鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

□ 縮尺：A3：—　A1：—

□ 日付：2017/07/31

□ 図面番号：S-04

鉄 骨 構 造 標 準 図 （1）

§1 一 般 事 項

1－1 基本事項

1） 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2） 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また、本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書１－２－４，５に指定した共通仕様書および標準仕様書による。
3） 製作精度等に関しては、ＪＡＳＳ６の付則６「鉄骨精度検査基準」による。
4） 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1－2 そ の 他

§2 共 通 事 項

2－1 略 号

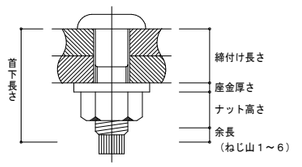
・AB	アンカーボルト	・SPL	スプライスプレート	・GPL	ガセットプレート
・BPL	ベースプレート	・WPL	ウェブプレート	・RPL	リブプレート
・DFPL	ダイヤフラム	・BH	組立てH形鋼	・TB	ターンバックル
・FPL	フランジプレート	・CHPL	チェッカープレート	・$W_{1\sim9}$	溶接記号（§4参照）
・HTB	高力ボルト	・FB	フラットバー		

§3 ボルト接合

3－1 高力ボルト

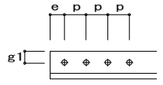
ボルトの長さ

ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ F8T，F10T	S10T
M16	30	25
M20	35	30
M22	40	35
M24	45	40



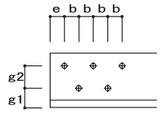
1. 特記以外はすべて S10T（トルシア形高力ボルト、上図）又は F10T とする。
2. 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの兼用はしてはならない。
3. ボルトの接合面の処理は、締め付け摩擦面を平グラインダー掛け等を行い、黒皮を除去して一様に赤さびを自然発生させる。ただし、ショットブラスト等を行った場合はこの限りでない。締付けは１次締付け後、マーキングを入れてから本締めをする。
4. 亜鉛メッキボルトの場合は、すべてF8T とする。

3－2 高力ボルトのピッチ



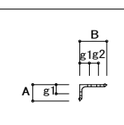
呼び径			M16	M20	M22	M24
孔径			18	22	24	26
ピッチ	標準	p	60	60	60	70
	最小		40	50	55	60
はしあき		e	40	40 (50)	40 (55)	45 (60)
最小縁端距離	せん断縁，手動ガス切断縁		28	34	38	44
	圧延縁，自動ガス切断縁等		22	26	28	32

（ ）内はボルトが応力方向に３本以上並ばない場合を示す。

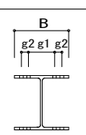


ゲージ g2	千鳥打ちのピッチb M16，20，22	M24
35	50	65
40	45	60
55	25	45

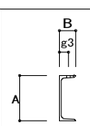
3－3 形鋼のゲージ



A or B	g1	g2	最大軸径
**50	30		16
60	35		16
65	35		20
70	40		20
75	40		22
80	45		22
90	50		24
100	55		24
125	50	35	24
130	50	40	24
150	55	55	24
175	60	70	24
200	60	90	24



B	g1	g2	最大軸径
**100	60		16
125	75		16
150	90		22
175	105		22
200	120		24
250	150		24
*300	150	40	24
350	140	70	24
400	140	90	24



B	g3	最大軸径
**50	30	16
65	35	20
70	40	20
75	40	22
80	45	22
90	50	24
100	55	24

＊Ｂ＝300は千鳥打ちとする。
＊＊印の欄のg及び最大軸径の値は強度上支障がないとき最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。

4－1 隅肉溶接

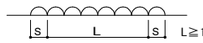
§4 溶 接 接 合

t ≦ 16						16 ＜ t ≦ 40						
記号 W_1						記号 W_1						
S	9	12	14	16		19	22	25	28	32	36	40
t	7	9	10	12		11	13	15	17	19	21	24

脚長（S） $0 \leqq \Delta S \leqq 0.5S$ かつ $\Delta S \leqq 5$
$\Delta S = S' - S$
S ＝設計サイズ
S' ＝実際サイズ

余盛 $0 \leqq \Delta\alpha \leqq 0.4S$ かつ $\Delta\alpha \leqq 4$

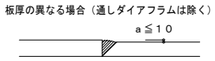
断続隅肉溶接の長さL

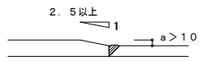


L≧10Sかつ40以上

4－2 完全溶込み溶接（突合せ溶接）

1）板厚の異なる場合（通しダイアフラムは除く）

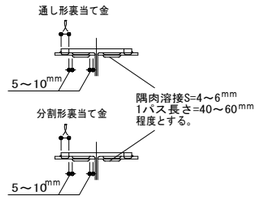




クレーンガーダーの場合は、全て2.5倍以上の勾配をとる。

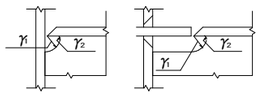
2）エンドタブ

両端に継手と同じ形状のエンドタブを取り付ける。
長さℓは35以上かつ薄い方の板厚の２倍以上とする。
エンドタブを切断する場合溶接終了後母材より5～10mmはなして切断する。代替タブを採用する場合は溶接技量付加試験に合格した溶接工によること。
エンドタブ、裏当て金の組立て溶接は右図による。



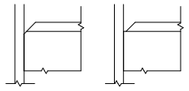
3）開先加工 （下図は参考とする。）

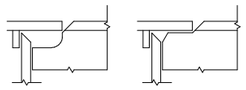
a）スカラップ工法



・スカラップの円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工する。γ_1 は35程度、γ_2 は10程度とする。なお複合円は滑らかに仕上げること。
・完全溶込み溶接部以外のスカラップはγ=25程度とする。

b）ノンスカラップ工法





機械加工タイプ　　機械加工 ＋ ガス切りタイプ

4）開先形状

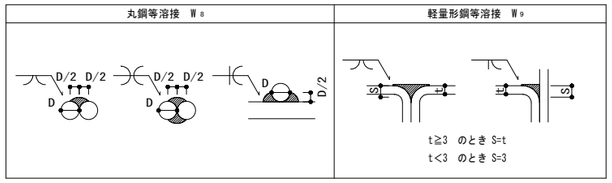
記号	形状	適用板厚	寸法	アーク手溶接	ガスシールド及びセルフシールドアーク溶接
W_2 MC-BL-B1 GC-BL-B1	裏当て α_1 R T 9以上 25以上 G	6≦T	G	7^{+2}_{-2}	6^{+2}_{-2}
			R	2^{+1}_{-2}	2^{+1}_{-2}
			$\alpha1$	$45^{\circ}{}^{-5'}$	$45^{\circ}{}^{-5'}$
W_3 MC-BL-2 GC-BL-2	裏はつり $\alpha1$ R T G	6≦T≦19	G	0^{+4}_{-0}	0^{+3}_{-0}
			R	2^{+2}_{-2}	2^{+2}_{-2}
			$\alpha1$	$45^{\circ}{}^{-5'}$	$45^{\circ}{}^{-5'}$
W_4 MC-BK-2 GC-BK-2	裏はつり $\alpha1$ d1 R T G $\alpha2$ d2	16＜T	G	0^{+4}_{-0}	0^{+3}_{-0}
			d1	$\frac{2}{3}$ (T−R)	$\frac{2}{3}$ (T−R)
			R	2^{+2}_{-2}	2^{+2}_{-2}
			d2	$\frac{1}{3}$ (T−R)	$\frac{1}{3}$ (T−R)
			$\alpha1$	$45^{\circ}{}^{-5'}$	$45^{\circ}{}^{-5'}$
			$\alpha2$	$60^{\circ}{}^{-5'}$	$60^{\circ}{}^{-5'}$
W_5 MC-BI-B1 GC-BI-B1	裏当て T G FB−4.5×19	3～6	G	T^{-2}	T^{-2}
		6～9	G		6^{-2}

MC …はアーク手溶接　　GC …はガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接の記号を示す。

4－3 部分溶込み溶接

片面溶接 W_6 12 ≦ t ≦ 40										両面溶接 W_7 16 ≦ t ≦ 40
t	12	16	19	22	25	28	32	36	40	D=（t-2）/2
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16	
t/4 ≦ S ≦ 10										

4－4 フレア溶接

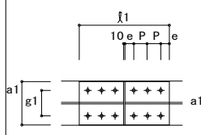


4－5 そ の 他

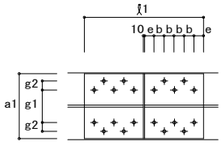
加工工程中及び現場建方後においてもアークストライク、ショートビートをしてはならない。

5－1 継手リスト

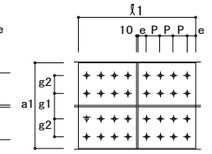
§5 継 手



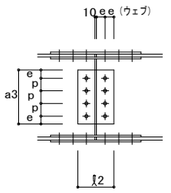
フランジ巾250以下

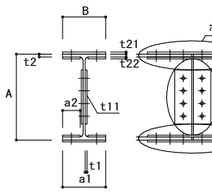


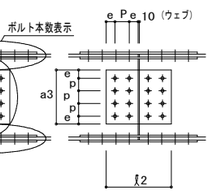
フランジ巾300



フランジ巾350，400





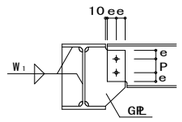


材種	主材 H−A×B×t1×t2 BH−A×B×t1×t2	高力ボルト径	フランジ ボルト総本数	フランジ 外側添板 2PL− t21×a1×ℓ1	フランジ 内側添板 4PL− t22×a2×ℓ1	ウェブ ボルト総本数	ウェブ 添板 2PL− t11×a3×ℓ2	ウェブ ピッチ
	H− x x x			x x	x x		x x	
	H− x x x			x x	x x		x x	
	H− x x x			x x	x x		x x	
	H− x x x			x x	x x		x x	
	H− x x x			x x	x x		x x	
	H− x「鉄骨部材リスト」による			x x	x x		x x	
	H− x x x			x x	x x		x x	
	H− x x x			x x	x x		x x	
	H− x x x			x x	x x		x x	
	H− x x x			x x	x x		x x	
	H− x x x			x x	x x		x x	
	H− x x x			x x	x x		x x	

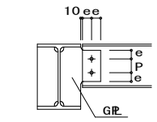
1．フランジPL面もしくはウェブPL面で、段差1mmを超える場合は、フィラーPLを入れて調整すること。
2．a_3 は原則として梁成の2/3以上確保すること。

5－2 小梁仕口

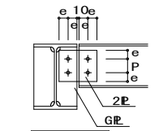
ピン接合 Aタイプ



A1タイプ

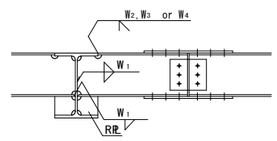


A2タイプ

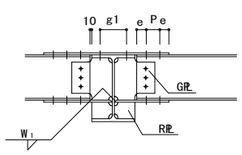


A3タイプ

剛接合 Bタイプ



B1タイプ



B2タイプ

1．GPL，RPLは材種・板厚とも小梁の WPLと同等以上とする。
2．継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
鉄骨構造標準図（1）

□ 縮尺
A3： —
A1： —

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
S-05

鉄 骨 構 造 標 準 図 （2）

§６　柱梁接合部及び継手

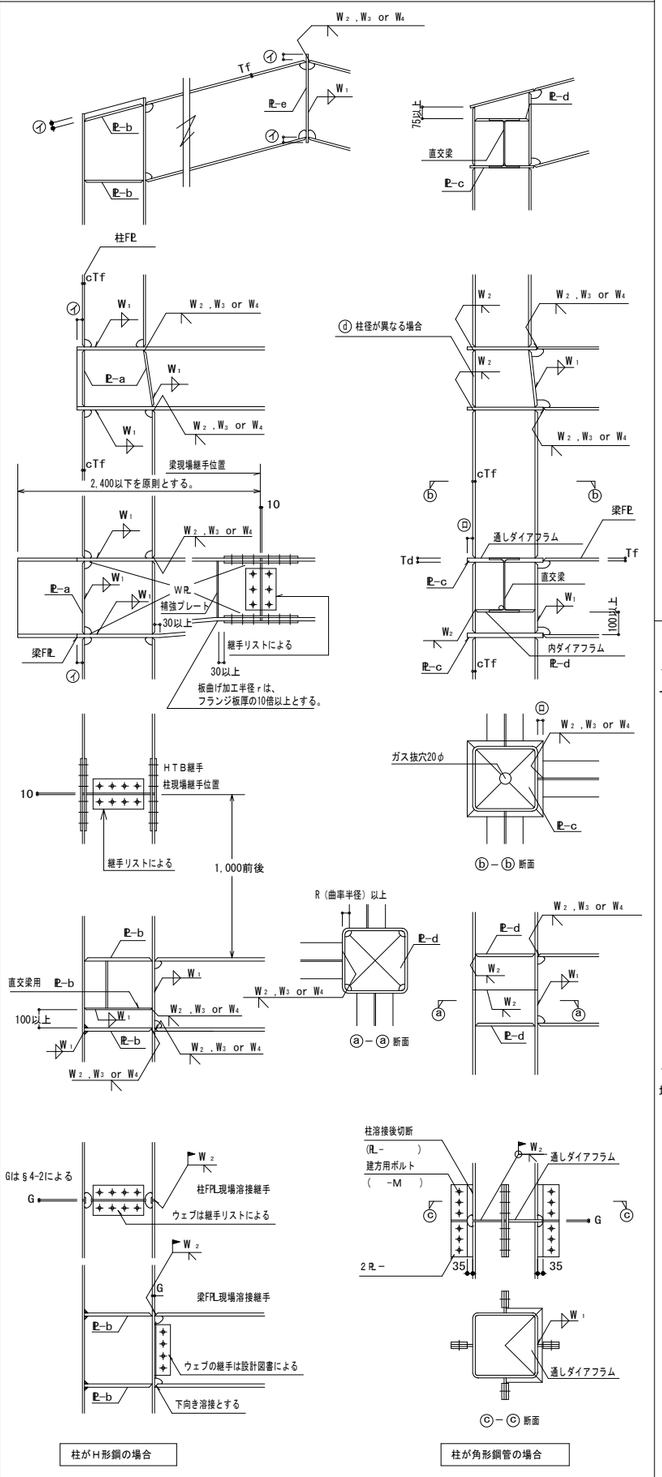
6－1 勾配屋根

6－2 梁通し

6－3 仕口と継手

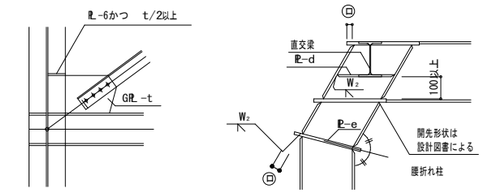
6－4 柱通し

6－5 現場溶接継手



柱がH形鋼の場合　　柱が角形鋼管の場合

6－6 その他



H形鋼の弱軸にブレースが取り付く場合

柱がH形鋼の場合　　柱が角形鋼管の場合

1） パネルゾーンのPLの厚さ

1.	PL－a（鉛直スチフナ）	上下柱のFPLの厚い方より１サイズUP以上
2.	PL－b（水平スチフナ）	仕口部に集結する梁の最大FPLより１サイズUP以上
3.	PL－c（通しダイアフラム）	仕口部に集結する梁の最大FPLより２サイズUP以上かつ柱のFPL以上
4.	PL－d（内ダイアフラム）	仕口部に集結する梁の最大FPLより２サイズUP以上
5.	PL－e（折れ曲がり部）	梁（柱）のFPLより１サイズUP以上

2） 出寸法

ⓐ　25 ㎜ かつ cTf 以上

ⓑ　cTf≦25 の場合　25

　　cTf≧28 の場合　30

3） 注記

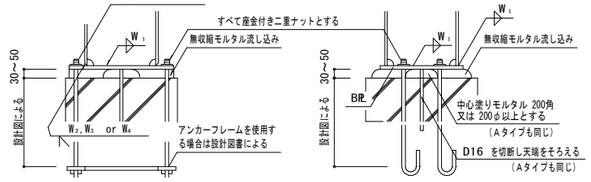
1. ダイアフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の１ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きい方に同じとし、材質は上の方の１ランク上質とする。
2. ⓓ（6-2 項）上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階柱の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折り曲げ加工又は溶接加工とする。
3. ハンチ部で FPLを折曲げる場合は R ≧10Tf とし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合（1/6程度）は不要。
4. ダイアフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイアフラムの厚みの内部で溶接すること。（告示1464）
5. 現場溶接を行なう場合は工事監理者の承諾を得、養生に十分配慮して行うこと。

7－1 一般柱脚

7－2 埋込柱脚

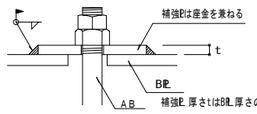
§７　柱　脚

A タイプ （主柱）　　B タイプ （間柱等二次部材）

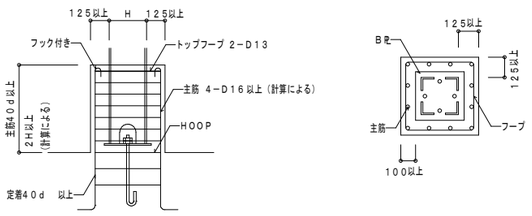


無収縮モルタルの強度はＲＣ柱型のコンクリート強度以上とする。

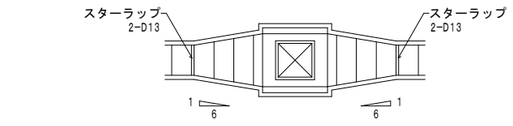
アンカーボルトの施工に誤差がある場合は台直しはせず右図の様に補強する。



ＲＣ根巻タイプ



柱脚埋込み形式の時の水平ハンチ



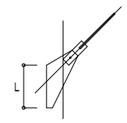
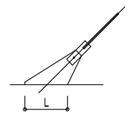
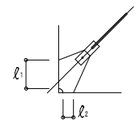
8－1 丸鋼筋違

8－2 山形鋼（シングル）

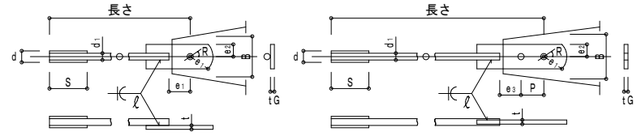
8－3 山形鋼（ダブル）

8－4 平鋼

§８　筋　違　材

最小必要溶接長さ　タイプ		
TYPE 1	TYPE 2	TYPE 3
		
		L = ℓ₁ + ℓ₂

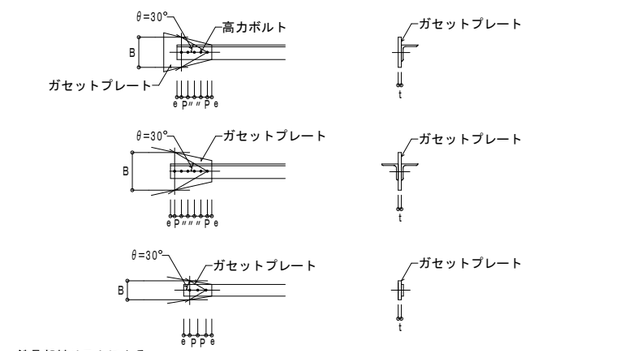
GPL を突合せ溶接とする場合は、設計図による。



			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
GPL	ねじの呼び (d)								
	厚　さ　tG		6	6	9	9	9	9	12
	必 要 幅　B		60	70	75	85	85	85	100
	最小必要溶接長 (L)		60	60	60	80	80	80	100
羽子板	はしあき(最小) (2) e_1		35	40	45	50	50	55	50
	平鋼製 へりあき(最小) (1) e_2		19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	平鋼製 板　厚　t		4.5	6	6	9	9	9	9
	ボルト端から取付ボルト穴心のあき(最小) e_3		47	52	59	66	66	73	70
	溶接長さ(最小) ℓ		40	50	55	60	75	85	85
	取付ボルト(2)	種　類	JIS B 1186　2種高力ボルト(F10T) 又は JIS B 1180　中８ g10.9						
		ねじ呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
		本　数	1	1	1	1	1	1	2

注 (1) e_1, e_2 が確保されていれば形状は自由でよい。

(2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする。



鉄骨部材リストによる

サ　イ　ズ	ガセットプレート t x B	e	P	高力ボルト	必要溶接長（ℓ）

《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称：椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称：鉄骨構造標準図（２）

□ 縮尺：A3 ： —　A1 ： —

□ 日付：2017/07/31

□ 図面番号：S-06

鉄 骨 構 造 標 準 図 （3）

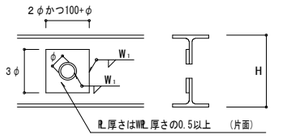
§9 その他

9－1 貫通補強

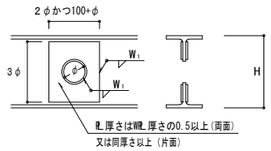
A タイプ （$\phi \leqq 0.1H$）



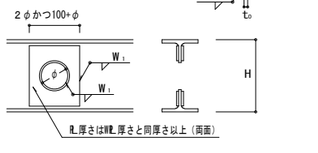
B タイプ （$0.1H < \phi \leqq 0.2H$）

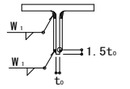


C タイプ （$0.2H < \phi \leqq 0.28H$）

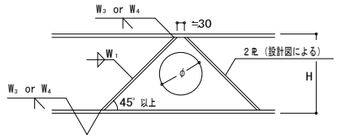


D タイプ （$0.28H < \phi \leqq 0.4H$）

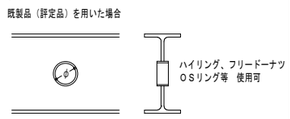


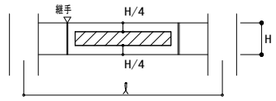


E タイプ （$0.4H < \phi \leqq 0.5H$）



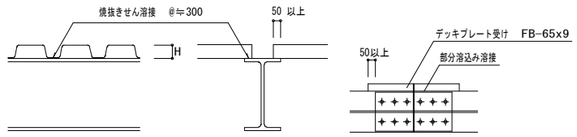
F タイプ





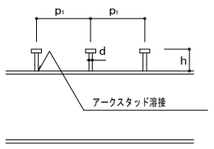
1. 特記なき限り補強方法は上図によるが、孔径（φ）は
   0.5H以下とし、そのピッチは3.0φ以上とする。
   （これを満足できない場合は設計者の指示による。）
2. 貫通孔を設ける範囲は右図の▨ 部分を原則とする。
3. 貫通孔が多くある場合はWPL_を厚くした（WPL_+補強PL_）BH とする。

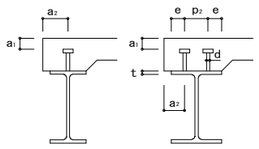
9－2 デッキプレート



○ 合成スラブの場合はメーカー仕様による。

9－3 スタッドジベル



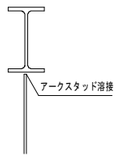


h≧ 4.0d
7.5d≦ p1 ≦300
p2 ≧ 5.0d
a1 ≧ 40
a2 ≧ 100
e≧ 40
d≦ 2.5t

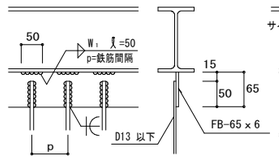
h、P1、P 2は設計図書による。

9－4 壁筋の溶接

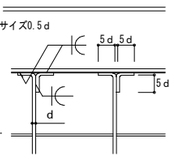
A タイプ （標準）



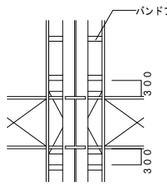
B タイプ （軽微なRC壁の場合）



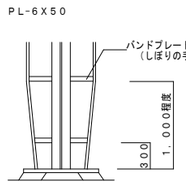
Cタイプ （ブロック壁の場合）



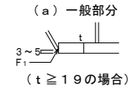
9－5 バンドプレート



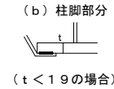
（a）一般部分



（b）柱脚部分



（t≧19の場合）



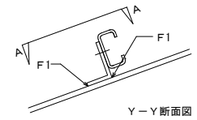
（t＜19の場合）

（注）バンドプレートの間隔は、
８００mm以内とし、
タラップとして使用する位置は、
４００mm以内とする。

9－6 母屋

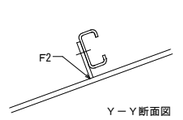
◎母屋の接合 F1:隅肉溶接（片面溶接） F2:隅肉溶接（両面溶接）

ア 山形の鋼材を使用する場合

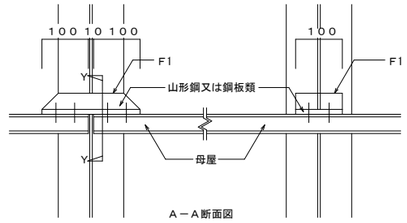


Y－Y断面図

イ 鋼板類を使用する場合



Y－Y断面図



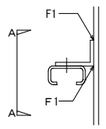
A－A断面図

（母屋を継ぐ場合） （母屋を引通す場合）

9－7 胴縁

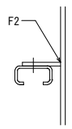
◎胴縁の接合 F1:隅肉溶接（片面溶接）, F2:隅肉溶接（両面溶接）

ア 山形の鋼材を使用する場合

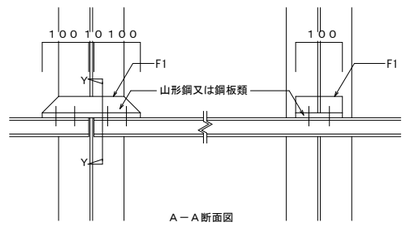


Y－Y断面図

イ 鋼板類を使用する場合



Y－Y断面図

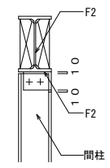


A－A断面図

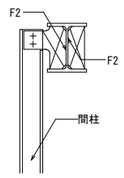
（胴縁を継ぐ場合） （胴縁を引通す場合）

9－8 間柱

◎間柱の接合 F1:隅肉溶接（片面溶接） F2:隅肉溶接（両面溶接）



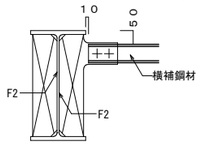
（梁直下に取付く場合）



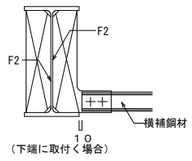
（梁側面に取付く場合）

9－9 横補剛材

◎横補剛材の接合 F1:隅肉溶接（片面溶接） F2:隅肉溶接（両面溶接）



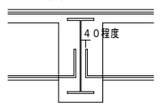
（上端に取付く場合）



（下端に取付く場合）

9－10 小梁

◎RCに取付くタイプ



《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10598号
一級建築士大臣登録 第262598号 二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
鉄骨構造標準図（3）

□ 縮尺
A3： ―
A1： ―

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
S-07

ISベース(SEシリーズ) 柱脚工法設計・施工標準図

一般財団法人　日本建築センター 鋼構造評定委員会評定　　BCJ評定－ST0112-05 （平成28年1月26日）
国土交通大臣認定番号　MBLT-0116（平成26年1月30日）,MBLT-0144（平成27年2月12日）,MBLT-0150（平成27年7月27日）,MBLT-0151（平成27年7月27日）

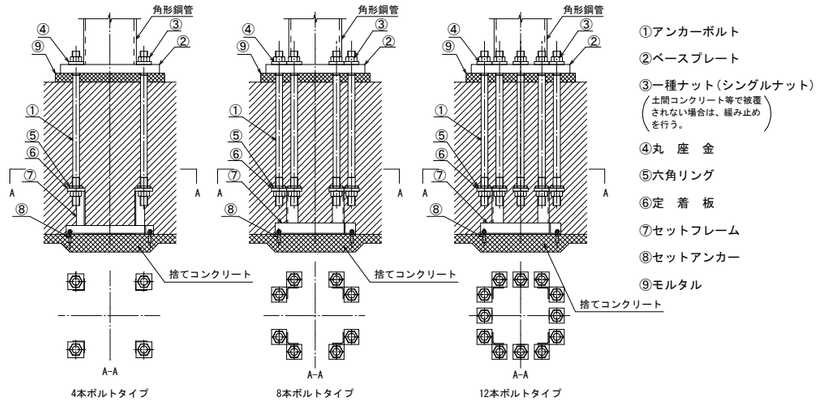
適用柱材
□１５０×１５０～
□５００×５００用

基準強度(N/mm²)
２３５
２９５
３２５

アイエスケー株式会社
〒550-0001　大阪市西区土佐堀1丁目4番11号(金鳥土佐堀ビル2F)
TEL　06-6449-0881　FAX　06-6449-0877
〒105-0004　東京都港区新橋2丁目13番6号(中井ビル3F)
TEL　03-5251-5545　FAX　03-5251-5226

平成28年2月作成

1.構造概要

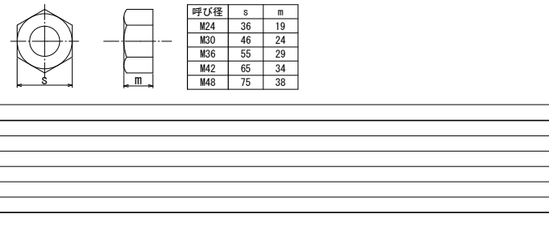


①アンカーボルト
②ベースプレート
③一種ナット（シングルナット）
（土間コンクリート等で被覆されない場合は、緩み止めを行う。）
④丸　座　金
⑤六角リング
⑥定　着　板
⑦セットフレーム
⑧セットアンカー
⑨モルタル

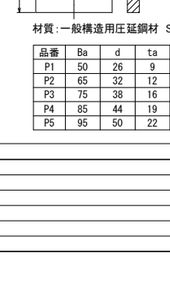
2.ベースプレート

2-1.材質
建築構造用圧延鋼材：SN490B　（ベースプレートの板厚が40mm以下の場合）
建築構造用認定鋼板：TMCP325B（ベースプレートの板厚が40mmを超える場合）

2-2.形状と寸法



2-3.角形鋼管との溶接要領

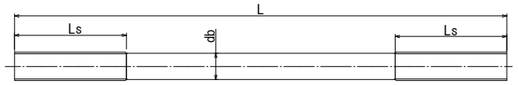


溶接施工　溶接施工に関しては、「日本建築学会：建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事」に準じる。

◆注意◆　ベースプレートは
"中心マーク"のある面が上面(鋼管取付面)
"溶接突起"のある面が下面(底面)

3.アンカーボルト・ナット・六角リング・丸座金・定着板

3-1.アンカーボルト



材料：ＩＳベース専用材（ISB740C,ISB740E）

品番	呼び径	ピッチ	db		L	Ls
			ISB740C	ISB740E		
A1	M24	3.0	22.0	–	595	100
A22	M30	3.5	28.0	28.0	685	115
A23	M30	3.5	28.0	28.0	785	115
A32	M36	4.0	33.15	33.0	725	130
A33	M36	4.0	33.15	33.0	775	130
A34	M36	4.0	33.15	33.0	825	130
A35	M36	4.0	33.15	33.0	925	130
A43	M42	4.5	38.92	38.8	945	145
A44	M42	4.5	38.92	38.8	1045	145
A52	M48	5.0	45.0	45.0	1015	160
A53	M48	5.0	45.0	45.0	1115	160

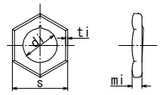
3-2.ナット

種　　類：1種六角ナット　JIS B 1181
強度区分：JIS B 1052 8以上

呼び径	s	m
M24	36	19
M30	46	24
M36	55	29
M42	65	34
M48	75	38

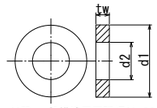
3-3.六角リング

材質：　JIS G3131 SPHC



呼び径	s	di	ti	mi
M24	36	22.5	1.6	5
M30	46	28.9	2.0	7
M36	55	33.6	2.0	8
M42	65	39.2	2.3	9
M48	75	45.7	2.3	10

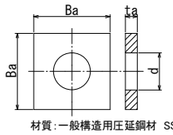
3-4.丸座金



材質:一般構造用圧延鋼材　SS400

品番	d1	d2	tw
C1	52	25	9
C2	58	31	12
C3	68	37	16
C4	78	43	19
C5	90	50	19

3-5.定着板



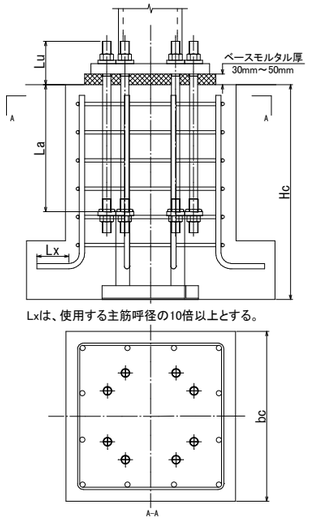
材質:一般構造用圧延鋼材　SS400

品番	Ba	d	ta
P1	50	26	9
P2	65	32	12
P3	75	38	16
P4	85	44	19
P5	95	50	22

4.コンクリート柱形

4-1.使用材料
コンクリート：Fc N/mm²以上（柱脚サイズごとのコンクリード強度Fcは下表参照）
鉄　　筋：SD295A（D16以下に適用）
　　SD345（D19以上に適用）

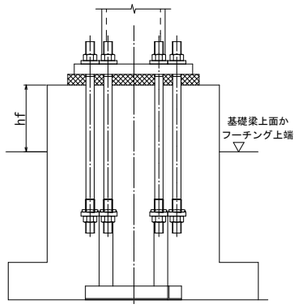
4-2.形状・配筋



Lxは、使用する主筋呼径の10倍以上とする。

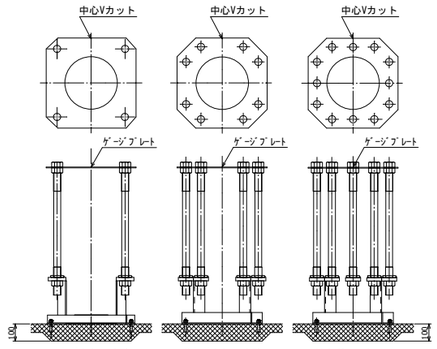
4-3.基礎立上りがある場合

柱形の配筋が、標準の場合
基礎立上り高さ(hf)は250mm以下とする。



主筋、帯筋の径・本数は、標準柱形の場合を示す。
柱形の幅(bc)を拡げた場合、検討が必要。
主筋頂部のフックは、設けないことを標準とする。

5.施工



アンカーボルト据付図

5-1.施工打ち合わせ
5-2.（捨てコンクリートの打設）
5-3.（墨出し）
5-4.アンカーボルト据付
5-5.（配筋・型枠）
5-6.（コンクリート打設前検査）
5-7.（コンクリート打設）
5-8.（鉄骨建方・アンカーボルトの本締）
5-9.ナットの緩み確認
　ベースモルタルの充てん
5-10.（充てん型枠脱型・廃棄）

6.施工管理

施工は、施工マニュアルに準じて行い、施工後「チェックシート」により、
許容範囲内にあることを確認する。

※1　柱材は、指定JIS規格品または大臣認定品とする。

採用	柱脚記号	ボルト		適用柱サイズ※1		ベースプレート						アンカーボルト	丸座金	定着板	柱部							
		タイプ	径	鋼管サイズ	適用板厚	品番	D	C1	C2	dh	t	品番	品番	品番	Lu	La	Hc	bc（最小～最大）	主筋（径－本数を選択する）			帯筋	Fc
	ＳＥ１５１	4本	M24	□150	6～12	S2529	290	210		36	25	A1	C1	P1	125	410	500以上	500 ～ 530	12-D16	8-D19	8-D22	D13@150	21
	ＳＥ１５２	4本	M30			S3231	310	210		42	32	A22	C2	P2	135	480	600以上	520 ～ 620	12-D19	8-D22	8-D25	D13@150	21
	ＳＥ１７１	4本	M24	□175	6～12	S2531	310	230		36	25	A1	C1	P1	125	410	500以上	520 ～ 530	12-D16	8-D19	8-D22	D13@150	21
	ＳＥ１７２	4本	M30			S3232	320	230		42	32	A22	C2	P2	135	480	600以上	540 ～ 620	12-D19	8-D22	8-D25	D13@150	21
	ＳＥ１７３	4本	M36			S3634	340	240		50	36	A32	C3	P3	155	490	600以上	560 ～ 750	16-D19	12-D22	12-D25	D13@150	21
	ＳＥ２０１	4本	M24	□200	6～16	S2534	340	260		36	25	A1	C1	P1	125	410	500以上	550 ～ 650	12-D19	12-D22	8-D25	D13@150	21
	ＳＥ２０２	4本	M30			S3235	350	260		42	32	A22	C2	P2	135	480	600以上	570 ～ 650	12-D19	12-D22	12-D25	D13@150	21
●	ＳＥ２０３	4本	M36			S3636	360	260		50	36	A32	C3	P3	155	490	600以上	580 ～ 750	16-D19	16-D22	12-D25	D13@150	21
	ＳＥ２０４	8本	M30			S3639	390	300	170	42	36	A23	C2	P2	135	580	700以上	600 ～ 750	16-D19	12-D22	12-D25	D13@150	21
	ＳＥ２５１	4本	M24	□250	6～19	S2539	390	310		36	25	A1	C1	P1	125	410	500以上	600 ～ 750	16-D19	16-D22	12-D25	D13@150	21
	ＳＥ２５２	4本	M30			S2840	400	310		42	28	A22	C2	P2	135	480	600以上	620 ～ 750	16-D19	16-D22	12-D25	D13@150	21
●	ＳＥ２５３	4本	M36			S3242	420	310		50	32	A33	C3	P3	155	540	650以上	630 ～ 840	20-D19	16-D22	16-D25	D13@150	21
	ＳＥ２５４	8本	M30			S3645	450	350	220	42	36	A23	C2	P2	135	580	700以上	650 ～ 840	20-D19	16-D22	16-D25	D13@150	21
	ＳＥ２５５	8本	M36			S4046	460	350	200	50	40	A34	C3	P3	155	590	700以上	660 ～ 840	24-D19	20-D22	16-D25	D13@150	21
	ＳＥ３０１	4本	M30	□300	6～19	S2845	450	360		42	28	A23	C2	P2	135	580	700以上	670 ～ 750	16-D19	12-D22	12-D25	D13@100	21
	ＳＥ３０２	4本	M36			S3246	460	360		50	32	A33	C3	P3	155	540	650以上	680 ～ 840	20-D19	16-D22	16-D25	D13@100	21
	ＳＥ３０３	8本	M30			S3649	490	400	270	42	36	A23	C2	P2	135	580	700以上	700 ～ 840	20-D19	20-D22	16-D25	D13@100	21
	ＳＥ３０４	8本	M36			S4050	500	400	250	50	40	A35	C3	P3	155	690	800以上	710 ～ 980	—	20-D22	16-D25	D13@100	21
	ＳＥ３０５	8本	M42			S5055	550	420	250	58	50	A43	C4	P4	175	680	800以上	760 ～ 1070	—	24-D22	20-D25	D13@100	21
	ＳＥ３５１	4本	M30	□350	9～22	S2850	500	410		42	28	A23	C2	P2	135	580	700以上	720 ～ 840	20-D19	16-D22	12-D25	D13@100	21
	ＳＥ３５２	8本	M30			S3655	550	460	330	42	36	A23	C2	P2	135	580	700以上	760 ～ 1000	28-D19	24-D22	20-D25	D13@100	21
	ＳＥ３５３	8本	M36			S4057	570	470	320	50	40	A35	C3	P3	155	690	800以上	780 ～ 1070	—	24-D22	20-D25	D13@100	21
	ＳＥ３５４	8本	M42			S4559	590	480	310	58	45	A43	C4	P4	175	680	800以上	810 ～ 1160	28-D22	24-D25	20-D29	D13@100	21
	ＳＥ３５５	8本	M48			S5563	630	500	310	66	55	A52	C5	P5	195	720	850以上	910 ～ 1240	32-D22	28-D25	24-D29	D13@100	21
	ＳＥ３５６	8本	M48			S7063	630	500	310	66	70	A52	C5	P5	195	720	850以上	910 ～ 1240	32-D22	28-D25	24-D29	D13@100	21
	ＳＥ４０１	8本	M30	□400	9～25	S3660	600	510	380	42	36	A23	C2	P2	135	580	700以上	810 ～ 1000	28-D19	24-D22	24-D25	D13@100	21
	ＳＥ４０２	8本	M36			S4062	620	520	370	50	40	A35	C3	P3	155	690	800以上	840 ～ 1120	28-D22	20-D25	20-D29	D13@100	21
	ＳＥ４０３	12本	M36			S6061	610	510	360	50	60	A35	C3	P3	170	690	800以上	830 ～ 1160	28-D22	24-D25	20-D29	D13@100	21
	ＳＥ４０４	8本	M42			S4564	640	530	360	58	45	A44	C4	P4	175	780	900以上	860 ～ 1230	32-D22	24-D25	20-D29	D13@100	21
	ＳＥ４０５	8本	M48			S5568	680	550	360	66	55	A53	C5	P5	195	820	950以上	940 ～ 1260	36-D22	28-D25	24-D29	D13@100	21
	ＳＥ４０６	12本	M48			S8067	670	540	350	66	80	A53	C5	P5	205	820	950以上	1020 ～ 1260	36-D22	28-D25	24-D29	D13@100	21

《構造設計者》株式会社慧建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
ISベース(SEシリーズ) 柱脚工法設計・施工標準図

□ 縮尺
A3：　—
A1：　—

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
S-08

ISベース(CEシリーズ) 柱脚工法設計・施工標準図

一般財団法人　日本建築センター 鋼構造評定委員会評定　　BCJ評定－ST0112-05 （平成28年1月26日）
国土交通大臣認定番号　MBLT-0116（平成26年1月30日）,MBLT-0144（平成27年2月12日）,MBLT-0150（平成27年7月27日）,MBLT-0151（平成27年7月27日）,MBLT-0164（平成28年1月25日）

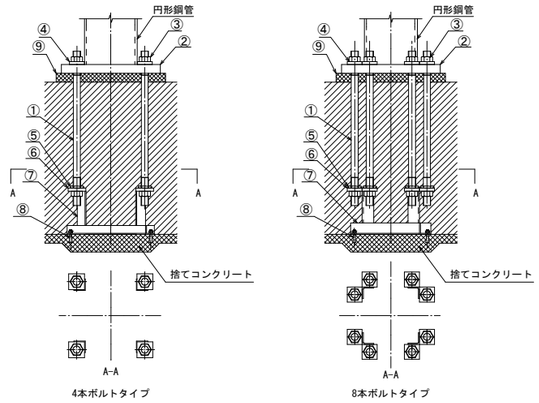
適用柱材
φ１６５．２～
φ５５８．８用

基準強度(N/mm²)
２３５
３２５

アイエスケー株式会社
〒550-0001　大阪市西区土佐堀1丁目4番11号（金鳥土佐堀ビル2F）
TEL　06-6449-0881　FAX　06-6449-0877
〒105-0004　東京都港区新橋2丁目13番6号（中井ビル3F）
TEL　03-5251-5545　FAX　03-5251-5226

平成28年2月作成

1.構造概要



①アンカーボルト
②ベースプレート
③一種ナット（シングルナット）
（土間コンクリート等で被覆されない場合は、緩み止めを行う。）
④丸　座　金
⑤六角リング
⑥定　着　板
⑦セットフレーム
⑧セットアンカー
⑨モルタル

2.ベースプレート

2-1.材質
建築構造用圧延鋼材：SN490B　（ベースプレートの板厚が40mm以下の場合）
建築構造用認定鋼板：TMCP325B（ベースプレートの板厚が40mmを超える場合）

2-2.形状と寸法

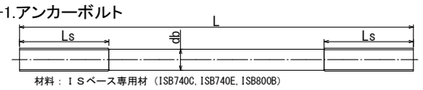
2-3.円形鋼管との溶接要領

溶接施工　溶接施工に関しては、「日本建築学会；建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事」に準じる。

◆注意◆　ベースプレートは
"中心マーク"のある面が上面（鋼管取付面）
"溶接突起"のある面が下面（底面）

3.アンカーボルト・ナット・六角リング・丸座金・定着板

3-1.アンカーボルト

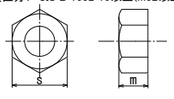


材料：ＩＳベース専用材（ISB740C, ISB740E, ISB800B）

品番	呼び径	ピッチ	db			L	Ls
			ISB740C	ISB740E	ISB800B		
A1	M24	3.0	22.0	—	—	595	100
A22	M30	3.5	28.0	28.0	—	685	115
A31	M36	4.0	33.15	33.0	—	675	130
A32	M36	4.0	33.15	33.0	—	725	130
A33	M36	4.0	33.15	33.0	—	775	130
A34	M36	4.0	33.15	33.0	—	825	130
A35	M36	4.0	33.15	33.0	—	925	130
A42	M42	4.5	38.92	38.8	—	845	145
A43	M42	4.5	38.92	38.8	—	945	145
A44	M42	4.5	38.92	38.8	—	1045	145
A51	M48	5.0	45.0	45.0	—	965	160
A52	M48	5.0	45.0	45.0	—	1015	160
A61	M52	5.0	—	—	49.0	1100	185
A81	M60	5.5	—	—	56.0	1230	205
A91	M64	6.0	—	—	60.0	1295	215
AA1	M68	6.0	—	—	64.0	1360	225

3-2.ナット

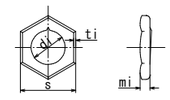
種　　類：1種六角ナット　JIS B 1181
強度区分：JIS B 1052 8以上(M48以下)
強度区分：JIS B 1052 10以上(M52以上)



呼び径	s	m
M24	36	19
M30	46	24
M36	55	29
M42	65	34
M48	75	38
M52	80	42
M60	90	48
M64	95	51
M68	100	54

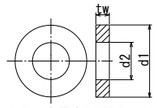
3-3.六角リング

材質：　JIS G3131 SPHC



呼び径	s	di	ti	mi
M24	36	22.5	1.6	5
M30	46	28.9	2.0	7
M36	55	33.6	2.0	8
M42	65	39.2	2.3	9
M48	75	45.7	2.3	10
M52	80	49.9	2.8	11
M60	90	56.6	3.2	12
M64	95	60.3	3.2	13
M68	100	64.3	3.2	14

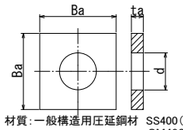
3-4.丸座金



材質：一般構造用圧延鋼材　SS400

品番	d1	d2	tw	品番	d1	d2	tw
C1	52	25	9	C6	100	54	25
C2	58	31	12	C8	114	62	32
C3	68	37	16	C9	120	66	36
C4	78	43	19	CA	128	70	36
C5	90	50	19				

3-5.定着板



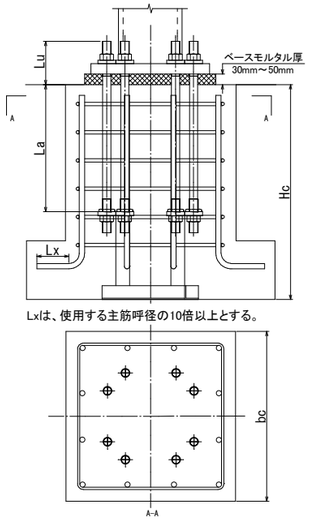
材質：一般構造用圧延鋼材　SS400（P1～P5）
SM490A（P6～PA）

品番	Ba	d	ta	品番	Ba	d	ta
P1	50	26	9	P6	115	54	25
P2	65	32	12	P8	130	62	28
P3	75	38	16	P9	135	66	32
P4	85	44	19	PA	140	70	32
P5	95	50	22				

4.コンクリート柱形

4-1.使用材料
コンクリート：　Fc N/mm² 以上（柱脚サイズごとのコンクリード強度Fcは下表参照）
鉄　　筋：SD295A（D16以下に適用）
　　SD345　（D19以上に適用）

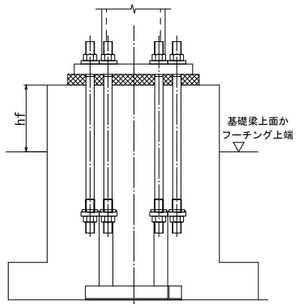
4-2.形状・配筋



Lxは、使用する主筋呼径の10倍以上とする。

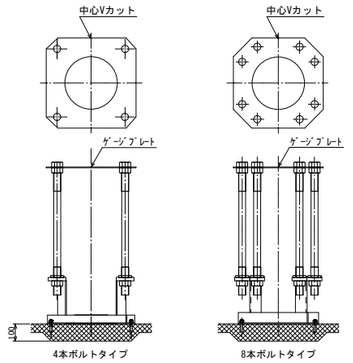
4-3.基礎立上りがある場合

柱形の配筋が、標準の場合
基礎立上り高さ(hf)は250mm以下とする。



主筋、帯筋の径・本数は、標準柱形の場合を示す。
柱形の幅(bc)を拡げた場合、検討が必要。
主筋頂部のフックは、設けないことを標準とする。

5.施工



アンカーボルト据付図

5-1.施工打ち合わせ
5-2.（捨てコンクリートの打設）
5-3.（墨出し）
5-4.アンカーボルト据付
5-5.（配筋・型枠）
5-6.（コンクリート打設前検査）
5-7.（コンクリート打設）
5-8.（鉄骨建方・アンカーボルトの本締）
5-9.ナットの緩み確認
　ベースモルタルの充てん
5-10.（充てん型枠脱型・廃棄）

6.施工管理

施工は、施工マニュアルに準じて行い、施工後「チェックシート」により、
許容範囲内にあることを確認する。

※1　柱材は、指定JIS規格品または大臣認定品とする。

採用	柱脚記号	ボルト		適用柱サイズ ※1		ベースプレート						アンカーボルト	丸座金	定着板	柱部						
		タイプ	径	鋼管サイズ	適用板厚	品番	D	C1	C2	dh	t	品番	品番	品番	Lu	La	Hc	bc（最小～最大）	主筋	帯筋	Fc
	ＣＥ１６１	4本	M24	φ165.2	6～11	C2827	270	190		36	28	A1	C1	P1	125	410	500以上	480 ～ 530	8-D19	D13@150	21
	ＣＥ１９１	4本	M24	φ190.7	6～16	C2529	290	210		36	25	A1	C1	P1	125	410	500以上	500 ～ 530	8-D19	D13@150	21
	ＣＥ１９２	4本	M30			C3631	310	220		42	36	A22	C2	P2	135	480	600以上	530 ～ 650	12-D19	D13@150	21
	ＣＥ２１１	4本	M24	φ216.3	6～16	C2531	310	230		36	25	A1	C1	P1	125	410	500以上	520 ～ 530	8-D19	D13@150	21
	ＣＥ２１２	4本	M30			C3633	330	240		42	36	A22	C2	P2	135	480	600以上	550 ～ 650	12-D19	D13@150	21
	ＣＥ２１３	4本	M36			C4034	340	240		50	40	A31	C3	P3	155	440	550以上	560 ～ 750	16-D19	D13@150	21
	ＣＥ２６１	4本	M30	φ267.4	6～16	C3636	360	270		42	36	A22	C2	P2	135	480	600以上	580 ～ 650	12-D19	D13@150	21
●	ＣＥ２６２	4本	M36			C3638	380	280		50	36	A32	C3	P3	155	490	600以上	600 ～ 750	16-D19	D13@150	21
	ＣＥ２６３	4本	M42			C4540	400	290		58	45	A42	C4	P4	175	580	700以上	620 ～ 750	16-D19	D13@150	21
	ＣＥ３１１	4本	M30	φ300 φ318.5	9～25 6～25	C3640	400	310		42	36	A22	C2	P2	135	480	600以上	620 ～ 750	16-D19	D13@150	21
	ＣＥ３１２	4本	M36			C3642	420	320		50	36	A33	C3	P3	155	540	650以上	640 ～ 750	16-D19	D13@150	21
	ＣＥ３１３	4本	M42			C4043	430	320		58	40	A42	C4	P4	175	580	700以上	650 ～ 840	20-D19	D13@150	21
	ＣＥ３１４	8本	M36			C4548	480	380	230	50	45	A34	C3	P3	155	590	700以上	690 ～ 840	20-D22	D13@150	21
	ＣＥ３１５	8本	M42			C5050	500	390	220	58	50	A42	C4	P4	175	580	700以上	760 ～ 840	24-D22	D13@150	21
	ＣＥ３６１	4本	M36	φ350 φ355.6	9～25 6～25	C3644	440	340		50	36	A32	C3	P3	155	490	600以上	670 ～ 790	16-D22	D13@150	21
	ＣＥ３６２	4本	M42			C4046	460	350		58	40	A42	C4	P4	175	580	700以上	690 ～ 840	16-D22	D13@150	21
	ＣＥ３６３	8本	M36			C4551	510	410	260	50	45	A34	C3	P3	155	590	700以上	720 ～ 840	20-D22	D13@150	21
	ＣＥ３６４	8本	M42			C5053	530	420	250	58	50	A43	C4	P4	175	680	800以上	760 ～ 840	24-D22	D13@150	21
	ＣＥ３６５	8本	M48			C6057	570	440	250	66	60	A52	C5	P5	195	720	850以上	910 ～ 1070	24-D22	D13@100	21
	ＣＥ４１１	4本	M42	φ400 φ406.4	9～25 6.4～25	C4049	490	380		58	40	A42	C4	P4	175	580	700以上	720 ～ 840	16-D22	D13@150	21
	ＣＥ４１２	8本	M36			C4054	540	440	290	50	40	A35	C3	P3	155	690	800以上	750 ～ 840	20-D22	D13@150	21
	ＣＥ４１３	8本	M42			C5057	570	460	290	58	50	A43	C4	P4	175	680	800以上	790 ～ 840	20-D25	D13@150	21
	ＣＥ４１４	8本	M48			C6061	610	480	290	66	60	A52	C5	P5	195	720	850以上	900 ～ 1230	24-D25	D13@100	21
	ＣＥ４１５	8本	M52			C6564	640	500	270	70	65	A61	C6	P6	235	750	900以上	900 ～ 1260	28-D25	D13@100	21
	ＣＥ４６１	4本	M42	φ450 φ457.2	9～36 6.4～36	C4055	550	420		58	40	A43	C4	P4	175	680	800以上	760 ～ 840	20-D22	D13@150	21
	ＣＥ４６２	8本	M36			C4059	590	480	330	50	40	A35	C3	P3	155	690	800以上	790 ～ 840	24-D22	D13@150	21
	ＣＥ４６３	8本	M48			C5564	640	510	320	66	55	A52	C5	P5	195	720	850以上	900 ～ 1230	24-D25	D13@100	21
	ＣＥ４６４	8本	M52			C6067	670	530	300	70	60	A61	C6	P6	235	750	900以上	900 ～ 1260	28-D25	D13@100	21
	ＣＥ４６５	8本	M60			C7071	710	550	290	80	70	A81	C8	P8	255	850	1000以上	1030 ～ 1260	32-D25	D13@100	21
	ＣＥ５１１	8本	M42	φ500 φ508.0	9～36 6.4～36	C5065	650	530	360	58	50	A44	C4	P4	175	780	900以上	850 ～ 1230	24-D25	D13@100	21
	ＣＥ５１２	8本	M48			C5568	680	550	360	66	55	A52	C5	P5	195	720	850以上	900 ～ 1260	28-D25	D13@100	21
	ＣＥ５１３	8本	M52			C6071	710	570	340	70	60	A61	C6	P6	235	750	900以上	940 ～ 1260	28-D29	D13@100	21
	ＣＥ５１４	8本	M60			C6575	750	590	330	80	65	A81	C8	P8	255	850	1000以上	1030 ～ 1260	28-D29	D13@100	21
	ＣＥ５１５	8本	M64			C7577	770	600	330	84	75	A91	C9	P9	265	900	1100以上	1150 ～ 1260	28-D29	D13@100	21

《構造設計者》株式会社慧建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
ISベース（CEシリーズ） 柱脚工法設計・施工標準図

□ 縮尺
A3 ： —
A1 ： —

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
S-09

ウインドミルソイルセメントコラム特記仕様書

1.工法概要

本地業は、深層混合処理工法による地盤改良地業であり、本工法はスラリー状のセメント系固化地盤中に注入しながら、共回り防止翼を装着した撹拌装置を用いて、原地盤を機械的に混合撹拌し、固化材の化学反応により所用の強度を持つ改良体を築造するものである。

2.一般事項

(1) 本工事は本特記仕様書によるほか「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針・平成14年11月」(日本建築センター、以下指針という)による。

3.特記事項

(1) ウインドミルソイルコラム(以下コラム)の径、掘削深度(改良長及び空堀長)、コラム本数・配置、固化材の配合、固化材添加量等については、土質や地盤状況により変更することがある。
(2) コラムの径、掘削深度(改良長＋空堀長)、本数配置などは、設計図による。
(3) コラム改良強度

設計基準強度	Ｆｃ (kN／㎡)	750 (kN／㎡)

(4) 技術審査証明を有する工法とする。
(但し、土の共回り現象を防止し、特殊撹拌翼を装備した二重せん断構造であること。)

4.施工計画

(1) 本工事の施工業者は、本工法の施工技術に精通した者とする。
(2) 施工計画書
工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は次の事項を明記する。
①工事内容(コラム長、空堀長、コラム数、コラム配置、設計基準強度)
②工事期間・工事工程
③工事要領(仕様固化材、配合量、吐出量、掘削翼の速度等)
④施工設備
⑤施工管理の方法
⑥品質管理の方法
⑦施工記録の方法
⑧安全対策
⑨建築請負業者の工事責任者名
⑩本工事施工業者名及び責任者名

5.施　工

(1) 施工機械が傾斜・転倒しないように作業地盤を養生する。
(2) 固化材の充てん方法は、掘削時充てん方法とする。
(3) 施工速度
改良部掘進速度Vd＝ 0.5～1.0 m／分
改良部引き上げ速度Vu＝ 1.0 m／分
(4) 本工事により排出される発生残土は場内処理とする。
(5) 施工に対して不都合が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6.施工機械

(1) 改良機本体は自走式とし、撹拌装置の深度、速度と固化材液の吐出量を規定値にて管理し自動記録計機器を装備したものとする。
(2) 撹拌ロッドは、曲がりや欠損のないものとする。
(3) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7.配合管理

(1) 固化材液に使用する固化材は、セメント系固化材とする。
(2) 配合強度
本工法における配合管理で想定する変動係数Vd＝25%とし、合格確率を80%とする場合の割り増し係数表を下表を用いて設定する。

抜き取り個所数N	1	2	3	4～6	7～8	9～
割り増し係数α	2.163	1.918	1.825	1.719	1.651	1.594

Xf＝α・Fc(Xf：配合強度、Fc：設計基準強度)
(3) 室内配合試験　と六価クロム溶出試験
本施工において、使用する固化材添加量、固化材液の配合(W／C)は、室内配合試験の結果に基づいて(現場／室内)強度比を考慮した上で設計基準強度を満足するように設定する。あるいは、正確に土質に対する既存データがある場合には、その結果を用いて添加量を決定する。又、六価クロム溶出試験を行い基準値以下であることを確認した固化材を使用する。

8.施工管理

(1) 施工過程における管理方法は次の通りとする。

①コラムの形状	コラム形	撹拌装置の形状を測定
	鉛直性	施工機本体のリーダー内に設置された傾斜計で監理
	コラム芯	事前にコラム芯にマークを付ける
	掘削深度	深度計による計測
②支持地盤監理	掘削速度	速度計による計測
③撹拌混合度	掘削・引上げ速度	速度計による計測
	羽根切り回数	掘削翼・撹拌翼の枚数等
④固化材液・添加量	材料の計量	固化材料・水の投入量による確認
	吐出量・吐出深度	流量計による計測

(2) 施工の立ち会い
建築工事の請負業者は、本地業責任者(請負業者の中から選定)及び施工責任者を定め、本施工時には立ち会うものとする。

9.品質検査

(1) 検査対象群、調査個所数、検査対象層
①検査対象郡
検査対象群は、概ねコラム300本を1単位とする。
②調査個所数
頭部コア試験は100コラムに1個所、深度方向コア試験は100コラムに1個所以上とし、それ以上の個所については、モールドコア法による。
③検査対象層
検査対象層は、土質名とする。
(2) コア採取率による検査
全長コアボーリング調査のうち、検査個所1個所についてコア採取率を調査する。コア採取率は、下表に準ずる。

	砂質土に対する採取率	粘性土に対する採取率
全長に対する割合	95%	90%
コア1m毎の割合	90%	85%

(3) 合否判定基準
①検査対象層に対し抜取個所をNとする。1個所当たり3個の供試体を採取し、その平均強度を対象層の強度とする。
②検査手法は、品質のバラツキを想定する場合の検査手法A、また、品質のバラツキが事前に想定できない場合の検査手法Bとする。

a)検査手法A
合否の判定は、検査対象層N個所(抜き取り個所数)の一軸圧縮強さの平均X_Nと合格判定値X_Lの関係式である。下式を満足すれば合格とする。
$X_N \geqq X_L$ $Fc+ka\times\sigma d$
X_N：N個所の一軸圧縮強さの平均値(kN／㎡)
X_L：合格判定値
F_c：設計基準強度(kN／㎡)
K_a：合格判定係数
σd：標準偏差(kN／㎡)(Vd×qud)
qud：想定した一軸圧縮強さ(kN／㎡)

抜き取り個所数N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

b)検査手法B
設計対象層から25個所以上の供試体を採取し一軸圧縮試験を行い、その結果がした式を満足するものとする。
$X_n \geqq X$ $Fc+ka\times\sigma n$
X_n：N個所の一軸圧縮強さの平均値(kN／㎡)
X_L：合格判定値
F_c：設計基準強度(kN／㎡)
K_a：合格判定係数
σn：抜き取った25個以上のコア強度の標準偏差(kN／㎡)

10.報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ3部監督員に提出する。
①コラム伏図及び施工番号
②コラム施工日
③コラム径及び長さ
④掘削深度
⑤掘削速度及び引き上げ速度
⑥固化材の配合と固化材の使用量
⑦コアの強度管理試験
⑧全てのコラムについての流量、速度、深度を自動記録したデータシートの写し

《構造設計者》株式会社慧建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

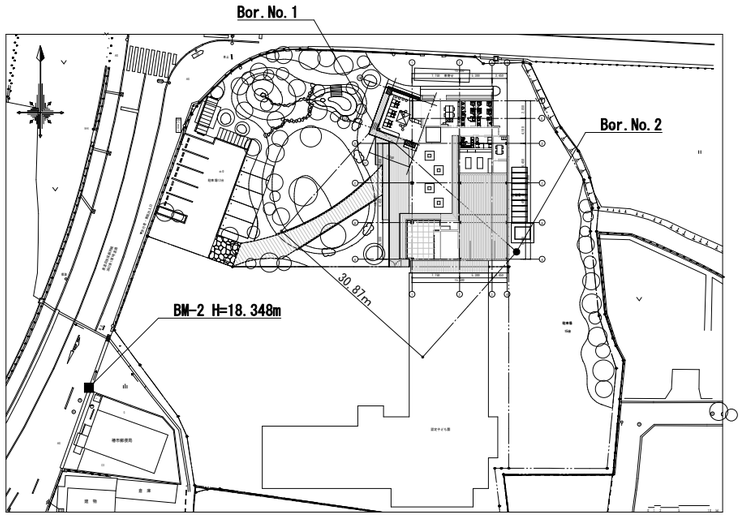
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
ウインドミルソイルセメントコラム特記仕様書

□ 縮尺
A3： ―
A1： ―

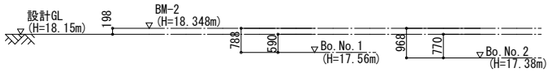
□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
S-10



ボーリング位置図

設計GLと孔口標高のレベル差　1/100



ボーリング柱状図　1/100

ボーリング　No.1
孔口標高 = 設計GL-590

調　査　名　椿市地域交流センター建設工事に伴う地質調査業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.1	調査位置	福岡県行橋市大字長尾地内					北緯	33° 44' 14.1"
発注機関	行橋市 都市整備部 建築設策課			調査期間	平成 29年 2月 20日 ～ 2017年 2月 24日			東経	130° 55' 16.9"
調査業者名	日本地研株式会社 電話(092-571-2764)	主任技師	野北 雅洋	現場代理人	原 充弘	コア鑑定者	原 充弘	ボーリング責任者	中田 邦広
孔口標高	+17.56m	角度	上90° 下0°	方向	北0° 西270° 東90° 南180°	地盤勾配	水平0° 90°	使用機種	
総掘進長	15.00m							試錐機	YBM YBM-05
								ハンマー落下用具	半自動落下装置
								エンジン	ヤンマー NFAD8-K
								ポンプ	YBM GP-5

標尺	標高	層厚	深度	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度	打撃回数 0/10	10/20	20/30	打撃回数／貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度	試験名および結果	試料採取 深度	試料番号	採取方法	室内試験(～)	掘進月日
(m)	(m)	(m)	(m)								(m)						(m)		(m)				
1	16.96	0.60	0.60		表土(砂混じり粘土)	暗褐灰～暗緑褐			粘土・シルトを主体とし、細～中砂を含む。植物根、腐植物を混入する。	2/24 1.30	1.15	6	10	11	21/30	27							
2										2/21 2.65	1.45	12	7	5	24/30	24							
3	13.76	3.20	3.84		シルト混じり砂礫	暗褐灰／褐灰	中位の		φ10～30mmの礫及び中～粗砂を主体とし、全体的にシルトを含む。礫種は片岩礫が主で亜角礫が多く、最大礫径はφ50～70mmである。		2.45	6	6	8	20/30	20							
4											3.15	6	8	8	24/30	24							
5											3.45	2	4	4	10/30	14							
6											4.15	2	4	4	12/30	14							
7											4.45	2	4	4	12/30	14							
8											5.15	2	3	4	9/30	13							
9											5.45	2	3	4	9/30	13							
10											6.15	2	3	4	9/30	13							
11											6.45	3	4	6	13/30	18							
12											7.15	3	4	6	13/30	18							
13											7.45	5	7	10	22/30	31							
14											8.15	5	7	10	22/30	31							
15											8.45	6	7	9	22/30	31							
16											9.15	6	7	9	22/30	31							
17											9.45	7	10	13	30/30	43							
18											10.15	7	10	13	30/30	43							
19											10.45	7	10	13	30/30	43							
											11.15	7	10	13	30/30	43							
											11.45	13	23	14	50/30	50							
	5.56	8.20	12.04		強風化花崗閃緑岩	淡黄褐／淡褐灰	中位の／密な		風化を受け軟質化が進み、GL-11.00m付近迄は黄褐色を帯びる。長石が白濁して細粒化が進み、表層のN値程度はやや粘性を帯びる。コアは棒状に採取されるが、ハンマー打撃で容易に砕けて土砂状を呈す。		12.15	13	23	14	50/30	50							
											12.45	20	26	ﾍﾟｽ	50/22	68							
											13.15	20	26	ﾍﾟｽ	50/22	68							
											13.37												
											14.15	21	29		50/20	75							
											14.35												
	2.56	3.00	15.04		風化花崗閃緑岩	淡褐灰	非常に密な		岩質が一様になるが、軟質化して細粒化進み、僅かに褐色を帯びる。コアはハンマー打撃で砕けて砂状になり、所々硬い岩芯を細礫大に残すようになる。		15.15	33	ﾍﾟｽ		50/14	107							
											15.29												
20																							

ボーリング柱状図　1/100

ボーリング　No.2
孔口標高 = 設計GL-770

調　査　名　椿市地域交流センター建設工事に伴う地質調査業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.2	調査位置	福岡県行橋市大字長尾地内					北緯	33° 44' 13.5"
発注機関	行橋市 都市整備部 建築設策課			調査期間	平成 29年 2月 27日 ～ 2017年 3月 1日			東経	130° 55' 17.8"
調査業者名	日本地研株式会社 電話(092-571-2764)	主任技師	野北 雅洋	現場代理人	原 充弘	コア鑑定者	原 充弘	ボーリング責任者	中田 邦広
孔口標高	+17.38m	角度	上90° 下0°	方向	北0° 西270° 東90° 南180°	地盤勾配	水平0° 90°	使用機種	
総掘進長	10.00m							試錐機	YBM YBM-05
								ハンマー落下用具	半自動落下装置
								エンジン	ヤンマー NFAD8-K
								ポンプ	YBM GP-5

標尺	標高	層厚	深度	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度	打撃回数 0/10	10/20	20/30	打撃回数／貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度	試験名および結果	試料採取 深度	試料番号	採取方法	室内試験(～)	掘進月日
(m)	(m)	(m)	(m)								(m)						(m)		(m)				
1	16.48	0.90	0.90		表土(砂混じりシルト)	暗褐灰～暗緑褐			粘土・シルトを主体とし、細～中砂を含む。礫にφ20mmの礫を含み、腐植物を混入する。	2/27 1.10	1.10	4	4	5	13/30	13							
2											1.30	8	9	8	25/30	35							
3	13.48	3.00	3.90		シルト混じり砂礫	暗褐灰／茶褐	中位の		φ10～30mmの礫及び中～粗砂を主体とし、全体的にシルトを含む。礫種は片岩礫が主で亜角礫が多く、最大礫径はφ50～70mmである。		2.45	8	8	8	24/30	24							
4											3.15	6	8	8	24/30	24							
5											3.45	4	4	6	14/30	14							
6											4.15	6	7	9	22/30	22							
7	10.38	3.10	7.00		強風化花崗閃緑岩	淡茶褐／淡赤褐	中位の／非常に密な		風化を受け軟質化が進み、表層の1.5m程度は黄褐色を帯び、所々熱変質を受けて赤みを帯びる。コアは棒状に採取されるが、ハンマー打撃で容易に砕けて土砂状になる。		4.45	8	10	12	30/30	30							
8											5.15	12	20	ﾍﾟｽ	50/30	54							
9											5.43												
10	7.38	3.00	10.00		風化花崗閃緑岩	淡褐灰	非常に密な		岩質が一様になるが、軟質化して細粒化が進み、僅かに褐色を帯びる。コアはハンマー打撃で砕けて砂状になり、所々硬い岩芯を細礫大に残す。		6.15	14	24	ﾍﾟｽ	50/30	54							
11											6.40												
12											6.55	20	30		50/30	80							
13											7.31												
14											7.55	27	23	ﾍﾟｽ	50/30	86							
15											8.11												
16																							
17																							
18																							
19																							
20																							

《構造設計者》株式会社瑟建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

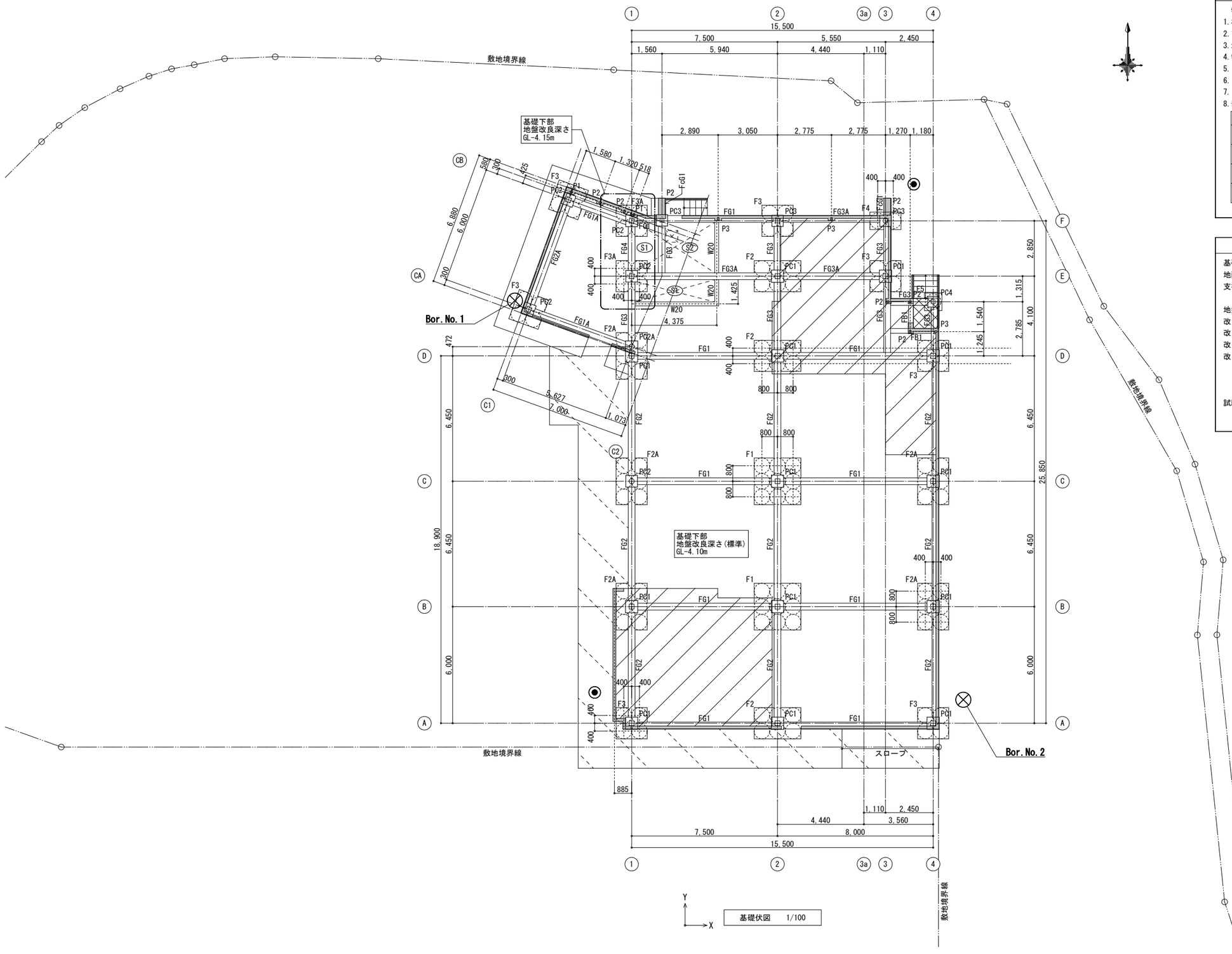
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
ボーリング柱状図

□ 縮尺
A3 : 1/ 200
A1 : 1/ 100

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
S-11



共 通 事 項

特記なき限り下記による。

1. 柱芯は、特記なき限り通り芯とする。
2. 1FL=GL+150 とする。
3. 地中梁天端は 1FL-250(GL-100) とする。
4. 特記なき床は 土間コンクリート とする。
5. ⊠ は下部捨コンピット(天端レベル GL-1,550)を示す。
6. ▬ は立上り壁を示す。
7. ⊠ は床下点検口(600x600)を示す。
8. 部材レベル表示（コンクリート上端）

記号	スラブ	大梁	小梁	備考
	1FL-50 (設計GL+100)	1FL-250 (設計GL-100)	1FL-250 (設計GL-100)	
	1FL-20 (設計GL+130)	1FL-250 (設計GL-100)	1FL-250 (設計GL-100)	
	1FL-150 (設計GL±0)	——	——	
	1FL-60 (設計GL+90)	1FL-250 (設計GL-100)	——	④通り出入口

特 記 事 項

基礎形式	独立基礎
地耐力	Fe=176(F1～F3、F3A)、156(F4)、139(F5)kN/㎡（長期）
支持層	シルト混じり砂礫
地盤改良	深層混合処理工法（ウィンドミル工法）
改良強度	Fc=750kN/㎡
改良箇所	基礎下部
改良深さ	GL-4.10m、-4.15m
改良長	L=2.90m、L=2.50m ※現地地盤確認の上、決定すること 掘削の結果、改良深さを変更する場合もある。
試験掘り	● は試験掘り位置を示す（2箇所）

《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10598号
一級建築士大臣登録 第262598号 二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

CHECKED

工事名称: 椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

図面名称: 基礎伏図

縮尺: A3 : 1/ 200 / A1 : 1/ 100

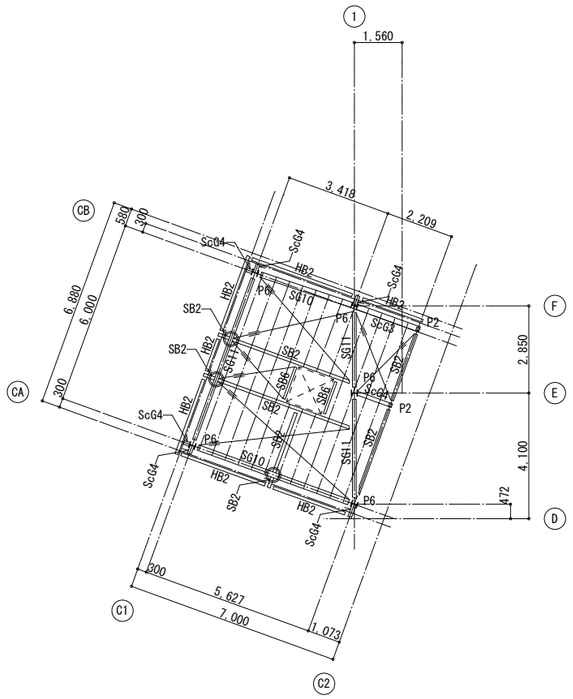
日付: 2017/08/03

図面番号: S-12

共 通 事 項

特記なき限り下記による。

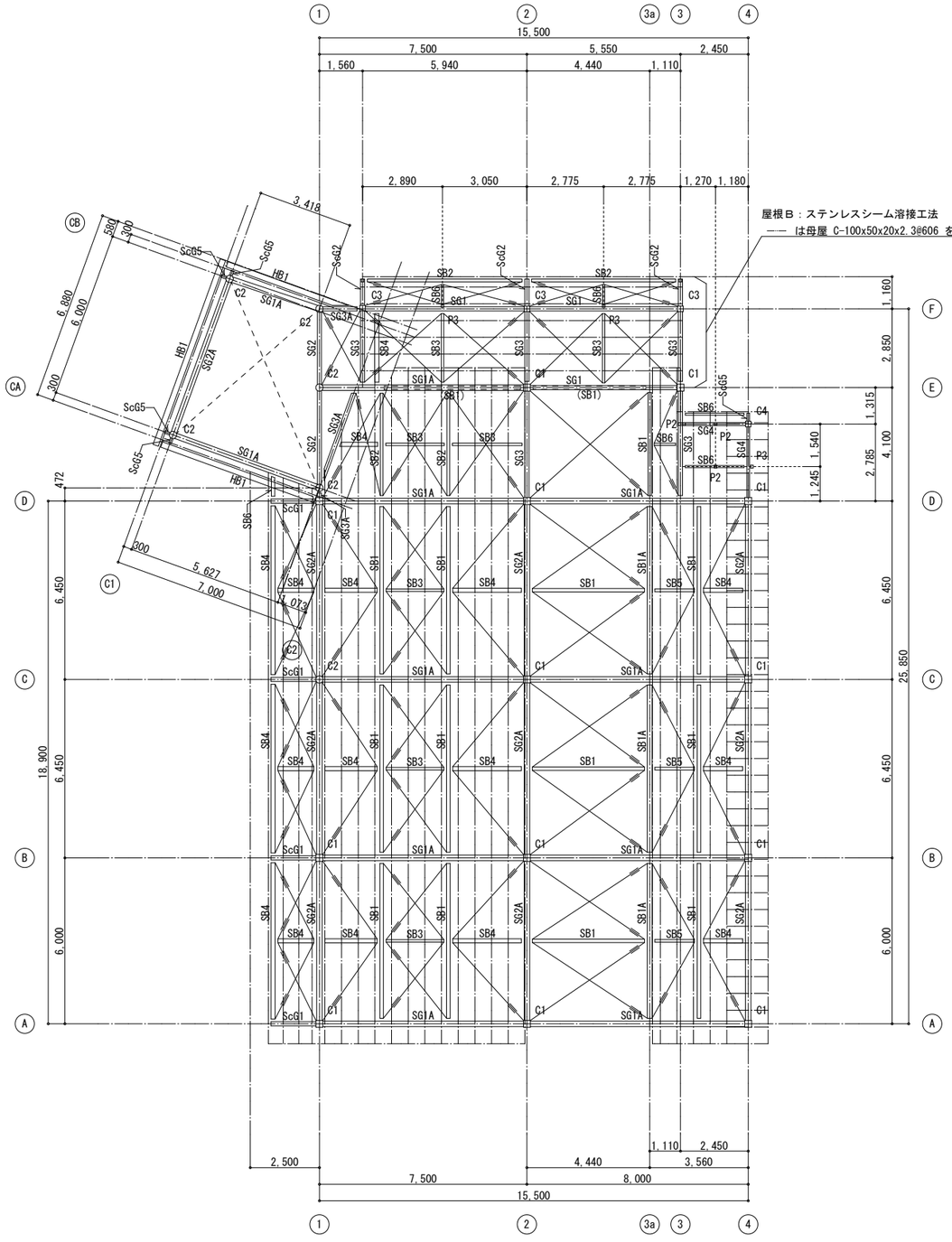
1. 柱芯は、特記なき限り通り芯とする。
2. JOINT位置は軸組図参照とする。
3. 鉄骨梁レベルは軸組図参照とする。
4. 特記なき屋根は　屋根Ａ　とし、
   ―― は母屋 C-100x50x20x3.2@606 を示す。
   （下地材目地部分はダブルとする）
5. ✕ は水平ブレース SV1 を示す。
6. ⟵ は屋根勾配を示す。
7. ◯ は小梁剛接合を示す。



Y
X

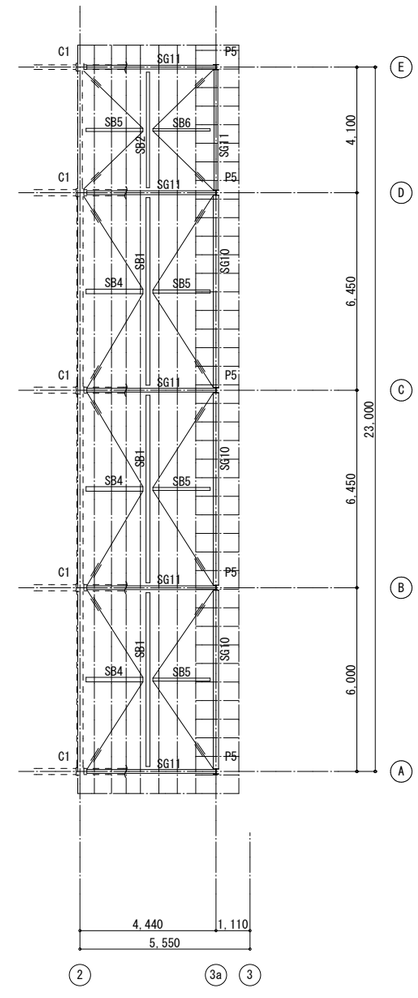
カフェ小屋伏図　1/100　（見上げ図）

屋根Ｃ：ステンレスシーム溶接工法
―― は母屋 C-100x50x20x2.3@606 を示す。



Y
X

R階床梁伏図　1/100　（見上げ図）



Y
X

小屋伏図　1/100

（見上げ図）

《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

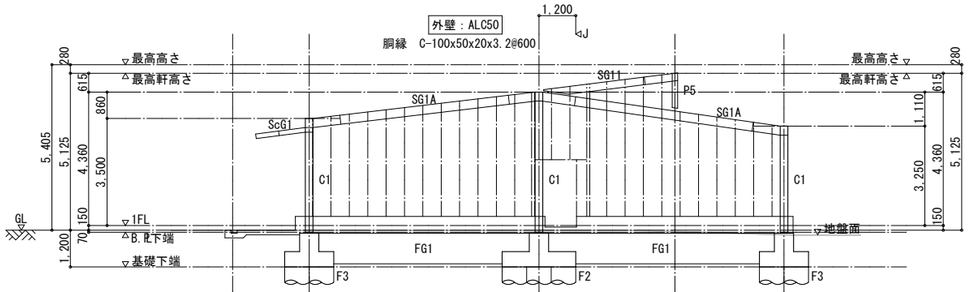
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
R階床梁伏図

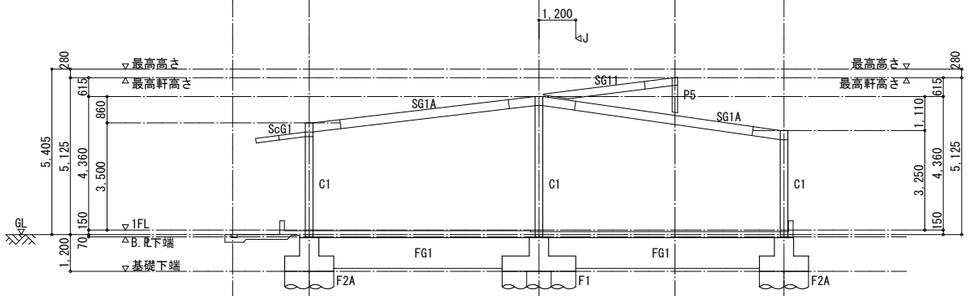
□ 縮尺
A3：1/ 200
A1：1/ 100

□ 日付
2017/08/03

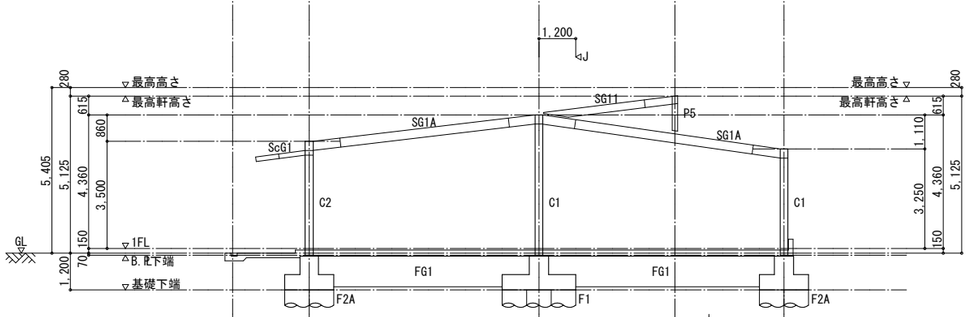
□ 図面番号
S-13



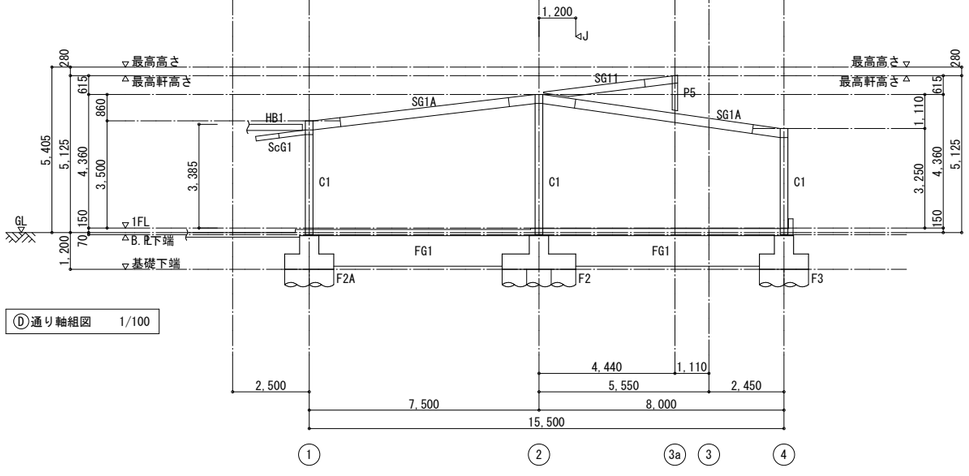
Ⓐ通り軸組図　1/100



Ⓑ通り軸組図　1/100



Ⓒ通り軸組図　1/100

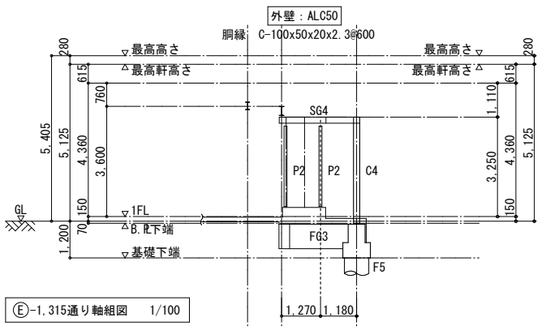


Ⓓ通り軸組図　1/100

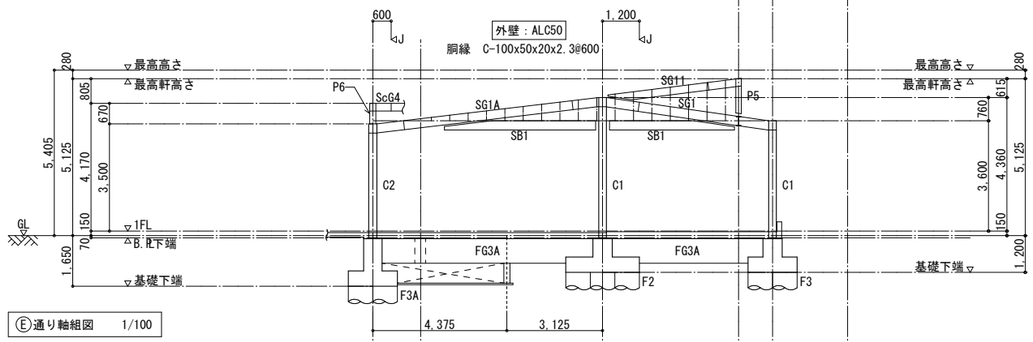
共　通　事　項

特記なき限り下記による。

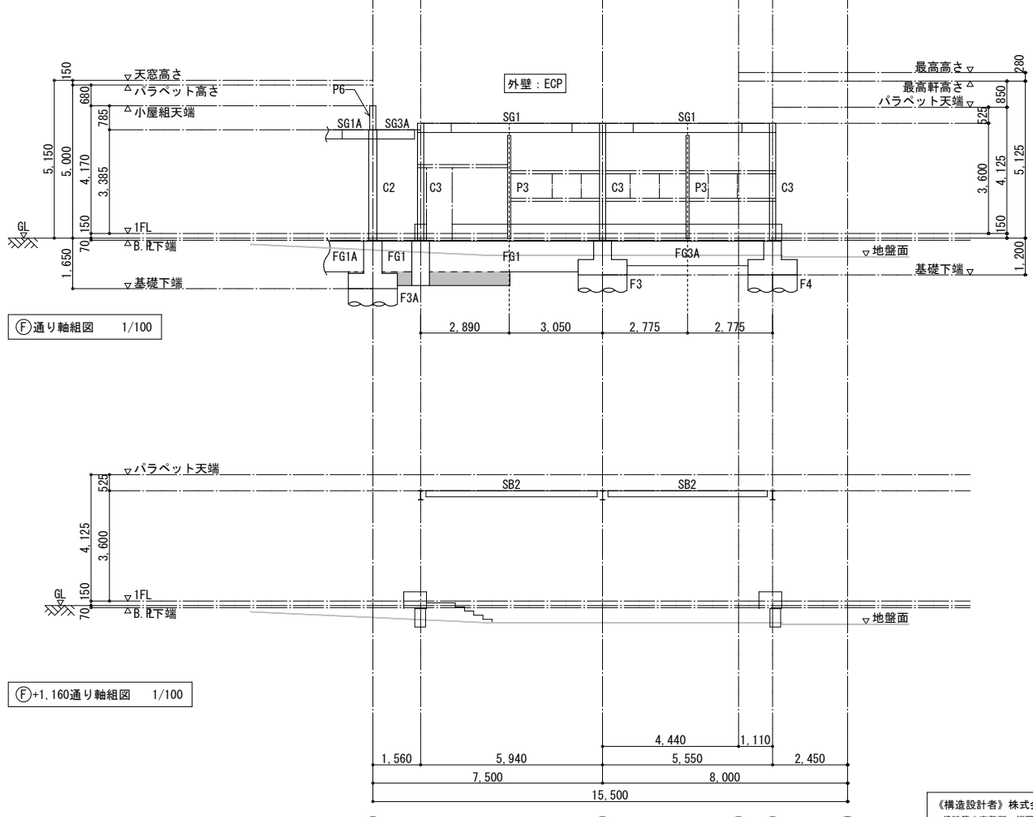
1. 鉄骨柱JOINT位置は、柱芯より 1,000 とする。
2. 胴縁　外壁：ALC50
   - 胴縁 ——— C-100x50x20x2.3@600
   - 開口補強胴縁 ═══ 2C-100x50x20x2.3
   - ——— C-100x50x20x2.3
   - 外壁：ECP
   - 開口補強胴縁 ═══ 2C-100x50x20x2.3
   - ——— C-100x50x20x2.3
3. ▭ はコンクリート増し打ちを示す。



Ⓔ-1,315通り軸組図　1/100



Ⓔ通り軸組図　1/100



Ⓕ通り軸組図　1/100

Ⓕ+1,160通り軸組図　1/100

《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

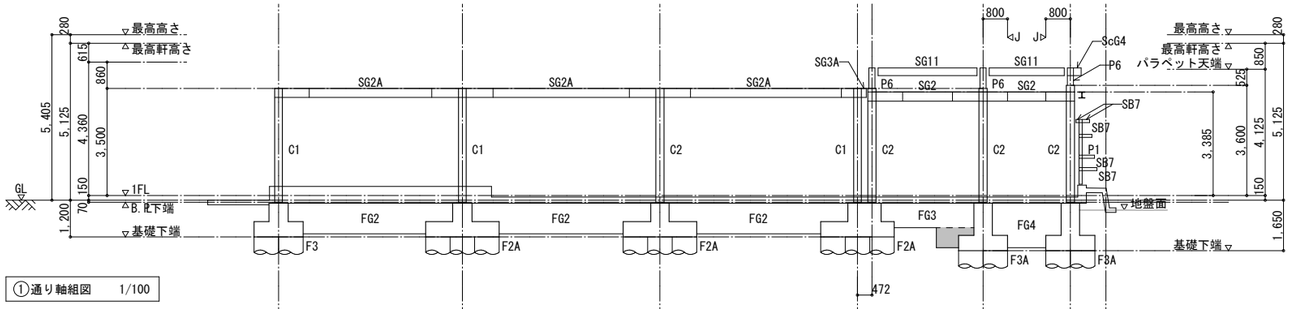
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
軸組図（1）

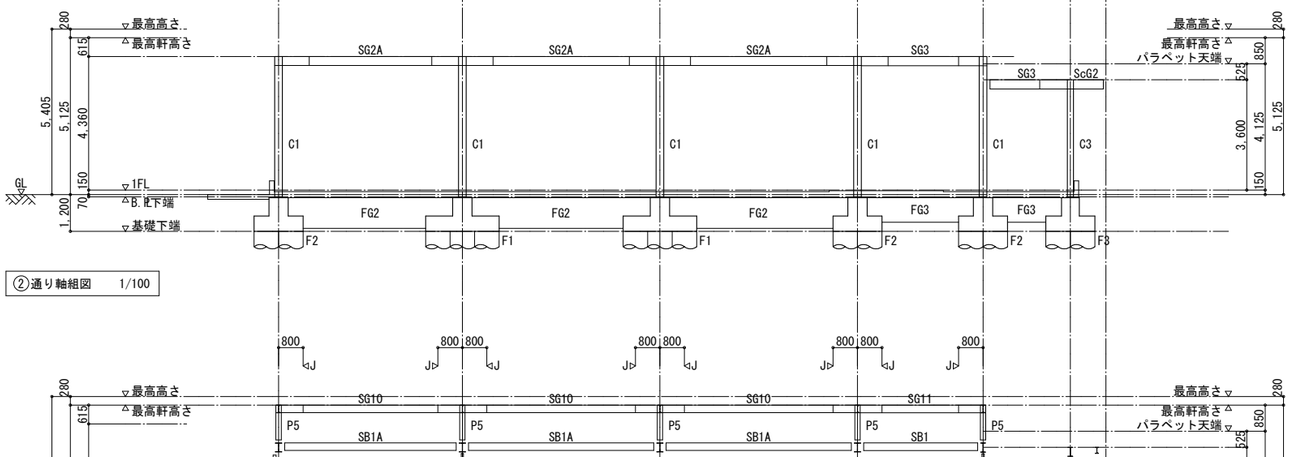
□ 縮尺
A3：1/ 200
A1：1/ 100

□ 日付
2017/08/03

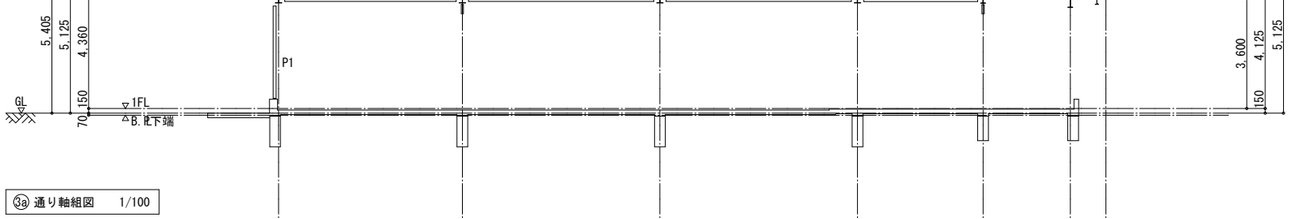
□ 図面番号
S-14



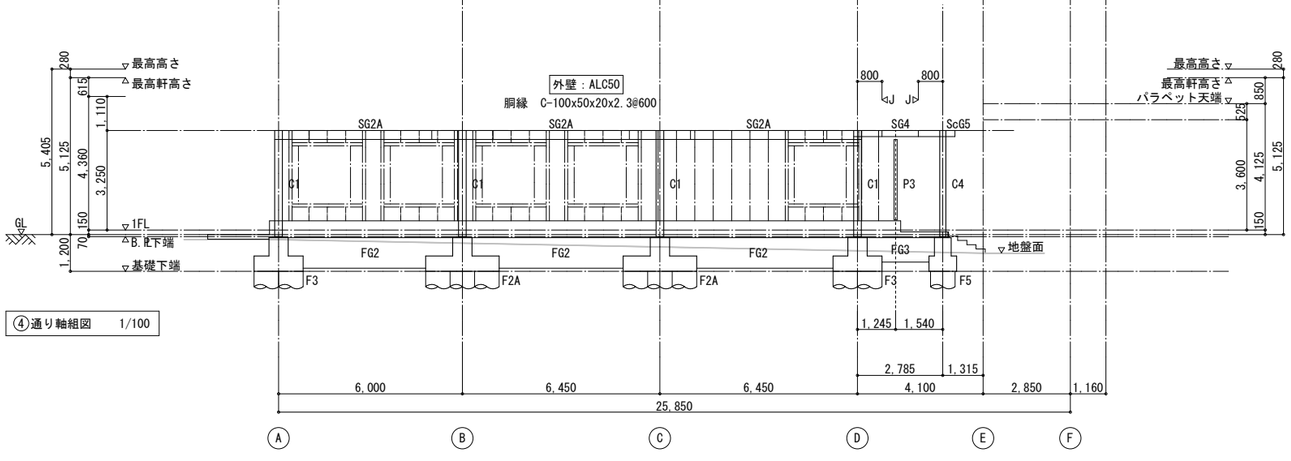
①通り軸組図　1/100



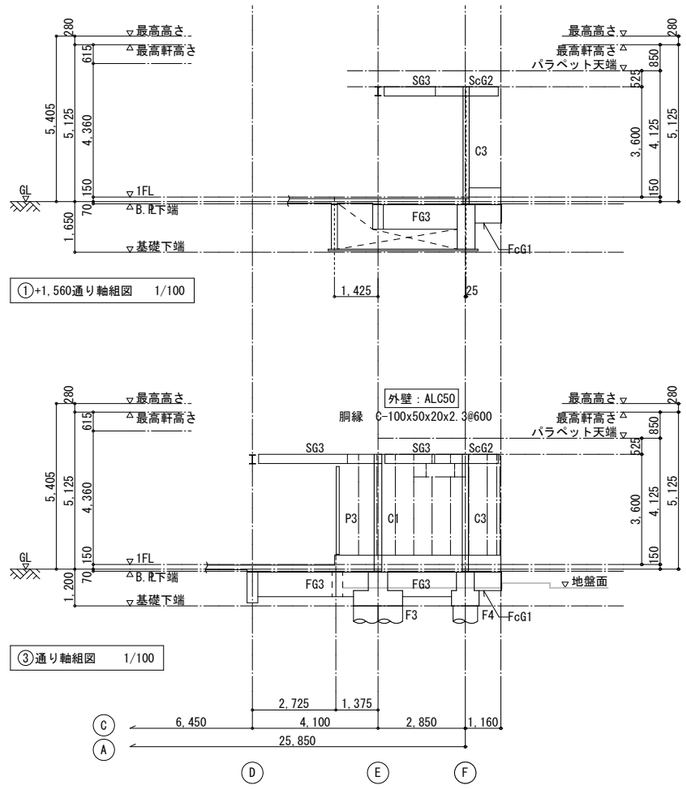
②通り軸組図　1/100



3a 通り軸組図　1/100



④通り軸組図　1/100



①+1,560通り軸組図　1/100

共　通　事　項

特記なき限り下記による。

1. 鉄骨柱JOINT位置は、柱芯より 1,000 とする。
2. 胴縁　外壁：ALC50
   - 胴縁 ——·—— C-100x50x20x2.3@600
   - 開口補強胴縁 ═══ 2C-100x50x20x2.3
   - ——·—— C-100x50x20x2.3
3. ▭ はコンクリート増し打ちを示す。

《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

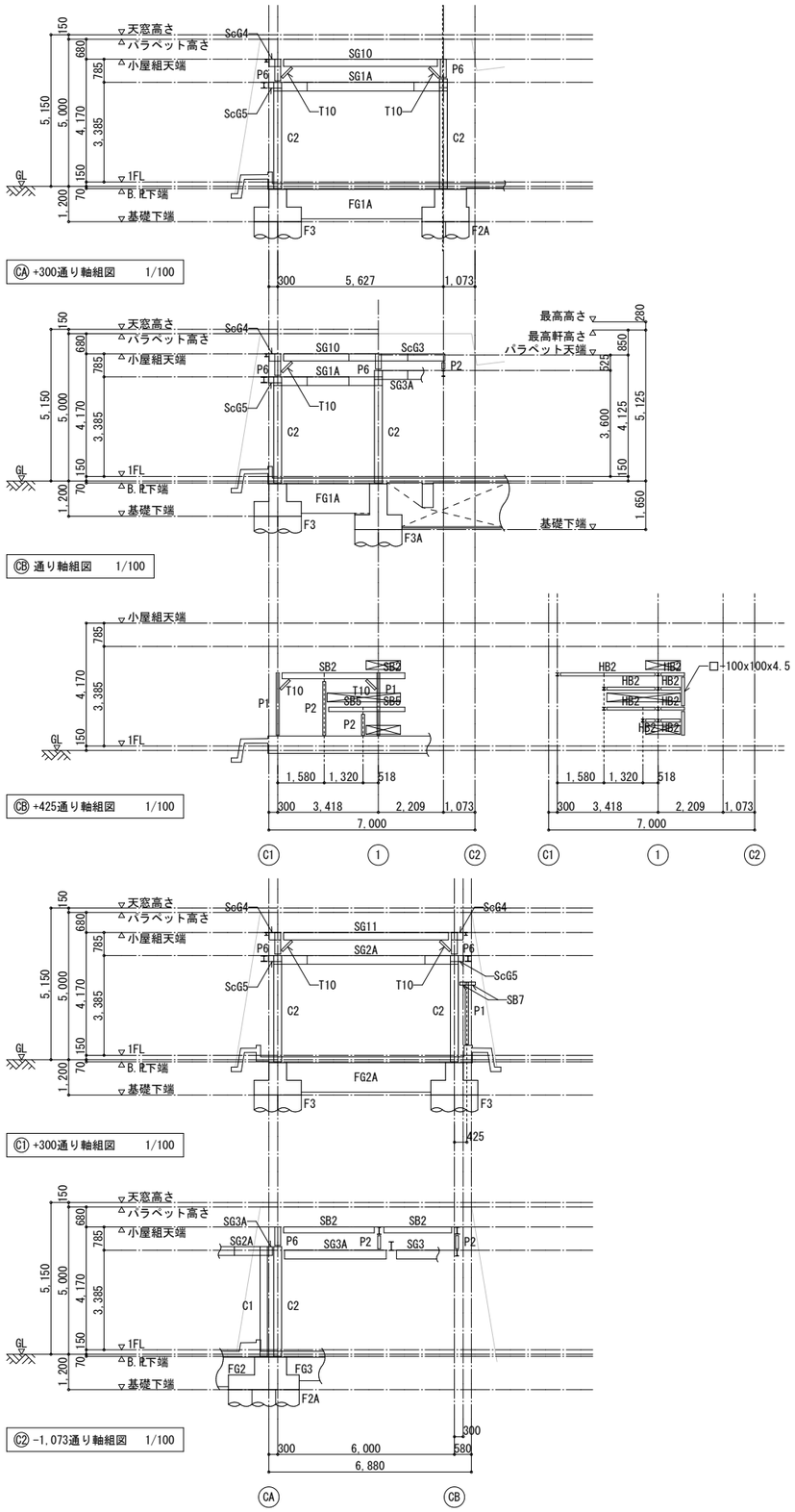
□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
軸組図（2）

□ 縮尺
A3：1/ 200
A1：1/ 100

□ 日付
2017/08/03

□ 図面番号
S-15



鉄骨断面リスト

・特記なき鉄骨材質はSS400とする。
・大梁鉄骨鋼材は端部SN400B 中央SS400とする。端部ピン接合はSS400とする。
・特記なき高力ボルトはS10Tとする。
・通しダイヤフラム材質はSN490Cとする。
・梁の継手はSCSS-H97に依る。

符号	断面	フランジ接合	仕口・ウェブ接合	材質	備考
C1	□-250x250x 9	————	————	BCR295	
C2	○-267.4x9	————	————	STK400	
C3	□-200x200x12	————	————	BCR295	
C4	□-200x200x 9	————	————	BCR295	
P1	□-100x100x 6	————	G.R-6, HTB.2-M16	STKR400	
P2	□-100x100x4.5	————	G.R-6, HTB.2-M16	STKR400	
P3	□-100x100x3.2	————	G.R-4.5, HTB.2-M12	STKR400	
P4	□-100x100x2.3	————	G.R-4.5, HTB.2-M12	STKR400	
P5	H-175x175x7.5x11	————	G.R-9, HTB.2-M20		
P6	H-200x200x 8x12	————	G.R-9, HTB.2-M20		
SG1	H-300x150x6.5x9	外 R- 9×150×290 HTB.4-M20 内 R- 9× 60×290	2R- 6×200×170 HTB.2-M20(P=120)		
SG1A	H-294x200x 8x12	外 R- 9×200×410 HTB.6-M20 内 R- 9× 80×410	2R- 9×200×170 HTB.3-M20(P= 60)		
SG2	H-300x150x6.5x9	外 R- 9×150×290 HTB.4-M20 内 R- 9× 60×290	2R- 6×200×170 HTB.2-M20(P=120)		
SG2A	H-294x200x 8x12	外 R- 9×200×410 HTB.6-M20 内 R- 9× 80×410	2R- 9×200×170 HTB.3-M20(P= 60)		
SG3	H-300x150x6.5x9	外 R- 9×150×290 HTB.4-M20 内 R- 9× 60×290	2R- 6×200×170 HTB.2-M20(P=120)		
		————	G.R-9, HTB.3-M20		ピン接合
SG3A	H-300x150x6.5x9	外 R- 9×150×290 HTB.4-M20 内 R- 9× 60×290	2R- 6×200×170 HTB.2-M20(P=120)		
		————	G.R-9, HTB.3-M20		ピン接合
SG4	H-200x100x5.5x8	外 R-16×100×290 HTB.4-M16 内 ————	2R- 6×140×170 HTB.2-M16(P= 60)		
SG10	H-244x175x 7x11	外 R- 9×175×290 HTB.4-M20 内 R- 9× 70×290	2R- 9×140×170 HTB.2-M20(P= 60)		
		————	G.R-9, HTB.3-M20		ピン接合
SG11	H-250x125x 6x 9	外 R-12×125×410 HTB.6-M16 内 ————	2R- 6×170×290 HTB.4-M16(P= 90)		
		————	G.R-9, HTB.3-M20		ピン接合
ScG1	H-150x150x 7x10	外 R- 9×150×290 HTB.4-M20 内 R- 9× 60×290	2R- 9× 80×290 HTB.2-M20(P= 60)		端部は溶接接合
ScG2	H-300x150x6.5x9	溶接接合	溶接接合		
ScG3	H-244x175x 7x11	外 R- 9×175×290 HTB.4-M20 内 R- 9× 70×290	2R- 9×140×170 HTB.2-M20(P= 60)		端部は溶接接合
ScG4	H-250x125x 6x 9	外 R-12×125×410 HTB.6-M16 内 ————	2R- 6×170×290 HTB.4-M16(P= 90)		端部は溶接接合
ScG5	H-200x100x5.5x8	溶接接合	溶接接合		

符号	断面	フランジ接合	仕口・ウェブ接合	材質	備考
SB1	H-250x125x 6x 9	————	G.R-9, HTB.3-M20		
SB1A	H-244x175x 7x11	————	G.R-9, HTB.3-M20		
SB2	H-200x100x5.5x8	————	G.R-9, HTB.2-M20		
		外 R-16×100×290 内 ———— HTB.4-M16	2R- 6×140×170 HTB.2-M16(P= 60)		剛接合 JOINT部
SB3	H-175x 90x 5x 8	————	G.R-6, HTB.2-M20		
SB4	H-150x150x 7x10	————	G.R-9, HTB.2-M22		
SB5	H-148x100x 6x 9	————	G.R-6, HTB.2-M20		
SB6	[-150x75x6.5x10	————	G.R-9, HTB.2-M16		
SB7	H-100x100x 6x 8	————	G.R-6, HTB.2-M16		
HB1	H-200x200x 8x12	————	G.R-9, HTB.2-M20		
HB2	H-100x100x 6 x8	————	G.R-6, HTB.2-M16		
P11	L-75x75x 6	————	G.R-6, 中ボルト.2-M12		キャットウォーク
b11	[-100x50x6.5x10	————	G.R-9, 中ボルト.2-M12		キャットウォーク
根太	L-65x65x 6 @450以内	————	G.R-6, 中ボルト.2-M12		キャットウォーク
b	2C-100x50x20x2.3	————	G.R-4.5, 中ボルト.2-M12	SSC400	トップライト受
母屋	C-100x50x20x3.2 @606	————	G.R-4.5, 中ボルト.2-M12	SSC400	特殊かん合式平滑葺屋根
	C-100x50x20x2.3 @606	————	G.R-4.5, 中ボルト.2-M12	SSC400	ステンレスシーム溶接工法
ALC50縦胴縁	C-100x50x20x3.2 @600	————	G.R-4.5, 中ボルト.2-M12	SSC400	Ⓐ通り
	C-100x50x20x2.3 @600	————	G.R-4.5, 中ボルト.2-M12	SSC400	
	2C-100x50x20x2.3	————	G.R-4.5, 中ボルト.2-M12	SSC400	開口補強
	C-100x50x20x2.3	————	G.R-4.5, 中ボルト.2-M12	SSC400	開口補強
ECP開口補強胴縁	2C-100x50x20x2.3	————	G.R-4.5, 中ボルト.2-M12	SSC400	
	C-100x50x20x2.3	————	G.R-4.5, 中ボルト.2-M12	SSC400	
石張り縦胴縁	C-100x50x20x4.5	————	G.R-4.5, 中ボルト.2-M12	SSC400	カフェ外壁石張り （石貼の目地に合わせ配置）
T10	2L-75x75x 6	————	G.R-6, HTB.2-M16		方杖
SV1	1-M20(ターンバックル付)	————	G.R-9, HTB.1-M20		水平ブレース

《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10598号
一級建築士大臣登録 第262598号 二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

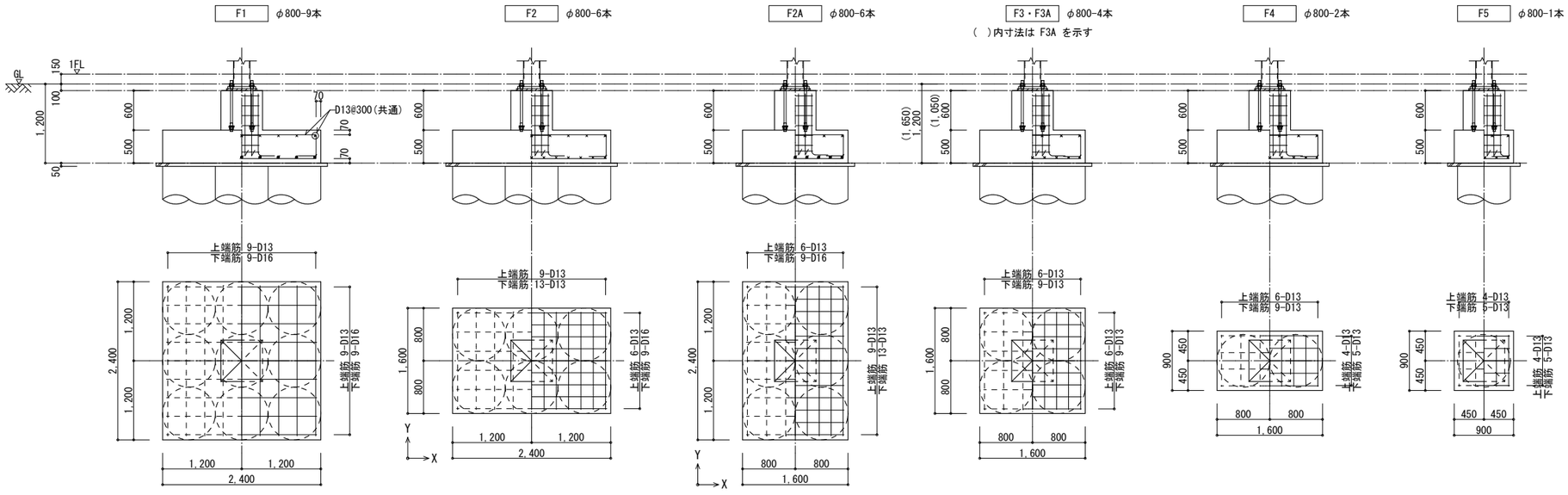
□ 図面名称
軸組図（3）・鉄骨断面リスト

□ 縮尺
A3：1/ 200
A1：1/ 100

□ 日付
2017/08/03

□ 図面番号
S-16

基礎リスト　1/40



柱脚リスト　1/40

符 号	PC1	PC2	PC2A	PC3	PC4		P1(P2・P3)		共 通 事 項
鉄 骨	□-250x250x 9	○-267.4x 9	○-267.4x 9	□-200x200x12	□-200x200x 9		□-100x100x 6(4.5・3.2)		特記なき限り下記による。
ISベース	SE253	CE262	CE262	SE203	SE203		標準	隅部	1.HOOP　一般部分　□-D13@100
断 面	φ50孔 310 420	φ50孔 280 380	PC2に準ずる	φ50孔 260 360	PC3に準ずる	腰壁高さ	100 100 100	100 100	仕口部分　□-D13@100
	GL 150 1FL 100 250以上 32 30 155 540 650以上 100 190以上	250以上 36 30 155 490 600以上 100 190以上		250以上 36 30 155 490 600以上 100 190以上			100 25 75 150 50 200 50 300 9 480 30	225 175 50 100 25 175 50 225 9 480 30	2.くは二段配筋を示す
BASE.PL	420x420x32	380x380x36		360x360x36			300x150x 9	225x225x 9	3.柱頭補強筋は、鉄筋コンクリート構造
A.Bolt	4-M36	4-M36		4-M36			2-M16(L=480)ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め		配筋標準図(2)参照とする
断 面	6 6 630 630	5 5 600 600	6 5 600 630	5 5 580 580	PC3に準ずる		立上り壁 350 150 110 260	265 115 150 立上り壁 150 115 265	
主 筋	20-D19	16-D19	18-D19	16-D19			6-D13	8-D13	
HOOP	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150			□-D10@150		
備 考							主筋は四隅ﾌｯｸ付とする		

《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

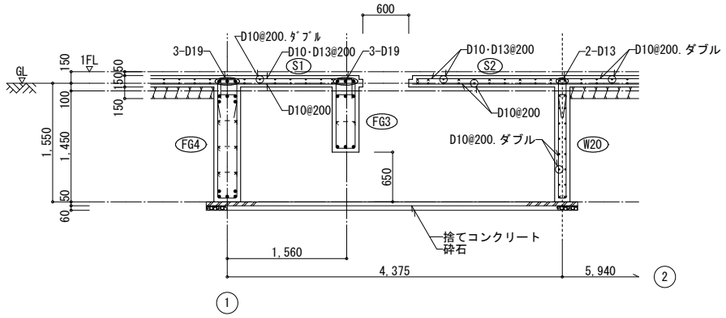
□ 図面名称
基礎リスト・柱脚リスト

□ 縮尺
A3 : 1/ 80
A1 : 1/ 40

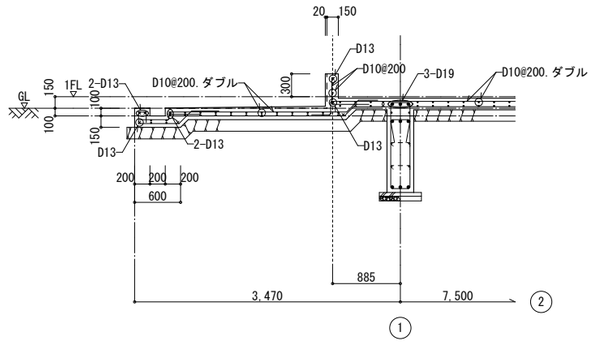
□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
S-17

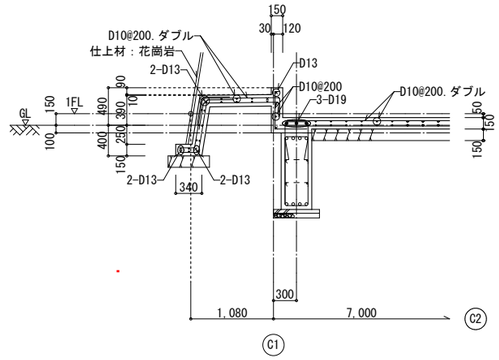
厨房ピット配筋詳細図　1/40



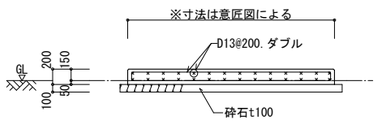
立上り壁配筋詳細図　1/40



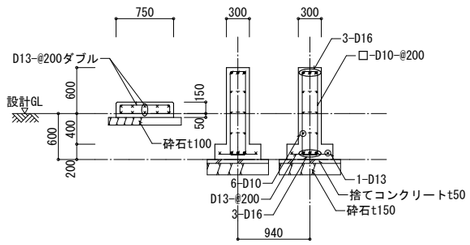
カフェ土間配筋詳細図　1/40



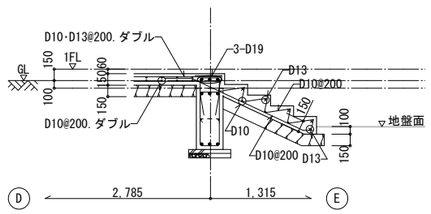
プロパンボンベ庫・室外機基礎配筋詳細図　1/40



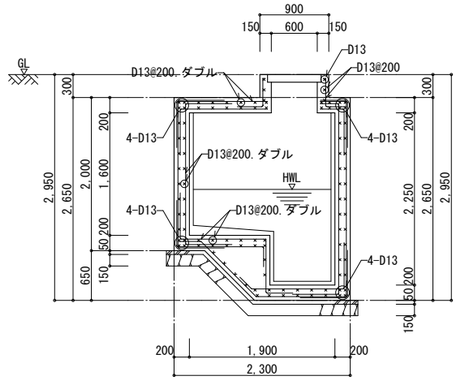
受水槽配筋詳細図　1/40



屋外階段配筋詳細図　1/40

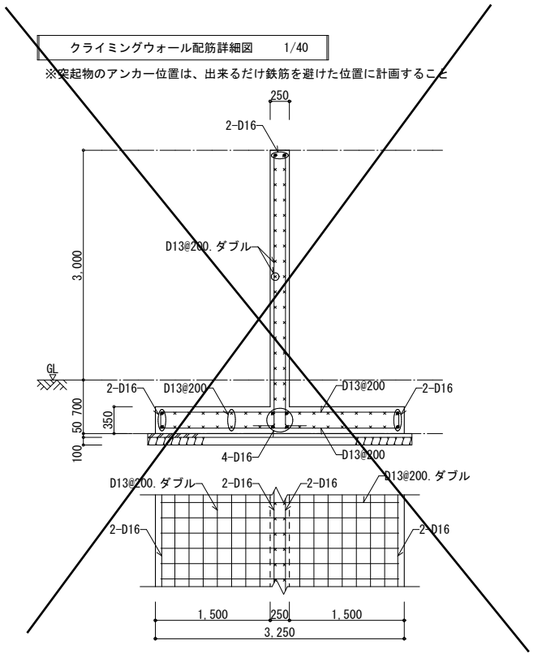


汚水槽配筋詳細図　1/40



クライミングウォール配筋詳細図　1/40

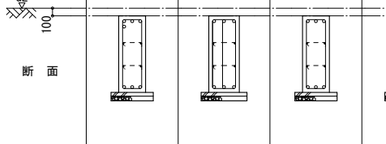
※突起物のアンカー位置は、出来るだけ鉄筋を避けた位置に計画すること



スラブリスト

符号	版厚	位置	短辺方向 端部	短辺方向 中央	長辺方向 端部	長辺方向 中央	備考	共通事項
S1	150	上端筋	D10・D13@200		D10 @200. ダブル			特記なき限り下記による。 1. スラブ受け筋 受け筋 D13
		下端筋	D10 @200					
S2	150	上端筋	D10・D13@200		D10・D13@200			
		下端筋	D10 @200		D10 @200			
土間コンクリート	150	上端筋	D10 @200. ダブル		D10 @200. ダブル			
		下端筋						

地中梁リスト　1/40

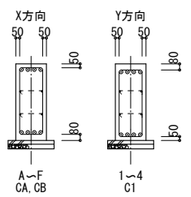
符号	FG1	FG1A	FG2	FG2A	FG3	FG3A	FG4		FcG1		FB1	
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面		全断面	
断面												
B x D	350 x 1,000	400 x 1,000	350 x 1,000	400 x 1,000	350 x 800	350 x 800	350 x 1,450		350 x 600		250 x 450	
上端筋	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D19	3-D22	5-D19		3-D19		2-D19	
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D19	3-D22	5-D19		3-D19		2-D19	
S T P	□-D10@200	◫-D13@200	□-D10@200	□-D13@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200	
腹筋	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	2-D10	2-D10	6-D13		——		——	
備考												

共通事項

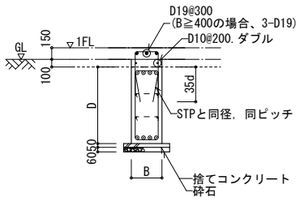
特記なき限り下記による。

1. STP　□-D13@200
   腹筋
   （梁成）　600 未満　なし
   600～ 900 未満　2-D10
   900～1,200 未満　4-D10
   1,200～1,500 未満　6-D13
   1,500～1,800 未満　8-D13
   1,800～2,100 未満　10-D13
   巾止筋　D10@1,000 以内

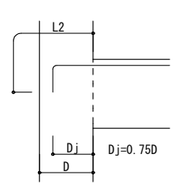
2. 梁のかぶり要領



3. B x D の表示，ふかし筋要領



4. 梁主筋の定着要領



《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

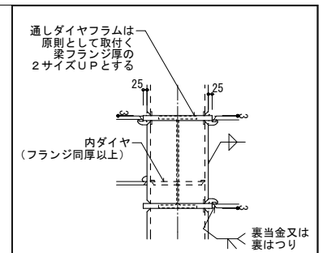
□ 図面名称
地中梁リスト・雑配筋詳細図

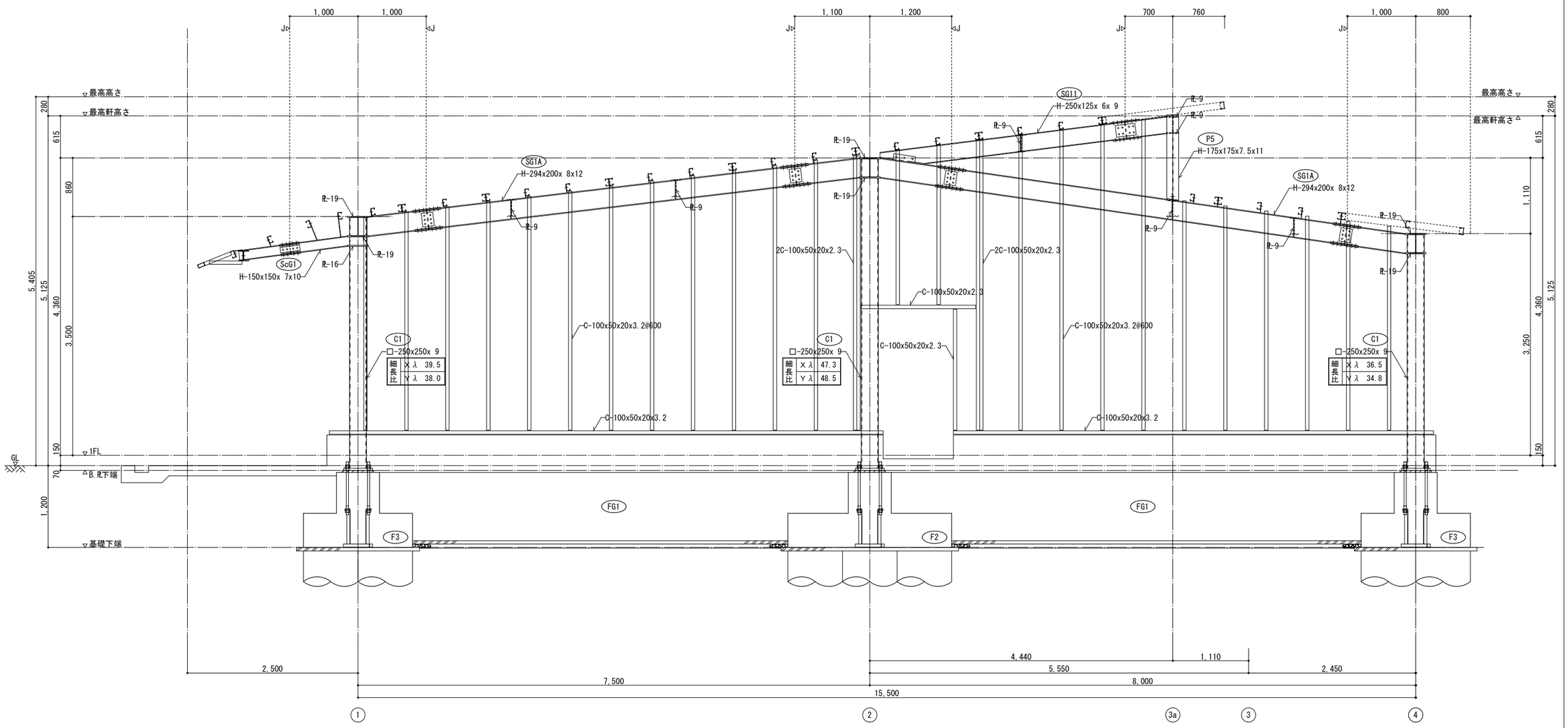
□ 縮尺
A3 : 1/ 80
A1 : 1/ 40

□ 日付
2017/08/03

□ 図面番号
S-18

鉄骨材質	
柱	: BCR295
大梁　端部	: SN400B
大梁　中央	: SS400
通しﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑ	: SN490C
その他	: SS400





Ⓐ通り鉄骨架構詳細図　1/30

《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
鉄骨架構詳細図

□ 縮尺
A3 : 1/ 60
A1 : 1/ 30

□ 日付
2017/08/03

□ 図面番号
S-19

梁貫通孔補強材　ＭＡＸウエブレン標準仕様書

テイエム技研株式会社
本社　〒893-0032　鹿児島県鹿屋市川西町3949　TEL:0994-43-4341 FAX:0994-43-4471
東京支店　〒104-0031　東京都中央区京橋2-3-3　山陽ビル3階　TEL:03-3273-1871 FAX:03-3273-1874　E-mail:tmgktky@tmgiken.com
大阪支店　〒536-0013　大阪市城東区鴫野東3-5-14　TEL:06-6965-1171 FAX:06-6965-1181　E-mail:tmosaka@tmgiken.com

１．一般事項

（１）本仕様書は、(財)日本建築センターの一般評定「BCJ評定-RC0097-05」に適合するように標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。

（２）本仕様書に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」及び「建築工事標準仕様書・同解説（JASS5）鉄筋コンクリート工事」による。

２．適用範囲

（１）使用材料

a）コンクリート設計基準強度

$21 \leqq Fc \leqq 80 N/mm^2$

b）主筋

普通鉄筋のうち以下の種類

SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490

高強度鉄筋のうち以下の種類

SD590, SD685 ただし、建築基準法第37条第二号の規定に基づく国土交通大臣認定品

c）あばら筋

普通鉄筋のうち以下の種類

SD295A, SD295B, SD345, SD390

高強度鉄筋のうち以下の種類

$685 N/mm^2$, $785 N/mm^2$級または$1275 N/mm^2$級高強度鉄筋のうち、建築基準法第37条第二号の規定に基づく国土交通大臣認定品

d）開孔補強筋

ストロングフープ用棒鋼（MSRB-0005）KSS785

（２）開孔径および位置

a）開孔径　H

あばら筋に普通強度鉄筋を用いる梁　　$100mm \leqq H \leqq 750mm$

あばら筋に高強度鉄筋を用いる梁　　$100mm \leqq H \leqq 450mm$

開孔の形状は円形または多角形とし、梁成の1/3以下とする。

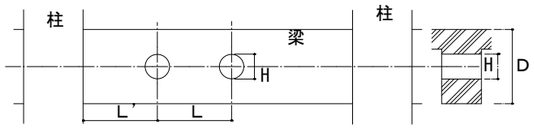
（多角形の場合は外接する円形とみなす。）

b）開孔中心間距離　L

開孔中心間距離は、開孔径の3倍以上とする。また、隣り合う開孔径が異なる場合には、双方の開孔径の平均値の3倍以上とする。

c）柱際から開孔中心までの距離　L’

柱面から梁せい以上離すこととする。



d）へりあきの最小寸法

梁せい　$450mm \leqq D < 700mm$　　へりあき 175mm

梁せい　$700mm \leqq D < 900mm$　　へりあき 200mm

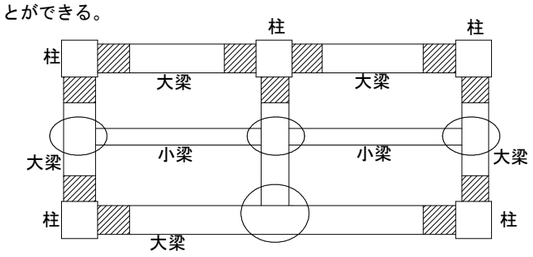
梁せい　$900mm \leqq D$　　へりあき 250mm

e）梁が交差する場合の梁面から開孔中心までの距離

開孔補強筋が直交する梁の配筋と干渉しない範囲で開孔を設けることができる。

：柱面から梁せい以上離す。

：大梁、小梁とも開孔補強筋が直交する梁の配筋に干渉しない範囲で開孔可。



３．標準配筋図

（１）ＭＡＸウエブレンの取り付け位置

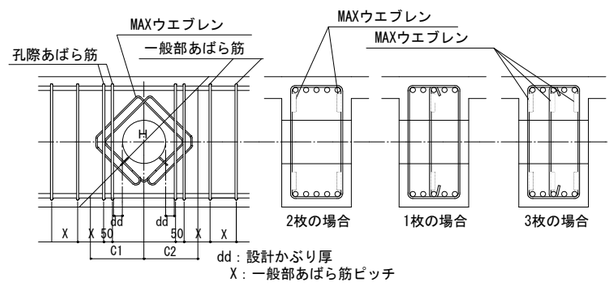
ＭＡＸウエブレンはあばら筋の内側に取り付ける。3枚以上施工する場合は中子筋へ取り付けるか、開孔補強筋を連続固定できるＪ筋（ジョイント金具）により施工する。

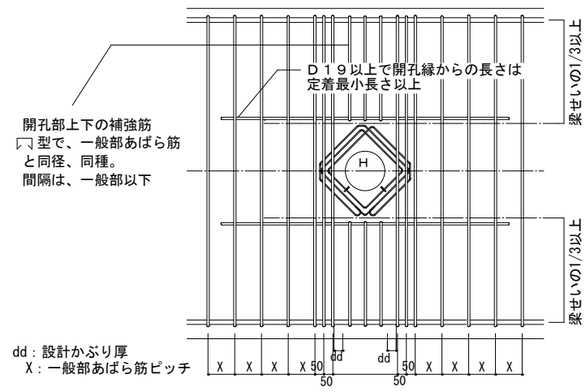
（２）孔際あばら筋

孔際あばら筋は、原則として一般部あばら筋と同種、同径、同本数とし、開孔部の両側に１組以上配筋する。位置は開孔縁から設計かぶり厚さを確保した位置に１組目を配筋し、複数組配筋する場合は、その間隔を50mmとする。

４．大開孔時の補強方法

開孔径が400mm以上で主筋とＭＡＸウエブレンの最外位置との間隔が梁せいの1/3以上となる場合は右図に示す補強を行う。なお、この補強が必要となる条件は(財)日本建築センターの評定時に指導された最低基準であるので、開孔位置等の状況によっては図に示す数値以下であっても補強が必要となる場合がある。従って開孔部の上下補強については設計担当者と協議検討のうえ決定する。





５．施工要領

（１）標準的な施工順序

a）ＲＣ造　（例）

1）開孔位置の芯出しを行う。

2）ＭＡＸウエブレンをあばら筋内に挿入し、枝鉄筋を下側または上側に向け所定の位置に固定する。

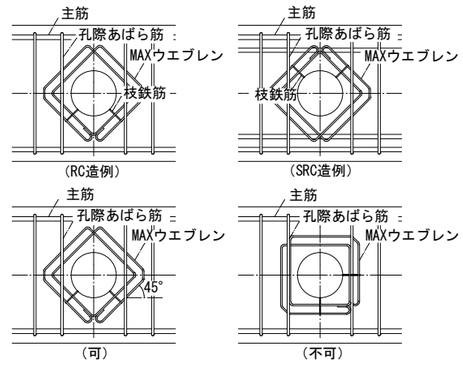
b）ＳＲＣ造　（例）

1）あばら筋の配筋前に、鋼管スリーブにＭＡＸウエブレンを掛け、仮置きする。

2）あばら筋を配筋後、枝鉄筋を下側または上側に向け所定の位置に固定する。

（２）ＭＡＸウエブレンの取り付け方向

ＭＡＸウエブレンはあばら筋に対して環状鉄筋が45°になるように取り付ける。



《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-10598号
一級建築士大臣登録　第262598号　二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931　吉田俊文

□ CHECKED

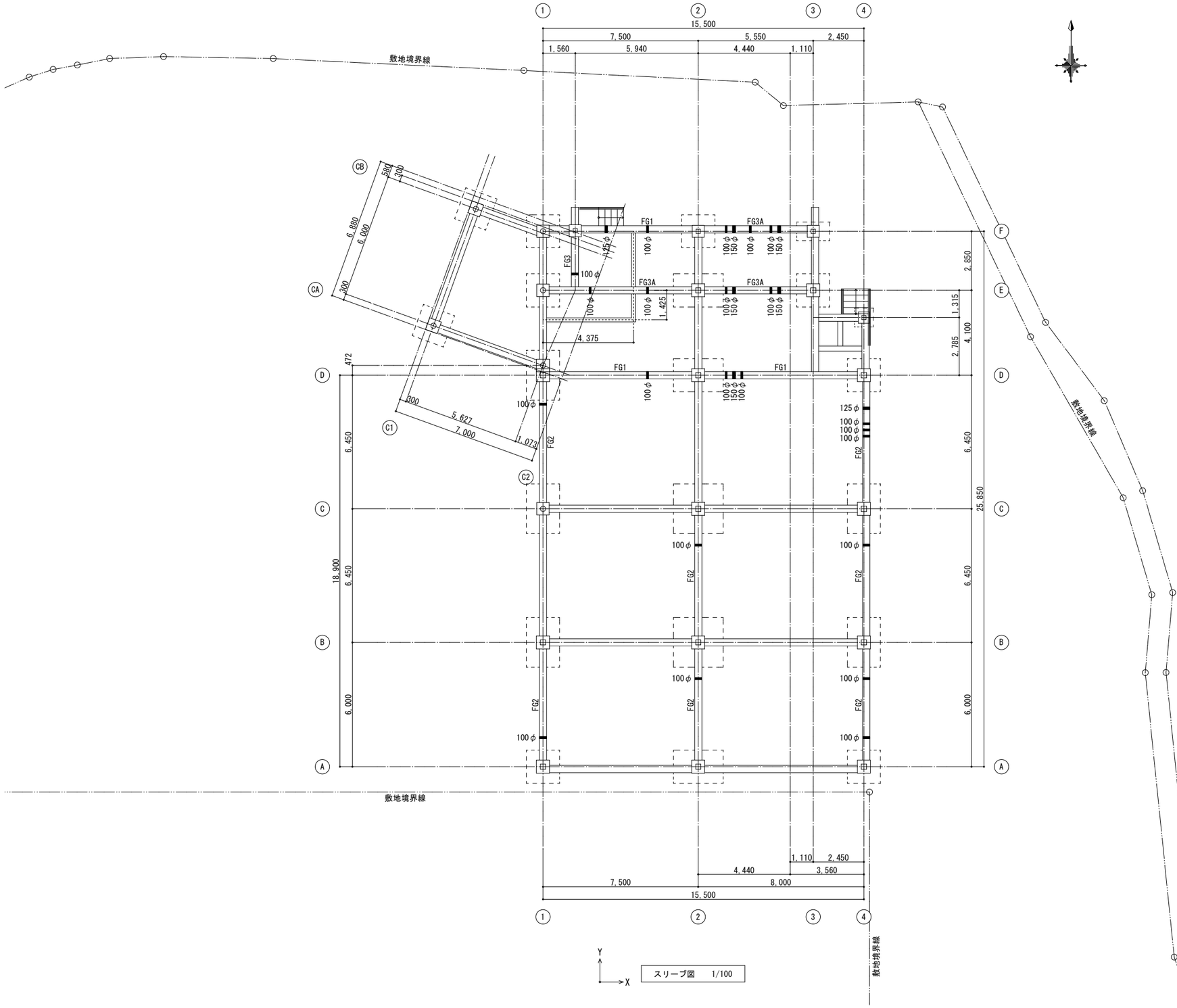
□ 工事名称：椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称：ＭＡＸウエブレン標準仕様書

□ 縮尺：A3：—　A1：—

□ 日付：2017/07/31

□ 図面番号：S-20



梁貫通補強リスト										
梁符号		FG1		FG2		FG3		FG3A		
開孔径	一般部あばら筋	2-D10@200		2-D10@200		2-D10@200		2-D10@200		
106φ	孔際S/追加S	1	1	1	1	1	1	1	1	
	型式	d50-100φ		d50-100φ		d50-100φ		d50-100φ		
	製品種	S6-2R		S6-2R		S6-2R		S6-2R		
	枚数	2		2		2		2		
132φ	孔際S/追加S	1	1	1	1	1	1	1	1	
	型式	d50-125φ		d50-125φ		d50-125φ		d50-125φ		
	製品種	S6-2R		S6-2R		S8-2R		S6-2R		
	枚数	2		2		2		2		
158φ	孔際S/追加S	2	0	2	0	2	0	2	0	
	型式	d50-150φ		d50-150φ		d50-150φ		d50-150φ		
	製品種	S6-2R		S6-2R		S8-2R		S6-2R		
	枚数	2		2		2		2		
183φ	孔際S/追加S	2	0	2	0	2	0	2	0	
	型式	d50-175φ		d50-175φ		d50-175φ		d50-175φ		
	製品種	S6-2R		S6-2R		S8-2R		S6-2R		
	枚数	2		2		2		2		
209φ	孔際S/追加S	2	0	2	0	2	0	2	0	
	型式	d50-200φ		d50-200φ		d50-200φ		d50-200φ		
	製品種	S6-2R		S6-2R		S8-2R		S6-2R		
	枚数	2		2		2		2		

《構造設計者》株式会社慈建築事務所
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10598号
一級建築士大臣登録 第262598号 二宮 菊夫

Shun Architect Office
株式会社 俊設計
一級建築士事務所福岡県知事登録 第1-61409号
一級建築士大臣登録 第243931 吉田俊文

□ CHECKED

□ 工事名称
椿市地域交流センター建設工事の内建築主体工事

□ 図面名称
スリーブ図

□ 縮尺
A3 : 1/ 200
A1 : 1/ 100

□ 日付
2017/07/31

□ 図面番号
S-21